



ネットワークカメラ

VB-S30D/VB-S31D VB-S800D/VB-S900F VB-S805D/VB-S905F

操作ガイド



ご使用の前に必ずこの使用説明書をお読みください。

日本語

はじめに

キヤノンネットワークカメラ (以下、カメラ) をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます*。

カメラは屋内専用です。

この『操作ガイド』は、カメラの設定や操作方法について説明しています。ご使用前によくお読みになり、カメラを正しく利用してください。また、セットアップCD-ROMのLICENSEフォルダ内のファイルも必ずお読みください。

* 本書に記載しているカメラには、国または地域によって販売していない機種もあります。

製品に関する最新情報 (ファームウェアや同梱ソフトウェア、使用説明書、動作環境など) は、ホームページをご確認ください。

製品紹介ホームページ: canon.jp/webview

■ ご注意

- 1 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
- 2 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- 3 本書の内容については万全を期して作成しましたが、お気づきの点がございましたら、裏表紙に記載のお客様相談センターまでご連絡ください。
- 4 運用した結果の影響につきましては、上記2項、3項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。

ネットワークのセキュリティについて の注意

ネットワークのセキュリティ対策に関しては、お客様ご自身の責任で行ってください。

不正アクセスなどネットワークのセキュリティ上の問題により発生した直接、間接の損害については、弊社は一切の責任を負いかねます。

<対策例>

- 管理者パスワードは第三者に推測されにくいパスワードを設定する。
- カメラのHTTP、HTTPSポート番号を変更する。
- 通信機器でカメラへのアクセス制限を行う。

その他、対策のポイントについては、次のホームページでも紹介しています。合わせてご確認ください。

<http://cweb.canon.jp/e-support/information/security/index.html>

著作権について

お客様が撮影した映像や画像、録音した音声などは、著作権法上、権利者に無断で使用・公開することはできませんのでご注意ください。

ラジオやテレビなどへの電波障害について の注意

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としています。この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

映像・音声の利用によるプライバシー・ 肖像権の注意

カメラの使用 (映像・音声) につきましては、お客様の責任でプライバシーの保護や肖像権の侵害防止などに十分な配慮のうえ、行ってください。例えば、特定の建築物や屋内などが映し出される場合には、事前にカメラ設置の了承を得るなど対応してください。弊社では一切の責任を負いません。

法律上の注意事項

カメラによる監視は法律によって禁止されている場合があります。その内容は国によって異なります。本製品をご利用になる前に、ご利用いただく地域の法律を確認してください。

商標について

- CanonおよびCanonロゴはキヤノン株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vista、Internet Explorer、Windows Server、Windows MediaおよびActiveXは、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- 本製品には、Microsoft 社より使用を許諾された exFAT ファイルシステムの技術が組み込まれています。
- microSD、microSDHC、microSDXCロゴは SD-3C、LLC の商標です。
- その他、本書に記載された商品名、社名などは各社の商標または登録商標です。

同梱ソフトウェアRM-Liteの利用に関するお願い (免責事項)

RM-Liteの不具合などにより、録画ができなかったり、録画データが破壊、消失する場合があります。これにより生じるお客様の損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

同梱ソフトウェアの使用許諾契約について

同梱ソフトウェアの使用許諾契約については、同梱セットアップCD-ROMのLICENSEフォルダの中のBundledSoftwareフォルダ内にある次のファイルをご覧ください。

ソフトウェアの種類	ファイル名
カメラマネジメントツール	VBTools-J.txt
ネットワークビデオレコーディングソフトウェアRM-Lite	RM-Lite-J.txt

This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.

第三者のソフトウェアについて

この製品 (カメラおよび同梱のRM-Lite) には、第三者のソフトウェアモジュールが含まれています。詳細は同梱セットアップ CD-ROM の LICENSE フォルダの Open-SourceSoftware フォルダ内「ThirdPartySoftware-J.pdf」(第三者ソフトウェアライセンスについて) をご覧ください。また、各モジュールのライセンス条件につきましては、同じフォルダに含まれていますのでご覧ください。

GPLおよびLGPLで許諾されるソフトウェアについて

GPLおよびLGPLに基づき、ソースコードの入手を希望されるお客様は、次の情報を記載の上、日本語または英語で nvsossq@mail.canon まで電子メールでご連絡ください。

1. 製品名称およびファームウェアのバージョン
2. 入手を希望されるソフトウェアモジュールの名称

ソースコードはお客様が本製品を購入された日より、少なくとも3年間はご入手いただけます。なお、ソースコードをご提供するにあたり、弊社からご提供に要した実費をご請求させていただく場合もございますので、その旨ご了承ください。

輸出規制について

本製品は、安全保障輸出規制貨物に該当します。そのため、輸出または海外に持ち出す場合は、関係当局の許可が必要となることがあります。

CMOSセンサーについて

ネットワークカメラで動きの速い被写体を撮影したときや、撮影中に画角が変化したときに被写体が斜めに曲がって見えることがあります。これはCMOS撮像素子を使用した場合に発生する現象であり、ネットワークカメラの異常ではありません。

操作ガイドの見かた

使用説明書について

カメラの使用説明書には、次のものがあります。

「設置ガイド」(同梱)

カメラ設置上の注意、設置手順を説明しています。同書を参照していただきたい部分は『設置ガイド』とし、その項目を記しています。

「操作ガイド」(本書)

カメラの初期設定、管理ツールの設定、ビューワの操作、トラブルシューティング、主な仕様などを説明しています。本書はセットアップCD-ROMに収録されています。

「カメラマネジメントツール 使用説明書」

カメラマネジメントツールの詳しい使いかたについて解説しています。セットアップCD-ROMに収録されています。

さらにセットアップCD-ROMには、録画ソフトウェアのRM-Lite (「1章 ご使用の前に」の「RM-Lite」) が収録されています。次の使用説明書があります。

ネットワークビデオレコーディングソフトウェア

RM-Lite 『システム管理者マニュアル』

RM-Liteの詳しい使いかたについて解説しています。

この操作ガイドの使いかた

この使用説明書はPCの画面上に表示して読むことを想定しています。

ソフトウェアの画面例について

この使用説明書に記載されているソフトウェアの画面は、説明のためのサンプルです。実際の画面とは異なる場合がありますので、ご了承ください。

説明にはWindows 8で、VB-S30Dを接続した画面例を基本的に使用しています。

また、映像サイズセットは、[1920x1080/960x540/480x270] を選択している場合で説明しています。ほかの映像サイズセットをご利用の場合は、映像サイズを置き換えてお読みください。

対応カメラ機種を示す記号について

機種によって使用が制限される機能には、機種名を記載したり、次の記号を使って対応できる機種を示しています。

記号	カメラ機種
	VB-S30D
	VB-S31D
	VB-S800D、VB-S805D
	VB-S900F、VB-S905F

安全上の注意を示す記号

この『操作ガイド』で使用しているマークについて説明します。この『操作ガイド』では製品を安全にお使いいただくため、大切な記載事項には次のようなマークを使用しています。表示の内容を十分理解して作業を行ってください。

マーク	意味
 警告	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの警告事項をお守りください。
 注意	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、傷害が発生する可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
注意	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、物的損害が発生する可能性が想定される内容を示しています。必ずこの注意事項をお守りください。
 火災注意  感電注意	これらの記号を無視して取り扱いを誤った場合に、火災の発生や感電の可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
 禁止  分解禁止  水ぬれ禁止	これらの記号は、禁止事項を示しています。図の中に具体的な禁止内容が描かれている場合もあります。
 指示	この記号は、必ず実行していただく指示の内容を示しています。
 重要	この記号は、重要事項や制限事項が書かれています。必ずお読みください。
 メモ	操作の参考になることや補足説明が書かれています。

安全にお使いいただくために

カメラをお使いいただくうえで、必ず守っていただきたい注意事項について説明します。

守られない場合、けがや死亡事故、物的損害が発生することがありますので、よくお読みになったうえ、必ずお守りください。

使用上の注意

⚠ 警告	
 指示	発煙、異音、発熱、異臭などの異常を発見したときは、直ちに使用を中止し、最寄りの販売店にご連絡ください。 継続して使用すると火災、感電の原因になります。
 禁止  分解禁止  水ぬれ禁止  火災注意  感電注意	- 雷が鳴り始めたら、設置や点検などの作業を中止し、カメラや接続ケーブルなどに触れないでください。 - 分解、改造はしないでください。 - カメラの内部に水などの液体を入れたり、カメラに水をかけたり濡らしたりしないでください。 - カメラの内部に異物を入れないでください。 - カメラの近くで可燃性のスプレーを使用しないでください。 - カメラを長期間使用しないときは、カメラにLANケーブルを繋いだままにしないでください。 - 接続ケーブル類を傷つけないでください。 火災、感電の原因になります。
 禁止	医療機器などの人命に関わるシステムには使用しないでください。 PCやネットワークの環境によっては映像の遅延や欠落が発生するため高精度の映像伝送は保証できません。 上記の場合にカメラを使用した結果生じた事故や損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。

注意	
 禁止	- 太陽、ハロゲン灯など高輝度の光源や被写体を撮影しないでください。 - カメラに強い衝撃や振動を与えないでください。 S30 S31 カメラ回転部を手で回さないでください。 故障の原因になることがあります。

カメラ搭載の機能および同梱ソフトウェアの使用上の注意

注意	
 禁止	- カメラに搭載されている次の機能および同梱ソフトウェアは、常に高い信頼性が要求される用途では使用しないでください。 - インテリジェント機能 - ネットワークビデオレコーディングソフトウェアRM-Lite これらの機能は高精度の撮影を保証するものではなく、一定範囲を超えると対応できません。これらの機能を使用した結果生じた事故や損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。

お手入れに関する注意

⚠ 警告	
 禁止  火災注意  感電注意	アルコールやシンナー、ベンジンなど引火性溶剤は使用しないでください。 火災、感電の原因になります。

⚠ 注意	
 指示	取付金具やネジのさびつき、ネジの緩みがないか定期的に点検を行ってください。 点検は販売店にご依頼ください。 落下によるけがや機器の破損の原因になります。

日常のお手入れ

お手入れは、電源を切って行ってください。

■ 外装のお手入れ

- 1 柔らかい布を水またはうすい中性洗剤で湿らせ、軽く汚れを拭き取ります。
- 2 乾いた布で拭きます。

■ レンズのお手入れ

市販のレンズクリーナーを使用し、レンズ表面の汚れを落とします。

- **S30** レンズ表面にほこりや汚れがついていると、オートフォーカスがうまく動作しないことがあります。
- レンズ表面に傷を付けると、画像不良の原因になります。

■ トップカバーのお手入れ **S30 S31 S80x**

カメラのトップカバーに汚れがつくと、画質が悪くなる原因になりますので、定期的なお手入れが必要です。

トップカバーの表面を清掃しても汚れが気になる場合は、次の手順で取り外してお手入れしてください。

- 1 トップカバーを取り外します。
カメラに同梱の『設置ガイド』の「カメラを設置する」の手順を参照して、トップカバーを取り外します。
- 2 柔らかい布を水またはうすい中性洗剤で湿らせ、軽く汚れを拭き取ります。
- 3 乾いた布で拭きます。
- 4 元どおりにトップカバーを取り付けます。

落下によるけがや機器の破損を防止するため、取付金具やネジのさびつき、ネジの緩みがないか定期的に点検を行ってください。

点検は販売店にご依頼ください。

カメラの廃棄について

カメラを廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適切に処理してください。

その際、メモリーカードの抜き忘れに十分ご注意ください。

目次

はじめに	2
ネットワークのセキュリティについてのご注意	2
著作権について	2
ラジオやテレビなどへの電波障害についてのご注意	2
映像・音声の利用によるプライバシー・肖像権の注意	2
商標について	3
同梱ソフトウェアRM-Liteの利用に関するお願い (免責事項)	3
同梱ソフトウェアの使用許諾契約について	3
第三者のソフトウェアについて	3
輸出規制について	3
CMOSセンサーについて	3
操作ガイドの見かた	4
使用説明書について	4
この操作ガイドの使いかた	4
対応カメラ機種を示す記号について	4
安全上の注意を示す記号	4
安全にお使いいただくために	5
日常のお手入れ	6
カメラの廃棄について	6

1章

ご使用の前に

特長	12
カメラのソフトウェアについて	13
カメラ搭載ソフトウェア	13
同梱ソフトウェア	13
追加ユーザーライセンス(オプション)	13
ネットワークビデオレコーディングソフトウェア (オプション)	13
RM-Lite (『システム管理者マニュアル』 参照)	15
動作環境	16
管理者ビューワー / VBビューワー、管理ツール	16
動作環境のご注意	17
[Windows ファイアウォール] 機能を有効に設定してある場合の注意事項	17
Internet Explorer 9以降およびWindows Server 2008/Windows Server 2012で ご使用になる場合の注意事項	17
Windows Server 2008/Windows Server 2012 でご使用になる場合の注意事項	18
Windows Vista/Windows 7/Windows 8/Windows Server 2008/Windows Server 2012でご使用になる場合の注意事項	19

2章

カメラの初期設定

カメラ利用開始までの基本的な流れ	22
必要なソフトウェアをインストールする	23
カメラを初期設定する	25
カメラマネジメントツールでの設定の流れ	25

Webブラウザからアクセスする	25
カメラのトップページにアクセスして映像を確認する	26
カメラマネジメントツールからトップページにアクセスする	26
トップページについて	26
カメラの映像を確認する	27

3章

設定ページ

設定メニューについて	30
設定メニューにアクセスする	31
設定メニューについて	31
各設定ページ共通項目	31
[ネットワーク] 管理者パスワードやLAN、IPアドレス、DNSなどの設定	33
[日付と時刻] 日付と時刻の設定	37
[カメラ] カメラの起動時設定や外部デバイス名の設定	39
[映像] 映像のサイズや品質、フレームレートの設定	44
[RTP] RTPサーバー、音声マルチキャスト、RTPストリーム	47
[アップロード] HTTPやFTPでのアップロード、メール通報の設定	49
[サーバー] 映像サーバー、オーディオサーバー、HTTPサーバー、 FTPサーバー、WS-Securityの設定	53
[イベント] 映像記録設定、音量検知、外部デバイス出力/入力、 タイマーの設定	55
[アクセス制御] ユーザーのアクセス権の設定	59
[IPsec] IPsecの設定	61
[SSL/TLS] HTTP通信の暗号化の設定	64
[802.1X] ネットワークポートの認証の設定	66
[メモリーカード] メモリーカードの各種操作や設定	68
[再起動項目] 再起動が必要となる項目の設定	71
[メンテナンス] 現在の設定状況表示やイベントログ、メンテナンスの実行	72
[カメラアングル] デジタルズームの設定	74

4章

管理ツール

管理ツールの概要	76
管理ツール	76
プライバシーマスク設定ツール	76
パノラマ作成ツール	76
可視範囲設定ツール	76
プリセット設定ツール	77
インテリジェント機能設定ツール	77
ログビューワー	77
録画映像ユーティリティ	77
管理ツールにアクセスする	78
管理ツールを起動する	78
プライバシーマスク設定ツール	79
プライバシーマスク設定ツールの表示画面について	79
プライバシーマスク領域を設定する	80
プライバシーマスク領域を変更/削除する	82

パノラマ作成ツール.....	83
パノラマ作成ツールの表示画面について	84
パノラマ画像を撮影する.....	84
パノラマ画像をカメラに保存/削除する.....	85
パノラマ画像を画像ファイルとして保存する/画像ファイルから開く	85
可視範囲設定ツール.....	86
可視範囲設定ツールの表示画面について	87
可視範囲を設定する	88
プリセット設定ツール	90
プリセット設定ツールの表示画面について.....	91
プリセットを設定する	93
プリセット巡回について	95
インテリジェント機能設定ツール	98
インテリジェント機能設定ツールの表示画面について	101
インテリジェント機能設定の流れ	102
インテリジェント機能の検知設定をする.....	104
ログビューワー	110
ログビューワーの表示画面について	110
ログファイルをダウンロードする	111
ログを閲覧する.....	111
録画映像ユーティリティ	114
録画映像ユーティリティの表示画面について	114
録画された映像を確認する	115
映像を絞り込む.....	115
映像をダウンロードする.....	116
再生可能な動画ファイルにエクスポートする	116
映像を再生する.....	116
映像を削除する.....	118
メモリーカードの情報を表示する	118
管理者コントロール	119
管理者コントロールを使う	119

5章 管理者ビューワー /VBビューワー

ビューワーの概要.....	122
管理者ビューワーとVBビューワーの主な違い	122
ユーザー権限とカメラ制御権	122
ビューワーを起動する	124
ビューワーを起動する	124
ビューワーを終了する	124
管理ツールから接続する.....	124
ビューワーの操作方法	125
管理者ビューワーの表示画面について	125
VBビューワーの表示画面について.....	126
カメラ制御権の取得	127
カメラを制御する	128
映像の一部を拡大表示する (ビューワー PTZ).....	131
映像の一部を切り出して表示する (デジタルPTZ).....	132

映像や音声を設定する	133
情報を確認する	136
管理者ビューワーでの操作と設定を行う	137
管理者コントロールを使う	137
イベントの状態を表示する	143
メモリーカードに手動録画する	143

6章 付録

メモリーカードのアクセスについて	146
修飾子について	148
トラブルシューティング	150
ログメッセージ一覧	152
カメラのログメッセージ	152
ビューワーメッセージ一覧	161
インフォメーション領域に表示されるメッセージ	161
工場出荷設定に戻す	163
Web ブラウザーから初期設定に戻す	163
本体リセットスイッチから工場出荷設定に戻す	163
工場出荷設定一覧	165
仕様一覧	173
索引	177

1章

ご使用の前に

- カメラの特長
- ソフトウェアの紹介
- 動作環境と注意事項

特長

本カメラは、カメラ機能とサーバー機能をコンパクトに一体化したネットワークカメラです。

小型・軽量	フルHDの高画質を維持しながら* ¹ 小型・軽量化し、簡単設置が可能。
低照度での撮影	被写体の照度が低いときもカラー撮影が可能。
AFズームレンズ搭載 S30	光学3.5倍 (デジタル4倍) のオートフォーカス対応ズームレンズ搭載。
パン・チルト機能 S30 S31	遠隔地からカメラアングルを自在に操作。
スマートシェード補正オートモード	画面の明暗分析により、露出補正と暗部補正レベルを自動調整。
3系列の映像サイズ* ²	1080 p 系列、720 p 系列、4 : 3系列の映像サイズから選択可能。* ²
映像配信	2種類の映像圧縮方式 (JPEG、H.264) に対応。同じ系列の異なる映像サイズでもマルチストリームで配信可能。
カスタム設定	プリセットしたカメラ設定をデイナイト切り換え時やタイマーで適用する (あるいは、呼び出す) ことが可能。
microSD/microSDHC/ microSDXCメモリーカード対応* ³	アップロード失敗時の画像やログの記録のほかに、映像をJPEG/H.264 ファイルで録画可能 (手動・タイマー・イベント録画に対応)。録画映像は、管理ツールの録画映像ユーティリティを使って検索および再生が可能。
インテリジェント機能	多彩な検知方法を実現するインテリジェント機能を搭載。 動体検知、置き去り検知、持ち去り検知、いたずら検知、通過検知、音量検知。
RM-Lite (同梱) による小規模映像 監視	同梱のネットワークビデオレコーディングソフトウェアRM-Liteで、最大4台のカメラの映像を録画およびライブ表示。

*¹ VB-S805D/VB-S905Fは、1.3Mの画質。

*² VB-S805D/VB-S905Fは、720p系列、4:3系列の映像サイズ (2系列) から選択可能。

*³『操作ガイド』では、カメラで使用できるメモリーカードのことを「メモリーカード」と表記。



カメラのソフトウェアについて

カメラ搭載ソフトウェア

■ 管理者ビューワー / VBビューワー

(「5章 管理者ビューワー / VBビューワー」参照)

一般ユーザーが使用できるVBビューワーと、管理者用の管理者ビューワーがあります。

VBビューワーでは、カメラの基本的な制御と映像の表示ができます。

管理者ビューワーは、カメラのすべての制御と各種イベントのモニターができます。

■ 管理ツール (「4章 管理ツール」参照)

カメラを設定および管理するための次のツールがあります。

- プライバシーマスク設定ツール
- **S30** **S31** パノラマ作成ツール
- **S30** **S31** 可視範囲設定ツール
- プリセット設定ツール
- インテリジェント機能設定ツール
- ログビューワー
- 録画映像ユーティリティ

同梱ソフトウェア

同梱のセットアップCD-ROMに収録されています。PCにインストールして使用します。

■ カメラマネジメントツール

カメラの初期設定からメンテナンスまで、複数台のカメラを一括管理するためのツールです。

■ 管理ツール証明書

管理者ビューワーおよび管理ツールを使用するための電子証明書です。

■ .NET Framework 3.5 SP1 / .NET Framework 4.5

カメラ搭載ソフトウェアを使用するための実行環境です。

■ RM-Lite (P. 15)

最大4台までのカメラの映像を同時に表示したり、録画できるソフトウェアです。

■ プロキシ認証対応版 管理者ビューワー / 管理ツール

プロキシ認証が設定されたプロキシサーバー経由で使用する場合は、本ソフトウェアを使用してください。セットアップCD-ROMのProxyAuthSupportフォルダ内に保存されています。

追加ユーザーライセンス(オプション)

必要に応じて別途お買い求めください。

■ H.264追加ユーザーライセンス AUL-VB

複数のPCで、管理者ビューワーおよび録画映像ユーティリティからH.264映像を見るための追加ライセンスです。カメラ1台につき、1ライセンスは付いています。1台のカメラのH.264映像を複数のPCから見る場合に、追加が必要になります。

ネットワークビデオレコーディング ソフトウェア (オプション)

必要に応じて別途お買い求めください。

■ RM-64/RM-25/RM-9

ネットワークカメラを使用して複数拠点をモニタリングし、カメラからの映像を表示・録画・再生するソフトウェアです。RM-64/RM-25/RM-9は登録可能なカメラの台数が異なり、それぞれ64台/25台/9台まで登録できます。複数の録画サーバーを使用して、最大512台のカメラに対応した監視システムを構築可能です。



RM-9からRM-25またはRM-64、RM-25からRM-64にアップグレードするライセンスも用意されています。

■ RM-V

複数のPCにRM-64/RM-25/RM-9のRMマネージャーおよびビューワーをインストールするための追加ライセンスです。複数の拠点からカメラ映像を見る場合などにご使用ください。

■ RM-Lite-V

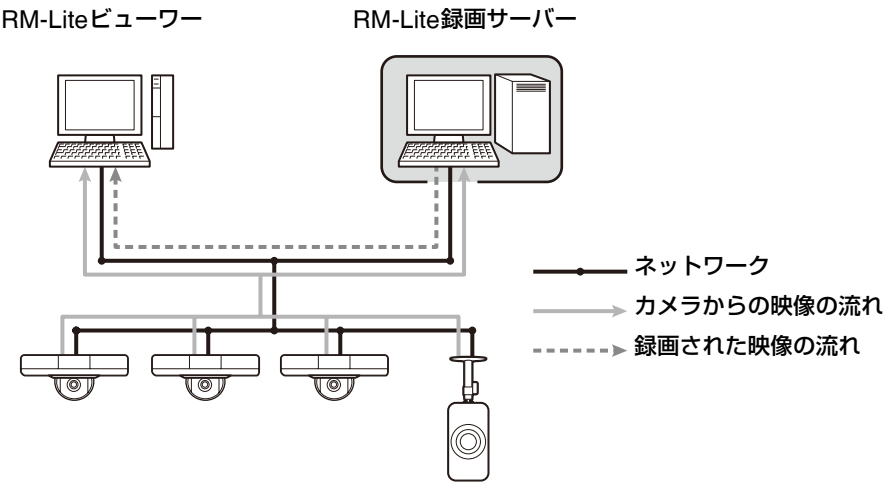
複数のPCにRM-LiteビューワーおよびRM-Liteマネージャーをインストールするための追加ライセンスです。複数の拠点からカメラ映像を見る場合などにご使用ください。

RM-Lite (『システム管理者マニュアル』参照)

RM-Liteは、セットアップCD-ROMのApplicationsフォルダにあるRMLiteInstall.exeからインストールして使用します。

RM-Liteのソフトウェア構成

種類	概要	ライセンス
RM-Lite録画サーバー	最大4台のカメラを登録して映像 (JPEG) を録画できます。	1ライセンス
RM-Liteビューワー	録画サーバーに保存された録画映像を再生したり、カメラのライブ映像 (JPEG/H.264) を表示できます。 ビューワーに登録できるカメラは最大4台です。	1ライセンス
RM-Liteマネージャー	カメラの登録や録画スケジュールの設定に使用します。	1ライセンス



対応カメラ	VB-R11VE、VB-R11、VB-R10VE、VB-M641VE、VB-M641V、VB-M640VE、VB-M640V、VB-M741LE、VB-M740E、VB-H43、VB-H630VE、VB-H630D、VB-H730F、VB-M42、VB-M620VE、VB-M620D、VB-M720F、VB-S30D、VB-S31D、VB-S800D、VB-S900F、VB-S805D、VB-S905F、VB-H41、VB-H610VE、VB-H610D、VB-H710F、VB-M40、VB-M600VE、VB-M600D、VB-M700F、VB-C60、VB-C500VD/VB-C500D、VB-C300、VB-C50i/VB-C50iR、VB-C50FSi/VB-C50Fi
-------	---

重要

RM-LiteビューワーおよびRM-Liteマネージャーを追加する場合は、RM-Lite-V (オプション) をお買い求めください。

メモ

RM-Liteの使用方法、動作環境、機能などの詳細情報は、『システム管理者マニュアル』を参照してください。

動作環境

製品に関する最新情報 (ファームウェアや同梱ソフトウェア、使用説明書、動作環境など) は、ホームページをご確認ください。

製品紹介ホームページ: canon.jp/webview

管理者ビューワー / VBビューワー、管理ツール

CPU	Intel Core i7-2600 以上
OS ^{*1}	Windows Vista Ultimate/Business/Enterprise/Home Premium SP2 32/64-bit Windows 7 Ultimate/Professional/Enterprise/Home Premium SP1 32/64-bit Windows 8/Windows 8 Pro/Windows 8 Enterprise 32/64-bit ^{*4} Windows 8.1/Windows 8.1 Pro/Windows 8.1 Enterprise 32/64-bit ^{*4} Windows Server 2008 Standard SP2 32/64-bit Windows Server 2008 R2 Standard SP1 64-bit Windows Server 2012 Standard 64-bit ^{*4} Windows Server 2012 R2 Standard 64-bit ^{*4}
Webブラウザ ^{*2}	Internet Explorer 8/9 32-bit Internet Explorer 10/11
メモリー	2 GB 以上
ビューワー用ディスプレイ	1920 x 1080 以上
ソフトウェア ^{*3}	.NET Framework 3.5 SP1 (Internet Explorer 8/9 使用時) – Windows VistaとWindows Server 2008の場合、別途インストールが必要 .NET Framework 4.5 (Internet Explorer 10/11 使用時) – Windows 7とWindows Server 2008 R2の場合、別途インストールが必要
音声	カメラの音声機能を使用する場合は、PCの音声サポート機能が必要

^{*1} 管理ツールおよび管理者ビューワーは、コントロールパネルのフォントサイズ設定 (DPI) を100%または125%に設定すること。

^{*2} JavaScript、XAMLブラウザアプリケーション、IFRAME (HTMLタグ) を使用できる設定とすること。
VBビューワーのみCookieが必要。

^{*3} VBビューワーのみ使用する場合はインストール不要。.NET Framework 3.5 SP1および4.5は、同梱のセットアップCD-ROMに収録されていて、Internet Explorerのバージョンに応じて適切なインストール対象が自動選択される。

^{*4} カメラ搭載ソフトウェアおよび同梱ソフトウェアは、Windows 8以降で追加されたスタート画面では動作しない。

メモ

カメラマネジメントツールの動作環境については、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

動作環境のご注意

[Windows ファイアウォール] 機能を有効に設定してある場合の注意事項

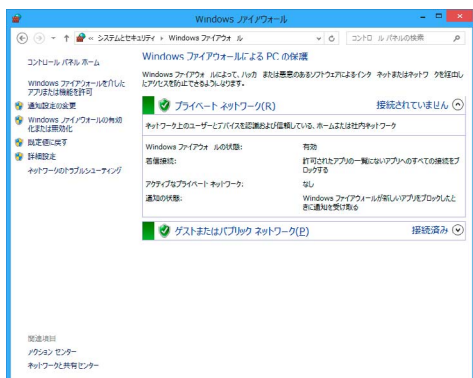
カメラマネジメントツールを起動すると、[Windows セキュリティの重要な警告] ダイアログが表示されることがあります。

[Windows セキュリティの重要な警告] ダイアログが表示された場合は、[ブロックを解除する] をクリックしてください。

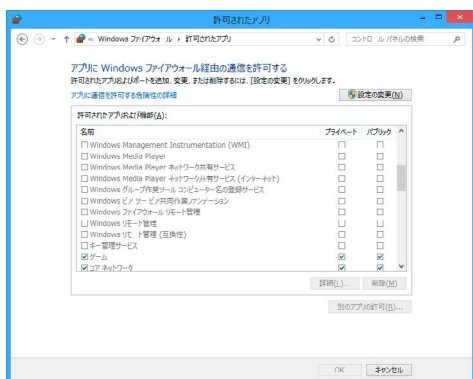
一度この設定をすると、以降この警告ダイアログは表示されなくなります。

[Windows セキュリティの重要な警告] ダイアログが表示されない場合は、Windows ファイアウォールの警告機能が無効となっている可能性があります。次の手順で、Windows ファイアウォールの例外に [カメラマネジメントツール] を追加してください。

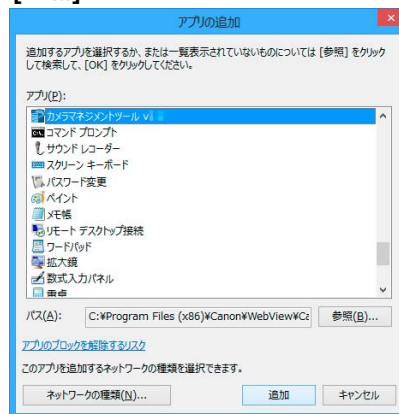
1 [コントロール パネル] の [システムとセキュリティ] で [Windows ファイアウォール] をクリックする



2 [Windows ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可] > [設定の変更] > [別のアプリの許可] の順にクリックする



3 [カメラマネジメントツール] をクリックして選択し、[追加] をクリックする



Internet Explorer 9以降 およびWindows Server 2008/ Windows Server 2012でご使用に なる場合の注意事項

■ カメラのIPアドレスを信頼済みサイトとして登録する

Internet Explorer 9以降およびWindows Server 2008/Windows Server 2012では、Internet Explorerにおけるインターネットサイトとイントラネットサイトのセキュリティレベルが初期設定で [高] に設定されています。そのため、管理者ビューワー / VBビューワー、設定ページ、管理ツールにアクセスすると、コンテンツブロックのダイアログが表示され正常に動作しません。正常に動作させるには、次の手順で信頼済みサイトに登録してください。

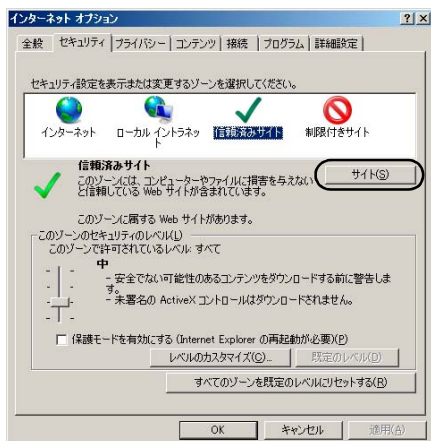
メモ

- カメラのIPアドレスは、カメラマネジメントツールで設定します。
- この手順で登録しなかった場合でも、後からカメラマネジメントツールを使用して登録できます。

1 Internet Explorerの [ツール] メニュー > [インターネット オプション] をクリックする

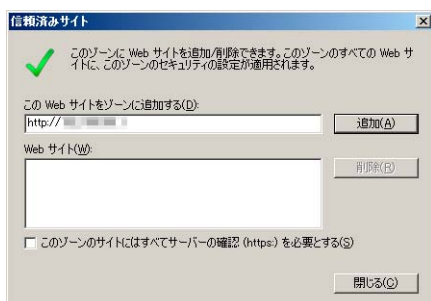
2 [セキュリティ] タブをクリックする

3 [信頼済みサイト] を選択し、[サイト] をクリックする



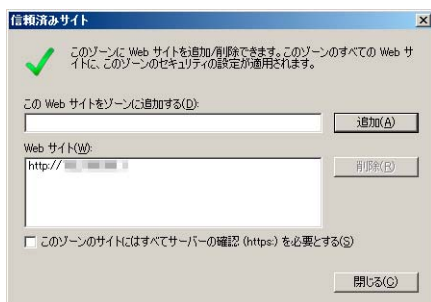
[信頼済みサイト] ダイアログが表示されます。

4 [このWebサイトをゾーンに追加する] にカメラのIPアドレスを入力し、[追加] をクリックする



メモ

- [このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https:) を必要とする] にチェックがついている場合は、外してください。[Web サイト] の一覧にカメラのIPアドレスが登録されます。



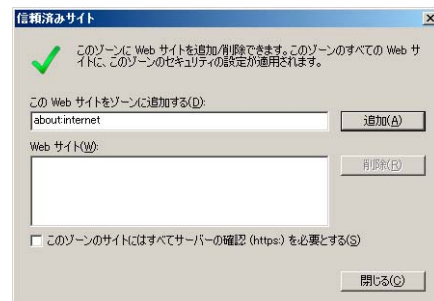
- IPアドレスの入力にワイルドカード (*) を使用することで、複数のカメラのIPアドレスを登録できます。
たとえば、「192.160.1.*」と入力すると、「192.160.1」部分が共通のカメラが、すべて信頼済みサイトに登録されます。

Windows Server 2008/Windows Server 2012 でご使用になる場合の注意事項

■ "about:internet" と、カメラのホスト名を登録する

Windows Server 2008/Windows Server 2012 では、IE ESC (Internet Explorerのセキュリティ強化の構成) が有効になっている場合は、管理者ビューワーおよび管理ツールを起動できません。

事前に、Internet Explorerの「ローカル イントラネット」または「信頼済みサイト」に、「about:internet」と、接続先カメラのホスト名を登録してください。



重要

"about:internet"を登録すると、Windows 7などでInternet Explorerを使用する場合と同等のセキュリティレベルとなります。管理者ビューワー、管理ツールの使用後は、必要に応じて"about:internet" とカメラ名の登録を解除し、元のセキュリティレベルに戻すことをお勧めします。

■ SSL 接続時の Web ブラウザーのセキュリティ設定

Windows Server 2008/Windows Server 2012 でWeb ブラウザー (Internet Explorer 9/10/11) からカメラにSSL接続をした場合、次の操作をするとコンテンツブロックのダイアログが表示されて操作ができないことがあります。

- 管理ツールまたは管理者ビューワーの起動
- VBビューワーからの音声受信

これらはInternet Explorer 9/10/11のセキュリティ強化の構成 (IE ESC) が有効に設定されている場合に発生します。次の手順で設定を変更することで回避できます。

- 1 Internet Explorer 9/10/11 の [ツール] メニューの [インターネット オプション] をクリックし、[詳細設定] タブをクリックする

2 [セキュリティ] の [暗号化されたページをディスクに保存しない] チェックボックスをオフにする

重要

IE のセキュリティ強化の構成を変更し有効にした場合、上記の [暗号化されたページをディスクに保存しない] チェックボックスも再び有効になりますので、ご注意ください。

■ 音声を使用するためにサウンド機能の設定を有効にする

Windows Server 2008/Windows Server 2012の初期設定では、サウンド機能が無効に設定されています。ビューワーで音声受信をするには、次の手順でサウンド機能を有効にしてください。

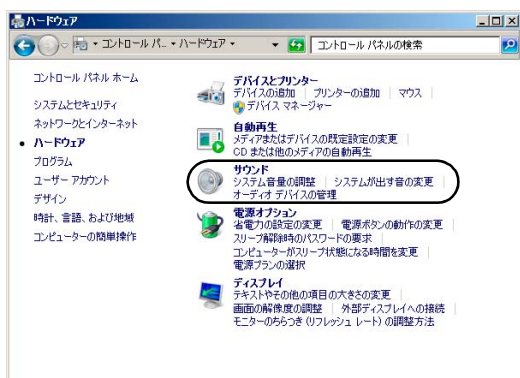
1 [コントロール パネル] の [ハードウェア] をクリックする



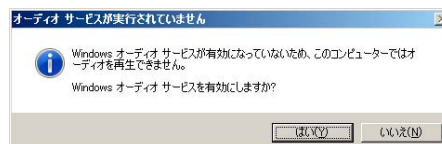
メモ

[コントロール パネル] がクラシック表示の場合、[サウンド] をダブルクリックしてください。

2 [サウンド] をクリックする



3 [オーディオ サービスが実行されていません] というメッセージで [はい] をクリックする



4 [サウンド] ダイアログが表示される [再生] タブでオーディオデバイスがインストールされていることを確認する (オーディオデバイスがインストールされていない場合はご使用のPCの使用説明書をご確認ください)

Windows Vista/Windows 7/Windows 8/Windows Server 2008/Windows Server 2012でご利用になる場合の注意事項

次の制限事項があります。

■ 設定ページ、管理ツール

カメラ名など日本語入力箇所 Windows Vista/Windows 7/Windows 8/Windows Server 2008/Windows Server 2012 の新文字セットを設定すると、他のPCで正しく文字を表示できない場合があります。上記OSの新文字セットは使用しないでください。

メモ

Windows Vista/Windows 7/Windows 8/Windows Server 2008/Windows Server 2012が対応する「JIS X 0213:2004」文字セットで、第三水準と第四水準の一部の文字について、他のOSで表示できない場合があります。

2章

カメラの初期設定

- カメラ利用開始までの基本的な流れ
- 必要なソフトウェアのインストール
- カメラの初期設定
- カメラのトップページにアクセスして映像を確認

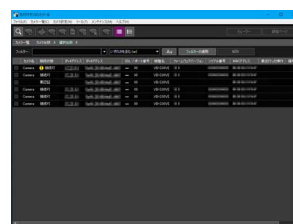
カメラ利用開始までの基本的な流れ

カメラの初期設定をする

カメラを設置する前に本章をお読みにになり、カメラマネジメントツールを使ってIPアドレスを設定してください。

「必要なソフトウェアをインストールする」(P. 23)

「カメラを初期設定する」



映像を確認する

初期設定が完了したら、Webブラウザでカメラにアクセスし、VBビューワーで映像を確認します。

「カメラのトップページにアクセスして映像を確認する」(P. 26)



カメラを設置する

利用する環境に合わせてカメラを設置します。

『設置ガイド』

設定ページからカメラの設定をする

カメラの基本的な設定、ネットワークでの運用方法、ユーザー登録、アクセス制御などについて設定できます。

「3章 設定ページ」



管理ツールを使う

管理ツールを使用すると、可視範囲やプリセットを設定したり、インテリジェント機能を利用するための設定ができます。また、ログを閲覧してカメラの動作状況を確認できます。

「4章 管理ツール」



管理者ビューワー / VBビューワーを使う

カメラに搭載されている管理者ビューワー / VBビューワーには、管理者向けの管理者ビューワーと、一般ユーザー向けのVBビューワーがあります。VBビューワーを使って一般向けの配信内容を確認し、管理者ビューワーを使ってすべての動作を確認してください。

「5章 管理者ビューワー / VBビューワー」



運用する

エラーメッセージが表示されたり、意図したとおりの動作をカメラがしないときは、エラーメッセージやログメッセージの内容を「6章 付録」でご確認ください。

「6章 付録」



重要

運用を開始する前に、設定ページと管理ツールでの設定が意図したとおりに動作するか、確認してください。

必要なソフトウェアをインストールする

カメラの初期設定に必要な次のソフトウェアをインストールします。

- カメラマネジメントツール：ネットワークカメラの初期設定やメンテナンスに使用するソフトウェア
- 管理ツール証明書：管理者ビューワーおよび管理ツールを使用するための電子証明書
- .NET Framework 3.5 SP1/.NET Framework 4.5：ネットワークカメラ用の各種ソフトウェアを使用するための実行環境 (PCにインストール済みの場合はインストール不要)

まとめてインストールする方法と、選んでインストールする方法があります。

メモ

- インストーラーで管理ツール証明書をインストールすると、PCを使用するすべてのユーザーが管理者ビューワー、管理ツールを使用できるようになります。
- カメラマネジメントツールをインストールする PC 以外の PC で管理者ビューワーおよび管理ツールを利用するときは、[選んでインストール] で「管理ツール証明書」のみをインストールできます。

1 カメラに同梱されているセットアップCD-ROMをPCのディスクドライブにセットする

2 他のすべてのアプリケーションが終了していることを確認してから、[スタート] メニュー > [マイコンピュータ] の順にクリックする

3 CD-ROM アイコン > [Applications] フォルダ > [VBToolsInstall.exe] の順にダブルクリックする



インストール画面が表示されます。

メモ

[ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] (または [続行]) をクリックしてください。



4 インストール方法を選択する

[おまかせインストール]：カメラマネジメントツールと管理ツール証明書をインストールします。

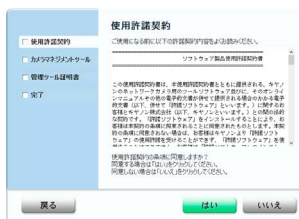


[選んでインストール]：ソフトウェアを任意に選択してインストールします。



5 [おまかせインストール] を選んだときは [次へ] を、[選んでインストール] を選んだときはインストールしたいソフトウェアのチェックボックスにチェックを入れて [次へ] をクリックする

使用許諾契約画面が表示されます。



6 使用許諾契約を読み、同意する場合は [はい] をクリックする

インストールが開始します。

7 インストール完了の画面が表示されたら [終了] または [再起動] をクリックする



デスクトップにカメラマネジメントツールのアイコンが表示されます。



カメラを初期設定する

カメラを使用するには、最初にカメラの管理者パスワードの設定を行い、次にネットワークの設定をして、PCとカメラをネットワーク経由で接続する必要があります。この設定には、カメラマネジメントツールを使用します。カメラマネジメントツールでは、複数のカメラの設定をまとめてすることもできます。

また、工場出荷設定のカメラは、192.168.100.1のIPアドレスが割り当てられているため、Webブラウザから初期設定することもできます。

カメラマネジメントツールでの設定の流れ

カメラマネジメントツールを起動する



カメラを検出する

カメラマネジメントツールがインストールされているPCと同じネットワークに接続されているカメラを検出できます。



管理者パスワードを登録する



カメラを初期設定する

ネットワークの設定やカメラ名など、カメラの基本設定をします。

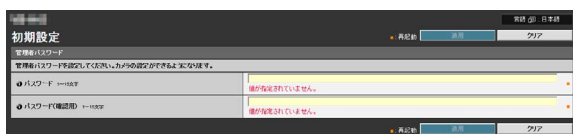
カメラマネジメントツールの使いかたは、『カメラマネジメントツール 使用説明書』をお読みください。

Webブラウザからアクセスする

1 Webブラウザを起動する

2 192.168.100.1を入力し、Enterキーを押す

[初期設定] ページが表示されます。



3 管理者パスワードを入力し、[適用] をクリックする

カメラの再起動後、トップページが表示され、各種設定が可能になります。

カメラのトップページにアクセスして映像を確認する

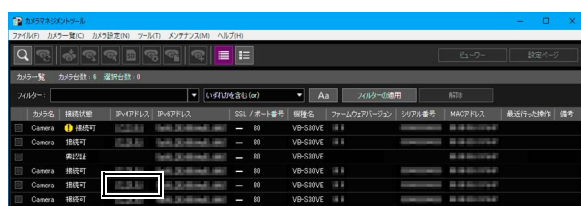
カメラの初期設定終了後、カメラマネジメントツールを使ってカメラにアクセスし、映像が正しく表示されるか確認します。

カメラマネジメントツールからトップページにアクセスする

カメラマネジメントツールを使用して、カメラのトップページを表示できます。

1 カメラマネジメントツールを起動する

2 カメラ一覧で、トップページを表示するカメラのIPv4アドレスをダブルクリックする



Webブラウザが起動し、カメラのトップページが表示されます。

メモ

- [接続状態] が [接続不可] のカメラは、Webブラウザが起動しません。
- カメラマネジメントツールで設定したIPアドレスを、Webブラウザに直接入力しても、カメラのトップページが表示されます。
- トップページが表示されないときは、「トラブルシューティング」(P. 150)を参照してください。

トップページについて

カメラのトップページからは、カメラの詳細設定を行う設定ページへの移動、管理ツールの起動、映像を表示するためのビューワの表示ができます。



① 言語切り換えボタン

表示言語を切り換える場合にクリックします。

② [設定ページ]

設定ページを表示します (P. 31)。

カメラの初期設定や使用状況に合わせた各種設定を行います。

③ [管理ツール]

管理ツールのトップページを表示します (P. 76)。

カメラの動作などを設定する各種ツールや、記録映像を管理するユーティリティを起動できます。

④ [管理者ビューワ]

管理者ビューワを起動します (P. 27)。

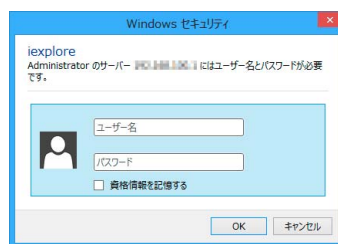
⑤ [VBビューワ]

VBビューワを起動します (P. 27)。

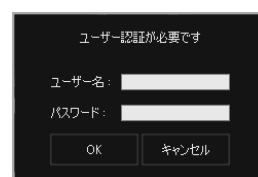
■ ユーザー認証について

設定ページ、管理ツール、管理者ビューワを使用する際は、認証画面が表示され、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。

ユーザー名またはパスワードの入力を間違えると、カメラへの接続ができません。正しいユーザー名およびパスワードを入力して接続してください。



設定ページの認証画面



管理ツール/
管理者ビューワの
認証画面

工場出荷設定のユーザー名とパスワードは次のとおりです。

ユーザー名: root

パスワード: 初回アクセス時に設定

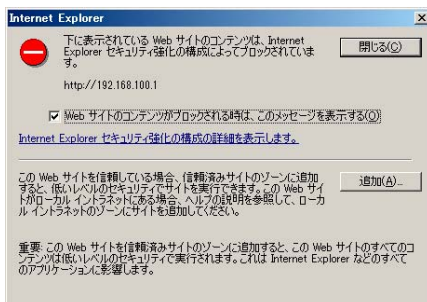
ユーザー名「root」(固定) は、カメラの管理者アカウントです。

重要

- システムのセキュリティを確保するため、管理者パスワードは第三者に推測されにくいパスワードを設定してください。パスワードは忘れないようにしてください。
- 管理者パスワードを忘れてしまった場合は、工場出荷設定に戻してください (P. 163)。ただし、カメラの日付と時刻以外すべての設定が工場出荷設定に戻りますのでご注意ください。
- 管理者アカウントでカメラに接続した場合、他のPCからは管理者権限では接続できません。
- 同じPCを管理者と登録ユーザーが共有してVBビューワーを使用する場合には、[資格情報を記憶する]のチェックを入れないことを強くお勧めします。
- 管理ツールと管理者ビューワーは、IPv6アドレス指定では使用できません。IPv6接続はホスト名指定にのみ対応します。

メモ

- 設定ページと管理ツールは、管理者のみ接続できます。
- 管理者ビューワーは、特権カメラ制御権限が与えられた登録ユーザーも接続できます。登録ユーザーのユーザー権限は、設定ページの [アクセス制御] > [ユーザー権限] (P. 59) で設定できます。
- Internet Explorer 9以降およびWindows Server 2008/Windows Server 2012でカメラを操作する場合、Internet Explorerのセキュリティ設定により、設定ページや管理ツール、ビューワーにアクセスすると、コンテンツブロックのダイアログが表示されることがあります。その場合は、[追加] をクリックして、カメラのIPアドレスを信頼済みサイトに登録してください。



カメラの映像を確認する

カメラの映像をビューワーで確認します。VBビューワーと管理者ビューワーがあります。

ここでは、映像確認のために、ビューワーの起動についてのみ説明します。各ビューワーの操作方法については、「管理者ビューワー/VBビューワー」(P. 121) を参照してください。

メモ

ビューワーの起動時に、コンテンツブロックのダイアログが表示された場合は、ダイアログの [追加] をクリックして、カメラのIPアドレスを信頼済みサイトに登録してください。

VBビューワーで映像を見る

VBビューワーは、カメラにアクセスできるユーザーなら誰でも使用できるビューワーです。ただし、使用できるカメラの機能は限定されます。

トップページの [VB ビューワー] をクリックすると、VBビューワーが起動して、カメラの映像が表示されます。



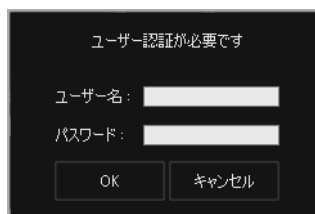
管理者ビューワーで映像を見る

管理者ビューワーは、管理者と特権カメラ制御権を付与された登録ユーザーのみが使用できるビューワーです。カメラのすべての制御が行えます。

1 トップページの [管理者ビューワー] をクリックする

ユーザー認証の画面が表示されます。

2 ユーザー名とパスワード (P. 26) を入力し、[OK] をクリックする



管理者ビューワーが起動して、カメラの映像が表示されます。



3章

設定ページ

- 管理者パスワードとネットワークの詳細設定
- カメラの日付と時刻の設定
- カメラ名と起動時設定に関する設定
- 映像の品質とサイズの設定
- RTPストリームの設定
- アップロードとメール通報の設定
- 映像/オーディオ/HTTP/FTPサーバーとWS-Securityの設定
- イベントに関する設定
- 管理者パスワード、ユーザーの登録と権限、アクセス制御の設定
- IPsecの設定
- HTTP通信の暗号化 (SSL/TLS) の設定
- 802.1X認証
- メモリーカードの操作と情報の表示
- 再起動が必要となる項目の設定
- メンテナンス (ログや設定内容の表示/再起動/工場出荷設定)
- カメラアングル S80x S90x

設定メニューについて

設定メニューを起点として各設定ページへ移動し、カメラのさまざまな設定ができます。
各設定ページで設定できる内容は、次のとおりです。詳しくは、各参照ページをご覧ください。



- **ネットワーク**
管理者パスワード、LAN、IPv4、IPv6、DNS、mDNS、SNMPの設定 (P. 33)
- **日付と時刻**
カメラの日付と時刻、タイムゾーン、サマータイムの設定 (P. 37)
- **カメラ**
カメラ名、起動時設定、カメラ制御、デイナイト、設置条件、カメラ位置制御、外部入力デバイス名、外部出力デバイス名の設定 (P. 39)
- **映像**
映像サイズセット、JPEGおよびH.264における映像品質、映像サイズ、フレームレート、オンスクリーン表示の設定 (P. 44)
- **RTP**
RTPサーバー、音声マルチキャスト、RTPストリームの設定 (P. 47)
- **アップロード**
アップロード全般、HTTP、FTPでのアップロードの設定、メール通報の設定 (P. 49)
- **サーバー**
映像サーバー、オーディオサーバー、HTTPサーバー、FTPサーバー、WS-Securityの設定 (P. 53)
- **イベント**
映像記録設定、音量検知、外部デバイス出力、外部デバイス入力、タイマーの設定 (P. 55)
- **アクセス制御**
管理者パスワード、登録ユーザーアカウント、ユーザー権限、ホストアクセス制限の設定 (P. 59)
- **IPsec**
IPsecの設定 (P. 61)
- **SSL/TLS**
証明書の作成および管理、暗号化通信の設定 (P. 64)
- **802.1X**
802.1X認証の設定および認証状態の表示 (P. 66)
- **メモリーカード**
メモリーカードの操作と情報の表示 (P. 68)
- **再起動項目**
再起動が必要となる項目の設定 (P. 71)
- **メンテナンス**
機器情報、ログの表示、現在の設定の表示、再起動、初期設定に戻す、設定値のバックアップ/リストア、ログ通知 (P. 72)
- **カメラアングル** **S80x** **S90x**
デジタルズームの設定 (P. 74)
- **ユーザーページ**
ユーザーがカスタマイズするWebページへのリンク (詳しくは、お客様相談センターにお問い合わせください)

重要

Internet Explorer 8/9/10/11でご使用いただく場合の注意事項
メンテナンスページの [ログを見る] または [現在の設定を見る] を表示しようとした際に情報バーが表示され、ポップアップがブロックされている場合には、情報バーの手順に従ってポップアップを許可する設定にしてください。

設定メニューにアクセスする

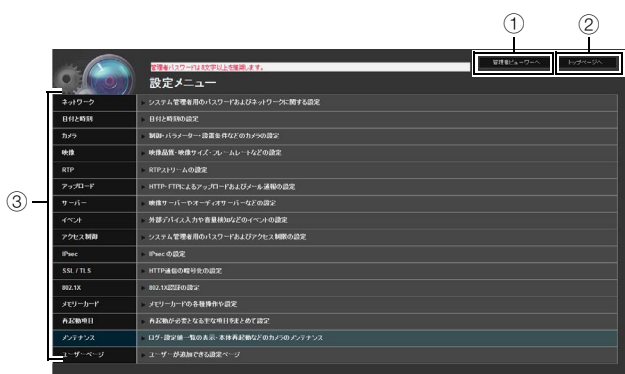
カメラのさまざまな設定は、Webブラウザからカメラにアクセスして行います。まずはカメラのトップページにアクセスしてください (P. 26)。

ユーザー名とパスワードの入力については、P. 26 を参照してください。

メモ

設定ページは、カメラマネジメントツールからアクセスすることもできます。詳細は、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

設定メニューについて



① [管理者ビューワーへ]

クリックすると管理者ビューワーに移動します。

② [トップページへ]

クリックするとカメラのトップページに移動します。

③ 設定メニュー

クリックすると各設定ページに移動します。

重要

セキュリティを確保するため、設定ページによる設定の完了後、および管理者ビューワー、管理ツールの使用後は、Webブラウザを終了してください。

メモ

管理者パスワードを8文字以上に設定しても、設定メニューのタイトル右横に下記のメッセージが常に表示されます。「管理者パスワードは8文字以上を推奨します。」

各設定ページ共通項目

■ 設定変更の適用について

各設定ページ内で設定の変更を行うと、各設定ページ右上および右下に表示されている [適用] が、グレースアウトから青色に変わります。

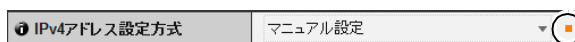


変更した設定を有効にするには、[適用] をクリックしてください。

変更した設定を戻す場合は、[クリア] をクリックしてください。

■ 再起動が必要な設定変更

設定を変更するために、カメラを再起動させる必要がある設定項目には、オレンジのマークが付いています。



オレンジのマークがある項目を変更した場合、各設定ページ右上および右下に表示されている [適用] が、[適用して再起動] に変わります。



変更した設定を確定するには、[適用して再起動] をクリックしてください。設定変更が反映され、カメラが再起動します。

変更した設定を戻す場合は、[クリア] をクリックしてください。

重要

[適用] または [適用して再起動] をクリックせずに別の設定ページへ移動すると、変更内容が失われてしまいます。変更した設定を有効にするには、必ず [適用] または [適用して再起動] をクリックしてください。

■ 設定メニューに戻る

各設定ページから設定メニューに戻る場合は、各設定ページ右上の [設定メニューへ] をクリックしてください。



重要

- 1つのカメラに対しては、同時に複数の設定ページを開いて変更操作を行わないでください。
- Webブラウザの [戻る]・[進む] ボタンによる設定ページ間の移動は行わないでください。変更した設定が元に戻ってしまうことや、意図しない変更がされてしまう可能性があります。

メモ

設定ページの各項目先頭にある  [Help] をクリックすると、設定項目の詳細説明が表示されます。

[ネットワーク] 管理者パスワードやLAN、IPアドレス、DNSなどの設定

ここでは次の設定ができます。

- **管理者パスワード**
管理者パスワードを設定します。
- **LAN**
IPアドレスなどLANの接続に必要な設定を行います。
- **IPv4**
IPv4アドレスを設定します。
- **IPv6**
IPv6アドレスを設定します。
- **DNS**
ネームサーバーアドレス、ホスト名、DDNS登録を設定します。
- **mDNS**
マルチキャストDNSの使用について設定します。
- **SNMP**
SNMPの使用に必要な設定を行います。

管理者パスワード

① パスワード (1~16文字)	*****
② パスワード(確認用) (1~16文字)	*****

① [パスワード]

管理者パスワードを設定します。**15文字以内 (半角) のASCII文字 (スペースまたは印字可能文字)** が使用できます。管理者ビューワや管理ツールなどが接続している場合は、接続を終了してからパスワードを変更してください。

② [パスワード (確認用)]

上と同じパスワードを確認のために入力します。

重要

- システムのセキュリティを確保するため、管理者パスワードは第三者に推測されにくいパスワードを設定してください。パスワードは忘れないようにしてください。
- 管理者パスワードを忘れてしまった場合は、リセットスイッチを押して工場出荷設定に戻してください (P. 163)。**ただし、カメラの日付と時刻以外すべての設定が工場出荷設定に戻りますのでご注意ください。**
- [管理者パスワード] は、[アクセス制御] > [管理者パスワード] (P. 59) と共通です。一方の [管理者パスワード] を設定すると、もう一方の [管理者パスワード] にも反映されます。

LAN

① LANインターフェース	オート
② 最大パケットサイズ 576~1500	1500

① [LANインターフェース]

[オート]、[全二重]、[半二重] から選択します。通常は [オート] をご使用ください。

② [最大パケットサイズ]

一度に送信するパケットの最大サイズを入力します。通常は1500から変更する必要はありません。

重要

- [LANインターフェース]、[最大パケットサイズ] の設定を変更する場合は、起動中のWebブラウザーからカメラに接続できなくなる可能性があります。[再起動項目] 再起動が必要となる項目の設定の「重要」(P. 71) に記載している注意事項を事前にご確認ください。
- IPv6をご使用の場合は、[最大パケットサイズ] を1280以上に設定してください。

メモ

ADSLをご利用の際に、最大パケットサイズの数値を少し下げて設定いただくと送信効率上がる場合があります。

IPv4

① IPv4アドレス設定方式	マニュアル設定
② IPv4アドレス	192.168.100.1
③ サブネットマスク	255.255.255.0
④ IPv4デフォルトゲートウェイアドレス	
⑤ AutoIPの使用	使用する
⑥ IPv4アドレス (AutoIP)	169.254.58.237

① [IPv4アドレス設定方式]

アドレス設定方式を [マニュアル設定] または [自動設定 (DHCP)] から選択します。[マニュアル設定] を選択した場合は、使用する環境に合わせた値を、直接入力してください。[自動設定 (DHCP)] を選択した場合は、[IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス] にはDHCPサーバーから自動的に取得した値が用いられます。

② [IPv4 アドレス]

①が [マニュアル設定] の場合、固定のIPアドレスを入力します。

③ [サブネットマスク]

①が [マニュアル設定] の場合、ネットワークごとに指定されたサブネットマスク値を入力します。

④ [IPv4デフォルトゲートウェイアドレス]

①が[マニュアル設定]の場合に入力します。カメラをビューワーと異なるサブネットに接続するときは、必ず設定してください。

⑤ [AutoIPの使用]

AutoIPの使用を、[使用しない] または [使用する] から選択します。

⑥ [IPv4アドレス (AutoIP)]

⑤で[使用する]を選択した場合に、自動的に設定されたIPアドレスが表示されます。

重要

- [IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス]は、システム管理者にお問い合わせください。
- 127.0.0.1のように127. から始まるIPアドレスは、カメラのIPアドレスとして設定できません。
- [IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス]の設定のいずれかに誤りがある場合、ネットワーク経由でアクセスできなくなることがあります。この場合はカメラマネジメントツールを用いて再度アドレスを設定してください。
- [IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス]の設定を変更する場合は、起動中のWebブラウザからカメラに接続できなくなる可能性があります。[再起動項目]再起動が必要となる項目の設定の「重要」(P. 71)に記載している注意事項を事前にご確認ください。
- IPv4アドレス設定を[自動設定 (DHCP)]でご利用の場合、DHCPサーバーとカメラの間にルーターがあるような環境では、IPv4アドレスが正しく割り振られない場合があります。その場合は、[マニュアル設定]から固定のIPv4アドレスを割り振ってください。

IPv6

① IPv6の使用	使用する
② 自動設定 (RA)	有効
③ 自動設定 (DHCPv6)	有効
④ IPv6アドレス (手動設定)	
⑤ プレフィックス長 16~128	64
⑥ IPv6デフォルトゲートウェイアドレス	
⑦ IPv6アドレス (自動設定)	fe80::200:85ff:fe01:18c6/64

① [IPv6の使用]

IPv6の使用を、[使用しない] または [使用する] から選択します。

② [自動設定 (RA)]

RA (Router Advertisement、ルーターから自動的に送信されるネットワーク情報) を利用してアドレスを自

動で設定する場合は[有効]、自動で設定しない場合は[無効]を選択します。

③ [自動設定 (DHCPv6)]

DHCPv6を利用してアドレスを自動で設定する場合は[有効]、自動で設定しない場合は[無効]を選択します。

④ [IPv6 アドレス (手動設定)]

固定のIPv6アドレスを入力します。

⑤ [プレフィックス長]

②が[無効]の場合、プレフィックス長を、16~128の間で入力します。

⑥ [IPv6 デフォルトゲートウェイアドレス]

②が[無効]の場合、デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。カメラをビューワーと異なるサブネットに接続するときは、必ず設定してください。

⑦ [IPv6 アドレス (自動設定)]

①が[使用する]で、②および③が[有効]の場合、自動的に取得したアドレスが表示されます。

重要

- [IPv6 アドレス (手動設定)]、[プレフィックス長]、[IPv6 デフォルトゲートウェイアドレス]は、システム管理者にお問い合わせください。
- [IPv6の使用]、[IPv6 アドレス (手動設定)]、[プレフィックス長]、[IPv6 デフォルトゲートウェイアドレス]の設定を変更する場合は、起動中のWebブラウザからカメラに接続できなくなる可能性があります。[再起動項目]再起動が必要となる項目の設定の「重要」(P. 71)に記載している注意事項を事前にご確認ください。

メモ

IPv6が使用できない環境では、IPv6を[使用する]、自動設定を[有効]に設定した場合、[IPv6アドレス (自動設定)]表示欄にはリンクローカルアドレスのみが表示されます。

DNS

① ネームサーバーアドレス 1	
② ネームサーバーアドレス 2	
③ ネームサーバーアドレスの自動設定	DHCP / DHCPv6を使用する
④ ネームサーバーアドレス (DHCP)	
⑤ ネームサーバーアドレス (DHCPv6)	
⑥ ホスト名 63文字以内	
⑦ ホスト名のDNS登録	登録しない
⑧ サードメイン 63文字以内	
⑨ サードメインリスト	

① [ネームサーバーアドレス 1~2]

登録したいネームサーバーアドレスを入力します。1つしか登録しないときは、[ネームサーバーアドレス 2]は空欄のままにしてください。

② [ネームサーバーアドレスの自動設定]

DHCPを利用してネームサーバーアドレスを自動で設定する方法を選択します。DHCPサーバーから自動取得したネームサーバーアドレスを使用するときは [DHCPを使用する]、DHCPv6サーバーから自動取得したネームサーバーアドレスを使用するときは [DHCPv6を使用する]、DHCPサーバーまたはDHCPv6サーバーから自動取得したネームサーバーアドレスを使用するときは [DHCP/DHCPv6を使用する]、DHCPを利用しないときは [使用しない] を選択します。

[DHCPを使用する] に設定するには、[IPv4アドレス設定方式] を [自動設定 (DHCP)] にしてください。

[DHCPv6を使用する] に設定するには、[IPv6の使用] を [使用する] にして、[自動設定 (DHCPv6)] を [有効] にしてください。

③ [ネームサーバーアドレス(DHCP)]

[ネームサーバーアドレスの自動設定] を [DHCPを使用する] または [DHCP/DHCPv6を使用する] に設定した場合、DHCPサーバーから取得したネームサーバーアドレスが表示されます。

④ [ネームサーバーアドレス(DHCPv6)]

[ネームサーバーアドレスの自動設定] を [DHCPv6を使用する] または [DHCP/DHCPv6を使用する] に設定した場合、DHCPv6サーバーから取得したネームサーバーアドレスが表示されます。

⑤ [ホスト名]

ネームサーバーにカメラのホスト名を登録できます。
63文字以内 (半角) のA-Z、a-z、0-9、-、_、. の文字が使用できます。

⑥ [ホスト名のDDNS登録]

[登録する] を選択すると、設定したホスト名がネームサーバーに登録されます。

⑦ [サーチドメイン]

サーチドメインリストにドメイン名が指定されていると、アップロードなどのサーバー指定でドメイン名なしのホスト名を指定するだけでホスト名+ドメイン名の形で扱われます。サーチドメインリストに追加するドメイン名を入力してから [追加] をクリックします。

⑧ [サーチドメインリスト]

[サーチドメイン] で追加されたドメイン名が一覧表示されます。DNSサーバーに対して、このリストのドメイン名の上から順に問い合わせが行われます。右側の▲▼ボタンでドメイン名の並び順を切り換えることができます。
ドメイン名を削除する場合は、リストからドメイン名を選択して、[削除] をクリックします。

重要

Internet Explorer 8/9/10/11 では、[ホスト名] および [サーチドメイン] に「_」(アンダースコア) を使用しないでください。

メモ

- カメラを [自動設定 (DHCP)] (P. 33) で運用する場合に、[ホスト名のDDNS登録] を登録すると便利です。あらかじめDNSサーバーに登録を行うための設定が必要です。DNSサーバーの設定についてはシステム管理者にお問い合わせください。
- ネームサーバーアドレス1が利用できない場合は、ネームサーバーアドレス2にアクセスします。ただし、ネームサーバーアドレス2が事前に設定されていることが前提です。

mDNS

① mDNSの使用	使用する
-----------	------

① [mDNSの使用]

マルチキャストDNSの使用を、[使用しない] または [使用する] から選択します。mDNSを使用すると、カメラのIPアドレスとホスト名の情報を、ネットワーク上の他のホストに通知します。

SNMP

SNMP	
① SNMPv1, v2cの使用	使用する
② SNMPv3の使用	使用する
③ 管理者連絡先 63文字以内	
④ 管理用の機器名称 31文字以内	VB-S30D
⑤ 設置場所 31文字以内	
SNMPv1, v2cサーバー	
① コミュニティ名 31文字以内	group1
SNMPv3サーバー	
① ユーザー名 31文字以内	username
② セキュリティレベル	認証あり、暗号化あり
③ 認証アルゴリズム	MD5
④ 認証パスワード 8~31文字	*****
⑤ 暗号化アルゴリズム	DES
⑥ 暗号化パスワード 8~31文字	*****

① [SNMPv1, v2cの使用]

SNMPv1, v2cの使用を、[使用しない] または [使用する] から選択します。[使用する] を選択すると、SNMPv1, v2cを使用して、SNMPマネージャーからカメラの情報を参照できます。

② [SNMPv3の使用]

SNMPv3の使用を、[使用しない] または [使用する] から選択します。[使用する] を選択すると、SNMPv3を使用して、SNMPマネージャーからカメラの情報を参照できます。

③ [管理者連絡先]

カメラの管理者連絡先 (メールアドレスなど) を設定します。設定内容はSNMPマネージャーから参照できます。

④ [管理用の機器名称]

カメラの管理用機器名称を設定します。設定内容はSNMPマネージャーから参照できます。
空白にすると次の規定値が適用されます。

S30 VB-S30D

S31 VB-S31D

S80x VB-S800D または VB-S805D

S90x VB-S900F または VB-S905F

⑤ [設置場所]

カメラの設置場所の情報を設定します。設定内容はSNMPマネージャーから参照できます。

SNMPv1, v2cサーバー

① [コミュニティ名]

[SNMPv1, v2cの使用] で [使用する] を選択した場合、SNMPv1とv2cで使用するコミュニティ名を入力します。工場出荷設定は空値です。

SNMPv3サーバー

① [ユーザー名]

[SNMPv3の使用] で [使用する] を選択した場合、SNMPv3で使用するユーザー名を設定します。

② [セキュリティレベル]

SNMPv3で使用するセキュリティレベルを、[認証なし、暗号化なし]、[認証あり、暗号化なし]、[認証あり、暗号化あり]から選択します。

③ [認証アルゴリズム]

[セキュリティレベル] で、[認証あり、暗号化なし] または [認証あり、暗号化あり] を選択した場合、認証アルゴリズムを、[MD5]、[SHA1] から選択します。

④ [認証パスワード]

[セキュリティレベル] で、[認証あり、暗号化なし] または [認証あり、暗号化あり] を選択した場合、認証パスワードを設定します。

⑤ [暗号化アルゴリズム]

[セキュリティレベル] で、[認証あり、暗号化あり] を選択した場合、暗号アルゴリズムを、[DES]、[AES] から選択します。

⑥ [暗号化パスワード]

[セキュリティレベル] で、[認証あり、暗号化あり] を選択した場合、暗号化パスワードを設定します。

メモ

- SNMPマネージャーからは、カメラの情報は読み取り専用です。
- SNMP MIB2 (RFC1213対応) がサポートされているSNMPマネージャーをお使いください。

[日付と時刻] 日付と時刻の設定

ここでは次の設定ができます。

- **現在の日付と時刻**
カメラに設定されている日付と時刻が表示されます。
- **設定**
カメラの日付と時刻の設定方法、タイムゾーン、サマータイムを選択します。

現在の日付と時刻

① 日付	yyyy/mm/dd	2013/05/18
② 時刻	hh:mm:ss	16:43:19

[日付]、[時刻]

現在、カメラに設定されている日付と時刻が表示されます。

設定

① 設定方法	手動で設定する	▼
② 日付 yyyy/mm/dd	2013/04/15	
③ 時刻 hh:mm:ss	19:14:40	
④ タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京	▼
⑤ サマータイム	自動調整しない	

① [設定方法]

[手動で設定する]、[NTPサーバーに合わせる]、[NTPブロードキャストモードを使用する]、[このコンピューターに合わせる] から選択します。

② [日付]、[時刻]

[設定方法] を [手動で設定する] にした場合、任意の日付と時刻が設定できます。日付は<年/月/日>、時刻は24時間制で<時間:分:秒>の順に入力します。

③ [NTPサーバーの自動設定]

[設定方法] を [NTPサーバーに合わせる] にした場合、DHCPを使用したNTPサーバーの自動設定方法を選択します。

① 設定方法	NTPサーバーに合わせる
② NTPサーバーの自動設定	使用しない
③ NTPサーバー	ntp.nict.jp
④ タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京
⑤ サマータイム	自動調整しない

[使用しない]

任意のNTPサーバーを指定するときを選択します。使用するNTPサーバーのIPアドレスまたはホスト名を [NTPサーバー] に入力してください。

① 設定方法	NTPサーバーに合わせる
② NTPサーバーの自動設定	DHCPを使用する
③ NTPサーバー (DHCP)	
④ タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京
⑤ サマータイム	自動調整しない

[DHCPを使用する]

DHCPサーバーからアドレスを取得したNTPサーバーの時刻に合わせます。設定するには、[ネットワーク] > [IPv4 アドレス設定方式] を [自動設定 (DHCP)] にする必要があります (P. 33)。

[NTPサーバー (DHCP)] には、DHCPサーバーで取得したNTPサーバーアドレスが表示されます。

① 設定方法	NTPサーバーに合わせる
② NTPサーバーの自動設定	DHCPv6を使用する
③ NTPサーバー (DHCPv6)	
④ タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京
⑤ サマータイム	自動調整しない

[DHCPv6を使用する]

DHCPv6サーバーからアドレスを取得したNTPサーバーの時刻に合わせます。設定するには、[ネットワーク] > [IPv6の使用] を [使用する] にして、[自動設定 (DHCPv6)] を [有効] にする必要があります (P. 34)。

[NTPサーバー (DHCPv6)] には、DHCPv6サーバーで取得したNTPサーバーアドレスが表示されます。

[DHCP/DHCPv6を使用する]

DHCPサーバーまたはDHCPv6サーバーからアドレスを取得したNTPサーバーの時刻に合わせます。DHCPサーバー (IPv4) とDHCPv6サーバーの両方からNTPサーバーのアドレスが取得できる場合は、DHCPサーバー (IPv4) から取得したNTPサーバーのアドレスが使用されます。

① 設定方法	NTPブロードキャストモードを使用する
② タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京
③ サマータイム	自動調整しない

[NTPブロードキャストモードを使用する]

NTPサーバーの時刻に合わせます。NTPサーバーが送信したNTPブロードキャストを受信して時刻を合わせます。

① 設定方法	このコンピューターに合わせる
② 日付	yyyy/mm/dd 2013/05/18
③ 時刻	hh:mm:ss 16:36:05
④ タイムゾーン	(GMT+09:00) 大蔵、札幌、東京
⑤ サマータイム	自動調整しない

[このコンピューターに合わせる]

日付と時刻を、現在カメラにアクセスしているコンピューターに合わせます。[タイムゾーン] は自動的に選択されませんので、必要に応じて別途設定を行ってください。

④ **[タイムゾーン]**

グリニッジ標準時との時差をリストから選択します。

⑤ **[サマータイム]**

タイムゾーンに合わせてサマータイムを自動で調整する場合は **[自動調整する]**、自動で調整しない場合は **[自動調整しない]** を選択します。

 メモ

- **[このコンピューターに合わせる]** を選択した場合、**[適用]** をクリックして設定を適用した後は、**[設定方法]** の表示が **[手動で設定する]** になります。
- **[NTPサーバーに合わせる]** を選択した場合、**NTPサーバー**のIPアドレスが正しくないなど、**NTPサーバー**と接続できないときは、日付と時刻は変更されません。
- **NTPサーバー**への問い合わせ間隔は**300秒**です。時刻のズレが大きい場合は、同期に時間がかかります。
- カメラの**NTPブロードキャストモード**は**IPv6**に対応していません。
- **[タイムゾーン]** を変更すると、指定したタイムゾーンに合わせて日付と時刻の表示を自動的に変更します。

[カメラ] カメラの起動時設定や外部デバイス名の設定

ここでは次の設定ができます。

- カメラ名**
 カメラ名を入力します。RM-Liteを併用する際に必要となります。
- 起動時設定**
 カメラ起動時の撮影条件を設定します。
- カメラ制御**
 デジタルズームやAGCリミット、スマートシェード補正強度を設定します。
- デイナイト**
 デイナイトの切り換えモードを設定します。
- 設置条件**
 LEDの点灯など、カメラの設置条件を設定します。
- カメラ位置制御**
 カメラのパン・チルト・ズーム操作について、事前に登録したプリセット位置への限定の有無を設定します。また、制御権要求がない場合の動作を設定します。
- 外部デバイス名**
 外部入力デバイス名、外部出力デバイス名を設定します。

カメラ名

① カメラ名(半角英数字) 15文字以内	Camera
② カメラ名(日本語) 15文字以内	

[カメラ名]

[カメラ名 (半角英数字)] は必ず入力してください。[カメラ名 (日本語)] が無指定の場合は、[カメラ名 (半角英数字)] が用いられます。
 [カメラ名 (半角英数字)] には15文字以内のASCII文字 (スペースまたは印字可能文字) が使用できます。
 [カメラ名 (日本語)] には15文字以内のJIS X 0208-1990に含まれる文字が使用できます。

メモ

- カメラ名 (日本語) に使用できる文字数は、全角・半角に関係なく15文字です。
- [カメラ名(日本語)] を入力した場合、RMビューワーには [カメラ名(日本語)] が優先して表示されます。

起動時設定

① AEモード	オート
② スローシャッター	使用しない
③ 露出補正	0
④ 測光方式	中央部重点
⑤ フォーカスモード	オート
⑥ スマートシェード補正	使用しない
⑦ ホワイトバランス	オート
⑧ ノイズリダクション	標準
⑨ シャープネス	3
⑩ 色の濃さ	4
⑪ かすみ補正	使用しない
⑫ デイナイト	デイモード

① [AEモード] と [スローシャッター]、[シャッタースピード]

カメラ起動時の露出制御とシャッタースピードを設定します。

[AEモード]

[オート]

自動的に露出を制御します。

[オート (フリッカーレス)]

蛍光灯などの影響による画面の輝度むらを低減するモードです。使用環境の明るさに応じて、シャッタースピードが自動的に調整されます。

[オート (フリッカーレス2)]

[オート (フリッカーレス)] を選択しても輝度むらの低減効果が得られない場合に、本モードをご使用ください。ただし、本モードはシャッタースピードの自動調整範囲が1/100秒より速くならないように抑えられるため、適正な露出にならない (明るくなり過ぎる) 場合があります。

[オート (シャッター優先)]

シャッタースピードを指定できるモードです。

[スローシャッター]

スローシャッターは [AEモード] を [オート]、[オート (フリッカーレス)]、[オート (フリッカーレス2)] に選択した場合のみ設定できます。

暗いシーンの撮影時に自動露出モードで使用する最長のスローシャッター時間を設定します。[使用しない]、[1/15]、[1/8]、[1/4]、[1/2]から選択します。シャッタースピードを低速にするほど、動きのある被写体では残像が発生しますので撮影シーンに合った適切な時間を選択してください。

① AEモード	オート(シャッター優先)
② シャッタースピード	1/100

[シャッタースピード]

シャッタースピードは[AEモード]を[オート(シャッター優先)]に選択した場合のみ設定できます。カメラのシャッタースピードを[1/2]から[1/16000]まで16段階の設定から選択します。動きのある被写体を撮影する場合、速いシャッタースピードを選択することで、像ブレの少ない映像表示が可能になります。

② [露出補正]

カメラ起動時の露出補正を[-4(暗)]から[4(明)]の範囲で設定します。映像を明るめにするときはプラスの値を、暗めにするときはマイナスの値を設定します。[スマートシェード補正]が[オート]の場合は設定できません。

③ [測光方式]

カメラ起動時の測光方式を設定します。

[中央部重点]

画面中央部に重点をおきながら、画面全体を測光する方式です。

画面周辺に多少明暗があっても、中央付近の被写体は適正な露出が得られます。

被写体が画面中央付近の場合にご使用ください。

[平均]

画面全体を平均して測光する方式です。

画面内の明暗差が大きい撮影環境でも安定した露出が得られます。

車の通過、人の出入りがあるシーンなどで露出を安定させたい場合にご使用ください。

[スポット]

画面中央部を測光する方式です。

画面周辺の明暗に左右されることなく、画面中央部の被写体は適正な露出が得られます。

被写体にスポット光が当たっている場合や、逆光の場合などで画面中央部に露出を合わせたいときにご使用ください。

④ [フォーカスモード] S30

カメラ起動時のフォーカスモードを設定します。

[オート]

自動的にフォーカスを合わせます。通常は[オート]を選択してください。

[無限遠固定]

無限遠近傍にフォーカスを固定したままにできます。

⑤ [スマートシェード補正]

カメラ起動時のスマートシェード補正を設定します。

[使用しない]

スマートシェード補正機能を使用しません。

[マニュアル]

スマートシェード補正の強弱を設定します。[スマートシェード補正レベル]で[1(弱)]～[7(強)]の7段階から選択します。

① スマートシェード補正	マニュアル
② スマートシェード補正レベル	1(弱)

[オート]

スマートシェード補正機能と露出補正機能を併用し、白とびや黒つぶれの少ない映像に自動制御します。そのため、[オート]選択時は[スマートシェード補正レベル]と[露出補正]は表示されません。

⑥ [ホワイトバランス]

自然な色合いの映像になるように光源に応じたホワイトバランスを選択します。

[オート]

自動的にホワイトバランスを調整します。

[マニュアル]

光源に合わせてRedとBlueのゲイン値を設定します。[Rゲイン]、[Bゲイン]をそれぞれ0～1023の数値で入力します。

① ホワイトバランス	マニュアル
② Rゲイン 0～1023	255
③ Bゲイン 0～1023	255

[蛍光灯 昼光色]

昼光色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[蛍光灯 白色]

昼白色蛍光灯、白色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[蛍光灯 暖色]

暖色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[水銀灯]

水銀灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[ナトリウム灯]

オレンジ色のナトリウム灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[ハロゲン灯]

ハロゲン灯、白熱電球のもとで撮影する場合に選択してください。

⑦ [ノイズリダクション]

ノイズリダクションのレベルを[弱]、[標準]、[強]から選択します。

主に低照度時に効果が高くなります。[強]にするとノイズリダクションの効果が高くなりますが、動いている被写体の残像が見えやすくなります。[弱]にするとノイズリダクションの効果が低くなり、解像感が高くなりますが、映像のファイルサイズが増えます。

⑧ [シャープネス]

シャープネスのレベルを [1(弱)] ～ [7(強)] の7段階から選択します。

[強] にするほどシャープな映像になり、[弱] にするほどソフトな映像になります。また、[強] にするほど映像のファイルサイズが増えます。

⑨ [色の濃さ]

色の濃さを [1(薄)] ～ [7(濃)] の7段階から選択します。

⑩ [かすみ補正]

被写体に霞がかかったような場合に、被写体を見やすいように映像のコントラストを補正します。

[使用しない]

かすみ補正を使用しません。

[マニュアル]

かすみ補正の強弱を設定します。[かすみ補正レベル] で [1(弱)] ～ [7(強)] の7段階から選択します。

● かすみ補正	マニュアル
● かすみ補正レベル	4

[オート]

自動的にかすみ補正を行います。

⑪ [デナイト]

カメラ起動時のデナイトのモードを [オート]、[デイモード]、[ナイトモード] から選択します。

管理者ビューワーのデナイト機能でも [デイモード] / [ナイトモード] を切り換えることができます (P. 140)。

重要

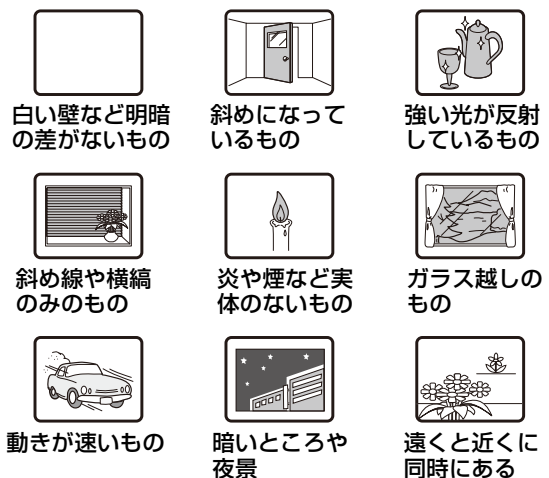
- 起動時設定の①から⑪の項目は、カメラ起動時の初期値です。カメラの電源を再投入した場合やカメラを再起動した場合に、変更した設定が反映されます。実際の運用時の設定は、管理者ビューワーで設定してください (P. 137)。
- 信号機、電光掲示板などの被写体を撮影した場合、映像が点滅して表示されることがあります。[AEモード] を [オート (シャッター優先)] に変更して、1/100 より低速のシャッタースピードを選択すると、現象が緩和される場合があります。
- [AEモード] が [オート (フリッカーレス)] または [オート (フリッカーレス2)] でも、不安定な光源下では、画面のちらつきが残ることがあります。
- 低速のシャッタースピードを選択すると、インテリジェント機能が正しく検知できない場合があります。撮影シーンと目的に合わせて選択してください。
- S30** 室内から窓ガラス越しに屋外を撮影するような条件では、ガラス面に塵や水滴が付着していると、ガラス面にフォーカスが合ってしまう場合があります。ガラス面とカメラをなるべく短い距離で設置してご使用ください。

- [かすみ補正] が [オート] または [マニュアル] の場合、[スマートシェード補正] は使用できません。
- [スマートシェード補正] が [オート] または [マニュアル] の場合、[かすみ補正] は使用できません。
- [デナイト] を [オート] でご使用の場合は、事前に十分な運用テストを行い、有効性を確認したうえでご利用ください。
- [デナイト] を [オート] でご使用の場合は、管理者ビューワーの [露出] の設定を [オート]、[オート (フリッカーレス)]、[オート (フリッカーレス2)] または [オート (シャッター優先)] にしてください (P. 139)。ただし、[オート (シャッター優先)] でご使用の場合、シャッタースピードによっては、[デナイト] で [オート] を設定してもナイトモードに切り換わらない場合があります。
- カメラにはIRカットフィルターが採用されていますが、挿抜機構がないため、赤外光による照明効果は得られません。
- デナイトモードをマニュアルで切り換える方法はほかにも、管理者ビューワーのデナイト機能 (P. 140)、設定ページの [イベント] > [外部デバイス入力] (P. 56) または [タイマー] (P. 57) による切り換えが設定できます。

メモ S30

- 次のような被写体は、[フォーカス] が [オート] および [ワンショットAF] ではフォーカスが合いにくいことがあります。

フォーカスが合いにくい被写体



- カメラの再起動後は、フォーカスが合っているか確認することをお勧めします。
- フォーカスの合う範囲 (目安) は次の表のとおりです。

フォーカスモード	デイモード/ナイトモード	
	ワイド端	テレ端
オート	0.3 m～∞	0.3 m～∞
無限遠固定	無限遠近傍	

カメラ制御

① デジタルズーム	使用しない
② AGCリミット	5
③ スマートシェード補正強度 (オート)	中
④ かすみ補正強度 (オート)	中
⑤ パン・チルト速度制御	ズーム位置に応じて制御

① [デジタルズーム] S30

デジタルズームを、[使用しない] または [使用する] から選択します。

デジタルズームは、倍率が高くなるに従い画質が低下します。

② [AGCリミット]

自動的に調整するゲインの上限を1～5の5段階で指定できます。数値が大きいほど、感度が高くなります。自動ゲイン調整を使用しない場合は [OFF] を選択します。[AGCリミット] を設定すると、低照度時のノイズを低減して撮影できます。

③ [スマートシェード補正強度 (オート)]

[スマートシェード補正] (P. 40) を [オート] に設定した場合に、補正強度を [弱]、[中]、[強] から選択します。

④ [かすみ補正強度 (オート)]

[かすみ補正] (P. 41) を [オート] に設定した場合に、補正強度を [弱]、[中]、[強] から選択します。

[かすみ補正] を [オート] に設定し、[かすみ補正強度 (オート)] を [強] に設定すると、被写体にかすみがかかっていない状態では、明暗の差が強く出ることがあります。このような場合は、[かすみ補正強度 (オート)] を [弱] に設定してください。

⑤ [パン・チルト速度制御] S30 S31

パン・チルトの動作を制御するモードを [一定速度で制御] または [ズーム位置に応じて制御] から選択します。[ズーム位置に応じて制御] を選択した場合、パン・チルト速度は、テレ側では遅く、ワイド側では速くなります。

重要

- [AGCリミット] は、管理者ビューワーで [露出] を [マニュアル]、[オート (フリッカーレス)] または [オート (フリッカーレス2)] にしているときは無効になります。
- [AGCリミット] を設定すると、最低被写体照度が変わる可能性があります。

メモ

- [パン・チルト速度制御] は、管理者コントロールの [パン/チルト] でも設定できます (P. 137)。
- [ズーム位置に応じて制御] に設定した場合、管理者コントロールの [パン/チルト] も [ズーム位置に応じて速度を制御する] に固定されます。

デイナイト (オート設定時)

① 切り換える明るさ	標準
② 応答性(秒)	20

① [切り換える明るさ]

[デイナイト] が、[オート] に選択されているときのデイモード/ナイトモードの切り換える明るさを設定しま

す。[暗い]、[やや暗い]、[標準]、[やや明るい]、[明るい] から選択します。できるだけカラーで撮影したい場合は [暗い] を選択してください。

ノイズ感を軽減したい場合は [明るい] を選択してください。ただし白黒に切り換わるタイミングが早くなります。

② [応答性 (秒)]

[デイナイト] が、[オート] に選択されているときのデイモード/ナイトモードを切り換える判断をするために要する秒数を設定します。[60]、[30]、[20]、[10]、[5] から選択します。

それぞれ上記の秒数の間、継続して①で設定した明るさを超えるか、または下回ると、デイモード/ナイトモードが切り換わります。

カメラの前を光源が通過するなど、明るさの変化が頻繁な場合は [30] や [60] を選択してください。明るさの変化が少ない場合は [5]、[10] を選択してください。

設置条件

① LEDの点灯	点灯する
② 映像反転	反転しない

① [LEDの点灯]

カメラのLEDの状態を、[消灯する] または [点灯する] から選択します。点灯させたくないときは [消灯する] に設定してください。

② [映像反転]

カメラの映像の向きを、[反転しない] または [反転する] から選択します。

メモ

[LEDの点灯] を [消灯する] に設定した場合でも、起動時はLEDが数秒間点灯します。

カメラ位置制御

① プリセットに限定	限定しない
② 制御権を持たない時の動作	ホームポジションへ移動しない

① [プリセットに限定] S30 S31

カメラ制御をプリセットに [限定しない] または [限定する] から選択します。[限定する] を選択すると、管理者以外のカメラ制御を、プリセット設定したアングルのみに制限できます。

② [制御権を持たない時の動作]

ホームポジションの設定をしている状態で、制御権要求がない場合の動作を、[ホームポジションへ移動しない] または [ホームポジションへ移動する] から選択します。

[ホームポジションへ移動する] を選択した場合、カメラの制御権を誰も取得していないときは、カメラが自動的

にホームポジションに移動します。この機能を使用する場合は、あらかじめカメラのホームポジションを設定しておく必要があります。ホームポジションの設定は、リセット設定ツール (P. 90)で行ってください。

外部入力デバイス/外部出力デバイス

 デバイス名(半角英数字) 15文字以内	
 デバイス名(日本語) 15文字以内	

外部入力デバイス/外部出力デバイスの [デバイス名]

接続した外部デバイスを識別するため、デバイス名は必ず入力してください。[デバイス名 (半角英数字)] は15文字以内の「」を除くASCII文字 (スペースまたは印字可能文字) で入力します。[デバイス名 (日本語)] の指定がなければ、[デバイス名 (半角英数字)] が用いられます。[デバイス名 (日本語)] が入力されると、日本語名が表示されます。[デバイス名 (日本語)] には15文字以内のJIS X 0208-1990に含まれる文字が使用できます。

 メモ

管理者ビューワーや同梱のRM-Liteをご利用の場合、ここで設定した外部デバイス名が表示されます。

[映像] 映像のサイズや品質、フレームレートの設定

ここでは次の設定ができます。

- **映像全般**
カメラで使用する映像サイズのセットを指定します。
- **JPEG**
JPEGでの映像品質やサイズ、最大フレームレート、アップロードサイズを設定します。
- **H.264**
H.264でのビットレートや映像サイズ、キャプチャーフレームレートを設定します。
- **オンスクリーン表示**
映像上への日時や文字列などの表示について設定します。

映像全般

映像サイズセット	1920x1080 / 960x540 / 480x270
----------	-------------------------------

① [映像サイズセット]

カメラで使用する映像サイズのセットを、[1920x1080/960x540/480x270]、[1280x720/640x360/320x180]、[1280x960/640x480/320x240] から選択します。

VB-S805D、VB-S905Fは、[1280x720/640x360/320x180]、[1280x960/640x480/320x240] から選択します。

ここで選択したセットによって、[映像]メニューすべてと、[映像サイズ] で選択できるサイズセットが決まります。

[映像サイズセット]	系列	アスペクト比
[1920x1080/960x540/480x270]	1080p	16:9
[1280x720/640x360/320x180]	720p	16:9
[1280x960/640x480/320x240]	4:3	4:3

重要

- [映像サイズセット] の設定を変更すると、いったん接続が切断され、すべての映像サイズが変更されます。そのため、カメラに接続しているユーザーは、再接続を行う必要があります。
- [映像サイズセット] の選択を変更して [適用して再起動] した場合、次の設定を見直し、動作の確認を行ってください。
 - プライバシーマスク設定
 - **S30** **S31** 可視範囲設定
 - プリセット設定
 - インテリジェント機能設定
 - **S80x** **S90x** カメラアングル

- VB-S805D、VB-S905Fは、[1920x1080/960x540/480x270] を選択できません。

JPEG

① 映像品質:480x270	3
② 映像品質:960x540	3
③ 映像品質:1920x1080	3
④ 映像品質:デジタルPTZ	3
⑤ 映像サイズ:映像送信	480x270
⑥ 最大フレームレート:映像送信 0.1~30	30.0
⑦ 映像サイズ:アップロード / メモリーカード	480x270

① [映像品質]

JPEGによる各映像サイズの送信映像品質を、1～5 (5段階) から選択します。
値が大きいほど高画質になります。

② [映像品質:デジタルPTZ] **S80x** **S90x**

デジタルPTZでの映像品質を、1～5 (5段階) から選択します。
値が大きいほど高画質になります。

③ [映像サイズ:映像送信]

送信する映像サイズを選択します。選択できる映像サイズは、[映像サイズセット] の設定によって変わります。
各種ビューワーで映像サイズを指定しなかった場合のデフォルトの映像サイズとなります。

④ [最大フレームレート:映像送信]

1秒間に送信する最大フレームレートを制限することにより、ビューワーの負荷を軽減します。最大30フレーム/秒で、0.1～30.0の数値を入力します。

⑤ [映像サイズ:アップロード/メモリーカード]

アップロード機能使用時 (P. 49)、またはメモリーカード記録時 (P. 68) の送信映像サイズを選択します。選択できる映像サイズは、[映像サイズセット] の設定によって変わります。映像の記録先 (アップロードまたはメモリーカード記録) は [イベント] > [映像記録動作] (P. 55) で設定します。

H.264(1)

① 映像サイズ	480x270
② ビットレート制御	ビットレート制御する
③ 目標ビットレート (kbps)	2048
④ フレームレート (fps)	30
⑤ フレーム間隔 (秒)	1

アップロードおよびメモリーカード記録でH.264映像を使用する場合は、H.264(1)で設定してください。H.264(2)の映像は、アップロードやメモリーカード記録では使用できません。

H.264(1)の映像は、管理者ビューワーとRM-Liteビューワーで表示可能です。VBビューワーでは表示できません。

① [映像サイズ]

送信する映像サイズを選択します。選択できる映像サイズは、[映像サイズセット] の設定によって変わります。

② [ビットレート制御]

[ビットレート制御しない] または [ビットレート制御する] から選択します。

[アップロード] の [映像フォーマット] を [H.264(1)] に設定しているか、[メモリーカード] の [映像フォーマット] を [H.264(1)] に設定している場合は、[ビットレート制御する] を選択してください。

③ [目標ビットレート (kbps)]

②で [ビットレート制御する] を選択した場合、目標ビットレートを [64] から [16384] の17段階から設定します。

① ビットレート制御	ビットレート制御しない
② 映像品質	3

④ [映像品質]

②で [ビットレート制御しない] を選択した場合、H.264による送信映像の品質を、1～5 (5段階) から選択します。
値が大きいほど高画質になります。

⑤ [フレームレート (fps)]

送信する映像のフレームレートを、[30]、[15]、[10]、[6]、[5]、[3]、[2]、[1] (fps) から選択します。

重要

H.264映像を2ストリーム配信する場合、H.264(1)とH.264(2)の映像サイズ設定を次の組み合わせにすると、フレームレートが最大15 fpsに制限されます。
それ以外の組み合わせの場合、フレームレートは30 fpsまで選択できます。

H.264(1)	H.264(2)
1920x1080	すべてのサイズ
すべてのサイズ	1920x1080
1280x960	1280x 960
1280x720	1280x720

⑥ [Iフレーム間隔 (秒)]

H.264 映像にIフレームを挿入する間隔 (秒) を [0.5]、[1]、[1.5]、[2]、[3]、[4]、[5] から選択します。

H.264(2)

① H.264 (2) の使用	[使用する]
② 映像サイズ	480x270
③ ビットレート制御	ビットレート制御する
④ 目標ビットレート (kbps)	2048
⑤ フレームレート (fps)	30
⑥ Iフレーム間隔 (秒)	1

① [H.264(2)の使用]

映像配信でH.264映像を2ストリームを使用する場合、[使用する] を選択します。

H.264(2) の映像は、管理者ビューワーと RM-Liteビューワーで表示可能です。アップロードやメモリーカード記録、VBビューワーでは使用できません。

[映像サイズ]、[ビットレート制御]、[目標ビットレート (kbps)]、[映像品質]、[フレームレート (fps)]、[Iフレーム間隔 (秒)] については、「H.264(1)」の各項目を参照してください。

重要

- [H.264(1)] がメモリーカード記録およびアップロードの設定に使われる場合、[H.264(1)] の設定には次の制限があります。

- [ビットレート制御] は [ビットレート制御する] しか選択できません。
- [目標ビットレート (kbps)] は [3072] 以下しか選択できません。
- [Iフレーム間隔 (秒)] は [0.5]、[1]、[1.5] のいずれかしか選択できません。

- 映像サイズを大きめに設定したり、映像品質や目標ビットレートを高めに設定すると、1フレームあたりのデータ容量が大きくなり、ネットワーク負荷が高くなります。これにより、次の現象が起こることがあります。

JPEG：フレームレートが低下する場合があります

H.264：映像が一時的に途切れる場合があります

- 映像サイズを大きめに設定し、目標ビットレートを低めの設定にすると、ブロックノイズが目立つ場合があります。
- 被写体の種類や、被写体の動きによってはデータ容量が大きくなる場合があります。フレームレートの低下などが長時間にわたって継続する場合は、映像サイズを小さくしたり、映像品質を低く設定してください。
- H.264映像は、同梱のRM-Liteでは録画できません。
- H.264映像は、管理者ビューワーとRM-Liteビューワーで表示可能です。VBビューワーでは表示できません。

オンスクリーン表示

① 日付表示	[表示する]
② 日付表示位置	左上
③ 日付表示フォーマット	YYYY/MM/DD
④ 時刻表示	[表示する]
⑤ 時刻表示位置	左上
⑥ テキスト表示	[指定文字列を表示する]
⑦ テキスト表示位置	左上
⑧ テキスト文字列	15文字以内 Entrance
⑨ 文字の色	白
⑩ 背景の色	黒
⑪ 文字と背景の濃さ	文字と背景を塗りつぶす

① [日付表示]

映像上への日付表示の有無を選択します。[表示する] を選択すると、映像に日付情報が重ねて表示されます。

② [日付表示位置]

日付情報を表示する位置を [左上]、[右上]、[左下]、[右下] から選択します。

③ [日付表示フォーマット]

表示する日付のフォーマットを [YYYY/MM/DD]、[DD/MM/YYYY]、[MM/DD/YYYY] から選択します。

④ [時刻表示]

映像上への時刻表示の有無を選択します。[表示する] を選択すると、映像に時刻情報が重ねて表示されます。

⑤ [時刻表示位置]

時刻情報を表示する位置を [左上]、[右上]、[左下]、[右下] から選択します。

⑥ [テキスト表示]

映像に重ねて表示するテキスト文字を [表示しない]、[指定文字列を表示する]、[カメラ名を表示する] から選択します。

[指定文字列を表示する] を選択すると、⑧ [テキスト文字列] で設定した文字列が表示されます。

[カメラ名を表示する] を選択すると、[カメラ] の [カメラ名 (半角英数字)] で設定した文字列 (P. 39) が表示されます。

⑦ [テキスト表示位置]

テキスト文字を表示する位置を [左上]、[右上]、[左下]、[右下] から選択します。

⑧ [テキスト文字列]

⑥ [テキスト表示] を [指定文字列を表示する] にした場合、映像に重ねて表示する文字列を、15文字以内のASCII文字 (スペースまたは印字可能文字) で設定できます。

⑨ [文字の色]

映像に重ねて表示する文字の色を [黒]、[青]、[シアン]、[緑]、[黄]、[赤]、[マゼンタ]、[白] から選択します。

⑩ [背景の色]

文字の背景の色を [黒]、[青]、[シアン]、[緑]、[黄]、[赤]、[マゼンタ]、[白] から選択します。

⑪ [文字と背景の濃さ]

映像に重ねて表示する文字と背景の濃さを [文字と背景を塗りつぶす]、[文字のみ透明にする]、[背景のみ透明にする]、[文字のみ半透明にする]、[文字と背景を半透明にする] から選択します。

 メモ

- ⑧のテキスト文字列では、「¥」マークは「\」マークで表示されます。
- 映像品質の設定によっては、オンスクリーン表示が判読しづらくなる場合があります。実際の映像をご確認のうえ、設定してください。
- **S80x** **S90x** デジタルPTZで、水平方向のサイズが384 pixel以下の切り出し映像には、オンスクリーン表示されません。

 重要

オンスクリーン表示される時刻は、高い信頼性が求められる用途には適していません。監視などで常に高い信頼性が要求される用途では、参考情報としてご利用ください。

[RTP]

RTPサーバー、音声マルチキャスト、RTPストリーム

ここでは次の設定ができます。

- **RTPサーバー**
RTPの使用、RTSPの認証方式とポート番号について設定します。
- **音声マルチキャスト**
音声送信のマルチキャストについて設定します。
- **RTPストリーム1～5**
RTPストリームの映像、マルチキャスト、音声送信について設定します。

RTPサーバー

① RTPの使用	使用する
② RTSP認証方式	Digest認証
③ RTSPポート番号	554, 1024～65535

① [RTPの使用]

RTPの使用を、[使用しない] または [使用する] から選択します。

② [RTSP認証方式]

RTSPの認証方式を、[Basic認証]、[Digest認証]、[認証なし] から選択します。

③ [RTSPポート番号]

RTSPポート番号を、554、1024～65535の範囲で設定します。
通常は [554] (工場出荷設定) を利用します。

音声マルチキャスト

① マルチキャストアドレス	0.0.0.0
② マルチキャストポート番号	0, 1024～65534(偶数)
③ マルチキャストTTL	0～255

① [マルチキャストアドレス]

音声送信のマルチキャストアドレスを、IPv4 では 224.0.0.0～239.255.255.255の範囲、IPv6では ff00::/8 で始まるアドレスで設定します。
マルチキャストを無効にする場合は、IPv4では [0.0.0.0]、IPv6では [::0(::)] に設定します。

② [マルチキャストポート番号]

音声送信のマルチキャストポート番号を、1024 ～ 65534の範囲の偶数番号で設定します。
マルチキャストを無効にする場合は、[0] に設定します。

③ [マルチキャストTTL]

マルチキャスト配信の有効範囲を、0～255の間で設定します。
マルチキャストを無効にする場合は、[0] に設定します。
マルチキャスト配信の有効範囲を表す TTL (Time To Live) は、ルーターを超えるごとに1ずつ減算され、0になるとルーターを超えて配信することはできません。例えばTTLを [1] に設定した場合は、ローカルセグメントのみのマルチキャスト配信となり、ルーターを超えて配信することはできません。

RTPストリーム1～5

RTPストリーム1～RTPストリーム5の5セッションのRTPストリーム配信について、ストリームごとに設定できます。

① 映像サイズ	480x270 JPEG
② フレームレート	1～30
③ マルチキャストアドレス	0.0.0.0
④ マルチキャストポート番号	0, 1024～65534(偶数)
⑤ マルチキャストTTL	0～255
⑥ 音声送信	使用しない

① [映像サイズ]

RTPストリームの映像フォーマット (JPEG または H.264) と映像サイズを選択します。
JPEGの映像サイズは、[映像] > [映像全般] で設定した [映像サイズセット] によって異なります (P. 44)。H.264の映像サイズは、[映像] の [H.264(1)]、[H.264(2)] のそれぞれの設定に従います。
なお、[H.264(1)] および [H.264(2)] を複数のRTPストリームには設定できません。

② [フレームレート]

RTPストリームがJPEGの場合、フレームレートを設定します。H.264の場合、[映像] > [H.264(1)] または [H.264(2)] > [フレームレート] の設定に従います (P. 45)。

③ [マルチキャストアドレス]

RTPストリームのマルチキャストアドレスを、IPv4 では 224.0.0.0～239.255.255.255の範囲、IPv6では ff00::/8 で始まるアドレスで設定します。
マルチキャストを無効にする場合は、IPv4では [0.0.0.0]、IPv6では [::0(::)] に設定します。

④ [マルチキャストポート番号]

RTPストリームのマルチキャストポート番号を、1024 ～ 65534の範囲の偶数番号で設定します。
マルチキャストを無効にする場合は、[0] に設定します。

⑤ [マルチキャストTTL]

RTPストリームのマルチキャスト配信の有効範囲を、0～255の間で設定します。

マルチキャストを無効にする場合は、[0] に設定します。マルチキャスト配信の有効範囲を表す TTL (Time To Live) は、ルーターを超えるごとに1ずつ減算され、0になるとルーターを超えて配信することはできません。例えばTTLを [1] に設定した場合は、ローカルセグメントのみのマルチキャスト配信となり、ルーターを超えて配信することはできません。

⑥ [音声送信]

RTPストリームの音声送信を、[使用しない] または [使用する] から選択します。



• RTPストリームのURL

`rtpsp://IPアドレス:ポート番号/rtpstream/config1(~5)=r|u|m`

[=r|u|m] は省略できます。指定する場合にはいずれか1つを指定してください。

r: RTP over TCPを要求

u: RTP over UDPを要求

m: multicastを要求

例: RTPストリーム1をRTP over TCPで要求

`rtpsp://192.168.100.1:554/rtpstream/config1=r`

注意: 実際の動作はRTPクライアントアプリケーションに依存するため、必ずしも指定の方式で送信されるわけではありません。

- H.264の場合、ビットレート制御、映像品質は、[映像] での各設定に従います (P. 45)。
- [サーバー] > [オーディオサーバー] > [カメラからの音声送信] の設定にかかわらず、音声のRTP配信は行われます。ただし、音声の設定を行う場合には [カメラからの音声送信] を [送信する] にして各種設定を行ってください。
- [アクセス制御] > [ユーザー権限] > [映像配信] および [音声配信] は、RTPには反映されません。
- プロキシサーバーやファイアウォールを使用している環境では、RTPストリームの映像が表示されないことがあります。この場合は、システム管理者にお問い合わせください。
- RTP over UDPでストリーム配信中のクライアントにホストアクセス制限が適用された場合は、配信停止まで数秒から数十秒時間がかかる場合があります。

[アップロード] HTTPやFTPでのアップロード、メール通報の設定

ここでは次の設定ができます。

- **アップロード全般**
アップロードの動作や映像バッファについて設定します。
- **HTTPアップロード**
HTTP接続でのアップロードについて設定します。
- **FTPアップロード**
FTP接続でのアップロードについて設定します。
- **メール通報**
イベント情報や映像のメール送信について設定します。

アップロード全般

① アップロードの動作	HTTPでアップロード
② 映像フォーマット	JPEG
③ フレームレート 1～10	1
④ イベント前バッファ(枚数) 0～100	0
⑤ イベント後バッファ(枚数) 0～100	0

① アップロードの動作	FTPでアップロード
② 映像フォーマット	H.264(1)
③ イベント前バッファ(秒) 0～5	0
④ イベント後バッファ(秒) 0～20	0

① [アップロードの動作]

アップロードの方式を [アップロード無効]、[HTTPでアップロード]、[FTPでアップロード] から選択します。

② [映像フォーマット]

アップロードする映像のフォーマットを [JPEG]、[H.264(1)] から選択します。
[H.264(1)] を選択した場合は、[映像] > [H.264(1)] の設定で映像がアップロードされます (P. 44)。
[H.264(2)] は使用できません。

③ [フレームレート]

アップロードする映像の最大フレームレートを設定します。[映像フォーマット] が [JPEG] の場合にのみ設定できます。

④ [イベント前バッファ (枚数)] / [イベント前バッファ (秒)]

イベント発生前にバッファに保存される映像の枚数または秒数を設定します。[映像フォーマット] で [JPEG] が選択されているときは枚数の最大値、[H.264(1)] が選択されているときは秒数の最大値となります。

⑤ [イベント後バッファ (枚数)] / [イベント後バッファ (秒)]

イベント発生後にバッファに保存される映像の枚数または秒数を設定します。[映像フォーマット] で [JPEG] が選択されているときは枚数の最大値、[H.264(1)] が選択されているときは秒数の最大値となります。

重要

- アップロード機能を使用する場合、[イベント] メニューの設定 (P. 55) または、インテリジェント機能設定ツールの [イベント] タブの設定 (P. 105) も必要になります。
- テキストと映像によるメール通報と、HTTP/FTPアップロードによる映像アップロードを両方利用する場合は、[映像サイズ: アップロード / メモリーカード] (P. 44) を小さいサイズにしてください。
- HTTPアップロードは、SSL/TLSには対応しません。
- アップロードもしくはメール通報を連続して行う設定としたとき、映像の大きさ、サーバーまでのネットワークの状況により、送信しきれない映像、もしくはメールが発生する可能性があります。この場合、イベントログ (P. 72) にメッセージが表示されます。
- HTTPやFTPでのアップロード、メール通報先にWindows系OSを設定する場合、IPsec通信は対応していません。
- H.264の映像をアップロードする場合、[映像] の [H.264(1)] 設定で次の制限があります (P. 44)。
 - [ビットレート制御] は [ビットレート制御する] しか選択できません。
 - [目標ビットレート(kbps)] は [3072] 以下しか選択できません。
 - [Iフレーム間隔 (秒)] は [0.5]、[1]、[1.5] のいずれかしか選択できません。
- 映像バッファの最大容量は、約5MBです。
映像サイズを大きく設定している場合、フレームレート、イベント前バッファ、イベント後バッファが、設定通り実行できない場合があります。
- 設定通りバッファが実行できない場合、イベントログ (P. 72) にメッセージが表示されます。
イベントログにメッセージが表示されていないことをご確認のうえ、ご使用ください。

メモ

設定により、サーバーまたはネットワークの負荷が高くなり、フレームレートが低下する場合があります。そのような場合は、次のことを行ってみてください。また、サーバーまでのネットワークを含んだ設定もあわせてご確認ください。

- 映像ファイルのサイズを小さくする：

- [JPEG] / [H.264(1)]の [映像品質] を小さな値に設定する (P. 44)。
- [JPEG]の [映像サイズ: アップロード / メモリーカード] を小さなサイズにする (P. 44)。
- [H.264(1)]の [映像サイズ] を小さなサイズにする (P. 45)。
- [H.264(1)]の [目標ビットレート (kbps)] を小さな値に設定する (P. 45)。
- アップロードが行われる頻度を下げる:
 - [イベント前バッファ]、[イベント後バッファ] の枚数または秒数を少なくする (P. 49)。
 - [音量検知イベント] 有効時、[ONイベント時の動作]、[OFFイベント時の動作]、[ONイベント中の動作] のいずれかを無効にする (P. 55)。
 - インテリジェント機能設定ツールの[イベント]タブ > [ONイベント時の動作]、[OFFイベント時の動作]、[検知あり状態時の動作]のいずれかを無効にする (P. 105)。
 - [外部デバイス入力イベント] 有効時、[アクティブイベント時の動作]、[インアクティブイベント時の動作]、[アクティブイベント中の動作] のいずれかを無効にする (P. 56)。
 - [タイマーイベント] 有効時、[繰り返し間隔] を長くする (P. 57)。

HTTPアップロード

HTTPアップロードは、ネットワークカメラのイベントに応じてHTTPによる通知、あるいはHTTPによる画像を送信する機能です。

① 通報内容	HTTPで通知のみ行う
② URI 255文字以内	http://192.168.100.67/upload.cgi
③ ユーザー名 31文字以内	
④ パスワード 31文字以内	*****
⑤ プロキシサーバー 63文字以内	
⑥ プロキシポート番号 1~65535	80
⑦ プロキシユーザー名 31文字以内	
⑧ プロキシパスワード 31文字以内	*****
⑨ パラメーター (query string) 127文字以内	
⑩ HTTPアップロードテスト	実行

- ① [通報内容]
通報の内容を [HTTPで通知のみ行う] または [HTTPで映像を添付する] から選択します。
- ② [URI]
アップロードするURIを入力します (255文字以内)。
- ③ [ユーザー名]、[パスワード]
認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。
Digest認証には、対応していません。
- ④ [プロキシサーバー]
プロキシサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します (63文字以内)。

- ⑤ [プロキシポート番号]
プロキシサーバーのポート番号を入力します (工場出荷設定は [80])。
- ⑥ [プロキシユーザー名]、[プロキシパスワード]
プロキシサーバーのユーザー名とパスワードを入力します。
Digest認証には、対応していません。
- ⑦ [パラメーター (query string)]
パラメーターの入力をします (127文字以内)。「%」文字によるパラメーター記述が可能です (P. 148)。
- ⑧ [HTTPアップロードテスト]
[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してアップロードテストを行います。アップロードされるのはJPEG 1枚のみです。このとき、設定値を [適用] する必要はありません。
パスワードを入力後、[適用] する前に [実行] をクリックしてください。

重要

- [プロキシサーバー]、[プロキシポート番号]、[プロキシユーザー名]、[プロキシパスワード] は、プロキシ経由で接続する場合に入力してください。
- HTTP アップロード機能や設定の詳細については、お客様相談センターにお問い合わせください。

FTPアップロード

① 通報内容	映像をFTPする
② FTPサーバー 63文字以内	192.168.100.67
③ ユーザー名 31文字以内	ftp
④ パスワード 63文字以内	*****
⑤ PASVモード	使用する
⑥ ファイルアップロードパス 255文字以内	
⑦ ファイル名記録方式	年月日時分秒ms
⑧ FTPアップロードテスト	実行

- ① [通報内容]
通報の内容は [映像をFTPする] に設定されます。
- ② [FTPサーバー]
FTPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します (63文字以内)。
- ③ [ユーザー名]、[パスワード]
認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。
- ④ [PASVモード]
FTPによるアップロードを行う際に、PASVモードを [使用しない] または [使用する] から選択します。

⑤ [ファイルアップロードパス]

映像ファイルアップロード先のパス名を入力します (255文字以内)。

⑥ [ファイル名記録方式]

ファイル名記録方式を設定します。

[年月日時分秒ms]

"{年}{月}{日}{時}{分}{秒}{ミリ秒}.jpg"というファイル名で映像をアップロードします。

(例: 20150123112122000.jpg)

[年月日ディレクトリ/時分秒ms]

"{年}{月}{日}"という名前のサブディレクトリを作成した上で"{時}{分}{秒}{ミリ秒}.jpg"というファイル名で映像をアップロードします。

(例: 20150123/112122000.jpg)

① ファイル名記録方式	ループ
② 最大ループ数 0~9999	100

[ループ]

[最大ループ数] で設定した値を上限とする番号をファイル名として、映像をアップロードします。

(例: 0000.jpg、0001.jpg)

最大ループ数まで達したら、0000に戻ります。

[最大ループ数]

記録方式を [ループ] にした場合、最大ループ数を0~9999の範囲で入力します。

① ファイル名記録方式	ユーザー設定
② 作成サブディレクトリ名 127文字以内	
③ 作成ファイル名 127文字以内	image.jpg

[ユーザー設定]

[作成サブディレクトリ名] と [作成ファイル名] で指定されたファイル名で映像をアップロードします。

[作成サブディレクトリ名]、[作成ファイル名]

記録方式を [ユーザー設定] にした場合、作成するサブディレクトリ名および作成ファイル名を入力します (127文字以内)。入力には、「%」文字によるパラメーター記述が可能です (P. 148)。

⑦ [FTPアップロードテスト]

[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してアップロードテストを行います。アップロードされるのはJPEG 1枚のみです。このとき、設定値を [適用] する必要はありません。

パスワードを入力後、[適用] する前に [実行] をクリックしてください。

メール通報

① 通報内容	テキストのみ
② メール設定のコピー	実行
③ メールサーバー 63文字以内	
④ メールポート番号 1~65535	25
⑤ 差出人メールアドレス (From) 63文字以内	
⑥ 宛先メールアドレス (To) 63文字以内	
⑦ メール認証方式	なし
⑧ 表題 31文字以内	
⑨ 本文 255文字以内	
⑩ メール通報テスト	実行

① [通報内容]

通報の内容を [テキストのみ] または [テキストと映像] から選択します。[アップロードの動作] を [アップロード無効] にした場合、[テキストと映像] は [適用] できません。

② [メール設定のコピー]

[メンテナンス] > [ログ通知] (P. 73) で使用しているメール設定をコピーします。

③ [メールサーバー]

SMTPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します (63文字以内)。

④ [メールポート番号]

SMTPサーバーのポート番号を入力します (工場出荷設定は [25])。

⑤ [差出人メールアドレス (From)]

メール発信するアドレスを設定します (63文字以内)。

⑥ [宛先メールアドレス (To)]

メール受信するアドレスを設定します (63文字以内)。

⑦ [メール認証方式]

メール認証方式を、[なし]、[POP before SMTP]、[SMTP-AUTH] から選択します。
送信先SMTPサーバーの認証方式に合わせて設定してください。

① メール認証方式	POP before SMTP
② ユーザー名 31文字以内	username
③ パスワード 31文字以内	*****
④ POPサーバー 63文字以内	servername

[ユーザー名]、[パスワード]、[POPサーバー]

メール認証方式を [POP before SMTP] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワード、POPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

① メール認証方式	SMTP-AUTH
② ユーザー名 31文字以内	username
③ パスワード 31文字以内	*****

[ユーザー名]、[パスワード]

メール認証方式を [SMTP-AUTH] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

⑧ **[表題]**

メール送信時の表題を、**31**文字以内の**ASCII**文字で入力します。

⑨ **[本文]**

メール送信時の本文 (テキスト) を、**255**文字以内の**ASCII**文字で入力します。テキストには「%」文字によるパラメーター記述が可能です (**P. 148**)。

⑩ **[メール通報テスト]**

[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してメール通報テストを行います。このとき、設定値を **[適用]** する必要はありません。

パスワードを入力後、**[適用]** する前に **[実行]** をクリックしてください。

[サーバー]

映像サーバー、オーディオサーバー、HTTPサーバー、FTPサーバー、WS-Securityの設定

ここでは次の設定ができます。

- **映像サーバー**
カメラからの映像配信について設定します。
- **オーディオサーバー**
カメラからの音声送信について設定します。
- **HTTPサーバー**
認証方式やHTTPポート番号について設定します。
- **FTPサーバー**
FTPサーバーの使用について設定します。
- **WS-Security**
WS-Securityの時刻チェックについて設定します。

映像サーバー

① 最大クライアント数 0～30	30
② 最大制御権待ち数 0～30	30
③ 最大接続時間(秒) 0～65535	0
④ カメラ制御時間(秒) 1～3600	20

① [最大クライアント数]

カメラに同時に接続できるクライアント数の最大値を設定します。最大30クライアントまで設定できます。0のときは、管理者以外の接続は禁止されます。

② [最大制御権待ち数]

ビューワーからカメラ制御権の要求を受け付けるクライアント数を設定します。最大数は30で、0～30の整数を入力します。0のときは、管理者以外のカメラ制御は禁止されます。

③ [最大接続時間(秒)]

個々のクライアントがカメラに接続できる時間を秒単位で設定します。最大は65535秒で、0～65535の整数を入力します。0のときは、接続時間は無制限となります。

④ [カメラ制御時間(秒)]

VBビューワーがカメラ制御権を保持できる最大時間を入力します。最大は3600秒で、1～3600の整数を入力します。

オーディオサーバー

① カメラからの音声送信	送信する
② 入力音量 1～100	50
③ 無音検出	検出しない
④ 音声入力モード	ライン・イン

① [カメラからの音声送信]

[送信する]を選択すると、カメラに取り付けたマイクの音声をビューワーに送信できます。

② [入力音量]

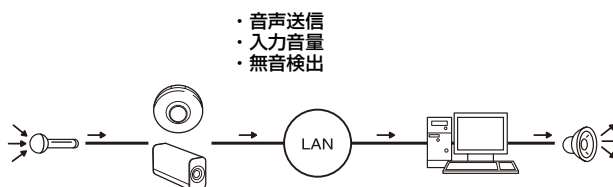
カメラに接続したマイクの入力音量を、1～100の範囲で設定します。値が大きいほど、入力音量は大きくなります。

③ [無音検出]

[検出する]を選択すると、音声が無音になったとき、音声データの送信を一時的に停止します。これにより使用するネットワークの負荷を減らすことができます。

④ [音声入力モード]

マイクの入力を設定します。[ライン・イン]、[マイク・イン(ダイナミックマイク)]、[マイク・イン(コンデンサーマイク)]から選択します。



注意



指示

マイクの仕様に合わせて、ライン・インとマイク・インを設定ページから切り換えてご使用ください。

間違えて使用した場合、カメラやマイクの故障の原因になりますので、正しく設定してください。

重要

- 最大 30 クライアントに対して、映像と音声を配信できます。ただし、配信するクライアントが多い場合やSSL通信でカメラに接続している場合、カメラからの音声を受信すると、映像フレームレートが低下したり音声が途切れる場合があります。

- 使用されるマイクの特性で、音量・音質などが変化する場合があります。
- 音量検知を設定した後に、[入力音量] の設定を変更した場合は、検知設定を見直してください。
- 映像と音声は、同期しないことがあります。
- ご使用のPCの性能やネットワーク環境によっては、音声途切れることがあります。
- ウイルス対策ソフトウェアをご使用の場合、音声途切れることがあります。
- LANケーブルの抜き差しを行うなどで、通信が一時的に途切れると音声切断されるので、ビューワーから再接続してください。

HTTPサーバー

① 認証方式	Digest認証
② HTTPポート番号 80,1024～65535	80
③ HTTPSポート番号 443,1024～65535	443

① [認証方式]

HTTPサーバーで使用する認証方式を [Basic認証] または [Digest認証] から選択します。

② [HTTP ポート番号]

HTTPポート番号を、80、1024～65535の範囲で設定します。

通常は [80] (工場出荷設定) を利用します。

③ [HTTPSポート番号]

HTTPSポート番号を、443、1024～65535の範囲で設定します。

通常は [443] (工場出荷設定) を利用します。

重要

[HTTP ポート番号] または [HTTPS ポート番号] の設定を変更する場合は、起動中のWebブラウザからカメラに接続できなくなる可能性があります。[再起動項目] 再起動が必要となる項目の設定の「重要」(P. 71) に記載している注意事項を事前にご確認ください。

FTPサーバー

① FTPサーバーの使用	使用しない
--------------	-------

① [FTPサーバーの使用]

FTPサーバーを [使用しない] または [使用する] から選択します。

WS-Security

① 認証時の時刻チェック	チェックする
--------------	--------

① [認証時の時刻チェック]

クライアントから送信されたデータの時刻情報を [チェックする] または [チェックしない] から選択します。

[イベント]

映像記録設定、音量検知、外部デバイス出力/入力、タイマーの設定

ここでは次の設定ができます。

- **映像記録設定**
イベント発生時の映像記録先を設定します。
- **音量検知**
音量検知時の動作を設定します。
- **外部デバイス出力**
外部デバイス出力の設定をします。
- **外部デバイス入力**
外部デバイス入力によるイベント時の動作について設定します。
- **タイマー**
タイマーイベントの設定をします。

映像記録設定

映像記録動作	アップロード
--------	--------

① [映像記録動作]

イベント発生時の映像の記録先を選択します。設定ページの [アップロード] で指定したサーバーに記録するときには [アップロード]、カメラに挿入したメモリーカードに記録するときには [メモリーカードに記録] を選択します。

重要

アップロード実行中またはメモリーカード記録中は、[設定ページ] の各設定を変更しないでください。動作が停止する場合があります。

メモ

[映像記録動作] の設定に応じて、記録される映像のサイズとフォーマットはそれぞれ次のようになります。

[映像記録動作] の設定	適用される映像フォーマット	適用される映像サイズ
[アップロード]	[アップロード] > [映像フォーマット] の設定	映像フォーマットが [JPEG] のときは [映像] > [JPEG] > [映像サイズ] : アップロード/メモリーカード
[メモリーカードに記録]	[メモリーカード] > [映像フォーマット] の設定	映像フォーマットが [H.264(1)] のときは [映像] > [H.264(1)] > [映像サイズ]

実際に映像を記録するには、上記の設定ページでの設定が必要です。

音量検知

① 音量検知イベント	使用する
② 検知条件	基準音量レベル以上
③ 基準音量レベル 1～100	50
④ 現在の音量レベル	0 50 100
⑤ 検知条件の継続時間 (秒) 0～10	0
⑥ ONイベント時の動作	有効
⑦ OFFイベント時の動作	無効
⑧ ONイベント中の動作	無効
⑨ プリセット	プリセットを指定しない
⑩ 映像記録	実行しない
⑪ メール通報	実行しない
⑫ ONイベント時の外部デバイス出力	無効
⑬ OFFイベント時の外部デバイス出力	無効

① [音量検知イベント]

音量検知イベントを [使用しない] または [使用する] から選択します。

② [検知条件]

音量検知イベントを発生する条件を [基準音量レベル以上] または [基準音量レベル以下] から選択します。

③ [基準音量レベル]

検知の基準となる音量レベルを、1 ～ 100 の範囲で設定します。

基準音量レベルは、[現在の音量レベル] で確認しながら実際にテストを行ったうえで設定してください。

④ [現在の音量レベル]

現在の音量レベルがステータスバーで表示されます。
[基準音量レベル] で設定したレベルには赤色の目印が表示され、[基準音量レベル] より低いレベルは青色、[基準音量レベル] 以上のレベルは赤色で表示されます。

⑤ [検知条件の継続時間 (秒)]

検知条件の継続時間を、0 ～ 10 (秒) の範囲で設定します。検知条件を満たした状態が継続時間以上続いた場合に、ONイベントが発生します。

⑥ [ONイベント時の動作]

ONイベント時の動作を選択します。[有効] を選択すると、イベント発生 (ONイベント) 時に⑨ [プリセット]、⑩ [映像記録]、⑪ [メール通報] の設定に従った処理を実行します。

⑦ [OFFイベント時の動作]

OFFイベント時の動作を選択します。[有効] を選択すると、イベント終了 (OFFイベント) 時に⑨ [プリセット]、⑩ [映像記録]、⑪ [メール通報] の設定に従った処理を実行します。

⑧ [ONイベント中の動作]

音量検知イベントが継続している間の動作を選択します。[ONイベント時の動作] が[有効] の場合に設定できます。

[有効] を選択すると、音量検知イベント継続中に⑩ [映像記録]、⑪ [メール通報] の設定に従った処理を実行します。

⑨ [プリセット] S30 S31

プリセットを指定しておく、音量検知イベントが発生したときに、指定したプリセットの位置に自動的にカメラを向けます。使用するためには、管理ツールのプリセット設定ツールでプリセットを設定しておく必要があります (P. 90)。カメラ操作の必要がない場合は [プリセットを指定しない] を選択します。

⑩ [映像記録]

映像記録の動作を指定します。[実行する] を選択すると、音量検知イベント発生時に [映像記録動作] (P. 55) で指定された記録先に映像が送信されます。

⑪ [メール通報]

メール通報の動作を選択します。[実行する] を選択すると、音量検知イベントがあるときに、メール通報を実行します。また、使用するためには [アップロード] > [メール通報] の設定も必要です (P. 51)。

⑫ [ONイベント時の外部出力デバイス]

ONイベント時の外部デバイス出力を [アクティブにする] または [インアクティブにする] から選択します。外部デバイス出力を無効にするときは [無効] を選択します。

⑬ [OFFイベント時の外部出力デバイス]

OFFイベント時の外部デバイス出力を [アクティブにする] または [インアクティブにする] から選択します。外部デバイス出力を無効にするときは [無効] を選択します。

重要

- 音量検知の注意事項については、「安全にお使いいただくために」の「カメラ搭載の機能および同梱ソフトウェアの使用上の注意」(P. 5) を参照してください。
- 管理者ビューワー / VBビューワーのカメラ制御権取得中に、[プリセット] 指定 (VB-S30D / VB-S31Dのみ) により音量検知イベント時の動作でカメラがプリセット位置に移動した場合、カメラ制御権は解放されます。

外部デバイス出力

① 動作モード	ノーマルオープン
② アクティブ出力の形式	連続
③ パルスの出力時間(秒) 1~120	1

① [動作モード]

通常 (インアクティブ) 時の回路状態を選択します。

[ノーマルオープン] を選択すると、通常時に出力端子の接点が開いている状態となり、アクティブ信号で接点が閉じ、インアクティブ信号で開きます。

[ノーマルクローズ] を選択すると、通常時に出力端子の接点が閉じている状態となり、アクティブ信号で接点が開き、インアクティブ信号で閉じます。

② [アクティブ出力の形式]

外部デバイス出力の出力形式を [パルス] または [連続] から選択します。

③ [パルスの出力時間 (秒)]

パルスの出力時間 (秒) を 1~120 の範囲で指定します。[アクティブ出力の形式] が [パルス] のときに適用されます。

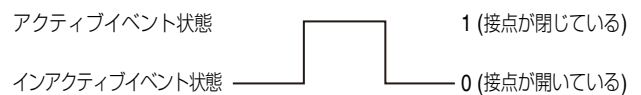
重要

[アクティブ出力の形式] を [パルス] に設定してタイマーを使用するときは、タイマーの開始時刻に1回のみ接点出力が制御されます。

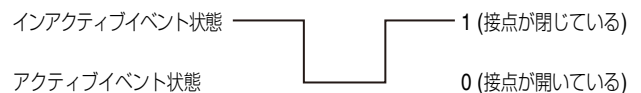
メモ

[ノーマルオープン] は、通常時に接点が開いている状態 (回路が非導通)、[ノーマルクローズ] は、通常時に接点が閉じている状態 (回路が導通) です。

ノーマルオープン



ノーマルクローズ



外部デバイス入力

① 外部デバイス入力イベント	使用する
② 動作モード	ノーマルオープン
③ アクティブイベント時の動作	有効
④ インアクティブイベント時の動作	無効
⑤ アクティブイベント中の動作	無効
⑥ プリセット	プリセットを指定しない
⑦ 映像記録	実行しない
⑧ メール通報	実行しない
⑨ アクティブイベント時の外部デバイス出力	無効
⑩ インアクティブイベント時の外部デバイス出力	無効
⑪ デイナイト切り換え	無効

① [外部デバイス入力イベント]

外部デバイス入力イベントを [使用しない] または [使用する] から選択します。

② [動作モード]

接続されている外部機器の回路状態を選択します。

[ノーマルオープン] を選択すると、外部機器の接点が閉じた場合にアクティブイベントが発生し、開いた場合にインアクティブイベントが発生します。

[ノーマルクローズ] を選択すると、外部機器の接点が開いた場合にアクティブイベントが発生し、閉じた場合にインアクティブイベントが発生します。

③ [アクティブイベント時の動作]

アクティブイベント時の動作を選択します。[有効] を選択すると、イベント発生 (アクティブイベント) 時に⑥ [プリセット]、⑦ [映像記録]、⑧ [メール通報] の設定に従った処理を実行します。

④ [インアクティブイベント時の動作]

インアクティブイベント時の動作を選択します。[有効] を選択すると、イベント終了 (インアクティブイベント) 時に⑥ [プリセット]、⑦ [映像記録]、⑧ [メール通報] の設定に従った処理を実行します。

⑤ [アクティブイベント中の動作]

アクティブイベントが継続している間の動作を選択します。[アクティブイベント時の動作] が [有効] の場合のみ設定できます。

[有効] を選択すると、アクティブイベント継続中に⑦ [映像記録]、⑧ [メール通報] の設定に従った処理を実行します。

⑥ [プリセット] **S30** **S31**

プリセットを指定しておく、外部デバイス入力イベントが発生したときに、指定したプリセットの位置に自動的にカメラを向けます。使用するためには、管理ツールのプリセット設定ツールでプリセットを設定しておく必要があります (P. 90)。カメラ操作の必要がない場合は [プリセットを指定しない] を選択します。

⑦ [映像記録]

映像記録の動作を指定します。[実行する] を選択すると、外部デバイス入力イベント発生時に [映像記録動作] (P. 55) で指定された記録先に映像が送信されます。

⑧ [メール通報]

メール通報の動作を選択します。[実行する] を選択すると、外部デバイス入力イベント発生時に、メール通報を実行します。また、使用するためには [アップロード] > [メール通報] の設定も必要です (P. 51)。

⑨ [アクティブイベント時の外部デバイス出力]

アクティブイベント時の外部デバイス出力を [アクティブにする] または [インアクティブにする] から選択します。外部デバイス出力を無効にするときは [無効] を選択します。

⑩ [インアクティブイベント時の外部デバイス出力]

インアクティブイベント時の外部デバイス出力を [アクティブにする] または [インアクティブにする] から選択します。外部デバイス出力を無効にするときは [無効] を選択します。

⑪ [デイナイト切り換え]

外部デバイス入力イベント発生時のデイナイト切り換えの動作を選択します。[デイモードに切り換え] を選択すると、アクティブイベント発生時にデイモード、インアクティブイベント時にナイトモードに切り換えます。[ナイトモードに切り換え] を選択すると、アクティブイベント時にナイトモード、インアクティブイベント時にデイモードに切り換えます。デイナイト切り換えを無効にするときは [無効] を選択します。

重要

- 管理者ビューワーで [デイナイト] が [オート] に設定されている場合、外部デバイス入力イベント発生時にデイナイト切り換えはされません (P. 140)。
- 管理者ビューワー / VB ビューワーでカメラ制御権取得中に次の動作が起きた場合、カメラ制御権は解放されます。
 - S30** **S31** [プリセット] 指定によりカメラアングルが移動した場合
 - [デイナイト切り換え] によりデイナイトのモードが切り変わった場合

タイマー

① タイマーイベント	使用する
② 開始時刻 hh:mm	00:00
③ 終了時刻 hh:mm	00:00
④ 繰り返し間隔	なし
⑤ 映像記録	実行しない
⑥ メール通報	実行しない
⑦ 外部デバイス出力	無効
⑧ デイナイト切り換え	無効

① [タイマーイベント]

タイマーイベントを [使用しない] または [使用する] から選択します。

② [開始時刻]

タイマーイベントの開始時刻を、24 時間制で設定します。

③ [終了時刻]

タイマーイベントの終了時刻を、24 時間制で設定します。

④ [繰り返し間隔]

タイマーイベント動作の繰り返し間隔を、
[1秒] [5秒] [10秒] [30秒] [1分] [5分] [10分] [15分] [20分] [30分] [1時間] [3時間] [6時間] [12時間] から選択します。動作の繰り返しのしないときは [なし] を選択します。

⑤ [映像記録]

映像記録の動作を指定します。[実行する]を選択すると、タイマーイベント発生時に[映像記録動作] (P. 55) で指定された記録先に映像が送信されます。

⑥ [メール通報]

メール通報の動作を選択します。[実行する]を選択すると、タイマーイベント発生時に、メール通報を実行します。また、使用するためには[アップロード] > [メール通報] の設定も必要です (P. 51)。

⑦ [外部デバイス出力]

タイマーイベント発生時の外部デバイス出力を [アクティブにする] または [インアクティブにする] から選択します。外部デバイス出力を無効にするときは [無効] を選択します。

⑧ [デイナイト切り換え]

タイマーイベント発生時のデイナイト切り換えの動作を選択します。[デイモードに切り換え] を選択すると [開始時刻] にデイモード、[終了時刻] にナイトモードに切り換えます。[ナイトモードに切り換え] を選択すると [開始時刻] にナイトモード、[終了時刻] にデイモードに切り換えます。デイナイト切り換えを無効にするときは [無効] を選択します。

重要

- [デイナイト切り換え] は、[タイマー 1] でのみ設定が有効です。
- [外部デバイス出力] と [デイナイト切り換え] は、[繰り返し間隔] には対応しません。
- 管理者ビューワーで [デイナイト] が [オート] に設定されている場合、タイマーイベント発生時にデイナイト切り換えはされません (P. 140)。
- 管理者ビューワー / VBビューワーのカメラ制御権の取得中に、[デイナイト切り換え] によるデイナイトのモードが切り換わると、カメラ制御権は解放されます。

メモ

[繰り返し間隔] を 30 秒以下で 24 時間連続してタイマーを使用する場合は、複数のタイマーを使って開始・終了時刻が連続するように設定してください。

例：

タイマー	[開始時刻]	[終了時刻]	[繰り返し間隔]
[タイマー 1]	0:00	12:00	10秒
[タイマー 2]	12:00	0:00	10秒

[アクセス制御] ユーザーのアクセス権の設定

ここでは次の設定ができます。

- **管理者パスワード**
管理者パスワードを設定します。
- **登録ユーザーアカウント**
カメラへ接続できるユーザーを登録します。
- **ユーザー権限**
登録ユーザーと一般ユーザーの権限を設定します。
- **IPv4ホストアクセス制限**
IPv4のアクセスを許可するホストと制限するホストを指定します。
- **IPv6ホストアクセス制限**
IPv6のアクセスを許可するホストと制限するホストを指定します。

管理者パスワード

① パスワード 10～15文字	*****
② パスワード(確認用) 10～15文字	*****

[パスワード]、[パスワード(確認用)]については、[ネットワーク] > [管理者パスワード](P. 33)を参照してください。[管理者パスワード]は共通です。一方の[管理者パスワード]を設定すると、もう一方の[管理者パスワード]にも反映されます。

登録ユーザーアカウント

① ユーザー名 15文字以内		追加
② パスワード 6～15文字		
③ ユーザーリスト		削除 ▲ ▼

① [ユーザー名]、[パスワード]

ユーザー名とパスワードを入力し、[追加]をクリックすると、ユーザーリストに登録ユーザーを追加します。ユーザー名には15文字以内(半角)のA-Z、a-z、0-9、-、_、の文字が使用できます。パスワードには6～15文字以内(半角)のASCII文字(スペースまたは印字可能文字)が使用できます。

② [ユーザーリスト]

登録されたユーザーのリストを表示します。これらのユーザーに対してユーザー権限を設定できます。管理者(root)以外に、最大50ユーザーまで登録できます。

また、右側の▲▼ボタンでユーザーの並び順を切り換えることができます。

ユーザーを削除する場合は、ユーザーリストからユーザーを選択して、[削除]をクリックします。

ユーザー権限

	特権カメラ制御	一般カメラ制御	映像配信	音声配信
① 登録ユーザー	☒	☒	☒	☒
一般ユーザー		☒	☒	☒

[特権カメラ制御]、[一般カメラ制御]、[映像配信]、[音声配信]

登録ユーザーと一般ユーザーのユーザー権限を設定します。それぞれに対して、利用を許可する項目にチェックを入れてください。

メモ

登録ユーザーは一般ユーザーよりも上位の権限となります。詳しくは、「ユーザー権限とカメラ制御権」(P. 122)を参照してください。

IPv4ホストアクセス制限

① ホストアクセス制限の適用	適用する
② デフォルトポリシー	アクセスを許可する
③ ネットワークアドレス / サブネット	01: / 32 許可
	02: / 32 許可
	03: / 32 許可
	04: / 32 許可
	05: / 32 許可
	06: / 32 許可
	07: / 32 許可
	08: / 32 許可
	09: / 32 許可
	10: / 32 許可
	11: / 32 許可

① [ホストアクセス制限の適用]

IPv4ホストアクセス制限の使用を[適用しない]または[適用する]から選択します。

② [デフォルトポリシー]

IPv4ホストアクセス制限を適用する場合のデフォルトポリシーを[アクセスを許可する]または[アクセスを禁止する]から選択します。

③ [ネットワークアドレス/サブネット]

アクセスを許可するホストと制限するホストの設定をリストにして、それぞれに対してIPv4アドレスのアクセスを [許可] または [禁止] の設定をします。

サブネットを指定してネットワーク単位、またはホスト単位でのアクセス制限を設定できます。

アクセスを禁止した場合は、すべてのポートに対するアクセスが制限されます。

③ [プレフィックス/プレフィックス長]

アクセスを許可するホストと制限するホストの設定をリストにして、それぞれに対してIPv6アドレスのアクセスを [許可] または [禁止] の設定をします。

プレフィックス長を指定してネットワーク単位、またはホスト単位でのアクセス制限を設定できます。

アクセスを禁止した場合は、すべてのポートに対するアクセスが制限されます。

重要

- HTTP 接続でプロキシサーバー経由のアクセスを禁止するには、プロキシサーバーのアドレスを設定する必要があります。
- 誤ったホスト制限設定を行うと、設定ページへのアクセス自体が禁止され、工場出荷設定に戻す以外に復旧する手段がなくなることがあります。

メモ

同じアドレスが設定された場合、リスト上位の設定が適用されます。

IPv6ホストアクセス制限

① ホストアクセス制限の適用	適用する
② デフォルトポリシー	アクセスを許可する
③ プレフィックス / プレフィックス長	01: / 128 許可
	02: / 128 許可
	03: / 128 許可
	04: / 128 許可
	05: / 128 許可
	06: / 128 許可
	07: / 128 許可
	08: / 128 許可
	09: / 128 許可
	10: / 128 許可
	11: / 128 許可

① [ホストアクセス制限の適用]

IPv6ホストアクセス制限の使用を [適用しない] または [適用する] から選択します。

② [デフォルトポリシー]

IPv6ホストアクセス制限を適用する場合のデフォルトポリシーを [アクセスを許可する] または [アクセスを禁止する] から選択します。

[IPsec] IPsecの設定

ここでは次の設定ができます。

- **IPsec設定方法**
IPsecの設定方法について設定します。
- **自動鍵交換の設定**
自動鍵交換について設定します。
- **IPsecセット**
自動鍵交換または手動設定で、最大5つの通信相手のIPsecを設定できます。

IPsec設定方法

① IPsec設定方法	自動鍵交換
-------------	-------

① [IPsec設定方法]

IPsecを使用する場合の鍵設定を [自動鍵交換] または [手動設定] から選択します。

自動鍵交換の設定

① IPsec SA 暗号化アルゴリズム	AES->3DES
② IPsec SA 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
③ IPsec SA 有効期間 (分)	480
④ ISAKMP SA 暗号化アルゴリズム	AES->3DES
⑤ ISAKMP SA 認証アルゴリズム	SHA1
⑥ DHグループ	グループ14->グループ5->グループ2
⑦ ISAKMP SA 有効期間 (分)	480

① [IPsec SA暗号化アルゴリズム]

IPsec SAの暗号化アルゴリズムを [AES->3DES]、[AES->3DES->DES]、[AES->3DES->DES->NULL] から選択します。
設定したアルゴリズムは、左側から順に確認され、使用可能な暗号化アルゴリズムが選択されます。

② [IPsec SA認証アルゴリズム]

IPsec SAの認証アルゴリズムを [HMAC_SHA1_96]、[HMAC_SHA1_96->HMAC_MD5_96] から選択します。
設定したアルゴリズムは、左側から順に確認され、使用可能な認証アルゴリズムが選択されます。

③ [IPsec SA有効期間 (分)]

IPsec SAの有効時間を設定します (工場出荷設定は [480])。

④ [ISAKMP SA暗号化アルゴリズム]

自動鍵交換プロトコルIKEで使用するSA暗号化アルゴリズムを [AES->3DES]、[AES->3DES->DES] から選択します。

⑤ [ISAKMP SA認証アルゴリズム]

自動鍵交換プロトコルIKEで使用するSA認証アルゴリズムを [SHA1]、[SHA1->MD5] から選択します。

⑥ [DHグループ]

自動鍵交換プロトコルIKEによる鍵交換で使用する、DHアルゴリズムの鍵生成情報を選択します。グループ番号が大きいほど、セキュリティ強度が高くなります。

⑦ [ISAKMP SA有効期間 (分)]

ISAKMP SAの有効時間を設定します (工場出荷設定は [480])。

IPsecセット (自動鍵交換)

IPsecセットは1～5まであり、各IPsecセットに1つの通信相手のIPsec設定ができます。

① IPsecセットの使用	IPv4で使用する
② IPsec動作モード	トンネルモード
③ 接続先IPv4アドレス	192.168.200.1
④ 送信元IPv4アドレス	192.168.100.1
⑤ IPsecプロトコル	ESP
⑥ セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	192.168.10.1
⑦ 接続先のサブネットマスク長	24
⑧ IKE事前共有鍵	127文字以内 pre-shared-key

① [IPsecセットの使用]

IPsec設定セットの使用を [使用しない]、[IPv4で使用する]、[IPv6で使用する] から選択します。

② [IPsec動作モード]

IPsecの動作モードを [トンネルモード] または [トランスポートモード] から選択します。

③ [接続先IPv4アドレス]、[接続先IPv6アドレス]

接続先のIPアドレスを入力します。

④ [送信元IPv4アドレス]、[送信元IPv6アドレス]

送信元のIPアドレスを入力します。

⑤ [IPsecプロトコル]

使用するIPsecプロトコルを [ESP]、[AH]、[ESPとAH] から選択します。

⑥ [セキュリティゲートウェイのIPアドレス (IPv4/IPv6)]

②のIPsec動作モードを [トンネルモード] に設定した場合、セキュリティゲートウェイのIPアドレスを設定します。

⑦ [接続先のサブネットマスク長 (IPv4)]、[接続先のプレフィックス長 (IPv6)]

②のIPsec動作モードを [トンネルモード] に設定した場合のみ必要な設定です。

IPv6を使用する場合、接続先のプレフィックス長は、16～128の間で入力します。
IPv4を使用する場合は、1～32の間で入力します。

⑧ [IKE事前共有鍵]

IKE (自動鍵交換) で使用する事前共有鍵を入力します (127文字以内)。

重要

自動鍵交換を使用した通信中にカメラの再起動を行うと、再起動後、接続エラーが発生する場合があります。その場合は、再度接続を行ってください。

メモ

自動鍵交換を使用すると、カメラとの通信が開始するまでに、5～10秒程度かかります。

IPsecセット (手動設定)

IPsecセットは1～5まであり、各IPsecセットに1つの通信相手のIPsec設定ができます。

① IPsecセットの使用	IPv4で使用する
② IPsec動作モード	トンネルモード
③ 接続先IPv4アドレス	192.168.200.1
④ 送信元IPv4アドレス	192.168.100.1
⑤ IPsecプロトコル	ESPとAH
⑥ セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	192.168.10.1
⑦ 接続先のサブネットマスク長 1～32	24
⑧ SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES
⑨ SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
⑩ SA ESP 暗号鍵(送信)	0445981962E9AC7E79385E037C35FC3
⑪ SA ESP 認証鍵(送信)	BB64787768DFC8DE7EB4D84EC81B453168F3B32F
⑫ SA ESP SPI(送信) 256以上	1000
⑬ SA ESP 暗号鍵(受信)	6F822A37272BF55EB581A91A53770C57
⑭ SA ESP 認証鍵(受信)	81E4DC85387FB09192B26CA1A2FBD97202159B96
⑮ SA ESP SPI(受信) 256以上	2000
⑯ SA AH 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
⑰ SA AH 認証鍵(送信)	6F92282D51B290EA4B51D8833A4EFF295A6E5F40
⑱ SA AH SPI(送信) 256以上	3000
⑲ SA AH 認証鍵(受信)	7E0E6F639A0A81A83B6C5642EFE859881B2883AE
⑳ SA AH SPI(受信) 256以上	4000

① [IPsecセットの使用]

IPsec設定セットの使用を [使用しない]、[IPv4で使用する]、[IPv6で使用する] から選択します。

② [IPsec動作モード]

IPsecの動作モードを [トンネルモード] または [トランスポートモード] から選択します。

③ [接続先IPv4アドレス]、[接続先IPv6アドレス]

接続先のIPアドレスを入力します。

④ [送信元IPv4アドレス]、[送信元IPv6アドレス]

送信元のIPアドレスを入力します。

⑤ [IPsecプロトコル]

使用するIPsecプロトコルを [ESP]、[AH]、[ESPとAH] から選択します。

[ESP] を選択した場合は、ESPに関連する設定項目のみ入力します。

[AH] を選択した場合は、AHに関連する設定項目のみ入力します。

[ESPとAH] を選択した場合は、すべての設定項目を入力します。

⑥ [セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス]、[セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス]

②の [IPsec動作モード] を [トンネルモード] に設定した場合、セキュリティゲートウェイのIPアドレスを設定します。

⑦ [接続先のサブネットマスク長 (IPv4)]、[接続先のプレフィックス長 (IPv6)]

②のIPsec動作モードを [トンネルモード] に設定した場合のみ必要な設定です。

IPv6を使用する場合、接続先のプレフィックス長は、16～128の間で入力します。

IPv4を使用する場合は、1～32の間で入力します。

● ⑤の [IPsecプロトコル] を [ESP] または [ESPとAH] に設定した場合、⑧ [SA ESP 暗号化アルゴリズム] ～ ⑮ [SA ESP SPI (受信)] の設定が必要になります。

⑧ [SA ESP 暗号化アルゴリズム]

ESPの暗号化アルゴリズムを、接続先の機器がサポートしている暗号化アルゴリズムに合わせて、[AES]、[3DES]、[DES]、[NULL] から選択します。
通常は [AES] または [3DES] での運用をお勧めします。

⑨ [SA ESP 認証アルゴリズム]

ESPの認証アルゴリズムを、接続先の機器がサポートしている認証アルゴリズムに合わせて [HMAC_SHA1_96]、[HMAC_MD5_96]、[認証なし] から選択します。

[ESP] のみを使用する場合、[認証なし] は選択できません。

⑩ [SA ESP 暗号鍵 (送信)]

送信用SAの暗号鍵を設定します。⑧が [AES] ならば128bit、[3DES] ならば192bit、[DES] ならば64bitに相当する16進数で設定してください。[NULL] の場合は設定不要です。

⑪ [SA ESP 認証鍵 (送信)]

送信用SAの認証鍵を設定します。⑨が [HMAC_SHA1_96] ならば160bit、[HMAC_MD5_96] ならば128bitに相当する16進数で設定してください。[認証なし] の場合は設定不要です。

⑫ [SA ESP SPI (送信)]

送信用SAのSPIの値を設定します。
256～4294967295の間で設定してください。

⑬ [SA ESP 暗号鍵 (受信)]

受信用SAの暗号鍵を設定します。
⑧が [AES] ならば128bit、[3DES] ならば192bit、
[DES] ならば64bitに相当する16進数で設定してください。
[NULL] の場合は設定不要です。

⑭ [SA ESP 認証鍵 (受信)]

受信用SAの認証鍵を設定します。
⑨が [HMAC_SHA1_96] ならば160bit、
[HMAC_MD5_96] ならば128bitに相当する16進数で
設定してください。[認証なし] の場合は設定不要です。

⑮ [SA ESP SPI (受信)]

受信用SAのSPIの値を設定します。
256～4294967295の間で設定してください。設定値
はSAを識別するためのID番号として使用されるので、
受信用のSPIとして、他のESPのSPIと同じ値を指定し
ないようにご注意ください。

- ⑤の [IPsecプロトコル] を [AH] または [ESPとAH] に
設定した場合、⑯ [SA AH 認証アルゴリズム] ～
⑳ [SA AH SPI (受信)] の設定が必要になります。

⑯ [SA AH 認証アルゴリズム]

AHの認証アルゴリズムを、接続先の機器がサポート
している認証アルゴリズムに合わせて、
[HMAC_SHA1_96] または [HMAC_MD5_96] から
選択します。

⑰ [SA AH 認証鍵 (送信)]

送信用SAの認証鍵を設定します。
⑯が [HMAC_SHA1_96] ならば160bit、
[HMAC_MD5_96] ならば128bitに相当する16進数で
設定してください。

⑱ [SA AH SPI (送信)]

送信用SAのSPIの値を設定します。
256～4294967295の間で設定してください。

⑲ [SA AH 認証鍵 (受信)]

受信用SAの認証鍵を設定します。
⑯が [HMAC_SHA1_96] ならば160bit、
[HMAC_MD5_96] ならば128bitに相当する16進数で
設定してください。

⑳ [SA AH SPI (受信)]

受信用SAのSPIの値を設定します。
256～4294967295の間で設定してください。設定値
はSAを識別するためのID番号として使用されるので、
受信用のSPIとして、他のAHのSPIと同じ値を指定し
ないようにご注意ください。

 重要

- カメラを IPsec で運用するためには、あらかじめ通信相手やネットワークの設定が必要です。これらの設定についてはシステム管理者にお問い合わせください。
- IPsec で接続するには、カメラの IP アドレスをマニュアル設定してください。
接続元 IPv4 アドレスでは、[ネットワーク] > [IPv4 アドレス設定方式] > [マニュアル設定] で設定した IPv4 アドレスを使用してください。
接続元 IPv6 アドレスでは、[ネットワーク] > [IPv6 アドレス (手動設定)] で設定した IPv6 アドレスを使用してください。
- [IPsec] メニューで設定を変更する場合は、起動中の Web ブラウザーからカメラに接続できなくなる可能性があります。「[再起動項目] 再起動が必要となる項目の設定」の「重要」(P. 71) に記載している注意事項を事前にご確認ください。

 メモ

IPsec使用時は、映像配信性能が低下します。

[SSL/TLS] HTTP通信の暗号化の設定

ここでは次の設定ができます。

- **証明書**
SSL/TLS証明書を作成します。
- **証明書の管理**
SSL/TLS証明書を管理します。
- **暗号化通信**
暗号化通信の使用を設定します。

証明書

① 自己証明書の作成	実行
② 証明書の状態	2013/05/01 - 2013/08/01
③ 国名(C) 2文字	JP
④ 都道府県名(ST) 128文字以内	Tokyo
⑤ 市区町村名(L) 128文字以内	Ohita-ku
⑥ 組織名(O) 64文字以内	Canon Inc.
⑦ 組織単位名(OU) 64文字以内	Network Camera Div.
⑧ 一般名(CN) 64文字以内	test.canon.co.jp
⑨ 有効期間開始日 yyyy/mm/dd	2013/05/01
⑩ 有効期間終了日 yyyy/mm/dd	2013/08/01

① [自己証明書の作成]

次の各項目の入力を終えた後、[実行] をクリックすると、自己証明書の作成を行います。メッセージに従ってシステムを再起動してください。作成された証明書は、再起動後に有効になります。

メモ

証明書の作成には時間がかかるため、映像配信やアップロードなどの処理は停止することをお勧めします。

② [証明書の状態]

証明書がインストールされていない場合は、[インストールされていません] と表示され、証明書をインストールした場合は、証明書の有効期間が表示されます。

③ [国名(C)]

国名コードを入力します。

④ [都道府県名(ST)]、[市区町村名(L)]、[組織名(O)]、[組織単位名(OU)]、[一般名(CN)]

都道府県名、市区町村名、組織名、組織単位名、一般名をASCII文字(スペースまたは印字可能文字)で入力します。一般名(必須)には、FQDN形式のホスト名などを設定します。

⑤ [有効期間開始日]、[有効期間終了日]

作成する証明書の有効期間を2001/01/01~2031/12/31の範囲で設定します(自己証明書の作成時は必須)。

重要

自己証明書はセキュリティ上、動作テストなど完全なセキュリティが確保されていなくても問題ない場合に使用してください。システム運用時には、CA 局から発行される証明書を取得し、インストールすることを推奨します。

証明書の管理

① 証明書署名要求の生成	実行
② 証明書署名要求の表示	実行
③ サーバー証明書のインストール	参照... 実行
④ 中間層証明書のインストール	参照... 実行
⑤ 証明書の削除	実行
⑥ サーバー証明書内容の表示	実行
⑦ 自己CA証明書の表示	実行
⑧ バックアップ	実行
⑨ リストア	参照... 実行

① [証明書署名要求の生成]

[実行] をクリックすると、サーバー秘密鍵を作成し、証明書署名要求の生成を行います。処理が終わると、別ウィンドウに証明書署名要求が表示されます。

メモ

証明書署名要求の生成には時間がかかるため、映像配信やアップロードなどの処理は停止することをお勧めします。

② [証明書署名要求の表示]

[実行] をクリックすると、証明書署名要求の内容が表示されます。

③ [サーバー証明書のインストール]

サーバー証明書をインストールします。[参照] でインストールする証明書ファイルを選択して、[実行] をクリックします。インストールした証明書は、再起動後に有効になります。

④ [中間層証明書のインストール]

中間層の証明書をインストールします。[参照] でインストールする証明書ファイルを選択して、[実行] をクリックします。インストールした証明書は、再起動後に有効になります。

メモ

中間層証明書とともにクロスルート証明書もインストールするときは、あらかじめクロスルート証明書と中間層証明書をテキストエディターなどで1つのファイルに連結し、中間層証明書としてインストールしてください。

⑤ [証明書の削除]

[実行] をクリックすると、サーバー証明書を削除します。ただし、**SSL通信**を行う設定になっていると証明書の削除はできませんので、[HTTPS接続ポリシー]を[HTTP]に設定してから実行してください。なお、削除は、再起動後に有効になります。

⑥ [サーバー証明書内容の表示]

[実行] をクリックすると、サーバー証明書の内容が表示されます。

⑦ [自己CA証明書の表示]

SSL通信のテストなどの目的で使用しますが、通常は使用しません。

⑧ [バックアップ]

[実行] をクリックすると、証明書と秘密鍵のバックアップを行います。[HTTPS接続ポリシー]を、[HTTPS] または [HTTP とHTTPS] に設定し、SSL通信している場合のみ実行できます。

⑨ [リストア]

バックアップされている証明書と秘密鍵をインストールします。[参照] でバックアップファイルを選択して、[実行] をクリックします。[HTTPS接続ポリシー] を、[HTTPS] または [HTTP とHTTPS] に設定し、SSL通信している場合のみ実行できます。リストアした証明書は、再起動後に有効になります。

- カメラにインストールされる証明書の種類によっては、Webブラウザが証明書を受け入れるかどうかのダイアログを表示することがないため、接続できないことがあります。この場合にはCA 局の証明書をWebブラウザに登録してください。

暗号化通信

HTTPS接続ポリシー	HTTP
-------------	------

① [HTTPS接続ポリシー]

HTTPS 接続によるSSL通信を行うかどうかを選択します。

SSL通信を行わないときは[HTTP]を選択します。

SSL 通信を行うときは [HTTPS] または [HTTP とHTTPS] を選択します。再起動後にSSLを使用した接続が可能となります。

[HTTPS] を選択したときは、HTTP アクセス時にもHTTPSにリダイレクトされ、SSL通信が行われます。

重要

- ここでSSL通信を行う設定をしても、証明書をインストールしていないと、SSL通信は行われません。
- SSL通信時は、映像配信性能が低下します。また、[HTTPS] に設定した場合、RMとは接続できません。

メモ

- SSL鍵生成には数分かかる場合があります。

[802.1X] ネットワークポートの認証の設定

ここでは次の設定ができます。

- **802.1X認証**
802.1X 認証の使用の有無と状態の表示を行います。
- **認証方式**
802.1X 認証で使用する認証方式を設定します。
- **証明書情報**
802.1X 認証で使用する証明書および秘密鍵のインストール状態を表示します。
- **証明書の管理**
802.1X 認証で使用する証明書および秘密鍵を管理します。

802.1X認証

① 802.1X認証の使用	使用しない ▼
② 認証の状態	停止

① [802.1X認証の使用]

802.1X 認証を、[使用しない] または [使用する] から選択します。

[802.1X 認証の使用] に [使用する] を選択して [適用] すると、設定項目の下に [設定を変更する前に、802.1X 認証を「使用しない」に設定してください。] と表示され、認証方式の変更や証明書のインストール、削除など、すべての設定ができない状態になります。設定を変更する場合は、いったん [802.1X 認証の使用] を [使用しない] にして [適用] してください。

② [認証の状態]

802.1X 認証の状態を表示します。[認証済み]、[未認証]、[停止] の3つの状態があります。

認証方式

① 認証方式	EAP-MD5 ▼
② ユーザー名 63文字以内	
③ パスワード 1～24文字	*****

① [認証方式]

802.1X 認証で使用する認証方式を、[EAP-MD5]、[EAP-TLS]、[EAP-TTLS]、[EAP-PEAP] から選択します。

② [ユーザー名]

認証に使用するユーザー名を入力します。

③ [パスワード]

認証に必要なパスワードを入力します。

[認証方式] が [EAP-MD5]、[EAP-TTLS]、[EAP-PEAP] の場合にのみ表示されます。

証明書情報

① CA証明書の状態	インストールされていません
② クライアント証明書の状態	インストールされていません
③ クライアント秘密鍵の状態	インストールされていません

[認証方式] が [EAP-TLS]、[EAP-TTLS]、[EAP-PEAP] の場合にのみ表示されます。

① [CA証明書の状態]

CA 証明書がインストールされていない場合は、[インストールされていません] と表示され、CA 証明書をインストールした場合は、証明書の有効期間が表示されます。

② [クライアント証明書の状態]

クライアント証明書がインストールされていない場合は、[インストールされていません] と表示され、クライアント証明書をインストールした場合は、証明書の有効期間が表示されます。[認証方式] が [EAP-TLS] の場合にのみ表示されます。

③ [クライアント秘密鍵の状態]

クライアント秘密鍵がインストールされていない場合は、[インストールされていません] と表示され、クライアント秘密鍵をインストールした場合は、[インストールされています] と表示されます。[認証方式] が [EAP-TLS] の場合にのみ表示されます。

証明書の管理

① CA証明書のインストール	参照...	実行
② クライアント証明書のインストール	参照...	実行
③ クライアント秘密鍵のインストール	参照...	実行
④ クライアント秘密鍵のパスワード 1～24文字	*****	
⑤ 証明書の削除	実行	

[認証方式] が [EAP-TLS]、[EAP-TTLS]、[EAP-PEAP] の場合にのみ表示されます。

① [CA証明書のインストール]

CA 証明書をインストールします。[参照] でインストールする証明書ファイルを選択して、[実行] をクリックします。

② [クライアント証明書のインストール]

クライアント証明書をインストールします。[参照] でインストールする証明書ファイルを選択して、[実行] をクリックします。[認証方式] が [EAP-TLS] の場合にのみ表示されます。

③ [クライアント秘密鍵のインストール]

クライアント秘密鍵をインストールします。[参照] でインストールする秘密鍵ファイルを選択して、[実行] をクリックします。[認証方式] が [EAP-TLS] の場合にのみ表示されます。

④ [クライアント秘密鍵のパスワード]

クライアント秘密鍵のパスワードを入力します。クライアント秘密鍵にパスワードが設定されているときのみ必要です。[認証方式] が [EAP-TLS] の場合にのみ表示されます。

⑤ [証明書の削除]

インストールされているCA証明書、クライアント証明書、クライアント秘密鍵をすべて削除します。

[認証方式] が [EAP-TTLS]、[EAP-PEAP] の場合、「CA証明書」しか表示されませんが、クライアント証明書およびクライアント秘密鍵がインストールされている場合、それらも削除されます。

重要

- すでにCA証明書、クライアント証明書、またはクライアント秘密鍵が存在する場合は破棄され、新たにインストールされます。
- インストールする証明書または秘密鍵のフォーマットが不正な場合はエラーとなります。
- クライアント証明書とクライアント秘密鍵はインストール時にペアチェックを行い、一致しない場合はエラーとなります。
- 802.1X で使用する証明書と秘密鍵は、SSL/TLS での証明書インストール状況に関わらず、別な物としてインストールを行う必要があります。

[メモリーカード] メモリーカードの各種操作や設定

ここでは次の設定ができます。

- **メモリーカードの操作**
メモリーカードの操作を行います。
- **メモリーカードの情報**
メモリーカードの情報を表示します。

メモリーカードの操作 (アンマウント状態)

① マウント / アンマウント	マウント実行
② 動作設定	ログと映像を保存する ▼
③ 映像フォーマット	JPEG ▼
④ イベント前バッファ(枚数) 0~100	0
⑤ イベント後バッファ(枚数) 0~100	0
⑥ 映像の上書き	無効 ▼
⑦ フォーマット	実行

① [マウント/アンマウント]

アンマウント状態のときは、[マウント実行] が表示されます。[マウント実行] をクリックすると、メモリーカードがマウントされます。

メモ

microSDメモリーカード、microSDHCメモリーカードおよびmicroSDXCメモリーカードを使用できます。
メモリーカードをカードスロットにセットした場合は、自動的にマウントされます。また、起動時にカメラにメモリーカードがセットされている場合も、自動的にマウントされます。
メモリーカードの出し入れの操作は、『設置ガイド』の「メモリーカードをご利用の場合」を参照してください。

② [動作設定]

メモリーカードへの書き込み動作を、[ログを保存する] または [ログと映像を保存する] から選択します。

メモ

- メモリーカードには、次の設定または操作によって映像が記録されます。
 - 録画ストリームの使用中にネットワークに異常が発生したとき
 - アップロードに失敗したとき
 - [イベント] メニュー (P. 55) の [映像記録動作] を [メモリーカードに記録] にしたうえで、イベント (音量検知、外部デバイス入力、タイマー) の設定を有効にして [映像記録] で [実行する] を選択
 - インテリジェント機能によるイベント発生時の記録映像 (P. 98)
 - 管理者ビューワーから手動でメモリーカードに記録 (P. 143)
- メモリーカードの空き領域がなくなった場合、新しいファイルは保存されません。

③ [映像フォーマット]

メモリーカードに記録する映像フォーマットを [JPEG] または [H.264(1)] から選択します。[映像] > [H.264(1)] の設定で映像が記録されます (P. 44)。[H.264(2)] は使用できません。[イベント] > [映像記録動作] (P. 55) で [メモリーカードに記録] が選択されている場合に、ここで設定されたフォーマットで映像が記録されます。

メモ

- [映像フォーマット] で [JPEG] を選択した場合、および、アップロードエラー発生時にJPEGで記録される映像のフレームレートは常に 1 fps となります。
- 録画ストリームの使用中にネットワークに異常が発生したときは、[映像フォーマット] の設定にかかわらず JPEG で映像が保存されます (フレームレートは 1 fps 固定です)。
- 記録される映像のサイズと映像品質は、[映像] メニューでの設定に従います。

④ [イベント前バッファ (枚数)] / [イベント前バッファ (秒)]

イベント発生前にバッファに保存される映像の枚数または秒数を設定します。[映像フォーマット] で [JPEG] が選択されているときは枚数の最大値、[H.264(1)] が選択されているときは秒数の最大値となります。

⑤ [イベント後バッファ (枚数)] / [イベント後バッファ (秒)]

イベント発生後にバッファに保存される映像の枚数または秒数を設定します。[映像フォーマット] で [JPEG] が選択されているときは枚数の最大値、[H.264(1)] が選択されているときは秒数の最大値となります。

⑥ [映像の上書き]

イベント発生時にメモリーカードに映像を記録する場合の、映像の上書き設定を [有効]、[無効] から選択します。[有効] を選択すると、イベントとタイマーにより記録された映像が上書きされます。上書きは、イベントまたはタイマーそれぞれの映像ファイル数 (10万ファイル) を超えた場合に行われます。メモリーカードの容量が足りない場合には上書きは行われません。

重要

- H.264の映像をメモリーカードに保存する場合、[映像] の [H.264(1)] 設定で次の制限があります (P. 44)。
 - [ビットレート制御] は [ビットレート制御する] しか選択できません。
 - [目標ビットレート(kbps)] は [3072] 以下しか選択できません。
 - [Iフレーム間隔(秒)] は [0.5]、[1]、[1.5] のいずれかしか選択できません。
- [イベント前バッファ] および [イベント後バッファ] の設定は最大値であり、状況によっては設定した映像枚数または秒数で映像が記録されないことがあります。

⑦ [フォーマット]

[実行] をクリックすると、メモリーカードのフォーマットが行われます。フォーマットすると、メモリーカード内のすべてのファイルとディレクトリが削除されます。

メモ

フォーマットは、クイックフォーマットで行われます。

メモリーカードの操作 (マウント状態)

① マウント / アンマウント	アンマウント実行
① 動作設定	ログと映像を保存する
① 映像フォーマット	JPEG
① イベント前バッファ(枚数) 0~100	0
① イベント後バッファ(枚数) 0~100	0
① 映像の上書き	無効
① 映像の削除	実行
① 映像管理情報の再作成	実行

① [マウント/アンマウント]

マウント状態のときは、[アンマウント実行] が表示されます。[アンマウント実行] をクリックすると、メモリーカードがアンマウントされます。

重要

カメラの電源をオフにする場合や、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアンマウント処理を行ってください。アンマウントしていない場合、管理ファイル異常となることや、メモリーカードへのアクセスができなくなることがあります。カメラマネジメントツールを使用すると、複数カメラのメモリーカードを一括してマウント/アンマウントの処理が行えます。

- ② [動作設定]、[映像フォーマット]、[イベント前バッファ]、[イベント後バッファ]、[映像の上書き]
「メモリーカードの操作 (アンマウント状態)」と同様です。

③ [映像の削除]

[実行] をクリックすると、メモリーカードの映像を削除します。削除中は、[実行] の右にインジケーターが表示されます。

メモ

- 映像の削除には、40分以上かかる場合があります。
- 映像の削除には時間がかかる場合があるため、映像配信やアップロードなどの処理は停止することをお勧めします。

④ [映像管理情報の再作成]

[実行] をクリックすると、映像管理情報の再作成を行います。

再作成中は、[実行] の右にインジケーターが表示され、この間メモリーカードにアクセスできません。

メモ

- 映像管理情報の再作成には90分以上かかる場合があります。
- 映像管理情報の再作成には時間がかかる場合があるため、映像配信やアップロードなどの処理は停止することをお勧めします。

メモリーカードの情報

① メモリーカードの認識	マウントされています
① メモリーカードの操作状態	操作可能
① 映像管理情報の状態	正常
① 映像保存	保存可
① メモリーカード容量(KB)	1955520
① 使用容量(KB)	8064

① [メモリーカードの認識]

メモリーカードの状態を表示します。[メモリーカードが入っていません]、[マウントされていません]、[マウントされています] の3つの状態があります。

② [メモリーカードの操作状態]

メモリーカードの操作の状態を表示します。次の3つの状態があります。

- [操作可能]：各種操作を実行できる状態。
- [映像管理情報を再作成中]：映像管理情報の再作成が行われています。他の操作はできません。
- [映像削除中]：映像を削除しています。他の操作はできません。

③ [映像管理情報の状態]

映像管理情報の状態を表示します。次の2つの状態があります。

- [正常]：映像管理情報は正常です。
- [映像管理情報の再作成が必要]：管理ファイルが壊れているか、保存されている映像と管理ファイルとの整合性がとれていない状態です。[映像管理情報の再作成] の [実行] をクリックして映像管理情報を再作成する必要があります。
[映像管理情報の再作成] を実行しても復旧しない場合は、[フォーマット] (P. 69) が必要です。

④ [映像保存]

メモリーカードへの映像の保存の可/不可を表示します。

- [保存可]：メモリーカードへ保存が可能です。

- [保存不可]：メモリーカードへの保存ができません。
この場合、メモリーカードがマウントされていない、映像ファイル数が上限に達している、映像管理ファイルが壊れている、書き込み禁止状態になっているなどの理由が考えられます。

⑤ [メモリーカード容量 (KB)]

メモリーカードの容量を表示します。

⑥ [使用容量 (KB)]

メモリーカードの使用容量を表示します。

 重 要

メモリーカードに記録された情報内容は、「個人情報」に該当する場合があります。カメラが廃棄、譲渡、修理などで第三者に渡る場合には、その取り扱いに十分にご注意ください。

 メ モ

メモリーカードに保存されたファイルへのアクセス方法は、「メモリーカードのアクセスについて」(P. 146)を参照してください。

[再起動項目] 再起動が必要となる項目の設定

ここでは設定の変更を行った際、再起動が必要となる次の項目を集めています。

- LAN、IPv4、IPv6、HTTPサーバー

LAN	
① LANインターフェース	オート
② 最大パケットサイズ 576～1500	1500
IPv4	
③ IPv4アドレス設定方式	マニュアル設定
④ IPv4アドレス	192.168.100.1
⑤ サブネットマスク	255.255.255.0
IPv6	
⑥ IPv6の使用	使用する
⑦ 自動設定(RA)	有効
⑧ 自動設定(DHCPv6)	有効
⑨ IPv6アドレス(手動設定)	
⑩ プレフィックス長 16～128	64
HTTPサーバー	
⑪ 認証方式	Digest認証
⑫ HTTPポート番号 80,1024～65535	80
⑬ HTTPSポート番号 443,1024～65535	443

① [LAN]

LAN インターフェース、最大パケットサイズの設定 (P. 33)

② [IPv4]

IP アドレスなど、IPv4 の設定 (P. 33)

③ [IPv6]

IPv6 の使用についての設定 (P. 34)

④ [HTTPサーバー]

認証方式、HTTP、HTTPS ポート番号の設定 (P. 54)

重要

ネットワークの接続に関わる設定*で、起動中のWeb ブラウザーからカメラに接続できなくなる可能性のある設定値を変更した場合、確認のダイアログが表示され注意を促します。

変更した設定を適用する場合は、[OK] をクリックしてください。

設定変更によってカメラが再起動したあと、カメラに再接続できない場合があります。このとき、カメラに再接続するためのURIの候補があれば表示されます。

カメラに再接続する場合は、表示されたURIをお試しください。表示されたURIでカメラに接続できない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

* [LANインターフェース]、[最大パケットサイズ]、[IPv4アドレス設定方式]、[IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv6の使用]、[自動設定(RA)]、[自動設定(DHCPv6)]、[IPv6アドレス(手動設定)]、[プレフィックス長]、[HTTPポート番号]、[HTTPSポート番号]

[メンテナンス]

現在の設定状況表示やイベントログ、メンテナンスの実行

ここでは次の項目を使用できます。

- **機器情報**
現在の機器の情報を表示します。
- **表示と実行**
カメラの設定の表示や初期化、設定値のバックアップ/リストアを行います。
- **ログ通知**
ログメッセージのメール送信について設定します。

機器情報

機種名	VB-S30D
ファームウェアバージョン	Ver. 3.0.8
シリアル番号	000000000000
ビルド番号	2020021
MACアドレス	08:00:06:00:00:00

[機種名]、[ファームウェアバージョン]、
[シリアル番号]、[ビルド番号]、[MACアドレス]
現在接続しているカメラの情報が表示されます。

表示と実行

① ログを見る	表示	
② 現在の設定を見る	表示	
③ 再起動	実行	
④ 初期設定に戻す	実行	
⑤ 設定値のバックアップ	実行	
⑥ 設定値のリストア	実行	

① [ログを見る]

カメラの動作および各種ビューワーなどとの接続の履歴を表示します。

② [現在の設定を見る]

現在の設定を一覧表示します。

③ [再起動]

カメラを再起動します。

S30 **S31**

カメラアングルはホームポジションに移動します。ホームポジションが設定されていないときは、工場出荷設定のホームポジションに移動します。ホームポジションの設定についてはP. 93を参照してください。

④ [初期設定に戻す]

再起動後、次の設定項目を除くすべてのユーザー設定値が破棄され、工場出荷設定に戻ります。

- 管理者パスワード
- ネットワークのLAN、IPv4、IPv6
- 日付と時刻
- アクセス制御のホストアクセス制限
- SSL / TLS
- 802.1X

⑤ [設定値のバックアップ]

日付と時刻以外のすべての設定値を、メモリーカードにバックアップします。

IPアドレス、SSLおよび802.1Xで使用する証明書、秘密鍵ファイルも含めてバックアップします。

⑥ [設定値のリストア]

日付と時刻以外のすべての設定値を、⑤ [設定値のバックアップ] で作成した、メモリーカードのバックアップファイルからリストアします。

IPアドレス、SSLおよび802.1Xで使用する証明書、秘密鍵ファイルも含めてリストアします。

リストア後、カメラは再起動します。

注意



禁止

[初期設定に戻す]、[設定値のバックアップ]、[設定値のリストア]の実行中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源を切ると、正常に起動しなくなる場合があります。

重要

- バックアップを行ったカメラと異なるカメラにリストアした場合、ネットワーク上でアドレスが衝突するなどの問題が発生する可能性がありますので、ご注意ください。
- 設定値をリストアするときは、リストアするカメラより新しいファームウェアバージョンで作成したバックアップファイルを使用しないでください。

メモ

- [初期設定に戻す] で、工場出荷設定の状態に戻す際には、現在の各設定値をバックアップすることをお勧めします。
- リセットスイッチによっても工場出荷設定に戻すことができますが、カメラの日付と時刻以外すべての設定が工場出荷設定に戻るのでご注意ください (P. 164)。

ログ通知

① ログ通知の使用	使用する
② 通知レベル	エラー
③ メール設定のコピー	実行
④ メールサーバー 63文字以内	
⑤ メールポート番号 1~65535	25
⑥ 差出人メールアドレス (From) 63文字以内	
⑦ 宛先メールアドレス (To) 63文字以内	
⑧ メール認証方式	なし
⑨ 表題 31文字以内	
⑩ ログ通知テスト	実行

① [ログ通知の使用]

ログ通知を [使用しない] または [使用する] から選択します。[使用する] を選択すると、エラー発生時などに、ログメッセージをメール送信できます。ログメッセージについては「ログメッセージ一覧」(P. 152) を参照してください。

② [通知レベル]

通知するログメッセージのレベルを、[エラー]、[エラーと警告]、[全て] から選択します。ログメッセージのレベルは「カメラのログメッセージ」(P. 152) を参照してください。

③ [メール設定のコピー]

[アップロード] > [メール通報] (P. 51) で使用しているメール設定をコピーします。

④ [メールサーバー]

SMTPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します (63文字以内)。

⑤ [メールポート番号]

SMTPサーバーのポート番号を入力します (工場出荷設定は [25])。

⑥ [差出人メールアドレス (From)]

メール発信するアドレスを設定します (63文字以内)。

⑦ [宛先メールアドレス (To)]

メール受信するアドレスを設定します (63文字以内)。

⑧ [メール認証方式]

メール認証方式を、[なし]、[POP before SMTP]、[SMTP-AUTH] から選択します。送信先SMTPサーバーの認証方式に合わせて設定してください。

① メール認証方式	POP before SMTP
② ユーザー名 31文字以内	username
③ パスワード 31文字以内	*****
④ POPサーバー 63文字以内	servername

[ユーザー名]、[パスワード]、[POPサーバー]
メール認証方式を [POP before SMTP] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワード、POPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

① メール認証方式	SMTP-AUTH
② ユーザー名 31文字以内	username
③ パスワード 31文字以内	*****

[ユーザー名]、[パスワード]

メール認証方式を [SMTP-AUTH] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

⑨ [表題]

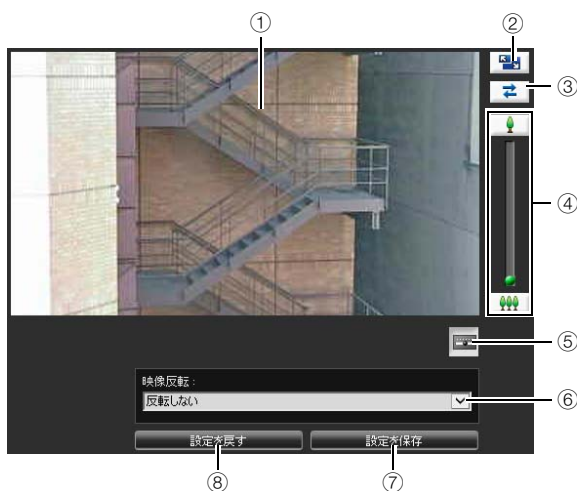
メール送信時の表題を、31文字以内のASCII文字で入力します。

⑩ [ログ通知テスト]

[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してログ通知のテストを行います。このとき、設定値を [適用] する必要はありません。パスワードを入力後、[適用] する前に [実行] をクリックしてください。

ここでは次の設定ができます。

- **ズーム操作**
デジタルズームを操作します。
- **映像反転**
映像の上下を反転します。
- **管理者コントロール**
露出補正を設定します。



- ① **映像表示部**
現在のカメラ映像が表示されます。
- ② **[サイズ変更] ボタン**
ボタンをクリックするたびに、映像表示部のスクリーンサイズが「480x270」または「960x540」に切り換わります。
- ③ **[再接続] ボタン**
カメラに接続し直します。
- ④ **[ズーム] スライダー、[ズーム] ボタン**
デジタルズーム倍率を操作します。
[ズーム] スライダーは、つまみを上方向に移動するとズームイン（望遠）、下方向に移動するとズームアウト（広角）します。
[ズーム] ボタンは押し続けると動作し、放すと停止します。
- ⑤ **[管理者コントロール] ボタン**
[露出補正] スライダーを表示するボタンです。
- ⑥ **[映像反転] 選択ボックス**
カメラの映像の向きを選択します。[反転する] を選択すると、映像を180度回転して表示します。

⑦ [設定を保存]

操作中のズームおよび [映像反転] の設定をカメラに保存します。
ズームおよび [映像反転] の設定を変更する場合は、必ず [設定を保存] でカメラに保存してください。

⑧ [設定を戻す]

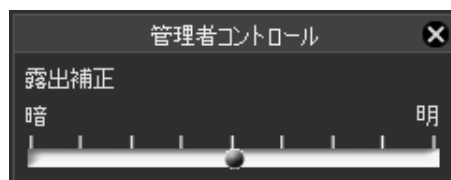
設定した内容を破棄し、カメラに保存されている設定内容に戻します。

メモ

- [カメラアングル] は設定メニューからのみ操作できます。管理者ビューワーおよびVBビューワーからは操作できません。
- [カメラアングル] でカメラに接続すると、RTP以外で接続している各種ビューワーや録画ソフトは接続が切断されます。
- デジタルズームは、倍率が高くなるに従い画質が低下します。
- [カメラアングル] の設定の保存後は、次の設定を見直してください。
 - プライバシーマスク設定
 - プリセット設定
 - インテリジェント機能設定
- 1つのカメラに [カメラアングル] が接続可能な時間は30分です。

■ 露出補正を設定する

映像の明るさを9段階で設定できます。



映像を暗くしたい場合は [暗] 側にドラッグし、明るくしたい場合は [明] 側にドラッグしてください。

メモ

- [カメラアングル] で設定した露出補正值は、[カメラ] > [起動時設定] > [露出補正] (P. 40) には反映されません。
- 管理者ビューワーで [露出] が [マニュアル] に設定されている場合 (P. 139) は、[オート] へ自動的に変更されます。

4章

管理ツール

- プライバシーマスクの設定
- パノラマ画像の登録 S30 S31
- 可視範囲の設定 S30 S31
- カメラのプリセット設定
- インテリジェント機能の設定
- ログの閲覧
- メモリーカードの映像の管理

管理ツールの概要

管理ツールは、ネットワーク経由でカメラの設定や動作状況の確認、ログ取得を行うための複数のツールで構成されています。

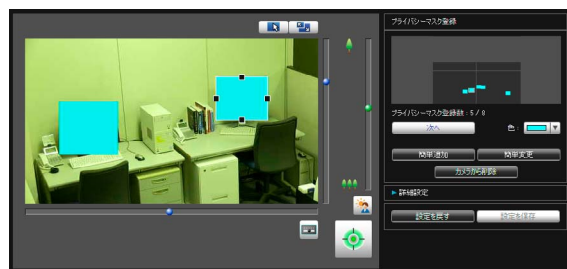
管理ツール (P. 78)

管理ツールのトップページです。ここから各ツールを起動できます。



プライバシーマスク設定ツール (P. 79)

見せたくない領域にプライバシーマスクを設定して、見えないようにするツールです。マスクは8箇所まで設定でき、きめ細かくプライバシーを保護できます。



パノラマ作成ツール (P. 83)

S30 S31

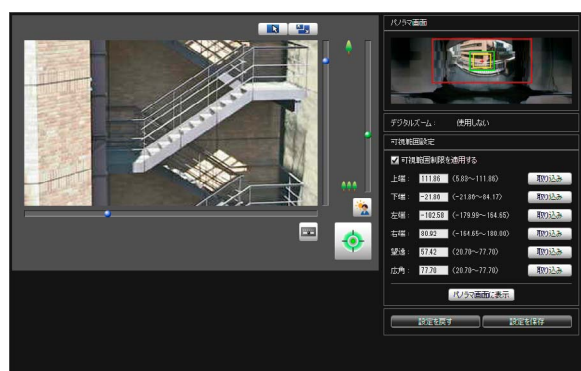
カメラが撮影可能な全領域を表示するパノラマ画像の作成ツールです。パノラマ画像を撮影して登録するとビューワーのパノラマ表示パネルに表示されます。また、可視範囲やプリセットの設定を行う際にも表示されるため、設定した領域が、全領域のどの部分を占めているのかが一目でわかります。



可視範囲設定ツール (P. 86)

S30 S31

可視範囲設定を、視覚的に行うことのできるツールです。パノラマによるプレビューを参照しながら、マウス操作での範囲設定が行えます。



プリセット設定ツール (P. 90)

プリセットやホームポジションを、視覚的に設定できるツールです。パノラマや全体画像によるプレビューを参照しながら、マウス操作での設定が行えます。



インテリジェント機能設定ツール (P. 98)

被写体が動くことで映像の一部に変化があった場合、その時点でアップロード、ビューワーへの通知、ログの記録などを行うインテリジェント機能を設定するためのツールです。条件を設定することで、「動体」、「置き去り」、「持ち去り」、「いたずら」、「通過」のイベントを検知させることもできます。カメラの映像を見ながら、検知領域および検知ラインの位置や大きさ、検知条件の設定などが行えます。



ログビューワー (P. 110)

カメラに記録されている動作状況のログを閲覧できるビューワーです。



録画映像ユーティリティ (P. 114)

カメラに挿入されているメモリーカードに記録された映像を閲覧・管理するユーティリティです。記録されている映像の一覧表示、映像の再生や削除、ダウンロードなどの操作ができます。



管理ツールにアクセスする

管理ツールを起動する

管理ツールは、カメラのトップページからアクセスして起動します。

1 カメラのトップページを起動する (P. 26)

2 [管理ツール] をクリックする

ユーザー認証のための画面が表示されます。

3 ユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックする (P. 26)

管理ツールのトップページが表示されます。



① [管理者ビューワーへ]

クリックすると管理者ビューワーが起動します。

② [設定ページへ]

クリックすると設定メニューが起動します。

③ [トップページへ]

クリックするとカメラのトップページに移動します。

④ [管理ツール]

各ツールのボタンをクリックして、管理ツールを起動します。

メモ

- 各管理ツールを初めて起動するときは、ソフトウェアがPCにダウンロードされるまで、5～10秒程度お待ちください。2回目からは素早く起動します。なお、SSL暗号通信でアクセスしている場合は、さらにダウンロードに時間がかかります(20～30秒程度)。
- プライバシーマスク設定ツール/パノラマ作成ツール/可視範囲設定ツール/プリセット設定ツール/インテリジェント機能設定ツールは同時に起動できません。
- プロキシサーバーのない環境では、Internet Explorerの[インターネットオプション]>[接続]タブの[LANの設定]で、[設定を自動的に検出する]のチェックを外してください。
- 各管理ツールは、カメラマネジメントツールから起動することもできます。詳細は、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

重要

[管理ツール] を利用するPCには、管理ツール証明書をインストールする必要があります。(P. 23)

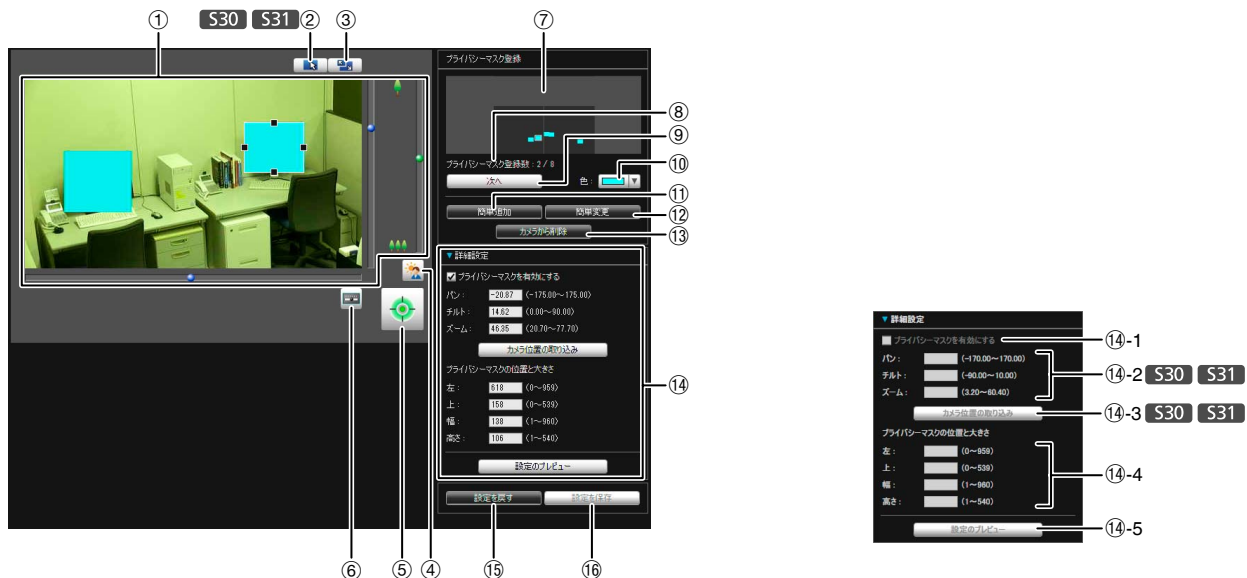
プライバシーマスク設定ツール

カメラ画像の、特定の領域が見えないようにプライバシーマスクをかけるツールです。

S30 S31 カメラのパン、チルト、ズーム動作を行った場合でも、プライバシーマスク領域はカメラ画像に追従します。



プライバシーマスク設定ツールの表示画面について



① 映像表示部

現在のカメラ映像が表示されます。プライバシーマスクのサイズ変更・移動ができます。

S30 S31

カメラのパン・チルト・ズームなどの操作は、管理者ビューワーと同じです。詳しくは、「ビューワーの操作方法」(P. 125) を参照してください。

② [マウス操作切替] ボタン **S30 S31**

ボタンをクリックするたびに と の間で切り換わり、映像表示部でのマウス操作が変わります。

ボタンが の状態のとき、プライバシーマスクのサイズ変更・移動ができます。このとき、カメラの向きは変わりません。

ボタンが の状態のとき、カメラのパン・チルト操作ができます。

③ [画面サイズ切替] ボタン

ボタンをクリックするたびに、映像表示部のスクリーンサイズが「480x270」または「960x540」に切り換わります。

④ [逆光補正] ボタン

逆光補正の入/切をします。映像が逆光で暗いときに使用すると効果があります。

⑤ [カメラ制御権取得/解放] ボタン

カメラ制御権を取得/解放するためのボタンです。詳しくは、「カメラ制御権の取得」(P. 127) を参照してください。管理者ビューワーなど他でカメラ制御権が取得されていなければ、プライバシーマスク設定ツールを起動した時点で、制御権が取得されます。

⑥ [管理者コントロール] ボタン

管理者コントロールパネル (P. 119) を表示します。

⑦ 登録済みプライバシーマスク領域表示エリア

(カメラ撮影可能エリア)

カメラの物理的な撮影可能領域の、どの部分にプライバシーマスクが設定されているかを確認できます。

S30 S31

カメラにパノラマ画像が登録されていても、ここには表示されません。

⑧ [プライバシーマスク登録数]

登録されているプライバシーマスクの数を表示します。最大8個のプライバシーマスクを設定できます。

⑨ [次へ]

複数のプライバシーマスクを設定している場合、ボタンをクリックして、選択中のプライバシーマスクを切り換えます。

⑩ [色]

プライバシーマスク領域の表示色を選択します。すべてのプライバシーマスク領域が、選択した色に設定されます。

⑪ [簡単追加]

プライバシーマスク領域を追加して、カメラに保存します。

⑫ [簡単変更]

プライバシーマスク領域の変更を反映して、カメラに保存します。

⑬ [カメラから削除]

選択中のプライバシーマスク領域をカメラから削除します。

⑭ [詳細設定]

詳細設定の項目を表示します。

⑭-1 [プライバシーマスクを有効にする] チェックボックス

選択しているプライバシーマスク領域の設定を有効にする場合、チェックボックスをチェックします。

⑭-2 [パン][チルト][ズーム] **S30 S31**

カメラアングルの各値を指定できます。

⑭-3 [カメラ位置の取り込み] **S30 S31**

現在のカメラアングルを取り込みます。カメラのパン・チルト・ズームの値を取り込み、⑭-2に表示します。

⑭-4 [プライバシーマスクの位置と大きさ]

プライバシーマスクの位置の左、上、幅、高さを設定します。

⑭-5 [設定のプレビュー]

[詳細設定] の設定内容を、映像表示部と登録済みプライバシー領域表示エリア (カメラ撮影可能エリア) に反映します。

⑮ [設定を戻す]

ツール画面上で設定した内容を破棄し、カメラに保存されている設定内容に戻します。

⑯ [設定を保存]

[詳細設定] で設定したプライバシーマスクの設定をカメラに保存します。

プライバシーマスク領域を設定する

カメラの映像を確認しながら、プライバシーマスク領域を設定します。

1 カメラの制御権が取得されていない場合は、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして、制御権を取得する

2 プライバシーマスク領域の位置と大きさを設定する

映像表示部に、プライバシーマスク領域を示すプレビュー枠が表示されます。

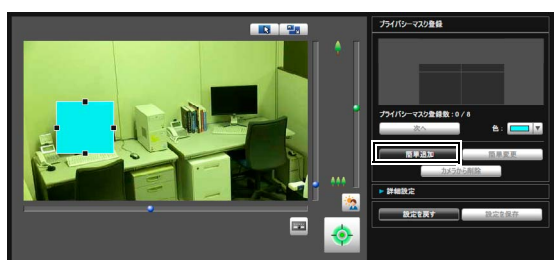


サイズを変更する場合は、プレビュー枠の四辺の■をドラッグします。プライバシーマスク領域の移動は、枠内をドラッグします。

変更を取り消して、カメラに保存されている設定に戻す場合は、[設定を戻す] をクリックします。

3 [簡単追加] をクリックして、プライバシーマスク領域を保存する

設定したプライバシーマスク領域がカメラに保存されます。

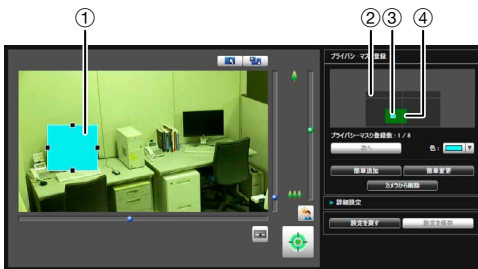


最大8個のプライバシーマスクを設定できます。続けてプライバシーマスク領域を設定する場合は、設定操作を繰り返してください。

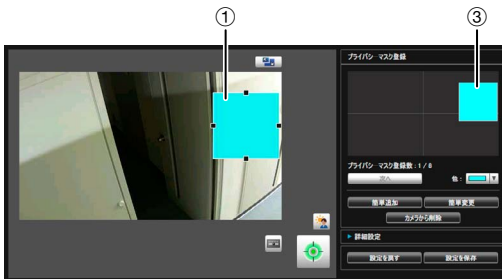
4 プライバシーマスク領域を確認する

プライバシーマスク領域を保存すると、映像表示部と登録済みプライバシーマスク領域表示エリア (カメラ撮影可能エリア) にプライバシーマスク領域が表示されます。

S30 S31



S80x S90x



① プライバシーマスク領域

有効に設定されているプライバシーマスクは領域内が塗りつぶされて表示されます。無効に設定されているプライバシーマスクは枠のみ表示されます。

② 可視範囲領域 S30 S31

可視範囲設定ツールで設定した領域です。

③ プライバシーマスク領域

[プライバシーマスクを有効にする] がチェックされているプライバシーマスクは、領域内が塗りつぶされて表示されます。チェックされていないプライバシーマスクは枠内に斜線が表示されます。

④ 最大広角領域 S30 S31

最大広角時のカメラアングルの領域です。③プライバシーマスク領域のドラッグ操作中のみ表示されます。

重要

- プライバシーマスクが設定されている領域も、インテリジェント機能の検知対象となります。被写体の動きが見えることがあります。
- プライバシーマスクは、カメラから配信されるすべての画像 (ライブ映像、アップロード画像、録画映像、メモリーカードに記録される画像) に適用されます。
- 設定ページの [映像] > [映像サイズセット] を変更した場合は、プライバシーマスク設定を見直してください。
- 次の場合は、プライバシーマスク機能は動作しません。
 - 電源投入直後のカメラ起動時
 - S80x S90x [設定ページ] > [カメラアングル] の映像表示部
 - S30 S31 パノラマ作成時
- 映像反転の設定を変更した場合、プライバシーマスクの位置を設定しなおす必要があります。

S30 S31

- プライバシーマスク領域は隠したい領域より大きめに設定してください。また、設定後にカメラのパン・チルト・ズームを実際に動かして、カメラの向きが変わっても隠したい領域が表示されないことを必ず確認してください。
- パノラマ作成ツールでパノラマ画像を保存したあとでプライバシーマスクの設定を変更した場合は、パノラマ作成ツールでパノラマ画像を作成し直してください。

S30

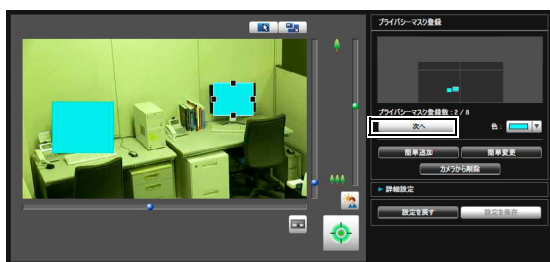
- ズーム位置により、プライバシーマスクが指定位置から若干ずれることがあります。
- 光学ズーム領域のみプライバシーマスクを設定できます。デジタルズーム領域では設定できません。

プライバシーマスク領域を変更/削除する

変更のしかた

1 変更したいプライバシーマスク領域を選択する

登録済みプライバシーマスク領域表示エリア (カメラ撮影可能エリア) で、変更したいプライバシーマスク領域をクリック、または、[次へ] でプライバシーマスク領域を選択します。



2 プライバシーマスク領域の位置とサイズを変更する

プライバシーマスク領域はマウス操作、または数値入力で変更できます。

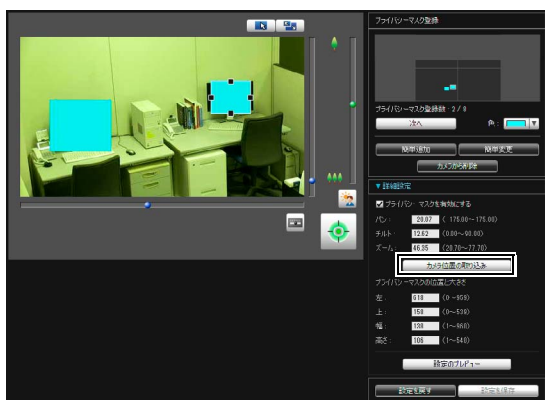
数値入力する場合

[詳細設定] をクリックします。

[プライバシーマスクの位置と大きさ] を数値で入力し、[設定のプレビュー] をクリックしてプレビュー枠の位置と大きさを確認します。

S30 S31

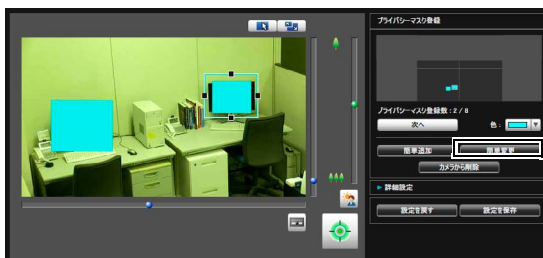
[カメラ位置の取り込み] をクリックすると、現在のパン・チルト・ズームの値を取り込むことができます。



変更を取り消して、カメラに保存されている設定に戻す場合は、[設定を戻す] をクリックします。

3 [簡単変更] または [設定を保存] をクリックして、プライバシーマスク領域を保存する

変更したプライバシーマスク領域がカメラに保存されます。



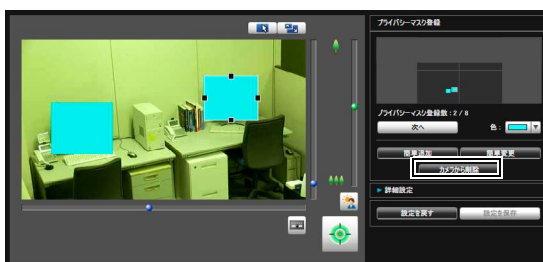
メモ

無効に設定されているプライバシーマスクを選択して、[簡単変更] をクリックすると、設定が有効に変更されます。

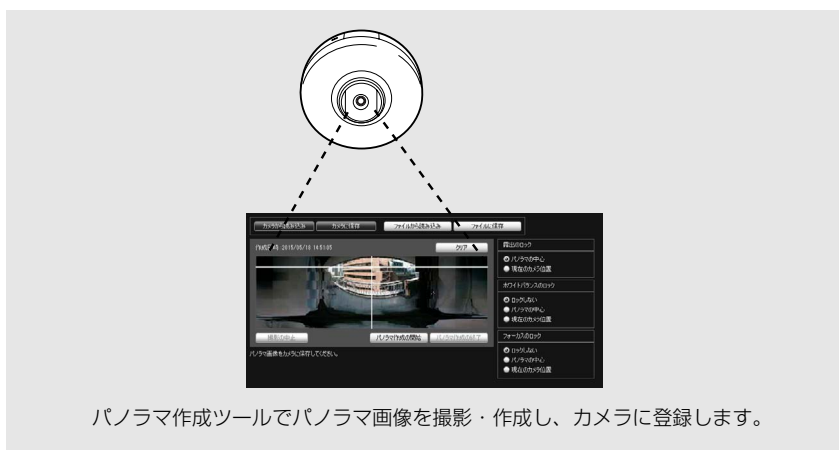
削除のしかた

削除したいプライバシーマスク領域を選択し、[カメラから削除] をクリックします

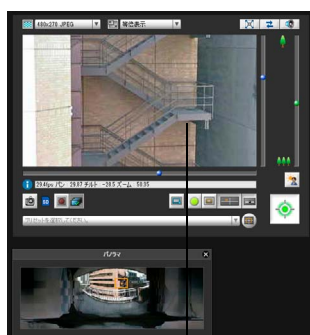
カメラに保存されたプライバシーマスク領域が削除されます。



カメラが撮影可能な全領域を表示するパノラマ画像の撮影・作成ツールです。ビューワーでパン・チルト・ズーム操作を行う際やプリセットの設定などを行う際に、設定した領域が、全領域のどの部分を占めているのかが一目でわかります。



管理者ビューワー



プリセット設定ツール



表示している領域が、全領域のどの部分を占めているのかが一目でわかります。

重要

プライバシーマスク設定ツールでプライバシーマスクの設定を変更した場合、パノラマ画像に新しいプライバシーマスク設定を反映させるため、パノラマ画像の再作成をお勧めします。

パノラマ作成ツールの表示画面について



- ① [カメラから読み込み]
カメラに保存されているパノラマ画像を表示します。
- ② [カメラに保存]
現在表示されているパノラマ画像をカメラに保存します。
- ③ [ファイルから読み込み]
JPEG ファイルをパノラマ画像として表示します。
- ④ [ファイルに保存]
現在表示されているパノラマ画像を JPEG ファイルとして保存します。
- ⑤ 作成日時
パノラマ画像の撮影日時、または JPEG ファイルからパノラマ画像を読み込んだ日時を表示します。
- ⑥ [クリア]
現在表示されているパノラマ画像を削除します。
- ⑦ パノラマ画像表示領域
パノラマ画像を表示します。
- ⑧ [撮影の中止]
パノラマ画像の撮影を中止します。
- ⑨ [パノラマ作成の開始]
パノラマ画像の撮影を開始します。
- ⑩ [パノラマ作成の終了]
撮影したパノラマ画像を確定します。
- ⑪ ステータス表示
[撮影中...] など、パノラマ画像撮影時の状態などを表示します。
- ⑫ [露出のロック]
自動露出のロック位置を [パノラマの中心]、[現在のカメラ位置] から選択します。

- ⑬ [ホワイトバランスのロック]
ホワイトバランスの設定を [ロックしない]、[パノラマの中心]、[現在のカメラ位置] から選択します。
- ⑭ [フォーカスのロック] S30
フォーカスの設定を [ロックしない]、[パノラマの中心]、[現在のカメラ位置] から選択します。

パノラマ画像を撮影する

1 [パノラマ作成の開始] をクリックする

撮影が開始されます。
必要に応じて、事前に [露出のロック]、[ホワイトバランスのロック]、[フォーカスのロック] (VB-S30D のみ) の設定を変更してください。



途中で撮影を中止したい場合は [撮影の中止] をクリックします。



パノラマ画像にマウスのポインターを合わせると、白い格子枠が表示されます。枠内にポインターを合わせ、右クリックして [再撮影] を選択すると、その部分のみ撮影し直すことができます。



パノラマ画像全体を撮影し直す場合は、再度 [パノラマ作成の開始] をクリックします。

メモ

- パノラマ画像の作成中は、次のユーザーの接続は切断されます。
 - 管理者以外のユーザー
 - RTPで接続していないユーザー
- 設定ページの [映像] > [JPEG] の [最大フレームレート：映像送信] の値を小さく設定すると、パノラマ撮影が遅くなります。

2 撮影が完了し、その画像でよければ [パノラマ作成の終了] をクリックする

パノラマ画像をカメラに保存/削除する

パノラマ作成が終了したら、カメラに送信してパノラマ画像を保存することで、画像が反映されます。

保存のしかた

[カメラに保存] をクリックし、表示されたダイアログで [OK] をクリックします

パノラマ画像がカメラに保存されます。



削除のしかた

1 カメラに保存したパノラマ画像を削除したい場合は、[クリア] をクリックする



パノラマ画像表示領域の画像がクリアされます。

2 [カメラに保存] をクリックし、表示されるダイアログで [OK] をクリックする

カメラに保存されたパノラマ画像が削除されます。

パノラマ画像を画像ファイルとして保存する/画像ファイルから開く

撮影したパノラマ画像を画像ファイルとして保存したり、画像ファイルをパノラマ画像として開いたりできます。扱う画像ファイルはパノラマ作成ツールで作成したJPEG画像のみです。

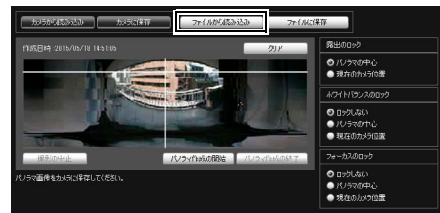
保存のしかた

[ファイルに保存] をクリックし、表示されたダイアログで、保存するフォルダを選択し、ファイル名を入力します

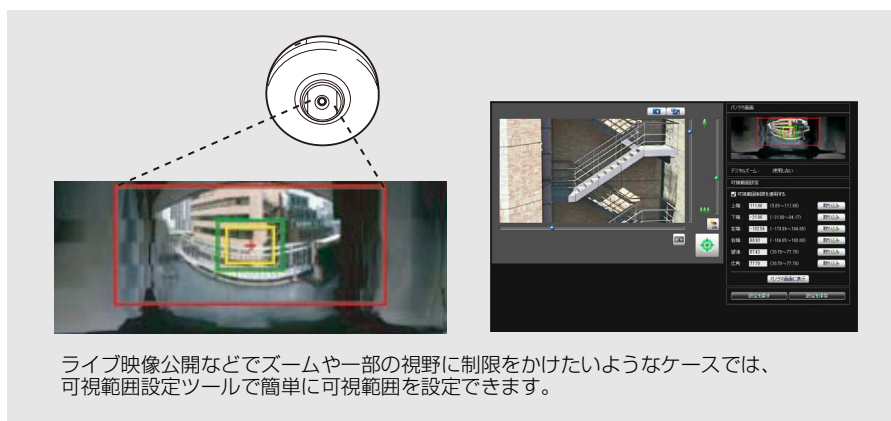


画像ファイルからの開きかた

[ファイルから読み込み] をクリックし、表示されたダイアログで、使用したい画像ファイルを選択します



可視範囲設定ツールは、カメラで撮影できる範囲を制限するツールです。可視範囲設定を行った場合は、ビューワーで表示可能な撮影範囲を制限できます。



[可視範囲設定による制限の適用]

可視範囲設定ツールによる制限は次の場合に適用されます。

- 登録ユーザー権限で管理者ビューワーにアクセスした場合
- VBビューワーにアクセスした場合
- インテリジェント機能設定ツールでアクセスした場合
- RM-Liteでアクセスした場合

可視範囲設定ツールの表示画面について



① 映像表示部

現在のカメラ映像が表示されます。
カメラのパン・チルト・ズームなどの操作は、管理者ビューワーと同じです。詳しくは、「ビューワーの操作方法」(P. 125) を参照してください。

② [マウス操作切換] ボタン

ボタンをクリックすると、 に切り換わります。この状態で映像表示部にマウスのポインターを移動してクリックすると、パン・チルト操作ができます。ボタンをもう一度クリックすると に戻ります。

③ [画面サイズ切換] ボタン

ボタンをクリックするたびに、映像表示部のスクリーンサイズが「480 x 270」または「960 x 540」に切り換わります。

④ [カメラ制御権取得/解放] ボタン

カメラ制御権を取得/解放するためのボタンです。詳しくは、「カメラ制御権の取得」(P. 127) を参照してください。

⑤ [管理者コントロール] ボタン

管理者コントロールパネル (P. 119) を表示します。

⑥ [パノラマ画面]

カメラに登録されているパノラマ画像が表示されます。また、可視範囲設定値を再現した可視範囲制限プレビュー枠が表示され、ドラッグ操作で枠の変形を行い、可視範囲設定値に反映できます。

• 可視範囲制限プレビュー枠

- ⑥-1 パン・チルトプレビュー枠 (赤色枠)
..... 上・下・左・右端の視野の範囲
- ⑥-2 広角プレビュー枠 (緑色枠)
..... 広角制限設定 (撮影枠の制限)

⑥-3 望遠プレビュー枠 (黄色枠)

..... 望遠制限設定 (最大倍率の制限)

⑦ [デジタルズーム]

現在のカメラのデジタルズームの使用状態をリアルタイムで表示します。

⑧ [可視範囲制限を適用する]

可視範囲制限を使用する場合は、チェックボックスをチェックします。

⑨ 可視範囲設定値入力ボックスおよび [取り込み]

可視範囲設定値入力ボックスに数値を入力することで設定値を変更できます。[取り込み] をクリックすると、現在のカメラアングルの値が可視範囲の設定値として取り込まれます。

• 可視範囲設定値

[上端]：可視範囲の上端限界値。[取り込み] をクリックすると、現在のカメラアングルの上端値を取り込みます。

[下端]：可視範囲の下端限界値。[取り込み] をクリックすると、現在のカメラアングルの下端値を取り込みます。

[左端]：可視範囲の左端限界値。[取り込み] をクリックすると、現在のカメラアングルの左端値を取り込みます。

[右端]：可視範囲の右端限界値。[取り込み] をクリックすると、現在のカメラアングルの右端値を取り込みます。

[望遠]：可視範囲の望遠限界値。[取り込み] をクリックすると、現在のカメラアングルのズーム値を取り込みます。

[広角]：可視範囲の広角限界値。[取り込み]をクリックすると、現在のカメラアングルのズーム値を取り込みます。

⑩ [パノラマ画面に表示]

現在の可視範囲の設定をパノラマ画面に適用します。この時点ではカメラに設定値は保存されません。必ず[設定を保存]を行ってください。

⑪ [設定を戻す]

ツール画面上で設定した内容を破棄し、カメラに保存されている設定内容に戻します。

⑫ [設定を保存]

設定した可視範囲設定をカメラに保存します。可視範囲設定を行った際は、必ず[設定を保存]でカメラに保存してください。

可視範囲を設定する

可視範囲は、可視範囲設定値入力ボックスに数値を入力するか、パノラマ画面の可視範囲制限プレビュー枠から、または映像表示部のカメラアングルから設定値を変更できます。お使いの環境または目的に応じて選択してください。

■ パノラマ画像上のプレビュー枠を利用して、可視範囲を設定する

1 [可視範囲制限を適用する] をチェックする



2 パノラマ画面の上に表示された[パン・チルトプレビュー枠(赤色枠)]、[望遠プレビュー枠(黄色枠)]、[広角プレビュー枠(緑色枠)]をドラッグして変形し、可視範囲を設定する

望遠・広角プレビュー枠は拡大・縮小の際、縦横比は一定になります。

このとき、可視範囲設定値入力ボックスに数値を入力して設定することもできます。可視範囲設定値を調整した場合は、[パノラマ画面に表示]をクリックしてください。設定値がパノラマ画面のプレビュー枠に反映されます。

3 [設定を保存] をクリックする



正しく適用されたことを確認して、[設定を保存]をクリックすると、カメラに設定値が保存されます。

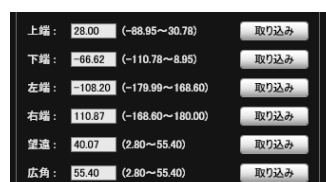
■ 映像表示部の映像から位置情報を取り込んで設定する

1 [可視範囲制限を適用する] をチェックする

2 [カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして、カメラの制御権を取得する

3 カメラを操作し、上端・下端・左端・右端・望遠・広角を設定したい位置に合わせて、各[取り込み]をクリックする

取り込まれた可視範囲は可視範囲設定値入力ボックス、または可視範囲制限プレビュー枠で確認できます。



4 [設定を保存] をクリックする

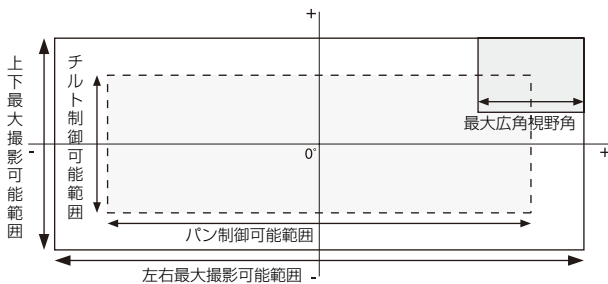
カメラに設定値が保存されます。

📖 重要

- カメラの設置方法の設定を変更した場合は、パノラマ画像を撮影し直して再登録してください。
- 設定ページの[映像] > [映像サイズセット]を変更した場合は、可視範囲設定を見直してください。
- パノラマ画面は実際の映像と若干異なる場合があります。可視範囲設定を行ったのち、必ずVBビューワーで可視範囲設定が正しく反映されているかどうかの確認を行ってください。
- 設定の確認はVBビューワーで行ってください(本ツールの映像表示部や、管理者ビューワーでは可視範囲制限が適用されません)。
- デジタルズームの設定を変更した場合は、可視範囲設定を再度確認してください。

メモ

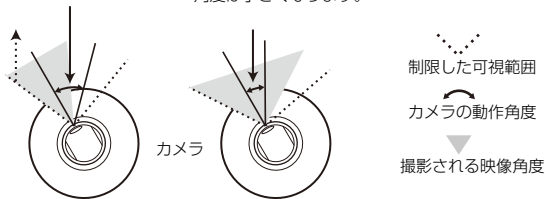
- 可視範囲設定をしていても、可視範囲の境界付近にカメラを制御した場合、一瞬可視範囲外が映り込むことがあります。
- 可視範囲設定を解除したい場合は、[可視範囲制限を適用する]のチェックを外して、[設定を保存] をクリックします。
- [可視範囲制限を適用する] をチェックした状態で設定値を空欄にすると、最大可視範囲が設定されます。
- 制御可能範囲と撮影可能範囲は次のようになっています。



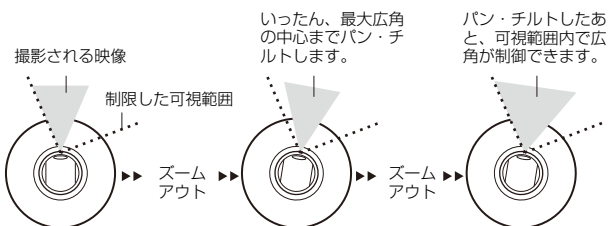
- パンおよびチルトの範囲はズーム倍率 (視野角) によって変わります。

可視範囲を設定すると、自動的にカメラの動作角度が制限されます。

広角にした場合、カメラの動作角度がそのままだと、可視範囲を越えて撮影してしまうので、自動的に動作角度は小さくなります。



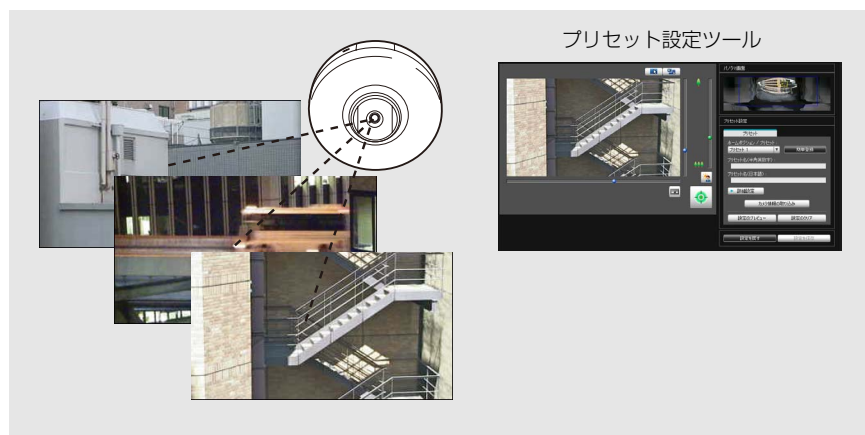
- ズームを広角側に制御することで可視範囲を超えてしまう場合は、カメラはいったん、ワイド端が可視範囲内に収まる位置までパン・チルトします。その後、可視範囲内で広角側の制御が可能となります。



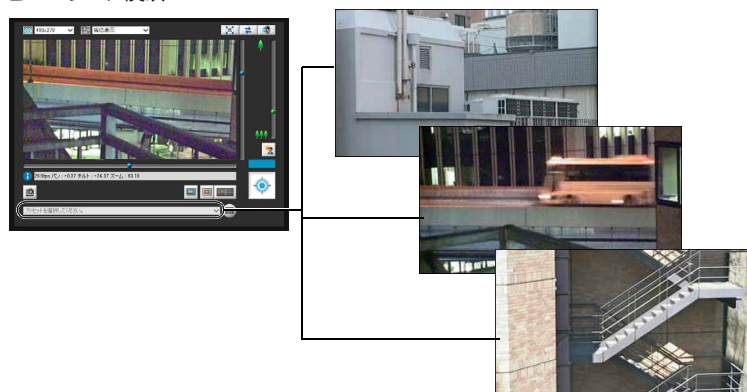
- 可視範囲を狭くするとそれに伴ってズームの範囲も狭くなることがあります。

プリセット設定ツール

プリセットやホームポジションを、より視覚的に容易に設定できるツールです。パノラマや全体画像によるプレビューを参照しながら、最大64個 (VB-S30D/VB-S31D) のプリセットと、ホームポジションの設定が行えます。



ビューワーに反映



重要

S30 S31

- インテリジェント機能を使用するときは、プリセット設定ツールを使用して、インテリジェント機能に使用するカメラ位置をプリセットとして登録しておくことを強く推奨します。
- カメラアングルは、カメラの再起動時に次のように移動します。
ホームポジション設定時：設定されたホームポジションに移動
ホームポジション未設定時：工場出荷設定のホームポジションに移動

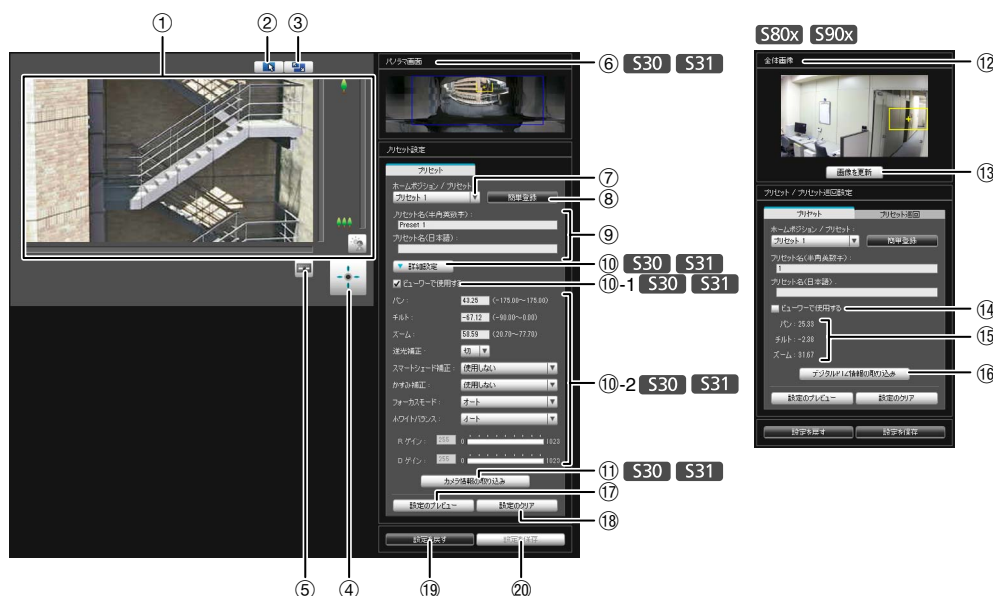
S30

- デジタルズーム領域で登録したプリセットを使用すると、登録時のカメラ位置を高い精度で再現できない場合があります。そのため、インテリジェント機能では、光学ズーム領域で登録したプリセットの使用を推奨します。

S80x S90x

- プリセット設定ツールで設定されたプリセットは、インテリジェント機能では使用できません。

プリセット設定ツールの表示画面について



① 映像表示部

現在のカメラ映像が表示されます。
カメラのパン・チルト・ズームなどの操作は、管理者ビューワーと同じです。詳しくは、「ビューワーの操作方法」(P. 125) を参照してください。

② [マウス操作切換] ボタン

ボタンをクリックすると、**+** に切り換わります。この状態で映像表示部にマウスのポインターを移動してクリックすると、パン・チルト操作ができます。ボタンをもう一度クリックすると **+** に戻ります。

③ [画面サイズ切換] ボタン

ボタンをクリックするたびに、映像表示部のスクリーンサイズが「480 x 270」または「960 x 540」に切り換わります。

④ [カメラ制御権取得/解放] ボタン

カメラ制御権を取得/解放するためのボタンです。詳しくは、「カメラ制御権の取得」(P. 127) を参照してください。

⑤ [管理者コントロール] ボタン

管理者コントロールパネル (P. 119) を表示します。

⑥ [パノラマ画面] S30 S31

カメラに登録されているパノラマ画像が表示されます。プリセット設定値を再現したプリセットプレビュー枠(黄色)が表示され、ドラッグ操作で枠のサイズ変更・移動を行い、プリセット設定値に反映できます。また、可視範囲制限の設定がある場合は、その領域が青色枠で表示されます。

⑦ [ホームポジション/プリセット] 選択ボックス

設定を行うプリセットまたは [ホームポジション] の選択をします。

⑧ [簡単登録]

現在のカメラの位置を取り込んでプリセット設定値として登録します。

⑨ [プリセット名(半角英数字)]/[プリセット名(日本語)]

プリセット名を64文字以内で入力できます。半角英数字と日本語の名称が設定できます。半角英数字のプリセット名は必ず入力してください。半角英数字と日本語を両方入力した場合、ビューワーのプリセットには日本語が優先で表示されます。

⑦で [ホームポジション] を選択した場合は、グレー表示になります。

[プリセット名(半角英数字)] には、ASCII文字 (スペースまたは印字可能文字) が使用できます。

[プリセット名(日本語)] には、JIS X 0208-1990に含まれる文字が使用できます。

⑩ [詳細設定] S30 S31

詳細設定の項目を表示します。

⑩-1 [ビューワーで使用する] チェックボックス S30 S31

ビューワーでプリセットを使用する場合はチェックボックスをチェックします。⑦で [ホームポジション] を選択した場合は、グレー表示になります。

⑩-2 カメラパラメーター S30 S31

[パン]、[チルト] でセットしたいアングルの中心の角度を入力してください。[ズーム] は視野角を入力してください。

・カメラアングル

[パン]・・・カメラのパン位置を設定します。

[チルト]・・・カメラのチルト位置を設定します。

[ズーム]・・・カメラの画角を設定します。

- **[逆光補正]**
カメラの逆光補正を [切]、[入] から選択します。
[スマートシェード補正] に [オート] が設定された場合はグレー表示になります。
- **[スマートシェード補正]**
カメラのスマートシェード補正を [切]、[1] (弱) ~ [7] (強) の7段階、または [オート] から選択します (P. 138)。
- **[かすみ補正]**
カメラのかすみ補正を [使用しない]、[1] (弱) ~ [7] (強) の7段階、または [オート] から選択します (P. 138)。
- **[フォーカスモード] S30**
カメラのフォーカスモードを [オート]、[マニュアル]、[無限遠固定]から選択します (P. 138)。
- **[ホワイトバランス]**
ホワイトバランスを [オート] または使用状況の光源に合わせて選択します。光源の詳細はP. 40を参照してください。
- **[R ゲイン] [B ゲイン]**
[ホワイトバランス] が [マニュアル] の場合、ゲイン値をそれぞれ0~1023の間で設定します。

⑪ **[カメラ情報の取り込み] S30 S31**

現在の映像表示部でのカメラアングルおよびその他の設定を取り込み、パノラマ画面やカメラパラメーターの各値に反映します。

⑫ **[全体画像] S80x S90x**

カメラから取得した全体画像を表示します。プリセット設定値を再現したプリセットプレビュー枠 (黄色) が表示され、ドラッグ操作で枠のサイズ変更・移動をすることでプリセット設定値に反映できます。

⑬ **[画像を更新] S80x S90x**

現在のカメラからの全体画像を取得し、更新します。

⑭ **[ビューワーで使用する] チェックボックス S80x S90x**

ビューワーでプリセットを使用する場合はチェックボックスをチェックします。⑦でホームポジションを選択した場合はグレー表示になります。

⑮ **カメラパラメーター S80x S90x**

[全体画像] 上のプリセットプレビュー枠の大きさと位置に応じた、パン・チルト位置とズーム視野角の値が表示されます。

⑯ **[デジタルPTZ情報の取り込み] S80x S90x**

現在、映像表示部に切り出されている位置を取り込み、[全体画像] のプリセットプレビュー枠とカメラパラメーターに反映します。

⑰ **[設定のプレビュー]**

編集集中のカメラパラメーターの各値に従って、映像表示部にプレビューします。

⑱ **[設定のクリア]**

選択しているプリセットの設定を、破棄します。

⑲ **[設定を戻す]**

ツール画面上で設定した内容を破棄し、カメラに保存されている設定内容に戻します。

⑳ **[設定を保存]**

編集したプリセット設定値をカメラに保存します。
プリセット設定を行った際は、必ず [設定を保存] でカメラに保存してください。

プリセットを設定する

プリセットやホームポジションは、次の方法で設定できます。お使いの環境または目的に応じて選択してください。

メモ

登録できるプリセット数は次のとおりです。

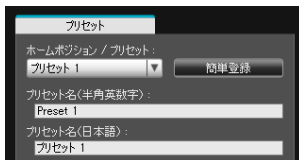
– S30 S31 最大64個

– S80x S90x 最大20個

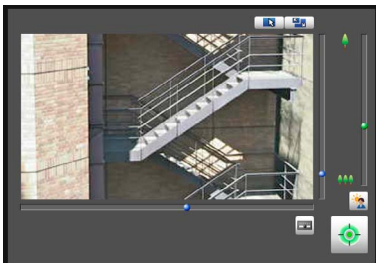
■ 映像表示部のカメラアングルから設定する

1 設定するプリセットを [ホームポジション/プリセット] 選択ボックスから選択し、[プリセット名] を入力する

プリセット名 (半角英数字) は必ず入力してください。



2 [カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして、カメラの制御権を取得する



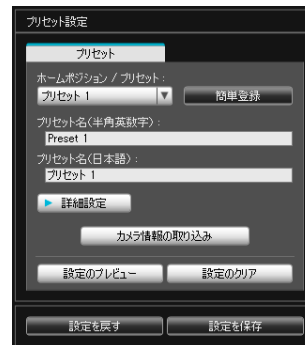
3 映像表示部でカメラを操作し、設定したい位置に合わせて、[簡単登録] をクリックする

■ パノラマ画面のプレビュー枠を利用して、プリセットを設定する S30 S31

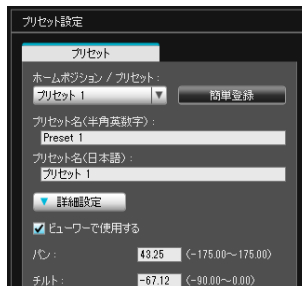
パノラマ画面のプレビュー枠を利用して、プリセットを設定します。

1 設定するプリセットを [ホームポジション/プリセット] 選択ボックスから選択し、[プリセット名] を入力する

プリセット名 (半角英数字) は必ず入力してください。



2 [詳細設定] をクリックして [ビューワーで使用する] チェックボックスをチェックする



3 パノラマ画面の上に表示されたプリセットプレビュー枠 (黄色) をドラッグして移動・変形してプリセットを設定する



パノラマ画面上をクリックすると、その地点を中心とするようにプレビュー枠が移動します。

4 [設定のプレビュー] をクリックする

設定が映像表示部に反映されます。

設定値を誤ってプレビューした場合など、カメラに登録された設定値に戻りたい場合は、[設定を戻す] をクリックします。

5 [設定を保存] をクリックする

■ デジタルPTZ機能を利用して設定する

S80x S90x

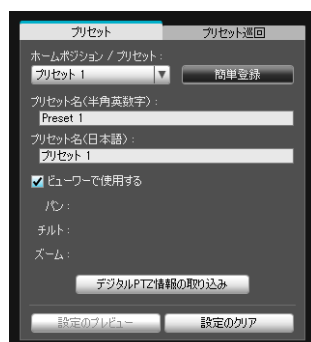
デジタルPTZ機能を利用して、カメラが撮影可能な領域の一部をプリセットとして設定できます。

1 設定するプリセットを [ホームポジション/プリセット] 選択ボックスから選択し、[プリセット名] を入力する

プリセット名 (半角英数字) は必ず入力してください。



2 [ビューワーで使用する] チェックボックスをチェックする



3 [全体画像] に表示されたプリセットプレビュー枠 (黄色) の位置または大きさを変更して、プリセット位置を設定する

全体画像上をクリックすると、その位置を中心とするようにプレビュー枠が移動します。



4 [設定のプレビュー] をクリックする

設定が映像表示部に反映されます。

設定値を誤ってプレビューした場合など、カメラに登録された設定値に戻したい場合は、[設定を戻す] をクリックします。

5 [設定を保存] をクリックする

メモ

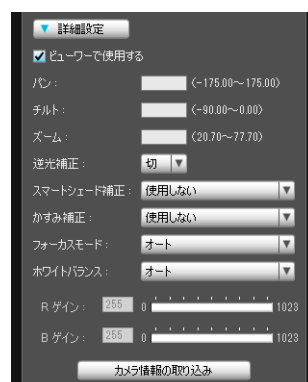
デジタルPTZは、カメラの映像のうち、指定された部分のみを配信する機能です。このため、ネットワークの負荷が軽減されます。

■ 詳細設定を行う

S30 S31

カメラアングルの微調整や、映像の調整を行う場合は、プリセットの設定をカメラに保存する前に [詳細設定] をクリックして設定します。

1 [ビューワーで使用する] チェックボックスをチェックする



2 [カメラ情報の取り込み] をクリックする

映像表示部でのカメラパラメーターが [詳細設定] に取り込まれます。

3 映像を見ながら、カメラアングルを微調整し、フォーカス (VB-S30Dのみ) やスマートシェード補正などの画質を調整する

4 [設定のプレビュー] をクリックする

設定がパノラマ画面のプレビュー枠および映像表示部に反映されます。

設定値を誤ってプレビューした場合など、カメラに登録された設定値に戻したい場合は、[設定を戻す] をクリックします。

5 [設定を保存] をクリックする

重要

- ビューワーでプリセットを使用するには、[ビューワーで使用する] チェックボックスをチェックしてください。
- カメラの設置条件を変更した場合は、プリセット設定をし直してください。
- 設定ページの [映像] > [映像サイズセット] を変更した場合は、プリセットの設定を見直してください。
- S30** [フォーカスモード] を [マニュアル] にする場合は、映像表示部で実際の映像を見ながらマニュアルでフォーカスの調整を行います。フォーカスの調整後、[カメラ情報の取り込み] で設定してください。[設定を保存] でフォーカス値が保存されます。

メモ

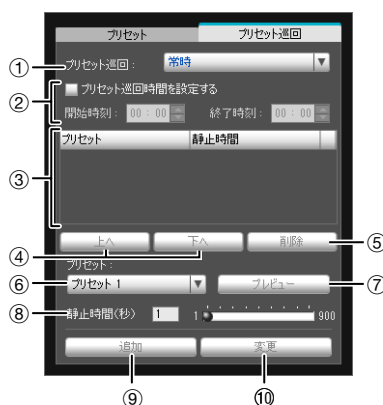
- プリセットの設定変更は、接続中のビューワーには反映されません。
- [詳細設定] の [ビューワーで使用する] のチェックを外すと、ビューワーでプリセットを使用しないようにできます。
- [スマートシェード補正] が [オート] の場合、[逆光補正] は使用できません。
- [スマートシェード補正] が [1] ~ [7] または [オート] の場合、[かすみ補正] は [使用しない] に設定されます。
- [かすみ補正] が [1] ~ [7] または [オート] の場合、[スマートシェード補正] は [使用しない] に設定されます。

プリセット巡回について

S80x S90x

すでに設定した複数のプリセットを巡回して監視を行う、プリセット巡回を設定します。

■ [プリセット巡回] タブの表示画面について



① [プリセット巡回] 選択ボックス

プリセット巡回を行うタイミングを次から選択します。

[使用しない]

プリセット巡回は作動しません。

[ビューワー接続中]

VB ビューワーなどでカメラに接続しているときに作動します。

[常時]

プリセット巡回は常に作動します。

② [プリセット巡回時間を設定する] チェックボックス

①で [ビューワー接続中] または [常時] を選択したとき、設定が有効になります。決まった時刻にプリセット巡回を行う場合はチェックボックスをチェックし、プリセット巡回の開始時刻と終了時刻を設定します。

③ 巡回スケジュール一覧

プリセット巡回設定をしたプリセットの一覧が表示されます。

④ [上へ]・[下へ]

巡回スケジュール一覧のプリセットを選択し、[上へ] または [下へ] をクリックすると、プリセット巡回の順序を変更します。プリセット巡回は上から順に行われます。

⑤ [削除]

巡回スケジュール一覧から選択したプリセットを削除します。

⑥ [プリセット] 選択ボックス

巡回スケジュール一覧に追加するプリセットを選択します。

⑦ [プレビュー]

カメラのアングルが、選択したプリセットに切り換わり、映像表示部で確認できます。

⑧ [静止時間 (秒)]

プリセット位置にカメラが停止する時間を設定します。
1 ～ 900 秒の範囲で1秒単位で設定できます。

⑨ [追加]

設定したプリセットを巡回スケジュール一覧に追加します。

⑩ [変更]

巡回スケジュール一覧から選択したプリセットの移動速度や、静止時間の設定を変更できます。

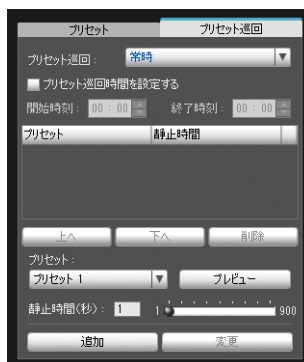
メモ

- ビューワーや管理ツールなどでカメラ制御が行われているときは、プリセット巡回は行われません。
- RM-Liteで制御権が取得されているときは、プリセット巡回は行われません。

■ プリセット巡回を設定する

1 [プリセット巡回] 選択ボックスから巡回方法を選択する

[ビューワー接続中] または [常時] を選択してください。



プリセット巡回時間を設定する場合

[プリセット巡回時間を設定する] チェックボックスをチェックします。

[開始時刻] と [終了時刻] を入力し、プリセット巡回を行う時間を設定します。

2 [プリセット] 選択ボックスから、巡回スケジュールに加えたいプリセット番号を選択し、[追加] をクリックする

巡回スケジュール一覧にプリセットが登録されます。
最大20個まで登録できます。



3 巡回スケジュール一覧でプリセットを選択してから、プリセットの動作を設定する



[静止時間 (秒)] で、プリセット位置で静止する秒数を設定できます。

[プレビュー] をクリックすると、カメラアングルがこのプリセットに切り換わり、映像表示部で確認できます。

4 [変更] をクリックする

巡回スケジュール一覧の内容を破棄し、カメラに登録された設定に戻りたい場合は、[設定を戻す] をクリックします。

5 [設定を保存] をクリックする

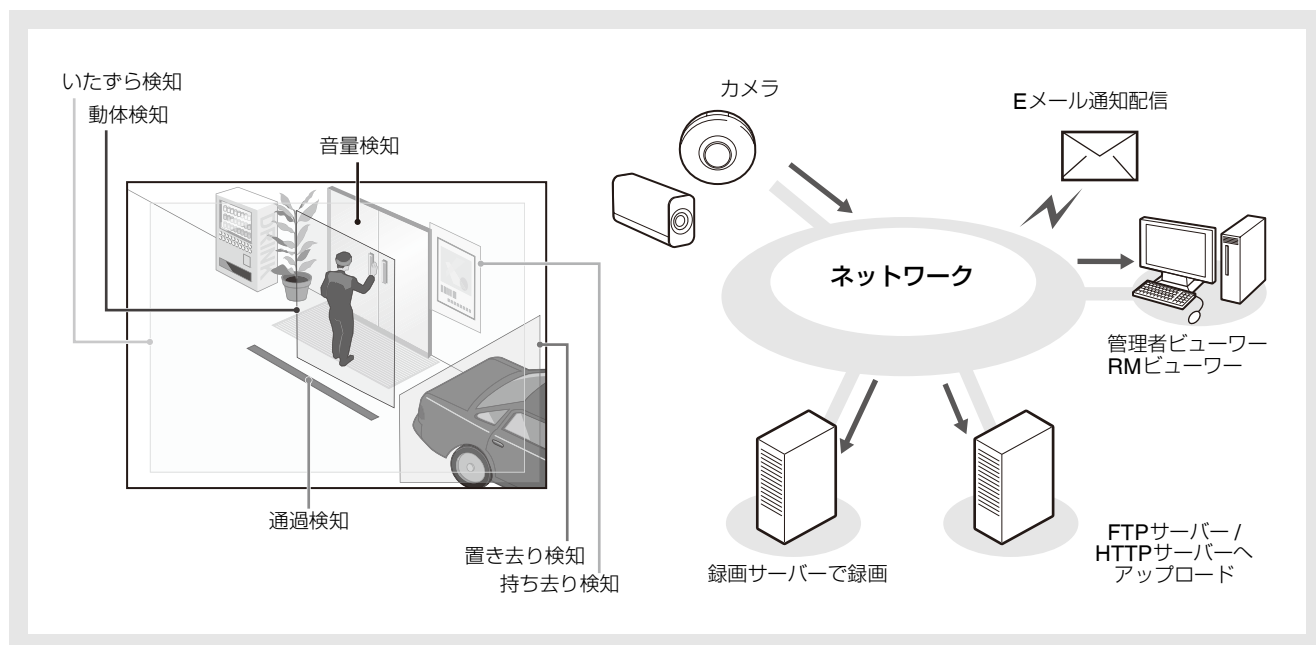
巡回スケジュール一覧の設定が完了したら、[設定を保存] をクリックしてください。カメラに設定値が保存されます。

メモ

ホームポジションを巡回スケジュール一覧に追加することはできません。

インテリジェント機能設定ツール

被写体が動くことで映像に変化があった場合、その時点でアップロード、ビューワーへの通知などを行うインテリジェント機能を設定するためのツールです。



インテリジェント機能には、次の6つの検知種別があります。目的に応じた検知種別を利用してください。

動体検知

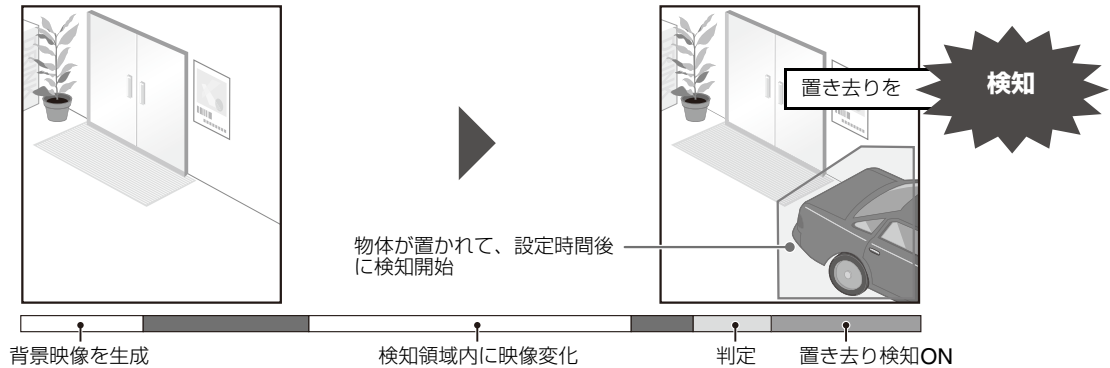
動いている物体を検知します。来訪者や不審者の検知に利用できます。
検知領域内に動く物体が入っている間、動体検知になります。



置き去り検知

持ち込まれた物体が一定時間以上、置かれたままであることを検知します。置き去りにされた不審物の検知に利用できます。

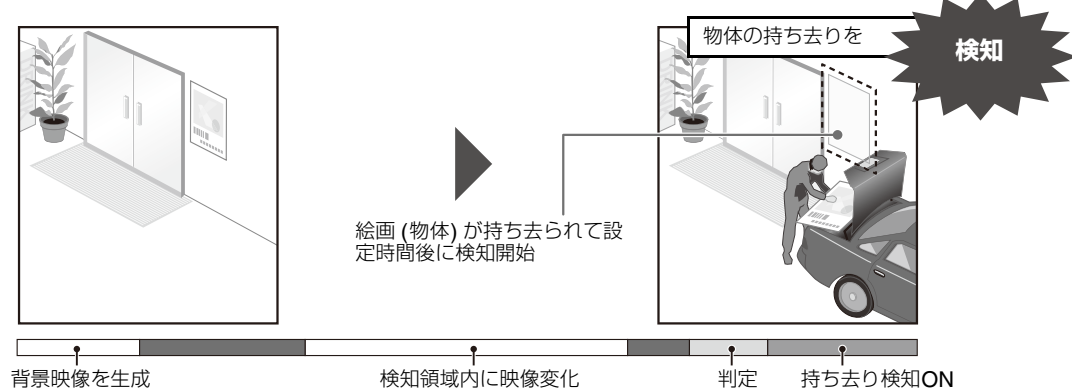
検知領域内に物体が置かれ、そのまま判定時間を経過すると、置き去りと判定します。



持ち去り検知

物体が持ち去られたことを検知します。貴重品などの持ち去り行為の検知に利用できます。

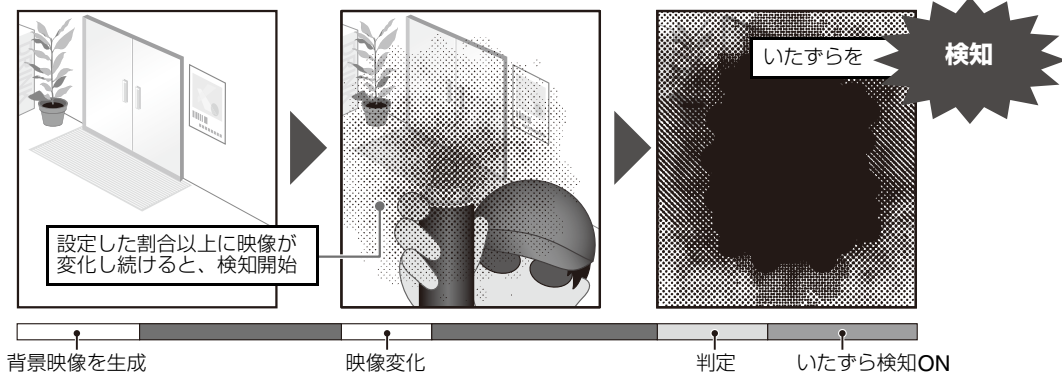
検知領域内の物体が持ち去られ、そのまま判定時間を経過すると、持ち去りと判定します。



いたずら検知

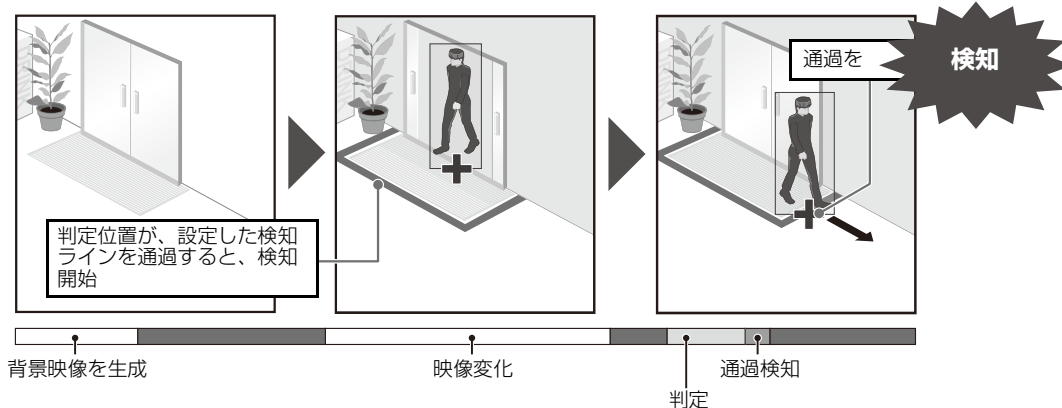
撮影が妨げられたことを検知します。カメラの向きを変えたり、スプレーなどで映像表示を妨害する行為の検知に利用できます。

設定した割合より広い領域が物体などで変化し続けると、いたずらと判定します。



通過検知

人や動いている物体が、指定されたラインを越えたことを検知します。
物体の検知枠上の判定位置が検知ラインを越えると、通過と判定します。



音量検知

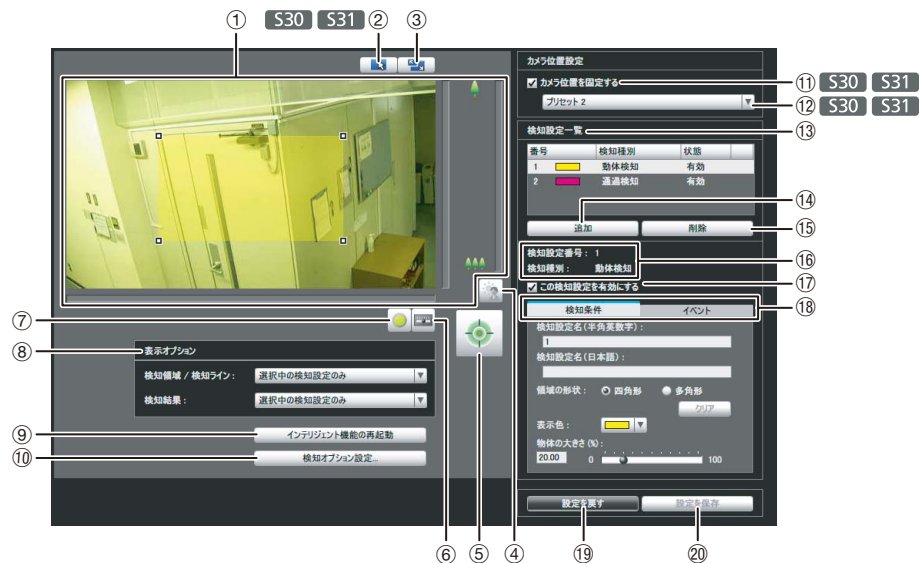
音量レベルの設定に従って検知します。設定の詳細は「3章 設定ページ」の[イベント]
> [音量検知] (P. 55) を参照してください。

注意

カメラご利用上の注意事項

インテリジェント機能は高い信頼性が求められる用途には適していません。監視などで常に高い信頼性が要求される用途では、使用しないことをお勧めします。インテリジェント機能の動作の結果生じた事故、損害などについて、弊社では一切の責任を負いかねます。

インテリジェント機能設定ツールの表示画面について



① 映像表示部

現在のカメラ映像が表示されます。検知領域は半透明の塗りつぶし(四角または多角形)で表示され、検知ラインは半透明の線分または折れ線で表示されます。また、動きが検知された被写体は検知ブロックと検知枠で表示されます。

S30 S31

カメラのパン・チルト・ズームなどの操作は、管理者ビューワーと同じです。詳しくは、「ビューワーの操作方法」(P. 125)を参照してください。

ただし、⑪ [カメラ位置を固定する] にチェックが付いているときは、カメラがプリセット位置に固定されパン・チルト・ズーム操作はできません。

② [マウス操作切換] ボタン **S30 S31**

ボタンをクリックするたびに と の間で切り換わり、映像表示部でのマウス操作が変わります。

ボタンが の状態のとき、検知領域の作成・サイズ変更・移動ができます。このとき、カメラの向きは変わりません。

ボタンが の状態で、⑪ [カメラ位置を固定する] にチェックが付いていないときに、カメラのパン・チルトなどの操作ができます。

③ [画面サイズ切換] ボタン

ボタンをクリックするたびに、映像表示部のスクリーンサイズが「480x270」または「960x540」に切り換わります。

④ [逆光補正] ボタン

逆光補正の入/切をします。映像が逆光で暗いときに使用すると効果があります。

⑤ [カメラ制御権取得/解放] ボタン

カメラ制御権を取得/解放するためのボタンです。詳しくは、「カメラ制御権の取得」(P. 127)を参照してください。管理者ビューワーなど他でカメラ制御権が取得されていなければ、インテリジェント機能設定ツールを起動した時点で、制御権は取得されます。

⑥ [管理者コントロール] ボタン

管理者コントロールパネル (P. 119) を表示します。

⑦ [イベント表示] ボタン

イベント表示パネル (P. 109) を表示します。

⑧ [表示オプション]

映像表示部に表示する [検知領域 / 検知ライン] または [検知結果] を次から選択します。

• [選択中の検知設定のみ]

[検知設定一覧] で選択している検知設定の検知領域 / 検知ラインまたは検知結果のみ表示します。

• [すべての検知設定]

[検知設定一覧] のすべての検知設定の検知領域 / 検知ラインまたは検知結果を表示します。

• [同じ検知種別の検知設定]

[検知設定一覧] で選択している検知設定と同じ種別の検知設定の検知領域 / 検知ライン、または検知結果を表示します。

• [表示しない]

すべての検知領域 / 検知ラインまたは検知結果を表示しません。

⑨ [インテリジェント機能の再起動]

設定中に背景の映像が変化してしまったときや、設定どおりの検知結果にならないときは、ボタンをクリックしてインテリジェント機能を再起動してください。
カメラ制御権を取得していない場合は、グレー表示になります。

重要

インテリジェント機能の再起動には数十秒かかります。再起動中は、検知が実行されません。

⑩ [検知オプション設定]

[検知オプション設定] ダイアログ (P. 108) を表示します。照明変化の影響を軽減する設定ができます。

⑪ [カメラ位置を固定する] チェックボックス

S30 S31

プリセット選択ボックスで選択したプリセットにカメラ位置を移動して固定する場合は、チェックボックスをチェックします。正しい検知結果を得るために、カメラ位置を固定して検知設定を行ってください。
カメラ制御権を取得していない場合、およびプリセット位置が設定されていない場合は、グレー表示になります。

⑫ カメラ位置選択ボックス **S30 S31**

カメラを固定する位置を、可視範囲内のプリセットおよびホームポジションから選択します。プリセットおよびホームポジションは、プリセット設定ツールで設定してください (P. 90)。

カメラ制御権を取得していない場合、[カメラ位置を固定する] チェックボックスがチェックされていない場合、および可視範囲内にプリセット位置が設定されていない場合、グレー表示になります。

⑬ [検知設定一覧]

設定した検知設定の一覧が表示されます。

⑭ [追加]

[新規検知設定] ダイアログが表示され、検知設定を追加できます。

⑮ [削除]

[検知設定一覧] から選択した検知設定を削除します。

⑯ [検知設定番号]、[検知種別]

[検知設定一覧] で選択している検知設定の番号および検知種別を表示します。

⑰ [この検知設定を有効にする] チェックボックス

[検知設定一覧] で選択している検知設定を有効にする場合は、チェックボックスをチェックします。

⑱ [検知条件] タブ/[イベント] タブ

検知条件タブとイベントタブの表示を切り換えます。

• [検知条件]

検知設定名、検知領域 / 検知ライン、検知条件を指定します (P. 104)。

• [イベント]

イベント発生時の動作を指定します (P. 105)。

⑲ [設定を戻す]

ツール画面上で設定した内容を破棄し、カメラに保存されている設定内容に戻します。

⑳ [設定を保存]

編集した検知設定をカメラに保存します。

検知設定を行った際は、必ず [設定を保存] でカメラに保存してください。

インテリジェント機能設定の流れ

インテリジェント機能は次の手順で設定します。設定方法の詳細については、各参照ページをご覧ください。



重要 **S80x S90x**

プリセット設定ツールで設定したプリセットは、インテリジェント機能の設定には使用できません。

■ カメラ位置の設定

S30 S31

1 プリセット設定ツールで、カメラのアングルをプリセット登録しておく

プリセット設定方法の詳細については、「プリセット設定ツール」 (P. 90) をご覧ください。

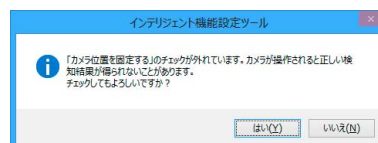


重要

あらかじめカメラのアングルをプリセット設定しておき、インテリジェント機能設定ツールでカメラをプリセット位置に固定することを強く推奨します。また、対象となる物体が大きく撮影される画角をお勧めします。

2 インテリジェント機能設定ツールを起動する

3 [はい] をクリックする



インテリジェント機能設定ツールの [カメラ位置を固定する] がチェックされます。

[いいえ] をクリックしたときは、[カメラ位置を固定する] をチェックします。



4 プリセットを選択する

■ インテリジェント機能の設定

1 検知設定を追加する

[検知設定一覧] の [追加] をクリックすると、[新規検知設定] ダイアログが表示されますので、追加する検知設定の [検知設定番号] と [検知種別] を設定して [OK] をクリックします。
最大15種類の検知設定を登録できます。



① [検知設定番号]

設定する検知領域の検知設定番号を1～15から指定します。

② [検知種別]

[動体検知]、[置き去り検知]、[持ち去り検知]、[いたずら検知]、[通過検知]から、目的に合った検知種別を選択します。種別の詳細はP. 98を参照してください。

2 検知設定を有効にする

検知設定を有効にする場合、[この検知設定を有効にする] をチェックします。
無効にしたいときはチェックを外してください。



3 検知条件を設定する ([検知条件] タブ P. 104)

映像表示部で操作、確認しながら、検知条件を設定します。

4 被写体の変化を検知したときの動作を設定する ([イベント] タブ P. 105)

5 検知設定をカメラに保存する

[設定を保存] をクリックして、設定した内容をカメラに保存します。

6 検知結果を確認する

設定した検知設定の検知状況は、イベント表示パネルのアイコンで確認できます (P. 143)。

重要

インテリジェント機能設定・運用上の注意

- インテリジェント機能を設定するにあたっては、実際に検知テストを行い、正しく検知できるか確認してください。
- 画面全体に急激な明暗の変化が発生した場合、最長5分間、意図通りに検知されないことがあります。
- デイモード/ナイトモードの切り換えが行われたときに [インテリジェント機能の再起動中] です。しばらくお待ちください。]と表示され、インテリジェント機能が再起動します。再起動中は検知が実行されません。
- インテリジェント機能の設定中や動作中にカメラ操作をした場合は、[インテリジェント機能の再起動中] です。しばらくお待ちください。]と表示され、インテリジェント機能が再起動します。再起動中は検知が実行されません。
- 設定ページの [映像] > [映像サイズセット] の変更を行った場合には、必ずプリセット位置の設定 (VB-S30D/VB-S31Dのみ) と、インテリジェント機能の設定を変更し、動作の確認を行ってください。設定によっては、インテリジェント機能が動作しない場合があります。

S30 S31

- カメラ操作で画角を変更した場合や、カメラ位置に固定しているプリセットやホームポジションをプリセット設定ツールで変更した場合は、インテリジェント機能設定を見直してください。
- カメラ位置固定時で、[検知設定一覧] の [状態] に [有効] な検知設定がある場合は、VBビューワーおよびRMビューワーでは制御権が取得できなくなります。また、カスタム設定の自動制御も実行されなくなります。

S30

- デジタルズーム領域で登録したプリセットを使用すると、登録時のカメラ位置を高い精度で再現できない場合があります。そのため、インテリジェント機能では、光学ズーム領域で登録したプリセットの使用を推奨します。

苦手被写体

- 背景との、明るさや色の違いが少ない物体および部分は、検知されない場合があります。
- 画面上の小さな物体や変化は、検知されない場合があります。
- 画面全体や一部の明るさの変化が、検知される場合があります。
- 複数の物体が重なると、検知状態が変化する場合があります。特に、通過が検知できなかったり、検知のタイミングが異なる場合があります。

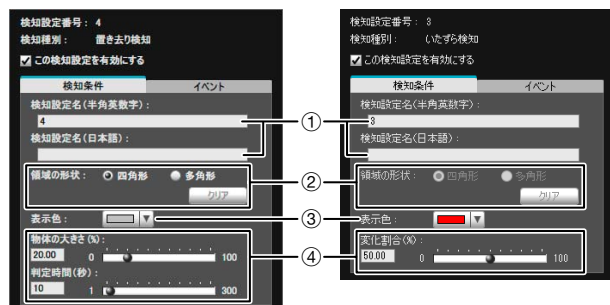
インテリジェント機能の検知設定をする

■ 検知条件を設定する（[検知条件] タブ）

検知条件を映像表示部で操作、確認しながら設定します。

[検知条件] タブ

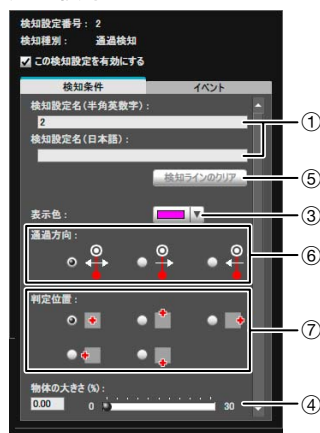
動体検知、置き去り検知、いたずら検知



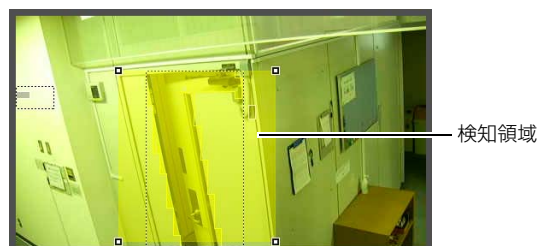
持ち去り検知



通過検知



映像表示部



① [検知設定名 (半角英数字)] / [検知設定名 (日本語)]

検知設定名を64文字以内で入力します。半角英数字の検知設定名は必ず入力してください。

[検知設定名 (半角英数字)] にはASCII文字 (スペースまたは印字可能文字) が使用できます。

[検知設定名 (日本語)] にはJIS X 0208-1990に含まれる文字が使用できます。

② [領域の形状]

映像表示部で設定する検知領域の形状を、[四角形] か [多角形] から選択します。

検知領域の設定操作については、「検知領域を設定する」(P. 105) を参照してください。

[簡単設定]

検知種別が [持ち去り検知] の場合に、検知領域を自動で描画します。

[クリア]

[領域の形状] が [多角形] の場合、映像表示部に設定した検知領域を削除します。

③ [表示色]

検知設定の色を選択します。ここで選択した色は、映像表示部の検知領域 / 検知ラインの表示色になります。

④ [物体の大きさ (%)] [変化割合 (%)] [判定時間 (秒)]

設定した検知領域に対する、検知した大きさや変化の割合、判定時間の下限値を設定します。ここで設定した値を超えたとき、検知あり状態となります。

テキストボックスをクリックして数値を直接入力するか、スライダーで設定します。

設定方法の詳細は「検知種別ごとの検知条件を設定する」(P. 106) を参照してください。

⑤ [検知ラインのクリア]

映像表示部に設定した検知ラインを削除します。

⑥ [通過方向]

動体の検知ラインに対する通過方向を選択します。

⑦ [判定位置]

動体が検知ラインを通過する際、動体のどの位置で通過と判定するかを選択します。

重要

検知条件の設定は、できる限り実際の運用に近い状態で設定することをお勧めします。通過検知で対象とする被写体の検知枠が継続して表示されていることを、事前の検知テストで確認してご使用ください。

■ イベント時の動作を設定する ([イベント] タブ)

被写体の変化を検知したときの動作を設定します。

[イベント] タブ



① 動作のタイミングの指定 (複数指定可能)

[ONイベント時の動作] チェックボックス

チェックすると、検知ありの状態になったとき、

② [メール通報]、[映像記録] の設定に従った処理を行います。

[OFFイベント時の動作] チェックボックス

チェックすると、検知ありの状態が終了したとき、

② [メール通報]、[映像記録] の設定に従った処理を行います。

[検知あり状態時の動作] チェックボックス

チェックすると、検知ありの状態の続く間、② [メール通報]、[映像記録] の設定に従った処理を行います。

② イベント時の動作の指定 (複数指定可能)

[メール通報] チェックボックス

チェックすると、①で指定したタイミングでメール通報を行います。あらかじめ、設定ページの [アップロード] で、[メール通報] の設定をする必要があります (P. 51)。

[映像記録] チェックボックス

チェックすると、①で指定したタイミングで映像記録を行います。あらかじめ、設定ページの [イベント] で [映像記録動作] を設定する必要があります (P. 55)。

③ 外部デバイス出力の動作

[ONイベント時の外部デバイス出力] チェックボックス

ON イベント時の外部デバイス出力を有効にするときにチェックを入れ、動作 (アクティブまたはインアクティブ) を選択します。

[OFFイベント時の外部デバイス出力] チェックボックス

OFF イベント時の外部デバイス出力を有効にするときにチェックを入れ、動作 (アクティブまたはインアクティブ) を選択します。

■ 検知領域を設定する

検知領域は、映像表示部で設定します。



[四角形] で検知領域を設定する場合

映像表示部に四角形が表示されるので、その四角形を移動、リサイズして、検知する領域を設定します。



[多角形] で検知領域を設定する場合

最大32頂点の多角形の領域を指定できます。

映像表示部で多角形の頂点を順番にクリックします。すでに設定した頂点をもう一度クリックすると多角形が作成され、検知領域として設定されます。設定した領域をドラッグして移動もできます。



[簡単設定] で検知領域を設定する場合

[簡単設定] は [持ち去り検知] でのみ設定できます。



1 持ち去りを検知したい物体を、いったん映像表示部から外す

2 [インテリジェント機能の再起動] をクリックする

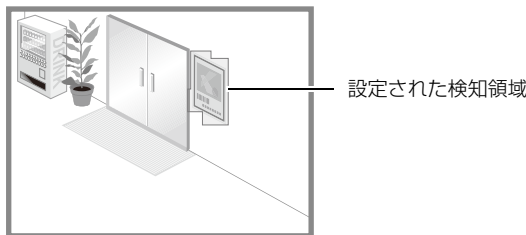
背景画像が生成されます。

3 持ち去りを検知したい物体を元の位置に戻す

4 [簡単設定] をクリックする

検知した物体の輪郭が最大32頂点の多角形で描画されます。

検知している物体が複数存在する場合は、面積が最も大きい物体の領域が描画されます。



5 再度 [インテリジェント機能の再起動] をクリックする

メモ

- 各頂点の■をドラッグすると多角形の形状を変更できます。
- [クリア] をクリックすると、多角形の検知領域はクリアされます。
- いたずら検知の検知領域は変更できません。

[四角形] から [多角形] への変更、および [多角形] から [四角形] への変更

すでに検知領域を設定していた場合、形状を変更すると領域が削除され、新しい描画設定に切り換わります。

■ 検知ラインを設定する

映像表示部で検知ラインを設定します。最大32頂点の折れ線による検知ラインの指定もできます。

映像表示部で検知ラインの始点をクリックしてから終端をクリックします。検知ラインを折れ線にするには、折れ線の頂点を順番にクリックします。

検知ラインを確定するには、すでに設定したいいずれかの頂点をクリックします。

検知ラインを確定した後でも、各頂点をドラッグして検知ラインの形状を変更したり、頂点間のラインをドラッグして検知ライン全体を移動できます。



メモ

- 各頂点の■をドラッグすると検知ラインの形状を変更できます。
- [検知ラインのクリア] をクリックすると、検知ラインはクリアされます。

■ 検知種別ごとの検知条件を設定する

検知種別によって、検知条件の設定内容が異なります。

[動体検知] の検知条件

動いている物体を検知したい領域を、検知領域に設定します。



[物体の大きさ (%)] には、検知領域に対する、検知領域内で動く物体の大きさの割合を、入力またはスライダーで設定します。

カメラが動体を検知した領域の割合が、[物体の大きさ (%)] の設定値を超えたとき、検知あり状態になります。

[物体の大きさ (%)] を変更すると、物体の大きさを表すインジケータ棒が、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定できます。



動きが検出されたすべての物体には輪郭が表示されます。[物体の大きさ (%)] より動体が小さい場合、輪郭は白の線で表示されます。[物体の大きさ (%)] より大きい動体の場合は、輪郭が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。

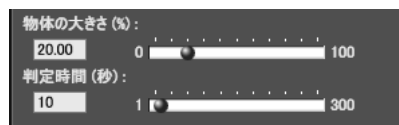


メモ

動体検知の検知領域内で置き去りまたは持ち去りが行われると、動体検知は「検知あり」状態になります。

[置き去り検知] の検知条件

物体が置かれたことを検知したい領域を、検知領域に設定します。



[物体の大きさ (%)]

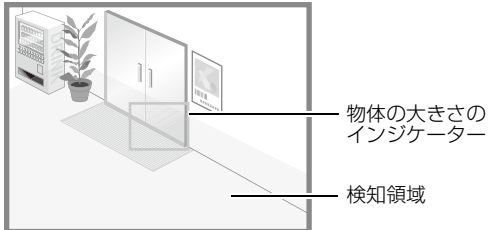
検知領域に対する、検知領域内に置かれた物体の大きさの割合を、入力またはスライダーで設定します。

[物体の大きさ (%)] を変更すると、物体の大きさを表すインジケータ 枠が、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定できます。

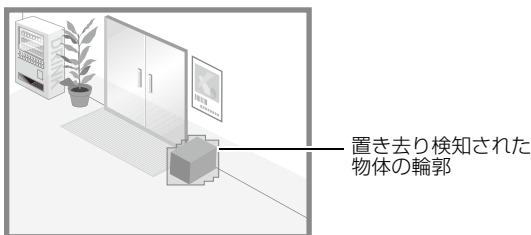
[判定時間 (秒)]

物体が置かれてからの経過時間を設定します。

[物体の大きさ (%)] と [判定時間 (秒)] の設定値を両方超えたとき、検知あり状態になります。



動きが検出されたすべての物体には輪郭が表示されます。
[物体の大きさ (%)] と [判定時間 (秒)] を満たさない場合、輪郭は白の線で表示されます。すべての検知条件を満たした場合、輪郭は検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。

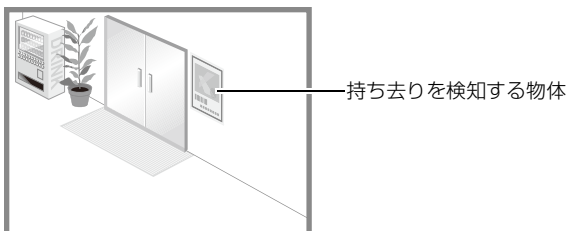


[持ち去り検知] の検知条件

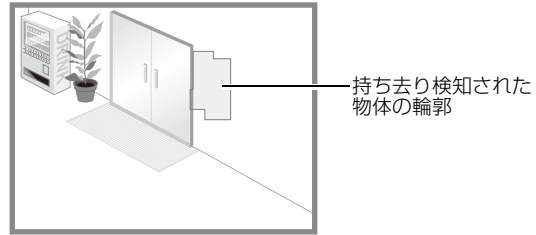
持ち去りを検知したい物体を検知領域に設定します。検知したい物体が複数ある場合は、それぞれに対し持ち去り検知を設定してください。



[判定時間 (秒)] には、持ち去られてからの経過時間を設定します。検知領域内の物体が持ち去られ、[判定時間 (秒)] 以上経過したとき、検知あり状態になります。



動きが検出されたすべての物体には輪郭が表示されます。
[判定時間 (秒)] 未満の間、輪郭は白の線で表示されます。
[判定時間 (秒)] 以上経過すると、輪郭が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。



重要

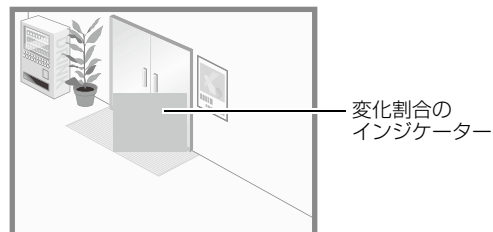
持ち去り検知の検知領域は、対象物の外形に沿って正確に設定してください。対象物の影や隣接する物体の影響で、対象物が実際より大きな物体として認識され、持ち去りを検知できない場合があります。その場合は、対象物と認識された輪郭に沿って、検知領域を再設定してください。また、[簡単設定]もあわせてご利用ください (P. 105)。

[いたずら検知] の検知条件

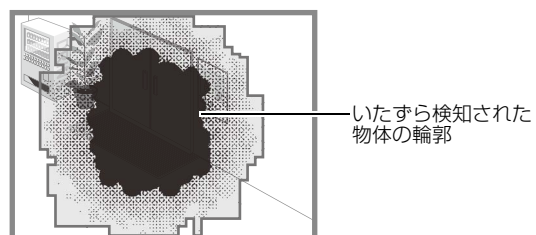
[いたずら検知] の場合は映像表示部全体が検知領域になります。[変化割合 (%)] で設定した割合を超える面積の映像変化があったときに「検知あり」と判定します。



[変化割合 (%)] を変更すると、映像表示部全体に占める割合を表すインジケータ 枠が、映像表示部中央に1秒間表示されるので、確認しながら設定できます。



動きが検出されたすべての物体には輪郭が表示されます。
[変化割合 (%)] 未満の大きさの場合、輪郭は白の線で表示されます。
[変化割合 (%)] 以上の大きさで映像が変化すると、輪郭が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。

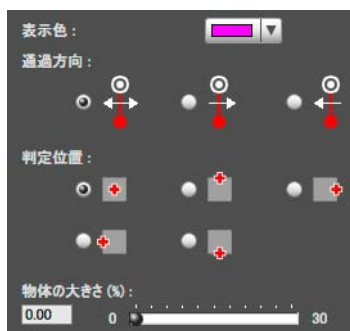


メモ

いたずら検知が設定された検知設定では、変化割合を変更した直後、および他の検知設定からいたずら検知が設定された検知設定に切り換えた直後の3秒間は検知あり状態になりません。

[通過検知] の検知条件

動体が通過する検知ラインを、その通過する方向と物体の判定位置で設定します。



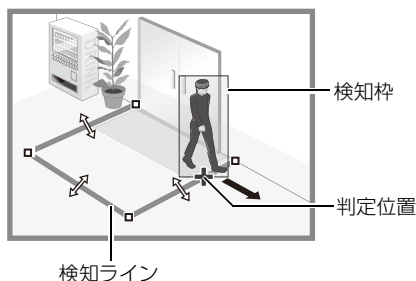
[通過方向]

検知ラインに対して動体が通過する方向を選択します。選択した通過方向と同じ方向で動体が検知ラインを越えたときに、「通過した」と検知されます。

選択した通過方向は、映像表示部の検知ライン上にプレビュー表示されます。

[判定位置]

検知ラインに対する動体の通過判定位置を選択します。ここで選択した判定位置が検知ラインを越えたときに、「通過した」と検知されます。映像表示部で検知枠に判定位置を示す十字マークが表示されます。

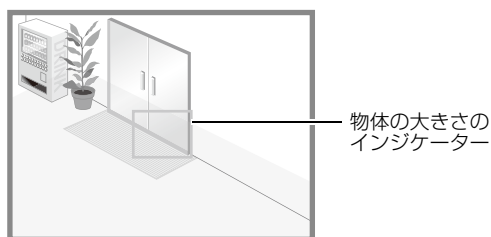


[物体の大きさ (%)]

画面全体に対する、動体の大きさの割合を、入力またはスライダーで指定します。

動体が、[物体の大きさ (%)] の設定値を超えたとき、通過検知対象となります。

[物体の大きさ (%)] を変更すると、物体の大きさを表すインジケータ枠が、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定できます。



重要

通過検知で対象とする被写体の検知枠が継続して表示されていることを、事前の検知テストで確認してご使用ください。

メモ

- 通過検知では、[物体の大きさ (%)] で指定できる割合は30%までです。
- 通過検知イベントが通知されるのは、通過の瞬間だけです。イベント時の動作を設定する際にご注意ください。

■ 右クリックメニューでの設定

インテリジェント機能設定ツールの画面上で右クリックするとメニューが表示され、次の機能が使用できます。

[検知領域 / 検知ラインをコピー]

設定中の検知設定の検知領域 / 検知ラインをコピーします。

[検知領域 / 検知ラインを貼り付け]

コピーされている検知領域 / 検知ラインを、設定中の検知設定に貼り付けます。いたずら検知には貼り付けられません。検知ラインはコピー元と貼り付け先がどちらも通過検知の場合のみ可能です。

[検知領域 / 検知ラインをクリア]

設定中の検知設定の検知領域 / 検知ラインをクリアします。いたずら検知ではクリアできません。

[検知条件の設定値をコピー]

設定中の検知設定の検知条件をコピーします。

[検知条件の設定値を貼り付け]

コピーされている検知条件を、設定中の検知設定に貼り付けます。コピー元と貼り付け先の検知種別が同一の場合のみ可能です。

[イベントの設定値をコピー]

設定中の検知設定のイベント内容をコピーします。

[イベントの設定値を貼り付け]

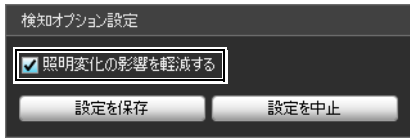
コピーされているイベント内容を、設定中の検知設定に貼り付けます。

■ 照明変化の影響を軽減する

室内照明の点灯・消灯など、画面全体の照明が急激に変化する場合、インテリジェント機能が働かないことがあります。検知オプションの設定を変更することで、この現象を軽減できることがあります。

1 [検知オプション設定] をクリックする

2 [照明変化の影響を軽減する] をチェックする



3 [設定を保存] をクリックする

重要

[照明変化の影響を軽減する] を設定しても、ご使用の環境によっては正しく働かないことがあります。また急激な明暗の変化が連続する場合も同様です。実際に検知テストを行い、正しく働くかご確認ください。

メモ

[検知オプション設定] を変更した場合、インテリジェント機能は再起動されるため、再起動が完了するまでの数十秒間は検知が実行されません。

■ イベントの状態を表示する

[イベント表示] ボタンをクリックすると、イベント表示パネルが表示され、インテリジェント機能の検知状況をアイコンで確認できます。



表示される情報は、管理者ビューワーのイベント表示パネルの [インテリジェント機能 (映像検知)] と同じです。詳しくは「イベントの状態を表示する」(P. 143) を参照してください。

メモ

検知設定をカメラに保存していない場合、現在選択中の検知設定についてのみ検知状況が表示されます。

ログビューワー

カメラの動作状況のログを閲覧できるツールです。

ログビューワーの表示画面について



① [ダウンロード]

カメラ本体またはメモリーカードからログファイルをダウンロードします。

② [再読み込み]

表示中のログファイルを再度読み込み、最新のログを表示します。

③ [前のファイル]

本体メモリーまたはメモリーカードのログファイルが複数に分かれている場合、表示中のログ一覧の前のファイルを読み込み、表示します。

④ [次のファイル]

カメラ本体またはメモリーカードのログファイルが複数ある場合、表示中のログ一覧の次のファイルを読み込み、表示します。

⑤ [ローカル ファイルを開く]

PCに保存されているログファイルをログ表示領域に読み込みます。

⑥ [ローカル ファイルに保存]

表示中のログデータをPCにテキストファイルで保存します。

⑦ [読み込み元]

ログファイルの読み込み元の名称が表示されます。

カメラ内蔵メモリーの場合：カメラ (本体メモリー)
メモリーカードの場合：カメラ (メモリーカード)
PCに保存されているファイルの場合：ファイル名

⑧ [コピー]

ログ表示領域上で選択したログを、クリップボードにコピーします。

⑨ [すべて選択]

ログ表示領域に表示されているすべてのログを選択します。

⑩ [すべてのログを表示する] チェックボックス

チェックすると、ログコードがないものも含めたすべてのログが表示されます。

⑪ ログ表示領域

カメラ、メモリーカード、またはPCから読み込んだログファイルの内容が表示されます。

⑫ [ログ種別]

フィルター機能で表示するログの種別を選択します。
[指定しない]：
ログの種別を指定しません。

[種別を指定する]：

ログのレベル ([エラー]、[警告]、[情報])、および、ログを出力したモジュール ([アプリケーション]、[HTTPサーバー]、[システム]) をチェックしてログの種別を指定します。複数チェックできます。

[コードを指定する]：

入力したログコードに該当するログが表示されます。

⑬ [日時]

フィルター機能で表示するログの日時を設定します。

[開始日時を指定する]/[終了日時を指定する] チェックボックスをチェックし、日時を設定してください。

⑭ [フィルターの適用]

フィルターを適用した結果をログ表示領域に表示します。

⑮ [検索する文字列]

検索する文字列を入力します。

⑯ [大文字と小文字を区別する] チェックボックス

検索時に大文字と小文字を区別するかどうかを指定します。チェックすると、[検索する文字列] と完全に一致する文字列を検索します。

⑰ [前へ]/[次へ]

⑱[検索] の検索結果から、[次へ] で下へ選択表示し、[前へ] で上へ選択表示します。

⑱ [検索]

表示中のログ一覧から、検索文字列を含むログを上から検索し、表示します。

 メモ

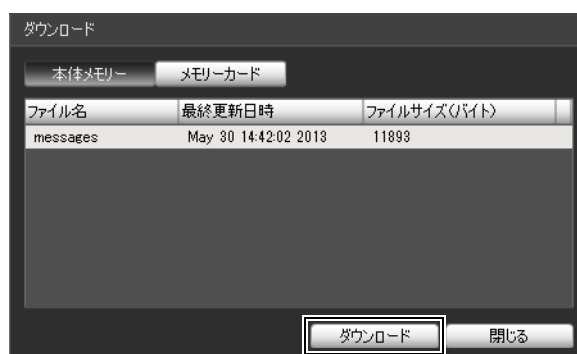
ログビューワーではログの削除はできません。

ログファイルをダウンロードする

ログビューワーを起動すると、自動的に最新のログファイルを取得し、表示します。

新たにログファイルの一覧を取得するには、[ダウンロード] をクリックします。[ダウンロード] ダイアログが表示されますので、ダウンロード元を [本体メモリー] または [メモリーカード] から選択します。

一覧の取得が完了すると、ログファイルの一覧をダイアログに表示します。閲覧したいログファイルを選択し、[ダウンロード] をクリックすると、選択したログファイルをダウンロードします。



ログを閲覧する

ログには次の内容が表示されます。

・コード

ログコードが表示されます。ログコードは「ログメッセージ一覧」(P. 152) を参照してください。

ログコードとともに、そのレベルに応じた3種類のアイコンが表示されます。

また、ログコードなしのログは、アイコンなしで表示されます。



エラーレベル



警告レベル



情報レベル

・日時

ログの発生日時が表示されます。

・メッセージ

ログのメッセージが表示されます。

 メモ

Windowsのコントロール パネルでの [地域と言語] の設定に関わらず、数値の小数点は常に「.」で表示されます。また、日付は「yyyy/mm/dd」または「mm/dd」、時刻は「hh:mm:ss」の形式で表示されます (y、m、d、h、m、sはそれぞれ、年、月、日、時、分、秒を表します)。

■ ログをファイルに保存 / 保存したファイルを開く

保存のしかた

[ローカル ファイルに保存] をクリックし、[名前を付けて保存] ダイアログで保存します。

閲覧のしかた

[ローカル ファイルを開く] をクリックし、[ファイルを開く] ダイアログでログファイルを選択します。

■ ログのコピーや検索

コピーのしかた

コピーしたいログをクリックで選択し、[コピー] をクリックします。

検索のしかた

[検索する文字列] に検索したい文字列を入力し、[検索] をクリックします。

検索対象のログが見つかったと、そのログが選択された状態で表示されます。

[前へ] / [次へ] をクリックすると、上または下のログを検索し、見つかったログの行が選択された状態で表示されます。



■ すべてのログを表示する

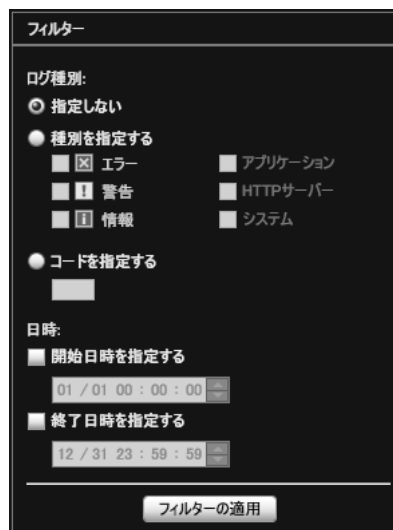
[すべてのログを表示する] チェックボックスをチェックします。

このとき、[フィルター] のログ種別で [指定しない] が選択されていると、ログコードなしのログも表示されます。

■ 条件でログを選別して表示する

ログの種別、コード、日時でフィルタリングし、必要な情報だけを表示できます。

次の条件を設定して [フィルターの適用] をクリックすると、設定した条件に合致するログのみ表示されます。



[ログ種別]

ログの種別でフィルタリングする場合は [種別を指定する] または [コードを指定する] をチェックします。また、フィルタリングしない場合は [指定しない] を選択します。

• 種別を指定する

ログのレベルを指定

[エラー]、[警告]、[情報] のレベルで、表示させるレベルをチェックします。

ログを出力したモジュールを指定

[アプリケーション]、[HTTPサーバー]、[システム] のモジュールで、表示させる出力元モジュールをチェックします。

• コードを指定する

ログのコードを指定します。入力された文字を含むコードのログのみを表示します。たとえば、「A0」と入力した場合、コードの先頭が「A0」のログを表示します。

[日時]

• [開始日時を指定する] チェックボックス
チェックし、日時を入力すると、指定された日時以降に発生したログが表示されます。

• [終了日時を指定する] チェックボックス
チェックし、日時を入力すると、指定された日時以前に発生したログが表示されます。

 重要

本体メモリーに保存されているログは、設定ページの [メンテナンス] > [初期設定に戻す] および [再起動]、カメラのリセットスイッチを実行すると、消去されます。

 メモ

[アプリケーション]、[HTTPサーバー]、[システム] はログメッセージ一覧 (P. 152) に対応しています。

録画映像ユーティリティ

メモリーカードに録画された映像を管理するユーティリティです。録画映像の再生、PCへのダウンロード、録画一覧の表示およびフィルタリングなどができます。

録画映像ユーティリティの表示画面について



① [映像一覧の更新]

映像一覧を最新の状態に更新します。

② [ダウンロード状態の更新]

映像のダウンロード状態を最新の状態に更新します。

③ [メモリーカードの詳細情報]

メモリーカードの詳細情報ダイアログを表示します。

④ [映像数]

映像一覧に表示されている件数を表示します。

⑤ [すべて選択]

映像一覧のすべての映像を選択状態にします。

⑥ [mov形式にエクスポート]

映像一覧で選択された [ダウンロード済み] の映像を、mov形式の動画ファイルにエクスポートします。

⑦ [H.264の再生を有効にする] チェックボックス

H.264 映像を [映像再生] エリアで再生する場合にチェックします (P. 117)。

⑧ 映像一覧

メモリーカードに録画されている映像、およびPCにダウンロードされた映像が一覧表示されます。

⑨ [カメラから削除]

映像一覧で選択された映像をメモリーカードから削除します。

⑩ [ダウンロード]

映像一覧で選択された映像を PC にダウンロードします。

⑪ [ダウンロード先]

映像のダウンロード先のフォルダを指定します。

⑫ [フィルター]

[フィルター] をクリックし、フィルター部を開閉します。映像一覧の表示内容を、条件を指定して絞り込みます (P. 115)。

⑬ [映像再生] エリア

映像一覧で選択された映像を再生します (P. 116)。

録画された映像を確認する



映像一覧には次の内容が表示されます。

[日時]

映像の録画日と時間帯が表示されます。

[映像フォーマット]

録画された映像のフォーマット ([JPEG] または [H.264]) が表示されます。

[録画種別]

録画された映像の種別 ([アップロード]、[録画ストリーム]、[手動]、[タイマー]、[イベント]) が表示されます。
[アップロード] はカメラからのアップロードに失敗した映像、[録画ストリーム] はRM録画ストリーム使用時の映像配信に失敗した映像です。

[カメラ内の映像]

メモリーカードに映像が残っているかどうかが表示されます。映像のダウンロード後に、メモリーカードから映像を削除した場合、この表示は [無] になります。

[ダウンロード状態]

映像のダウンロード状態 ([ダウンロード済み]、[未ダウンロード]、[一部ダウンロード済み]) が表示されます。



各カラムのヘッダをクリックすると、映像一覧がソートされます。

■ 最新の状態に更新する



[映像一覧の更新] をクリックすると、その時点での映像一覧に更新されます。

[ダウンロード状態の更新] をクリックすると、映像一覧のダウンロード状態の表示がその時点での最新の状態に更新されます。

映像を選択する

選択する映像をクリックします。CtrlキーやShiftキーの併用で複数の映像を選択できます。

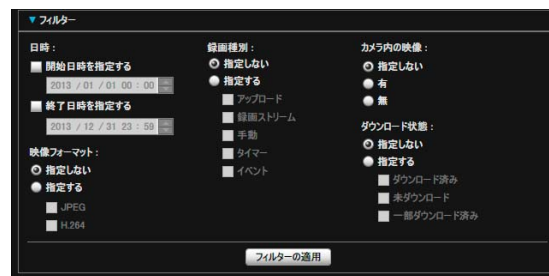


[すべて選択] ボタンをクリックすると、一覧のすべての映像が選択されます。

映像を絞り込む

[フィルター] で、映像一覧の表示を必要な映像だけに絞り込むことができます。

次の条件を指定して [フィルターの適用] をクリックすると、設定した条件に合致する映像のみ表示されます。



[日時]

• [開始日時を指定する] チェックボックス

チェックし、日時を入力すると、指定された日時以降に録画された映像が表示されます。

• [終了日時を指定する] チェックボックス

チェックし、日時を入力すると、指定された日時以前に録画された映像が表示されます。

[映像フォーマット]

[指定する] を選択し、映像フォーマットのチェックボックス ([JPEG] または [H.264]) をチェックします (複数選択可能)。

[録画種別]

[指定する] を選択し、映像の録画種別のチェックボックス ([アップロード]、[録画ストリーム]、[手動]、[タイマー]、[イベント]) をチェックします (複数選択可能)。

[カメラ内の映像]

[指定しない]、[有]、[無] から選択します。

[ダウンロード状態]

[指定する] を選択し、映像のダウンロード状態のチェックボックス ([ダウンロード済み]、[未ダウンロード]、[一部ダウンロード済み]) をチェックします (複数選択可能)。

映像をダウンロードする

メモリーカードに録画された映像を PC にダウンロードします。

1 [ダウンロード先] に、映像をダウンロードするフォルダを指定する

[参照] をクリックしてフォルダを指定できます。

2 映像一覧で、ダウンロードする映像を選択する

3 [ダウンロード] をクリックする

指定したフォルダに映像がダウンロードされます。

重要

録画映像ユーティリティは、PC にダウンロードしたファイルとメモリーカードの元の映像の両方を管理対象とするため、PC にダウンロードしたファイルを手動で削除すると映像一覧に正しく反映されません。この場合、[ダウンロード状態の更新] をクリックして、PC へのダウンロード状態を最新の状態に更新する必要があります。

メモ

ダウンロード先を変更すると、変更前のダウンロード先にあったファイルのダウンロード状態が「未ダウンロード」になります。変更前のダウンロード先にあるファイルを手動で変更後のダウンロード先のフォルダにコピーすると、ダウンロード状態が「ダウンロード済み」になります。

ダウンロード先として指定したフォルダには、カメラのIPアドレスと同じ名前のフォルダ（たとえば [192.168.100.1]）が自動的に作成され、ダウンロードした映像が保存されます。いったん録画映像ユーティリティを終了してから、エクスプローラーなどで変更前と変更後の各フォルダを参照し、カメラのIPアドレスと同じ名前のフォルダの内容をコピーしてください。

コピー後、再度録画映像ユーティリティを起動し、[ダウンロード状態の更新] をクリックすると、手動でコピーしたファイルが映像一覧に表示されます。

ダウンロード先のフォルダの構成とファイルの命名ルールについては、「録画映像ユーティリティでダウンロードしたデータのディレクトリ構造」(P. 146) を参照してください。

再生可能な動画ファイルにエクスポートする

メモリーカードから PC にダウンロードした映像は、PC で再生可能な動画ファイルにエクスポートできます。

H.264映像の場合は、複数に分割されたファイルが1つのファイルに結合されます。

1 映像一覧で、エクスポートする映像を選択する

エクスポートできるのは、映像一覧の [ダウンロード状態] が [ダウンロード済み] の映像です。

2 [mov形式にエクスポート] をクリックする

[フォルダーの参照] ダイアログが表示されます。

3 エクスポート先のフォルダを選択し、[OK] をクリックする。

映像がエクスポートされます。

メモ

エクスポートしたmov形式の動画ファイルは、movファイルの再生をサポートするOS標準のもしくはその他のソフトウェアで再生してください。ただし、これらのソフトウェアを用いた場合の再生動作の保証はしていません。

映像を再生する

映像一覧で選択した映像は、[映像再生] エリアで再生できます。

選択した映像フォーマットによって、[映像再生] エリアの表示と操作が異なります。

■ JPEG の場合



[録画日時]

表示中の映像フレームの撮影日時が表示されます。

[再生フレーム番号]

表示中の映像のフレーム番号と総フレーム数が表示されます。

[再生間隔]

• [実時間]

JPEG 映像を、記録時間に合わせた実時間間隔で再生します。空きフレームは直前のJPEG映像が表示されます。

- [等間隔]
JPEG 映像を1秒間隔で再生します。

メモ

- [実時間] は、ダウンロード済みの映像の再生時のみ選択できます。
- [未ダウンロード] または [一部ダウンロード済み] の映像は、撮影した順番通りに再生されないことがあります。

スライダー / 再生コントロール



スライダーをドラッグして再生位置を変更できます。
また、次のボタンで再生を操作できます。

ボタン	説明
	先頭フレームに移動
	前のフレームに移動
	早戻し
	再生
	一時停止
	早送り
	次のフレームに移動
	末尾フレームに移動

[再生フレームを保存]

表示中の映像フレームを別ファイルとして保存できます。

■ H.264 の場合

[映像再生] エリアで再生する場合は、[H.264の再生を有効にする] チェックボックスをチェックします。

チェックすると、「ソフトウェア使用許諾契約書」ダイアログが表示されます。契約書の条項に同意する場合は [はい] をクリックしてください。カメラからデコーダーがダウンロードされ、H.264映像の再生が可能になります。



[録画日時]

表示中の映像フレームの撮影日時が表示されます。

[再生ファイル番号]

表示中の映像内のファイル番号と総ファイル数が表示されます。

メモ

- H.264映像の再生間隔はダウンロード状態で変化します。
ダウンロード状態が [ダウンロード済み] の場合は、各フレームを記録時間に合わせた実時間間隔で再生します。空きフレームは直前のフレームが表示されます。
[未ダウンロード] または [一部ダウンロード済み] の場合は、空きフレームを飛ばして再生されます。また、ファイルをダウンロードしながら再生するため、ネットワーク環境によってはファイルの切り換え時に再生が一瞬停止することがあります。
- [未ダウンロード] または [一部ダウンロード済み] の映像は、撮影した順番通りに再生されないことがあります。

スライダー / 再生コントロール



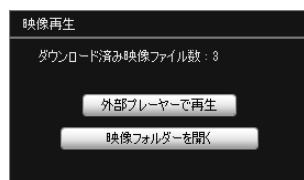
スライダーをドラッグして再生位置を変更できます。
また、次のボタンで再生を操作できます。

ボタン	説明
	先頭フレームに移動
	前のフレームに移動
	再生
	一時停止
	次のフレームに移動
	末尾フレームに移動

[再生フレームを保存]

表示中の映像フレームを別ファイルとして保存できます。

外部プレーヤーで再生する場合は、[H.264の再生を有効にする] チェックボックスのチェックを外します。



[ダウンロード済み映像ファイル数]

映像を構成するダウンロード済みのファイル数が表示されます。

[外部プレーヤーで再生]

外部プレーヤー (Windows Media Player など) を起動し、選択した映像を再生します。

[映像フォルダーを開く]

選択した映像が保存されているフォルダを開きます。フォルダの動画ファイルをダブルクリックして映像を再生できます。

メモ

- 外部プレーヤーで H.264 映像を再生するためには、映像を PC にダウンロードしておく必要があります (P. 116)。
- ダウンロードされた H.264 映像ファイルの拡張子は「.mov」になります。
- mov 形式のデータサイズが 1MB 以上になるときは、複数のファイルに分割されます。
- 複数の mov ファイルに分割された録画映像は、先頭の 1 ファイル (数秒) のみが再生されます。連続して再生するためには、[mov 形式にエクスポート] してください (P. 116)。
- ダウンロードした mov 形式の動画ファイルは、mov ファイルの再生をサポートする OS 標準のもしくはその他のソフトウェアで再生してください。ただし、これらのソフトウェアを用いた場合の再生動作の保証はしていません。

映像を削除する

映像をメモリーカードから削除できます。

1 映像一覧で、削除する映像を選択する

2 [カメラから削除] をクリックする

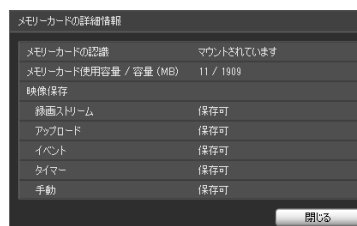
映像がカメラから削除されます。

メモ

選択した映像の中に、未ダウンロードの映像が含まれていたときは、削除を確認するメッセージ画面が表示されます。[OK] をクリックすると、映像が削除されます。

メモリーカードの情報を表示する

[メモリーカードの詳細情報] をクリックすると、カメラに挿入されているメモリーカードの情報が表示されます。



管理者コントロール

各管理ツールに表示されるカメラからの映像を調整するためのパネルです。プライバシーマスク設定ツール、可視範囲設定ツール、プリセット設定ツール、インテリジェント機能設定ツールで使用できます。

管理者コントロールを使う

[管理者コントロール] ボタンをクリックすると、管理者コントロールパネルが表示されます。



■ 使用するコントロール項目を開く / 閉じる

コントロール項目のタイトル部分をクリックするたびに、設定項目が閉じたり開いたりします。



なお、カメラ制御権を取得しない状態でも管理者コントロールパネルは表示され、各コントロール項目を開くことができますが、項目内容はグレー表示されます。

■ コントロール項目の操作

操作方法は管理者ビューワーの管理者コントロールと同じです。



[スマートシェード補正]

スマートシェード補正を設定できます。詳しくは、「スマートシェード補正を設定する」(P. 138) を参照してください。

[かすみ補正]

被写体に霞がかかったような場合に、映像を補正できます。詳しくは、「かすみ補正を設定する」(P. 138) を参照してください。

[フォーカス] S30

フォーカスを設定できます。詳しくは、「フォーカスを設定する」(P. 138) を参照してください。

[露出]

露出を設定できます。詳しくは、「露出を設定する」(P. 139) を参照してください。

メモ S30 S31

インテリジェント機能設定ツールで [カメラ位置を固定する] チェックボックスがチェックされているとき (P. 102) は、インテリジェント機能設定ツールの管理者コントロールの項目内容はグレー表示されます。

5章

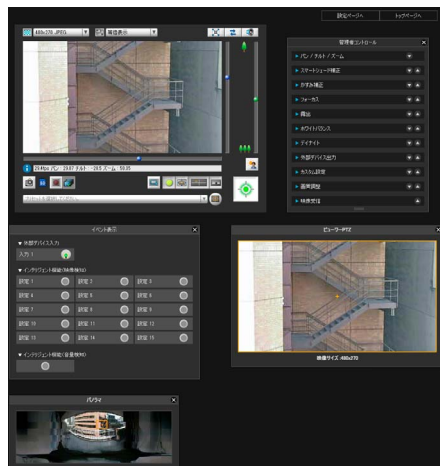
管理者ビューワー / VBビューワー

- 管理者ビューワーとVBビューワーの違い
- ユーザー権限とカメラ制御権
- ビューワーの起動方法と操作
- カメラ制御権の取得とカメラの制御
- 管理者ビューワーの操作と設定

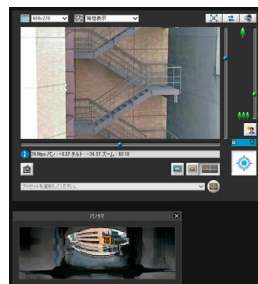
ビューワーの概要

Webブラウザを使ってカメラのビューワーにアクセスすることで、映像表示などのカメラの操作ができます。ビューワーには、管理者ビューワー、VBビューワーの2種類のビューワーがあります。

管理者ビューワー



VBビューワー



管理者ビューワーとVBビューワーの主な違い

• 操作できる範囲が異なります

管理者ビューワー：

撮影条件やイベント検知表示など、管理者コントロールの機能が使用できます。

VBビューワー：

カメラ映像表示を中心とした、基本的な映像操作に限られます。

• アクセス制御が異なります

管理者ビューワー：

特権カメラ制御権を持つユーザーが使用できます。パスワード認証が必要です。登録ユーザーで使用する場合は、事前に管理者が特権カメラ制御権を付与する必要があります (P. 59)。

VBビューワー：

一般カメラ制御権を持つユーザーが使用できます。設定によっては、認証のあり/なしを切り換えることができます。

ユーザー権限とカメラ制御権

ユーザー権限とカメラ制御権の関係は次のとおりです。

ユーザー権限	カメラ制御権		映像配信	音声配信
	特権カメラ制御	一般カメラ制御		
管理者	○	○	○	○
登録ユーザー	○ (変更可能)	○ (変更可能)	○ (変更可能)	○ (変更可能)
一般ユーザー	×	○ (変更可能)	○ (変更可能)	○ (変更可能)

* 変更可能：管理者によって、登録ユーザーまたは一般ユーザーの権限を変更できます (P. 59)。

ユーザーには、特権カメラ制御、一般カメラ制御、映像配信、音声配信の4つの権限が設定できます。管理者ビューワーを使用するには特権カメラ制御権が必要です。

VBビューワーで映像を表示するには映像配信権限が必要です。VBビューワーでカメラ操作も行う場合は、さらに一般カメラ制御権限が必要になります。

音声配信権限は、管理者ビューワーおよびVBビューワーで音声を受信する場合に必要となります。

[管理者]

すべての権限が与えられたユーザーです。ユーザー名は "root" に固定されています。

トップページの [管理者ビューワー] リンクから管理者ビューワーを、[VBビューワー] リンクからVBビューワーを起動できます。

[登録ユーザー]

登録ユーザーは、特権カメラ制御権限が与えられている場合、トップページの [管理者ビューワー] リンクから管理者ビューワーを起動できます。特権カメラ制御権限を削除された場合、管理者ビューワーを起動することができなくなりますが、VBビューワーを起動することは可能です。また、登録ユーザーのすべての権限を無効にすることで、VBビューワーの起動も禁止できます (P. 59)。

[一般ユーザー]

使用できる機能が次の機能に限定されたユーザーです。
逆光補正、スナップショット、映像表示、音声配信

S30 **S31** カメラのパン・チルト・ズーム制御

S80x **S90x** デジタルPTZ

トップページの [VBビューワー] リンクからVBビューワーを起動できます。管理者は一般ユーザーのすべての権限を無効にすることで、一般ユーザーのカメラへのアクセスを完全に禁止できます。

重要

- [管理者] が起動した管理者ビューワーは [登録ユーザー] が起動した管理者ビューワーから、いつでもカメラ制御権を奪うことができます。そのままカメラ制御権を保持できますが、その間登録ユーザーはカメラ制御権を取得できません。閲覧が終わった後は必ず終了するか、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして制御権を解放してください。
- [管理者] が起動した管理者ビューワーは同時に1つしかカメラに接続できません。あるPC から管理者権限で接続している場合、他のPC からは管理者権限で接続できなくなります。これに対し、[登録ユーザー] が起動した管理者ビューワーは同時に複数のPC からカメラに接続できます。ただし、カメラを制御する場合、制御権は後優先になります。

メモ

- 工場出荷設定では、[登録ユーザー] にも特権カメラ制御権が与えられています。
- 一般ユーザーのすべての権限を無効にした場合、VBビューワーの起動時にユーザー認証ダイアログが表示されます。ここで登録ユーザーか管理者のユーザー名とパスワードを入力することで、登録ユーザーあるいは管理者の権限でVBビューワーを使用できます。

ビューワーを起動する

ビューワーを起動する

重要

管理者ビューワーを利用するPCには、管理ツール証明書をインストールする必要があります。(P. 23)

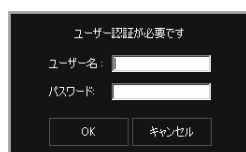
メモ

管理者ビューワーは、カメラマネジメントツールから起動することもできます。詳細は、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

- 1 カメラのトップページを起動する (P. 26)
- 2 ユーザーに応じて [管理者ビューワー] または [VBビューワー] をクリックする



- 3 [管理者ビューワー] の場合、ユーザー名とパスワードを入力する



ユーザー名とパスワードについては、[ユーザー認証について] (P. 26) を参照してください。

ビューワーが起動します。



メモ

プロキシサーバーのない環境では、Internet Explorerの[インターネットオプション]>[接続]タブの[LANの設定]で、[設定を自動的に検出する]のチェックを外してください。

ビューワーを終了する

ビューワーのWeb ブラウザーを閉じて終了します。

管理ツールから接続する

管理者として接続するビューワーになります。

- 1 管理ツールを起動する

(管理ツールの起動方法については、4章「管理ツールを起動する」(P. 78) を参照してください。)

- 2 [管理者ビューワーへ] をクリックする

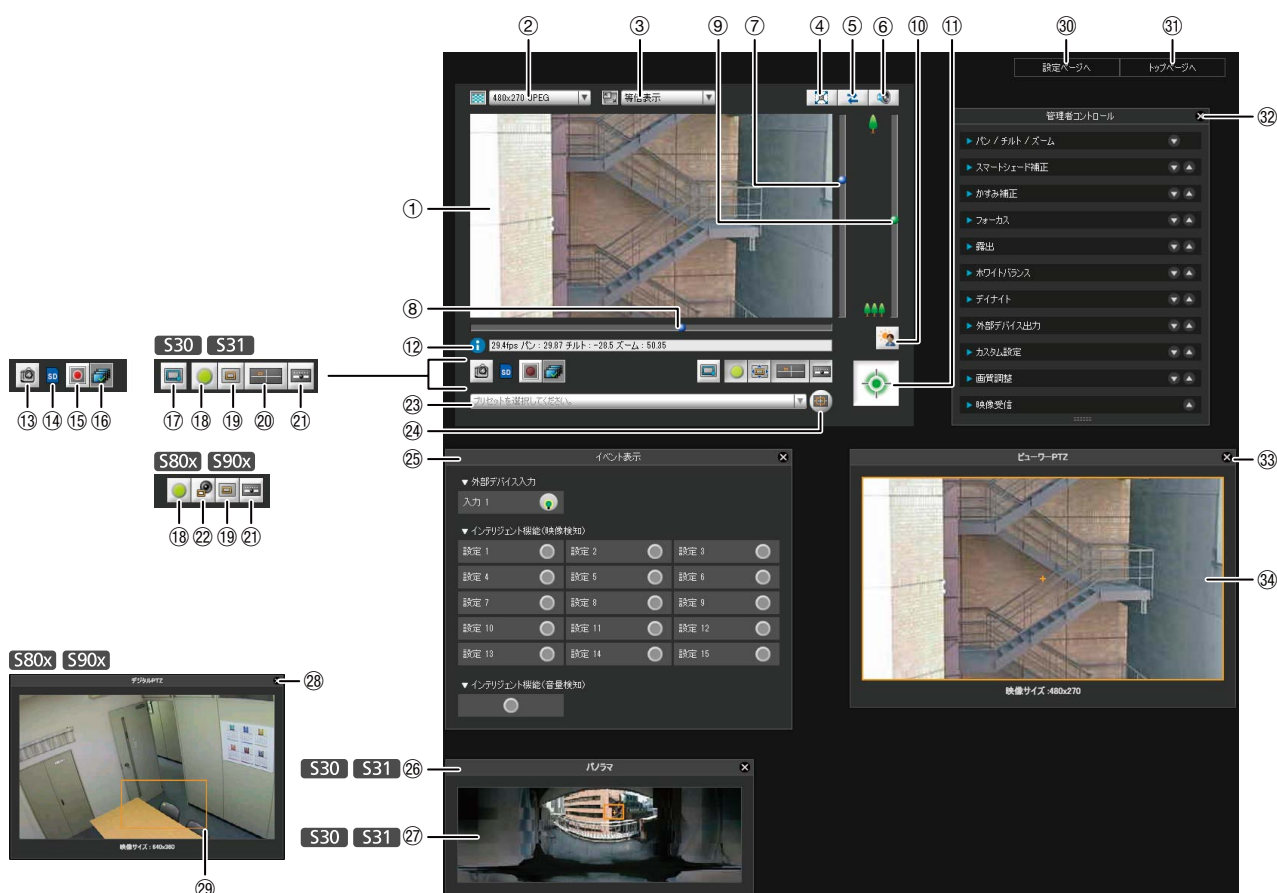


ビューワーの操作方法

管理者ビューワーの表示画面について

管理者ビューワーを起動して表示されたボタンやボックスなどの機能の概要を説明します。

なお、次の画面は説明のためにすべてのパネルを開いた状態にしています。実際のWeb ブラウザー画面では、必要なパネルだけを任意の位置に開いてご覧ください。



① 映像表示部

カメラから受信した映像を表示します。

② 映像サイズ設定

カメラからの映像受信サイズと映像フォーマットを設定します。

③ 表示サイズ設定

画面上の映像表示サイズを設定します。

④ [全画面表示] ボタン

ライブ映像を全画面で表示します。

⑤ [再接続] ボタン

カメラに接続し直します。

⑥ [音声受信] ボタン

音声受信パネルが表示されます。

⑦ チルト用スライダー

カメラのチルト (上下) 制御をするスライダーです。

⑧ パン用スライダー

カメラのパン (左右) 制御をするスライダーです。

⑨ ズーム用スライダー

ズーム倍率の制御をするスライダーです。
つまみを上方向に移動するとズームイン (望遠)、下方向に移動するとズームアウト (広角) します。

⑩ [逆光補正] ボタン

逆光補正の入/切をします。映像が逆光で暗いときに使用すると効果があります。

⑪ [カメラ制御権取得/解放] ボタン

カメラ制御権を取得/解放するためのボタンです。

⑫ インフォメーション領域

ビューワー使用者に対して、情報メッセージ、警告メッセージ、エラーメッセージを表示します。

⑬ [スナップショット] ボタン

クリックした瞬間の静止画を、別ウィンドウに表示します。

⑭ メモリーカードマウント状態アイコン

メモリーカードがマウントされているかいないかを表します。

 メモリーカードがマウントされています。

 メモリーカードがマウントされていません。

⑮ [メモリーカード録画を開始 / 停止] ボタン

制御権を取得しているときに、メモリーカードへの録画を開始します。もう一度クリックすると録画が停止します。

⑯ [録画映像ユーティリティ] ボタン

管理ツールの録画映像ユーティリティ (P. 114) を起動します。

⑰ [エリアズーム/ドラッグムーブ切り換え] ボタン

S30 S31
映像表示部でのドラッグ操作を、エリアズームまたはドラッグムーブに切り換えます。

⑱ [イベント表示] ボタン

イベント表示パネルが表示されます。

⑲ [ビューワー PTZ] ボタン

ビューワー PTZパネルが表示されます。

⑳ [パノラマ表示] ボタン **S30 S31**

パノラマ表示パネルが表示されます。

㉑ [管理者コントロール] ボタン

管理者コントロールパネルが表示されます。

㉒ [デジタルPTZ] ボタン **S80x S90x**

デジタルPTZパネルが表示されます。

㉓ プリセット選択ボックス

カメラにあらかじめ登録されているプリセットにより、カメラを制御できます。

㉔ [ホームポジション] ボタン

カメラのアングルをホームポジションに移動します。

㉕ イベント表示パネル

[イベント表示] ボタンをクリックすると表示されます。外部デバイスの入力状態、およびインテリジェント機能の映像検知と音量検知の状態が表示されます。

㉖ パノラマ表示パネル **S30 S31**

[パノラマ表示] ボタンをクリックすると表示されます。

㉗ パノラマ表示領域 **S30 S31**

カメラに登録されているパノラマ画像を表示します。パノラマ表示領域内の枠線を操作することにより、カメラを操作できます。

㉘ デジタルPTZパネル **S80x S90x**

[デジタルPTZ] ボタンをクリックすると表示されます。

㉙ デジタルPTZ領域指定部 **S80x S90x**

デジタルPTZで映像表示部に切り出す領域を指定します。

㉚ [設定ページへ]

設定メニューページに移動します。

㉛ [トップページへ]

カメラのトップページに移動します。

㉜ 管理者コントロールパネル

管理者権限で各種カメラの操作ができます。詳しくは、「管理者コントロールを使う」(P. 137) を参照してください。

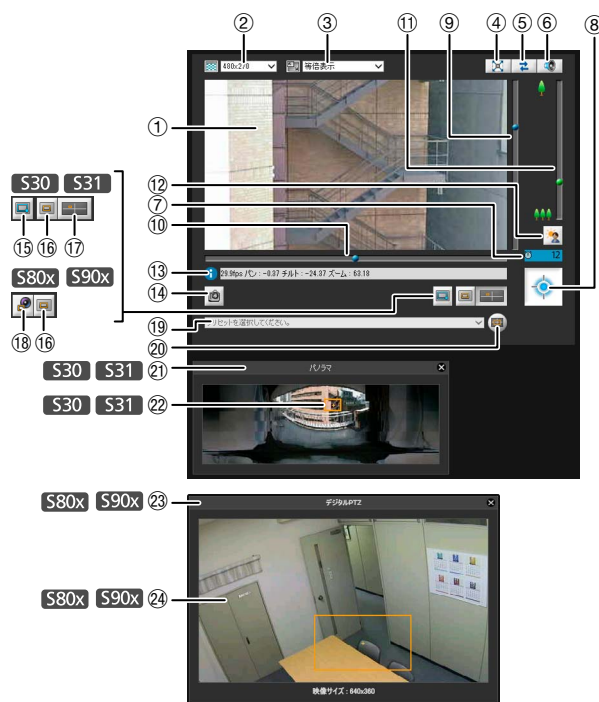
㉝ ビューワー PTZパネル

[ビューワー PTZ] ボタンをクリックすると表示されます。

㉞ ビューワー PTZ領域指定部

映像表示部に切り出す領域を設定します。

VBビューワーの表示画面について



① 映像表示部

カメラから受信した映像を表示します。

- ② **映像サイズ設定**
カメラからの映像受信サイズを設定します。
- ③ **表示サイズ設定**
画面上の映像表示サイズを設定します。
- ④ **[全画面表示] ボタン**
ライブ映像を全画面で表示します。
- ⑤ **[再接続] ボタン**
カメラに接続し直します。
- ⑥ **[音声受信] ボタン**
音声受信パネルが表示されます。
- ⑦ **制御権表示領域**
映像表示中のクライアントが、カメラに対し制御権を保持しているかいないかが表示される領域です。
- ⑧ **[カメラ制御権取得 / 解放] ボタン**
カメラ制御権を取得または解放するためのボタンです。
- ⑨ **チルト用スライダー**
カメラのチルト (上下) 制御をするスライダーです。
- ⑩ **パン用スライダー**
カメラのパン (左右) 制御をするスライダーです。
- ⑪ **ズーム用スライダー**
ズーム倍率の制御をするスライダーです。
つまみを上方向に移動するとズームイン (望遠)、下方向に移動するとズームアウト (広角) します。
- ⑫ **[逆光補正] ボタン**
逆光補正の入/切をします。映像が逆光で暗いときに使用すると効果があります。
- ⑬ **インフォメーション領域**
ビューワー使用者に対して、情報メッセージ、警告メッセージ、エラーメッセージを表示します。
- ⑭ **[スナップショット] ボタン**
クリックした瞬間の静止画を、別ウィンドウに表示します。
- ⑮ **[エリアズーム/ドラッグムーブ切り換え] ボタン**
S30 S31
映像表示部でのドラッグ操作を、エリアズームまたはドラッグムーブに切り換えます。
- ⑯ **[ビューワー PTZ] ボタン**
ビューワー PTZパネルが表示されます。
- ⑰ **[パノラマ表示] ボタン** **S30 S31**
パノラマ表示パネルが表示されます。
- ⑱ **[デジタルPTZ] ボタン** **S80x S90x**
デジタルPTZパネルが表示されます。

- ⑲ **プリセット選択ボックス**
カメラにあらかじめ登録されているプリセットにより、カメラを制御できます。
- ⑳ **[ホームポジション] ボタン**
カメラのアングルをホームポジションに移動します。
- ㉑ **パノラマ表示パネル** **S30 S31**
[パノラマ表示] ボタンをクリックすると表示されます。
- ㉒ **パノラマ表示領域** **S30 S31**
カメラに登録されているパノラマ画像を表示します。パノラマ表示領域内の枠線を操作することにより、カメラを操作できます。
- ㉓ **デジタルPTZパネル** **S80x S90x**
[デジタルPTZ] ボタンをクリックすると表示されます。
- ㉔ **デジタルPTZ領域指定部** **S80x S90x**
デジタルPTZで映像表示部に切り出す領域を指定します。

カメラ制御権の取得

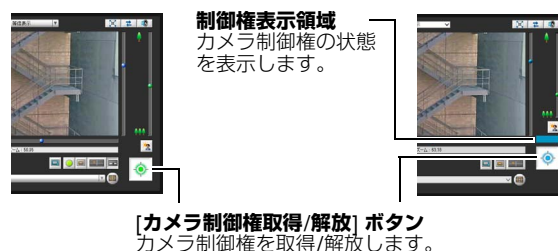
カメラの制御は同時に複数のユーザーからは行えません。制御権を取得したユーザーだけがカメラを制御できます。カメラ制御を行うには、まず制御権を取得する必要があります。

操作のしかた

[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして、制御権を取得します。

管理者ビューワー

VBビューワー



■ カメラ制御権表示領域について

カメラ制御ボタンとカメラ制御権表示領域は、制御権の状態により、表示が次のように変わります。

制御権解放中

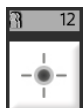


VBビューワーでは、制御権表示領域がグレーで表示され、[カメラ制御権取得 / 解放] ボタンがアニメーション表示されます。



管理者ビューワーには制御権表示領域はありません。[カメラ制御権取得 / 解放] ボタンがグレー表示されます。

制御権取得待ち



VBビューワーで制御権取得待ち状態に入っている場合は、制御権表示領域に残り待機時間のカウントが表示されます。

制御権取得中 (制限時間カウント中)



VBビューワーで制御権取得後、他の一般ユーザーより優先的に制御権を保持できる時間がカウントダウンされます。

制御権取得中



制御権表示領域は青です。

VBビューワーでは [カメラ制御権取得 / 解放] ボタンは、中心部が青です。



管理者ビューワーでは [カメラ制御権取得 / 解放] ボタンは、中心部が黄緑です。

カメラを制御する

まずカメラ制御権を取得してから、次の操作をします。管理者ビューワーとVBビューワーで共通です。



重要 S30 S31

パン・チルト動作耐久目安は、往復5万回です。
たとえば、1日25往復のご利用で6年程度です。
パン・チルト動作耐久を超えると、フォーカス、ズームも正常に動作しなくなる場合があります。



メモ S30 S31

- クリックやドラッグによるカメラ制御は、厳密な精度で制御されるものではありません。
- 管理者権限で管理者ビューワーを使用すると、可視範囲制限を無視してカメラを操作できます。
登録ユーザー権限で管理者ビューワーを使用した場合は、可視範囲制限内のみのカメラ操作になります。
- VBビューワーでは、可視範囲制限内のみのカメラ操作になります。

■ カメラのアングルを変更する S30 S31

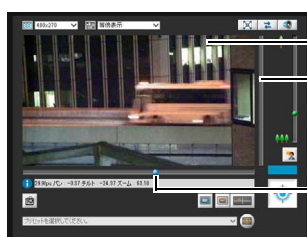
次のいずれかの方法で操作が行えます。

パン用スライダーまたはチルト用スライダーで操作する

スライダーのつまみの位置に合わせてカメラのアングルが変わります。スライダーのつまみのない部分をクリックしても、つまみが移動します。

映像上をクリックする

映像表示部をクリックすると、クリック位置を中心とする映像が表示されるように、カメラのアングルを変更します。1回のクリックで目的の映像が中心に表示されないときは、中心に表示したい位置に繰り返しマウスポインターを合わせてクリックしてください。



映像表示部
カメラのチルト (上下) を変更するスライダー
カメラのパン (左右) を変更するスライダー

メモ

- ビューワーPTZ使用中は、映像表示部のクリック操作はできません。
- 管理者ビューワーの場合は、カメラ操作ボタンでもパン・チルト操作が行えます (P. 137)。

■ パノラマ表示領域でカメラのアングルを変更する S30 S31

1 [パノラマ表示] ボタンをクリックする

2 表示されたパノラマ表示領域で、カメラのアングルを変更する



領域内に表示される枠は、現在カメラが撮影している範囲を示しています。

青色枠表示の場合:制御権を取得していません

黄色枠表示の場合:制御権を取得しています

クリックで移動

パノラマウィンドウ上をクリックすると、クリックした場所が中心となるように、パン・チルトを移動します。

ドラッグで移動

パノラマウィンドウ上の黄色の枠の内側をドラッグして移動すると、その枠内を撮影するようにパン・チルトを移動します。

メモ

黄色の枠の外でドラッグすると青色の枠が描画されます。マウスを放すと、青色の枠が黄色く変化し、枠内を撮影するようにパン・チルト・ズームが移動・変更します。

■ エリアズーム / ドラッグムーブで操作する

S30 S31

映像表示部上のドラッグ操作で、ズームイン/アウトやアングル移動ができます。

メモ

エリアズーム/ドラッグムーブともに、ビューワー PTZ使用中は操作できません。

エリアズームでのズームイン/アウト

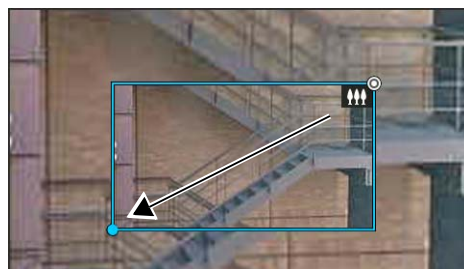
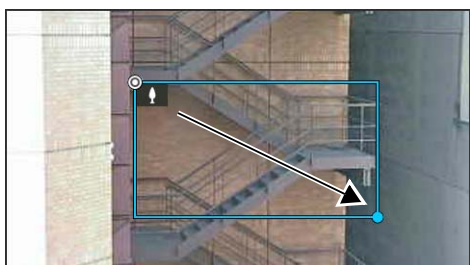
- 1 [エリアズーム/ドラッグムーブ切り換え] ボタンをクリックして、 にする



- 2 映像表示部で、ドラッグして矩形を表示する

ズームインの場合は、左から右方向にズームインするエリアを矩形で指定します。

ズームアウトの場合は、右から左方向に映像表示部の中心に表示させたいエリアを矩形で囲みます。



エリアズーム操作中は、矩形内にアイコン（ズームイン：、ズームアウト：）が表示されます。

矩形表示中にマウスの左ボタンを押したまま右ボタンをクリックすることで、エリアズームを中止できます。

- 3 マウスボタンを放す

左から右方向の場合、矩形で囲んだ部分が映像表示部全域に表示されます。

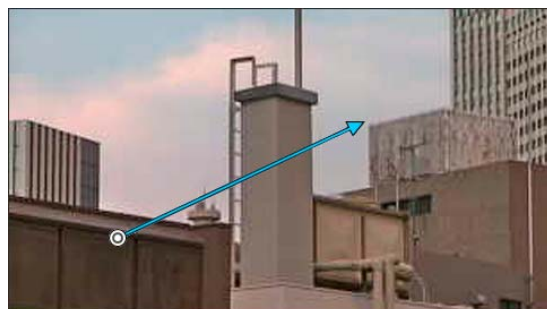
右から左方向の場合、矩形の中心が映像表示部の中心となるようにズームアウトします。

ドラッグムーブでのアングル移動

- 1 [エリアズーム/ドラッグムーブ切り換え] ボタンをクリックして、 にする



- 2 映像表示部で、カメラアングルを移動したい方向にドラッグして矢印を表示する



矢印の方向にカメラアングルが移動します。

矢印の最大長は映像表示部の幅・高さの半分で、矢印を長くすると、移動速度が速くなります。

メモ

ドラッグムーブ中は、パン・チルトスライダーのつまみは移動しません。

3 マウスボタンを放す

カメラが停止します。

■ カメラのズーム倍率を変更する

S30 S31

ズーム用スライダーのつまみを上下に移動する

スライダーのつまみの位置に合わせてカメラのズーム倍率が変わります。スライダーのつまみのない部分をクリックしても、つまみが移動します。



メモ

- 管理者ビューワーの場合は、カメラ操作ボタンでもズーム操作が行えます (P. 137)

S30

- 設定ページの [カメラ] で [デジタルズーム] を [使用する] に設定すると、デジタルズームテレ端を表すアイコンが表示されます (P. 42)。

S31

- ズームはデジタルズームのみです。

■ パノラマ表示領域でズーム倍率を変更する

S30 S31

1 [パノラマ表示] ボタンをクリックする

2 表示されたパノラマ表示領域でズーム倍率を変更する



パノラマウィンドウ上の黄色の枠線をドラッグして、枠のサイズを変更すると、変更した枠内を撮影するようにズーム倍率が変わります。

メモ

ズームはデジタルズームのみです。

■ プリセット/ホームポジションを使用する

カメラにあらかじめ登録されているプリセットやホームポジションにより、カメラを制御できます (P. 90)。プリセット選択ボックスをクリックし、表示されたリストからプリセットを選択すると、選択したプリセットのカメラアングルに移動します。

また、[ホームポジション] ボタンのクリックで、カメラアングルがホームポジションに移動します。



メモ

プリセットやホームポジションは、あらかじめプリセット設定ツールで登録してください (P. 93)。登録したプリセットが、プリセット選択ボックスに表示されます。

■ 逆光を補正する

映像が逆光で暗いときに使用すると効果があります。

[逆光補正] ボタンをクリックすると、逆光で暗かった映像が明るくなります。

もう一度ボタンをクリックすると解除されます。



重要

- [スマートシェード補正] が [オート] の場合、[逆光補正] ボタンは使用できません。
- [露出] が [マニュアル] の場合、[逆光補正] ボタンは使用できません。

映像の一部を拡大表示する (ビューワー PTZ)

ビューワー PTZ パネルを使用して、カメラ映像の一部を映像表示部に拡大表示できます。

■ ビューワー PTZ について

ビューワー PTZ は、デジタルズーム機能を利用することで、カメラのパン・チルト・ズーム機能を使用せずに映像の一部を拡大表示する機能です。

インテリジェント機能の使用時のように、カメラを固定したまま使用する場合にこの機能で映像の一部を拡大表示できます。



重要 S30 S31

ビューワー PTZ の使用時は、映像表示部のクリック/ドラッグによるカメラ操作は行えません。

メモ

- ビューワー PTZ で切り出した映像は、イベント発生時の記録映像、タイマーによる記録映像、手動録画には反映されません。
- 映像表示部での切り出し位置は、全画面表示でも反映されません。

■ ビューワー PTZ パネルを開く

ビューワー PTZ パネルは、[ビューワー PTZ] ボタンをクリックして表示します。

[ビューワー PTZ] ボタンの表示は、ビューワー PTZ 機能の状態に応じて次のように変わります。



ビューワー PTZ 無効 (映像表示部にカメラが受信した映像を表示中)



ビューワー PTZ 有効 (映像表示部に拡大映像を表示中)

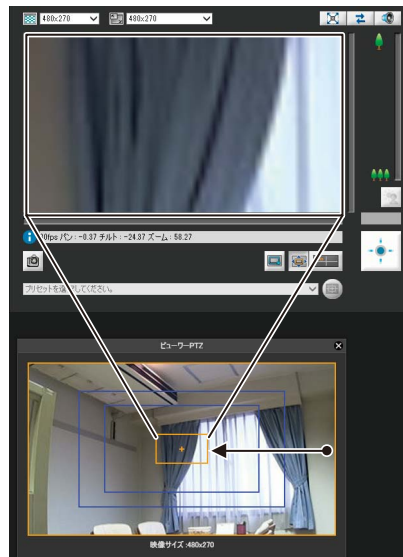


プレビュー枠
(拡大表示する領域)
プレビュー枠の中心

ビューワー PTZ パネルの初期状態は、プレビュー枠 (黄色) が映像全体を囲むサイズになっています。

■ プレビュー枠のサイズを調節する

プレビュー枠線をドラッグして枠を小さくすると、枠内の映像が映像表示部に拡大表示されます。



ドラッグ中はプレビュー枠が青で表示されます。また、プレビュー枠外でマウスボタンを押してドラッグすると、新しいプレビュー枠が描けます。

メモ

ビューワー PTZ はデジタルズーム機能を使用しているため、拡大倍率が高くなるに従い画質が低下します。

■ プレビュー枠を移動する

プレビュー枠は任意の位置へ移動できます。

ドラッグで移動する

プレビュー枠内をクリックしてドラッグし、拡大表示したい対象物に重ねます。
ドラッグ中は枠が青で表示されます。

クリックで移動する

プレビュー枠の外側をクリックすると、その位置へプレビュー枠が移動します。拡大表示したい対象物の上でクリックしてください。

スライダーで移動する S80x S90x

映像表示部のパン・チルト・ズームスライダーで移動できます。

メモ

プレビュー枠変更後、ビューワーPTZパネルを閉じても、映像表示部は継続してプレビュー枠に対応する切り出し映像を表示します。ただし、ビューワーに再接続した場合は、初期状態に戻ります。

■ ビューワー PTZ を終了する

もう一度 [ビューワー PTZ] ボタンをクリックします。ビューワー PTZ パネルが閉じ、ビューワー PTZ が終了します。

映像の一部を切り出して表示する (デジタルPTZ) S80x S90x

デジタルPTZパネルを利用して、カメラ映像の一部を映像表示部に切り出して表示できます。カメラに登録されているプリセットやホームポジションを使用することもできます。

■ デジタルPTZについて

デジタルPTZは、設置時に調整したカメラのレンズ位置を動かすことなく、カメラの有効画素の範囲の一部のみをカメラからビューワーに配信することで簡易的なパン・チルト・ズームを行う機能です。

メモ

H.264映像受信中にデジタルPTZを有効にすると、受信映像はJPEGに切り換わります。

■ ビューワー PTZとデジタルPTZの違い

ビューワーPTZとデジタルPTZは、どちらもデジタルズーム機能を利用した簡易的なパン・チルト・ズーム機能ですが、動作原理が異なるため、下記の相違点があります。

ビューワー PTZ	デジタルPTZ S80x S90x
カメラから配信された映像のうち、指定した部分をビューワー上で拡大して表示	撮影可能な全体画像のうち、切り出した映像のみを配信
受信データサイズ大	受信データサイズ小
ビューワーごとに独立してPTZ操作が可能	ビューワーごとの独立したPTZ操作が不可能 (複数のビューワーが接続されている場合、他のビューワーでも同じ表示が適用される)

■ デジタルPTZパネルを開く

デジタルPTZパネルは、[デジタルPTZ] ボタンをクリックして表示します。



デジタルPTZ機能の状態に応じて、[デジタルPTZ] ボタンの表示が次のように異なります。



デジタルPTZ 無効
(映像表示部にカメラが受信した映像を表示中)



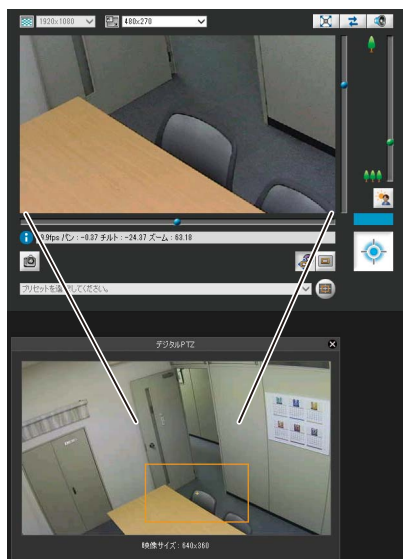
デジタルPTZ 有効
(映像表示部に切り出し映像を表示中)

■ 切り出す範囲を指定する

デジタルPTZパネル上のプレビュー枠の位置やサイズを変更して、映像表示部に表示する範囲を指定します。
また、プレビュー枠外でマウスボタンを押してドラッグすると、新しいプレビュー枠が描けます。
プレビュー枠は、カメラ制御権を取得していないときは青色で表示され、カメラ制御権を取得すると黄色に変わり、次の操作でサイズ変更や移動ができます。

■ サイズを変更する

プレビュー枠線をドラッグして、プレビュー枠のサイズを変更できます。ドラッグ中はプレビュー枠が青色になります。枠のサイズに合わせて、枠内の映像が映像表示部に表示されます。



プレビュー枠のサイズは、5段階で変更できます (変更後のサイズが、デジタルPTZパネルの [映像サイズ] に表示されます)。

設定できるサイズは、設定ページの [映像] > [映像全般] で設定した [映像サイズセット] によって変わります (P. 44)。

設定した [映像サイズセット] のアスペクト比が16:9の場合は、640x360、512x288、384x216、256x144、128x72の5段階になります。アスペクト比が4:3の場合は、640x480、512x384、384x288、256x192、128x96の5段階になります。

■ 位置を変更する

プレビュー枠は、枠内をドラッグして移動できます。デジタルPTZ表示領域の任意の位置をクリックすると、その位置にプレビュー枠が移動します。

メモ

プレビュー枠は段階的な移動となります。細かい位置合わせはできません。

■ スライダーで指定する

映像表示部のパン・チルト・ズームスライダーを操作して、映像表示部に切り出す範囲を指定できます。パン・チルト・ズームスライダーの操作に応じて、デジタルPTZパネルのプレビュー枠も移動します。

■ プリセット/ホームポジションを使用する

登録されているプリセットやホームポジションを使用して、デジタルPTZの範囲を指定できます。

プリセット選択ボックスをクリックし、表示されたリストからプリセットを選択すると、デジタルPTZパネル上のプレビュー枠がプリセット位置に移動し、枠内の映像が映像表示部に表示されます。

[ホームポジション] ボタンをクリックすると、デジタルPTZパネル上のプレビュー枠がホームポジションに移動し、枠内の映像が映像表示部に表示されます。

メモ

プリセットやホームポジションは、あらかじめプリセット設定ツールで登録してください (P. 93)。登録したプリセットが、プリセット選択ボックスに表示されます。

■ デジタルPTZを終了する

もう一度 [デジタルPTZ] ボタンをクリックします。デジタルPTZパネルが閉じ、デジタルPTZが終了します。デジタルPTZパネルの閉じるボタンをクリックすると、デジタルPTZパネルは閉じますが、デジタルPTZは継続されます。

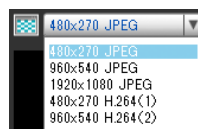
ただし、ビューワーに再接続した場合は、初期状態に戻ります。

映像や音声を設定する



■ 映像サイズを変更する

カメラから受信する映像サイズを設定できます。



設定できるサイズは、設定ページの [映像] > [映像全般] で設定した [映像サイズセット] によって変わります (P. 44)。

[映像サイズセット] の設定	選択できる映像サイズ	
	JPEG	H.264*1
1920x1080/ 960x540/480x270*4	480x270 960x540 1920x1080	*2 *3
1280x720/640x360/ 320x180	320x180 640x360 1280x720	*2 *3
1280x960/640x480/ 320x240	320x240 640x480 1280x960	*2 *3

- *1 管理者ビューワーでは、管理者コントロールの [映像受信] (P. 142) で [H.264 の受信を有効にする] チェックボックスがチェックされている場合に、H.264の映像サイズがメニューに追加表示されます。
- *2 H.264の映像サイズは、設定ページの [映像] > [H.264(1)] および [H.264(2)] (P. 44) の [映像サイズ] で設定しているサイズがメニューに追加表示されます。
- *3 設定ページの [映像] > [H.264(2)] (P. 45) で [H.264(2)の使用] を [使用する] にしている場合に、[H.264(1)] と [H.264(2)] 両方の映像サイズがメニューに追加表示されます。
- *4 VB-S805D、VB-S905Fは、[映像サイズセット] に [1920x1080/960x540/480x270] を設定できません (P. 44)。

重要

H.264映像は、VBビューワーでは表示できません。

表示画面サイズを変更する

映像を表示する画面サイズを変更できます。



設定できる表示画面サイズは、設定ページの [映像] > [映像全般] で設定した [映像サイズセット] によって変わります (P. 44)。

[映像サイズセット] の設定	選択できる表示サイズ
1920x1080/960x540/ 480x270*	等倍表示 480x270 960x540 1920x1080 自動調整

[映像サイズセット] の設定	選択できる表示サイズ
1280x720/640x360/320x180	等倍表示 480x270 640x360 1280x720 自動調整
1280x960/640x480/320x240	等倍表示 480x360 640x480 1280x960 自動調整

- * VB-S805D、VB-S905Fは、[映像サイズセット] に [1920x1080/960x540/480x270] を設定できません (P. 44)。

[等倍表示] は、映像サイズの大きさのままで表示します。
[自動調整] は、Webブラウザのウィンドウサイズに合わせて、最大のサイズで表示します。

全画面表示にする

ディスプレイ全体に映像を表示できます。クリックするとビューワーが全画面表示モードへ変更します。



全画面ウィンドウを閉じるときは、全画面の右下に表示される  をクリックするか、次のメニューで [全画面表示を終了] を選択してください。

全画面表示中に、カメラの制御に必要なパネルを表示できます。画面上でマウスを右クリックし、表示されたメニューで必要なパネルを選択してください。

管理者ビューワー				VBビューワー			
S30	S31	S80x	S90x	S30	S31	S80x	S90x
カメラ制御権を解放	カメラ制御権を解放	カメラ制御権を解放	カメラ制御権を解放	カメラ制御権を解放	カメラ制御権を解放	カメラ制御権を解放	カメラ制御権を解放
プリセット	プリセット	プリセット	プリセット	プリセット	プリセット	プリセット	プリセット
ホームポジション	ホームポジション	ホームポジション	ホームポジション	ホームポジション	ホームポジション	ホームポジション	ホームポジション
パノラマ	パノラマ	パノラマ	パノラマ	パノラマ	パノラマ	パノラマ	パノラマ
ビューワPTZを開始	ビューワPTZを開始	ビューワPTZを開始	ビューワPTZを開始	ビューワPTZを開始	ビューワPTZを開始	ビューワPTZを開始	ビューワPTZを開始
コントロール	コントロール	コントロール	コントロール	コントロール	コントロール	コントロール	コントロール
ペン / チャットスライダー	ペン / チャットスライダー	ペン / チャットスライダー	ペン / チャットスライダー	ペン / チャットスライダー	ペン / チャットスライダー	ペン / チャットスライダー	ペン / チャットスライダー
管理者コントロール	管理者コントロール	管理者コントロール	管理者コントロール	管理者コントロール	管理者コントロール	管理者コントロール	管理者コントロール
ドラッグズームモード	ドラッグズームモード	ドラッグズームモード	ドラッグズームモード	ドラッグズームモード	ドラッグズームモード	ドラッグズームモード	ドラッグズームモード
受信映像サイズ	受信映像サイズ	受信映像サイズ	受信映像サイズ	受信映像サイズ	受信映像サイズ	受信映像サイズ	受信映像サイズ
スナップショット	スナップショット	スナップショット	スナップショット	スナップショット	スナップショット	スナップショット	スナップショット
音声受信	音声受信	音声受信	音声受信	音声受信	音声受信	音声受信	音声受信
イベント表示	イベント表示	イベント表示	イベント表示	イベント表示	イベント表示	イベント表示	イベント表示
メモリーカード録画を開始	メモリーカード録画を開始	メモリーカード録画を開始	メモリーカード録画を開始	メモリーカード録画を開始	メモリーカード録画を開始	メモリーカード録画を開始	メモリーカード録画を開始
全画面表示を終了	全画面表示を終了	全画面表示を終了	全画面表示を終了	全画面表示を終了	全画面表示を終了	全画面表示を終了	全画面表示を終了

[カメラ制御権を取得 / 解放]

カメラ制御権を取得または解放します。

[プリセット]

プリセットを選択します。

[ホームポジション]

カメラのアングルをホームポジションに移動します。

[パノラマ] **S30** **S31**

パノラマ表示パネルが表示されます。

- [ビューワー PTZを開始/終了] ビューワーPTZパネルが表示されます。
- [デジタルPTZを開始/終了] **S80x** **S90x** デジタルPTZパネルが表示されます。
- [コントロール] カメラコントロールパネルが表示されます。
- [パン / チルトスライダー] パン / チルトスライダーが表示されます。
- [管理者コントロール] 管理者コントロールパネルが表示されます (管理者ビューワーのみ)。
- [ドラッグムーブモード/エリアズームモード] **S30** **S31** 映像表示部でのドラッグ操作を、エリアズームまたはドラッグムーブに切り換えます。
- [受信映像サイズ] 受信映像サイズを切り換えます。
- [スナップショット] スナップショットを取得します。
- [音声受信] 音声受信パネルが表示されます。
- [イベント表示] イベント表示パネルが表示されます (管理者ビューワーのみ)。
- [メモリーカード録画を開始 / 停止] メモリーカードへの映像の録画を開始または停止します (管理者ビューワーのみ)。
- [全画面表示を終了] 全画面表示を終了します。

各パネルは、タイトル部分をドラッグすることで任意の位置に移動できます。

■ スナップショットを取得する

ライブ映像をキャプチャーし、静止画を別のウィンドウに表示します。

静止画は保存することもできます。

静止画を撮りたいタイミングで [スナップショット] ボタンをクリックします。



スナップショットパネルが開き、クリックした瞬間の静止画が表示されます。スナップショットパネルが開いた状態

で [スナップショット] ボタンをクリックすると、スナップショットパネルに表示される映像が更新されます。静止画を保存するときは、静止画上でマウスを右クリックし、表示されるメニューで保存を選択します。任意のファイル名を付けて保存してください。



☰ × モ

- 静止画はJPEGファイルで保存されます。
- 保存される静止画のサイズは、受信映像サイズです。

■ 再接続する



カメラとの再接続をする場合は、このボタンをクリックします。

☰ × モ

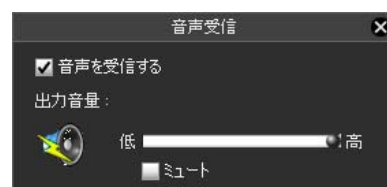
再接続を実行した場合、音声受信が停止し、制御権は破棄されます。

■ 音声を受信する

カメラ側に取り付けたマイクを通じて、音声を受信できます。



音声を受信する場合は、このボタンをクリックします。音声受信パネルが表示されますので、[音声を受信する] チェックボックスをチェックし、スライダーで適切な音量に調整してください。



アイコン	意味
	音声受信中
	音声未受信

メモ

- 音声を受信するには、あらかじめ設定ページで [サーバー] > [オーディオサーバー] > [カメラからの音声送信] を [送信する] に設定します (P. 53)。
- VBビューワーで音声受信パネルを初めて表示したとき、'Canon Network Camera Audio Receiver' アドオンをインストールするメッセージがWebブラウザの情報バーに表示されます。アドオンをインストールしてください。
- 音声受信パネルが開いているかどうかにかかわらず、音声受信パネルの [音声を受信する] チェックボックスがチェックされているときは常に音声の受信が行われます。
- プロキシサーバーを使用する環境で音声機能を利用する場合、Internet Explorerの[インターネットオプション] > [接続] > [LANの設定] > [プロキシサーバー] > [詳細設定] > [例外] に、カメラのIPアドレスを指定する必要があります。

情報を確認する



インフォメーション領域には、表示されるメッセージの内容に応じて次のアイコンが表示されます。

アイコン (色)	意味	説明
 (青)	情報	カメラが正常に操作されているときの表示です。次の情報が表示されます。 • 各ボタンやプルダウンなどのヘルプ • フレームレートの情報 • S30 S31 カメラのパン・チルト・ズーム情報の設定 • S80x S90x デジタルPTZのパン・チルト・ズーム情報
 (黄)	警告	カメラの制御権が取得できない場合や、音声受信が停止した場合などユーザーに注意を促す必要がある状況になったときの表示です。
 (オレンジ)	エラー	システムエラーが発生したときの表示です。

メモ

メッセージの詳細については「ビューワーメッセージ一覧」(P. 161) をご覧ください。

管理者ビューワーでの操作と設定を行う

管理者ビューワーのみが行える操作と設定について説明します。

管理者コントロールを使う

制御権を取得した状態で [管理者コントロール] ボタンをクリックすると、管理者コントロールパネルが表示され、カメラの操作や映像の設定ができます。



■ 使用するコントロール項目の開閉と移動

コントロール項目のタイトル部分をクリックするたびに、閉じたり開いたりします。



なお、カメラ制御権を取得しない状態でも各コントロール項目を開くことができますが、[映像受信] 以外の項目内容は設定できません。

また、上下ボタンでコントロール項目の並び順を変更できます。



■ カメラの操作・設定をする S30 S31

カメラ操作ボタンをクリックして、パン・チルト・ズームの操作、およびその速度の設定をします。



① [パン/チルト] ボタン

各矢印の方向にパン・チルトを行います。押し続けると動作し、放すと停止します。中心のボタンをクリックすると、カメラはパン0度、チルト45度（正置き時。天吊り時は-45度）を向きます。

② [パン/チルト速度] ボタン

パン/チルトの操作速度を [速い]、[普通]、[遅い] から選択します。

③ [ズーム位置に応じて速度を制御する] チェックボックス

チェックすると撮影画角に応じたパン/チルト速度の調整をします。テレ側ではパン/チルト速度が遅く、ワイド側では速度が速くなります。

チェックを外すとパン/チルトは一定速度になります。設定ページの [カメラ] > [カメラ制御] > [パン・チルト速度制御] で [ズーム位置に応じて制御] が選択されている場合、このチェックボックスは固定でチェックされます (P. 42)。

[カメラ] > [カメラ制御] > [パン・チルト速度制御] で [一定速度で制御] が選択されている場合、このチェックボックスによるパン/チルト速度制御の有無を切り換えることができます。

④ [ズーム] ボタン

ズームイン・ズームアウトを行います。押し続けると動作し、放すと停止します。

⑤ [ズーム速度] ボタン

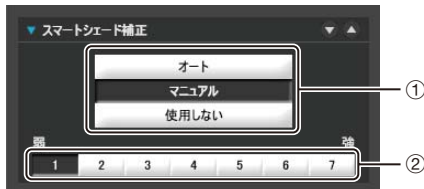
ズームの操作速度を [速い]、[遅い] から選択します。

メモ

[パン/チルト速度]、[ズーム速度]の設定を変更しても、スライダーおよびパノラマ上でのパン・チルト・ズーム操作の速度は変更されません。

■ スマートシェード補正を設定する

スマートシェード補正機能は逆光補正機能と異なり、明るい部分はそのままに暗い部分を明るくする機能です。



- ① [スマートシェード補正]
[オート]、[マニュアル]、[使用しない] から選択します。
- ② スマートシェード補正強弱
スマートシェード補正が [マニュアル] のとき、補正の強弱を [1] (弱) ～ [7] (強) の7段階から設定します。

例) 背景が明るくて被写体が見にくい場合に、暗い部分を明るくして見やすくできます。
逆光補正と比べ、明るい部分の白飛びを緩和できます。



重要

- [露出] が [マニュアル] の場合、[スマートシェード補正] は [オート] を選択できません。
- [かすみ補正] が [オート] または [マニュアル] の場合、[スマートシェード補正] は [使用しない] に設定されます。

メモ

- スマートシェード補正を [オート] または [マニュアル] に設定すると、映像のデータサイズが大きくなります。
- スマートシェード補正を [マニュアル] にし、補正強度を強めに設定すると、画面ノイズが増える場合があります。ノイズが気になる場合には、補正強度を弱めに設定してください。

■ かすみ補正を設定する

被写体に霞がかかったような場合に、被写体を見やすいように映像のコントラストを補正します。



- ① [かすみ補正]
[オート]
自動的にかすみ補正を行います。
[マニュアル]
②のボタンを使用して、マニュアルで補正の強さを設定します。
[使用しない]
かすみ補正を無効にします。
- ② かすみ補正強弱
かすみ補正が [マニュアル] のとき、補正の強弱を [1] (弱) ～ [7] (強) の7段階から設定します。

重要

[スマートシェード補正] が [オート] または [マニュアル] の場合、[かすみ補正] は [使用しない] に設定されます。

メモ

- [かすみ補正] を [オート] または [マニュアル] に設定すると、映像のデータサイズが大きくなる場合があります。
- 被写体にかすみがかかっていない状態では、[かすみ補正] を使用すると、明暗の差が強くなる場合があります。このような場合は、[かすみ補正] を [マニュアル] にし、補正強度を弱く設定してください。

■ フォーカスを設定する S30



- [オート] : 自動的にフォーカスを合わせます。
- [マニュアル] : (遠) (近) のボタンを押し続けることで、フォーカスを調整できます。
[ワンショットAF] をクリックすると、オートフォーカスが作動し、フォーカスが合った後に、マニュアルフォーカスで停止します。
- [無限遠固定] : 無限遠近傍にフォーカスを固定したままにできます。

重要

- 管理者ビューワーで設定すると、他のユーザーも同様のフォーカスモードになります。
- マニュアル露出時 (P. 139) にシャッタースピードで [1/1 秒] を選択した場合、管理者コントロールのフォーカスの [オート]、[ワンショットAF] を選択してもフォーカスは合いません。フォーカスを [マニュアル] に切り換えて合わせてください。
- フォーカスの合う範囲、フォーカスが合いにくい被写体などは、P. 41 のメモを参照してください。
- 管理者ビューワーでフォーカスモードを変更しても、設定ページの設定には反映されません。
- マニュアルフォーカスの設定をするとフォーカスが固定されたままになるのでご注意ください。

■ 露出を設定する



① 露出モード

[オート]、[マニュアル]、[オート (フリッカーレス)]、[オート (フリッカーレス2)]、[オート (シャッター優先)] から選択します。

設定ページの [カメラ] で [デイナイト] を [オート] にしてご使用の場合 (P. 41) は、[オート]、[オート (フリッカーレス)]、[オート (フリッカーレス2)]、[オート (シャッター優先)] を選択してください。

[オート]

自動的に露出を制御します。

[マニュアル]

シャッタースピード、ゲイン値を手動で調整することで、露出を設定します。

[オート (フリッカーレス)]

蛍光灯などの影響による画面の輝度むらを低減します。使用環境の明るさに応じて、シャッタースピードが自動的に調整されます。

[オート (フリッカーレス2)]

[オート (フリッカーレス)] を選択しても輝度むらの低減効果が得られない場合に、本モードをご使用ください。ただし、本モードはシャッタースピードの自動調整範囲が 1/100 秒より速くならないように抑えられるため、適正な露出にならない (明るくなり過ぎる) 場合があります。

[オート (シャッター優先)]

シャッタースピードを指定できるモードです。

② [露出補正]

[露出] が [オート]、[オート (フリッカーレス)]、[オート (フリッカーレス2)]、[オート (シャッター優先)] のとき、9 段階 (-4 ~ +4) の露出補正値をスライダーで選択できます。

映像を暗くしたい場合はマイナスの値を、明るくしたい場合はプラスの値を選択してください。

③ [測光方式]

[露出] が [オート]、[オート (フリッカーレス)]、[オート (フリッカーレス2)]、[オート (シャッター優先)] のとき、測光方式を [中央部重点]、[平均]、[スポット] から選択します。

[測光方式] の各設定項目に関する説明は、設定ページの [測光方式] (P. 40) を参照してください。

④ [シャッタースピード]

[露出] が [マニュアル]、[オート (シャッター優先)] のときに、シャッタースピードを選択します。[マニュアル] の場合は [1/1 秒] ~ [1/16000 秒] の間でプルダウンメニューから設定します。[オート (シャッター優先)] の場合は [1/2 秒] ~ [1/16000 秒] の間でプルダウンメニューから設定します。

動きのある被写体を撮影する場合、速いシャッタースピードを選択することで、像ブレの少ない映像表示が可能になります。

⑤ [スローシャッター]

[露出] が [オート]、[オート (フリッカーレス)]、[オート (フリッカーレス2)] の場合に設定できます。[1/2 秒] ~ [1/30 秒] の間でプルダウンメニューから設定します。

シャッタースピードを低速にするほど、動きのある被写体では残像が発生しますので、撮影シーンに合った適切な時間を選択してください。

⑥ [ゲイン]

[露出] が [マニュアル] のときに、ゲインの値を設定します。

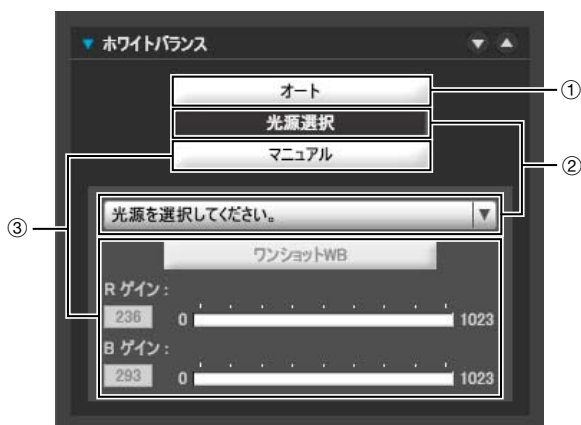
スライダーを左に動かすほどゲイン (明るさに対する

感度) が低くなり映像は暗くなります。一方、右に動かすほどゲインが高くなり、映像は明るくなります。

重要

- 信号機、電光掲示板などの被写体を撮影した場合、映像が点滅して表示されることがあります。
[露出] を [オート (シャッター優先)] に変更して、1/100 より低速のシャッタースピードを選択すると、現象が緩和される場合があります。
- [スマートシェード補正] が [オート] の場合、[露出補正] および [露出] の [マニュアル] は選択できません。
- [露出] が [オート (フリッカーレス)]、[オート (フリッカーレス2)] でも、不安定な光源下では、画面のちらつきが残ることがあります。
- 設定ページの [カメラ] > [カメラ制御] > [AGCリミット] を [OFF] にし、[露出] で [オート (シャッター優先)] を選択した場合、露出補正および逆光補正はされません。

■ ホワイトバランスを設定する



① [オート]

自動的にホワイトバランスを調整します。

② [光源選択]

光源を使用状況に合わせて、下のプルダウンメニューから選択します。

[光源選択] の各設定項目に関する説明は、設定ページの [ホワイトバランス] (P. 40) を参照してください。

③ [マニュアル]

ホワイトバランスを手動で設定します。



[ワンショットWB]

ホワイトバランスを光源に強制的に合わせて固定する場合に使用します。

設定方法例:

白い被写体 (白い紙など) を光源で照らし、被写体を画面いっぱいに撮影した状態で [ワンショットWB] を実行します。

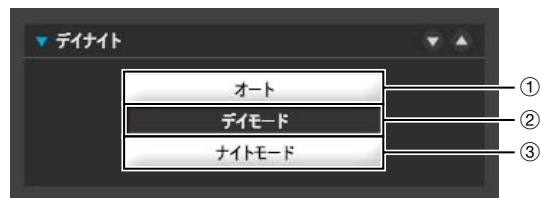
[Rゲイン]、[Bゲイン]

ホワイトバランスを手動で設定する場合、光源に合わせて Red と Blue のゲイン値を 0～1023 の間で設定します。

重要

- 光源選択は代表的な特性に合わせていますので、お使いの光源によっては、適切な色合いにならない場合があります。その場合には [ワンショットWB] 機能をお使いください。
- [オート] モードに設定され水銀灯光源下で画面が緑色を帯びる場合は、光源選択 [水銀灯] モードをご使用ください。また、光源選択 [水銀灯] モードに設定されても水銀灯光源下で画面が適切な色にならない場合には、[ワンショットWB] をご使用ください。
- 単一色の被写体および低照度時、ナトリウム灯、水銀灯や一部の蛍光灯などの照明を使用する環境下では、自動で適切な色合いに調整できないことがあります。
- [デイナイト] が [ナイトモード] になっている場合 ([オート] に設定されていて、ナイトモードと判定されている場合を含む) は、ホワイトバランス機能は使用できません。
- 昼夜連続で撮影する場合の注意
屋外での昼夜連続撮影など、光源が徐々に変化する場所で、変化が少ない被写体を撮影したとき、適切な色合いにならない場合があります。
上記の場合は撮影される映像に変化を与えると適切な色合いになります。

■ デイナイトを設定する



① [オート]

明るさに応じて自動的にデイモードとナイトモードを切り換えます。

② [デイモード]

通常のモードでカラー映像を見ることができます。

③ [ナイトモード]

映像が白黒になります。

重要

[デイモード] または [ナイトモード] のままビューワーを終了させると、設定ページのデイナイトの設定が [オート] でも、オートデイナイトが無効の状態が続きます。オートデイナイトを有効にするときは、必ず [オート] に設定してからビューワーを終了させてください。

メモ

カメラにはIRカットフィルターが採用されていますが、挿抜機構がないため、赤外光による照明効果は得られません。

■ 外部デバイス出力の操作

外部デバイスの出力を操作し、現在の状態をアイコンで表示します。アイコンをクリックすると、[アクティブ] / [インアクティブ] の状態を切り換えることができます。



アイコン	意味
	出力インアクティブ状態
	出力アクティブ状態

■ カスタム設定を登録する

カメラ位置や、露出、ホワイトバランスなどの設定を登録しておき、手動または自動制御で設定を呼び出すことができます。

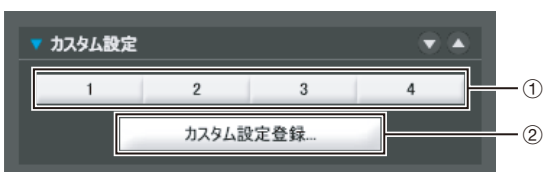
カスタム設定では、管理者コントロールメニューにある次の項目の設定値が保存できます。

[スマートシェード補正]、[かすみ補正]、[露出]、[ホワイトバランス]、[画質調整]、[デイナイト]

S30 S31 [パン/チルト/ズーム]

S30 [フォーカス]

上記項目の設定を完了してから [登録] をクリックして、カスタム設定を行ってください。



① カスタム設定ボタン

カスタム設定を登録している番号のボタンを選択すると、設定が呼び出されます。

② [カスタム設定登録]

クリックすると、[カスタム設定登録] パネルが表示されます。



③ [登録先]

選択ボックスから、登録したいカスタム設定番号を選択します。

④ [現在のPTZ位置を含める] チェックボックス

S30 S31

現在のパン・チルト・ズーム設定も登録する場合は、チェックボックスをチェックします。

⑤ [登録]

現在のカメラの設定を [登録先] で選択したカスタム設定番号に登録します。

⑥ [自動制御設定]

[自動制御設定] パネルを表示します。

⑦ [カスタム設定の登録内容を確認]

[登録先] で選択したカスタム設定番号の登録内容を表示します。

自動制御を設定する

[自動制御設定] ボタンをクリックして、[自動制御設定] パネルで [デイナイト切り換え] または [タイマー] を設定します。



① [自動制御]

自動制御の設定を [使用しない]、[デイトナイト切り換え]、[タイマー] から選択します。

② [デイトナイト切り換え時]、[ナイトモード切り換え時]

[自動制御] で [デイトナイト切り換え] を選択した場合は、デイトナイト時とナイトモード時に使用するカスタム設定の番号、または [制御しない] をそれぞれ設定します。

③ [タイマー 1] ～ [タイマー 4]

[自動制御] で [タイマー] を選択した場合は、[時刻] でカスタム設定を切り換える時刻を24時間制で設定し、[カスタム設定] で使用するカスタム設定の番号、または [制御しない] を設定します。

④ [登録]

自動制御設定を登録します。

重要

[タイマー 1] ～ [タイマー 4] のうち、複数で同じ時刻を指定すると、[登録] が無効化され、設定できません。

① [ノイズリダクション]

ノイズリダクションのレベルを [弱]、[標準]、[強] から選択します。

おもに低照度時に効果が高くなります。[強] にするとノイズリダクションの効果が高くなりますが、動いている被写体の残像が見えやすくなります。[弱] にするとノイズリダクションの効果が低くなり、解像感が高くなりますが、映像のファイルサイズが増えます。

② [シャープネス]

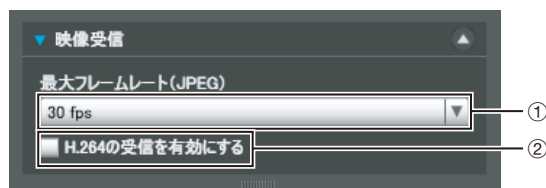
シャープネスのレベルを [1] (弱) ～ [7] (強) の7段階から選択します。

[強] にするほどシャープな映像になり、[弱] にするほどソフトな映像になります。また、[強] にするほど映像のファイルサイズが増えます。

③ [色の濃さ]

色の濃さを [1] (薄) ～ [7] (濃) の7段階から選択します。

映像受信を設定する



① [最大フレームレート(JPEG)]

JPEG の表示映像の最大フレームレートを [30fps] から [0.2fps] の間の12段階から選択できます。映像表示部にH.264の映像を表示しているときは設定できません。

② [H.264の受信を有効にする] チェックボックス

H.264映像を受信する場合にチェックします。チェックすると、「ソフトウェア使用許諾契約書」ダイアログが表示されます。契約書の条項に同意する場合は [はい] をクリックしてください。カメラからデコーダーがダウンロードされ、H.264映像の受信が可能になります。

画質を調整する



イベントの状態を表示する

[イベント表示] ボタンをクリックすると、イベント表示パネルが表示され、外部デバイスの入力状態、およびインテリジェント機能の映像検知と音量検知の状態が表示されます。



① [外部デバイス入力]

外部デバイスによる接点入力信号を受けると、入力がアクティブとなりアイコンで表示されます。

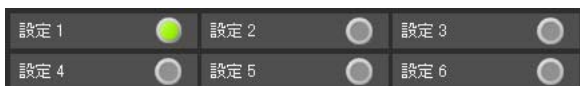


アイコン	意味
	入力インアクティブ状態
	入力アクティブ状態

② [インテリジェント機能 (映像検知)]

インテリジェント機能による映像検知の状態が表示されます。インテリジェント機能 (動体検知、置き去り検知、持ち去り検知、いたずら検知、通過検知) の検知設定で、検知あり状態になると、そのアイコンが緑色になります (P. 104)。

インテリジェント機能設定ツールの [検知設定名] に名前が入力されている場合 (P. 104) は、[設定 1]～[設定 15] に、その名称が表示されます。



例:

設定 1 : 映像検知状態 ON

他の設定 : 映像検知状態 OFF

メモ

検知あり状態を示すアイコン表示は、最大で約5分間です (動体検知を除く)。

③ [インテリジェント機能 (音量検知)]

音量検知の状態が表示されます。設定ページの [イベント] > [音量検知] で設定された条件を検知すると、アイコンが緑色になります (P. 55)。



例:

音量検知状態 ON

メモリーカードに手動録画する

管理者ビューワーに表示中の映像をメモリーカードに手動録画できます。

メモ

- メモリーカードに録画するには、カメラにメモリーカードがマウントされていて (P. 126)、設定ページの [メモリーカード] > [動作設定] > [ログと映像を保存する] が選択されている必要があります。
- メモリーカードに録画される映像フォーマットと映像サイズは、設定ページの設定に従います。
映像フォーマット: [メモリーカード] > [映像フォーマット]
映像サイズ: JPEG [映像] > [JPEG] > [映像サイズ: アップロード/メモリーカード]
H.264 [映像] > [H.264(1)] > [映像サイズ]

映像を手動録画する

- カメラの制御権が取得されていない場合は、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして、制御権を取得する
- [メモリーカード録画を開始 / 停止] ボタンをクリックする



録画の状態に応じて、[メモリーカード録画を開始 / 停止] ボタンの表示が次のように異なります。



録画していない状態



録画中

3 録画を停止するには、もう一度 [メモリーカード録画を開始 / 停止] ボタンをクリックする

重要

- 手動録画は、録画開始から 300 秒が経過した時点でメモリーカードへの記録を終了します。
- 手動録画中は、[設定ページ]の各設定を変更しないでください。録画が停止する場合があります。

■ 手動録画した映像を確認する

メモリーカードに手動録画した映像は、録画映像ユーティリティ (P. 114) で確認および再生できます。

[録画映像ユーティリティ] ボタンをクリックすると、管理者ビューワから録画映像ユーティリティを起動できます。



6章

付録

- メモリーカードのアクセス
- 修飾子について
- トラブルシューティング
- ログメッセージ一覧
- ビューワーメッセージ一覧
- 工場出荷設定に戻す
- 工場出荷設定一覧
- 仕様一覧
- 索引

メモリーカードのアクセスについて

カメラにセットしたメモリーカードには、次のデータを自動的に保存できます（「3章 設定ページ」の「[メモリーカード] メモリーカードの各種操作や設定」(P. 68)）。

メモリーカードの残り容量がなくなるか、保存可能なファイル数の上限に達すると、メモリーカードへの保存はできません。この場合は、不要になった映像を録画映像ユーティリティで削除してください。

- ネットワーク異常のために配信できなかった録画ストリームの映像 (JPEGのみ)
- HTTP/FTPアップロードに失敗した映像 (JPEG/H.264(1))
- 管理者ビューワーからのユーザーによる手動記録映像 (JPEG/H.264(1))
- [外部デバイス入力]、[音量検知] およびインテリジェント機能によるイベント発生時の記録映像 (JPEG/H.264(1))
- タイマーによる記録映像 (JPEG/H.264(1))
- ログ

■ メモリーカードへのアクセス

管理ツールの録画映像ユーティリティ (P. 114) を使用するか、FTPソフトウェア (同梱していません) を使用してカメラのIPアドレスにアクセスしてください。

FTPソフトウェアをご使用の場合は、[設定ページ] > [サーバー] > [FTPサーバーの使用] を [使用する] に設定してください。

FTPソフトウェアの設定

アドレス： カメラのIPアドレス（工場出荷設定 192.168.100.1）
ユーザー ID： root
パスワード： 管理者のパスワード

重要

- 録画映像ユーティリティの利用以外の方法で映像を削除したときは、設定ページの [メモリーカード] で [映像管理情報の再作成] を実行する必要があります (P. 69)。
- FTPソフトウェアを使用した結果生じた事故や損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。

■ 録画映像ユーティリティでダウンロードしたデータのディレクトリ構造

メモリーカードの映像を録画映像ユーティリティを使ってPCなどにダウンロードした場合、カメラや日時などの条件に応じてフォルダが自動的に作成されます。

フォルダ構造は次のとおりです。

例：IPアドレス192.168.100.1のカメラで2015/9/10の16:00:00～16:59:59 (JST) に手動録画で記録されたH.264の映像

D:\¥work ¥ 192.168.100.1 ¥ 20150910 ¥ 070000_075959 _+9 _M _H264

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

- ① [ダウンロード先] に指定したフォルダ
- ② カメラのIPアドレス
- ③ 映像の録画日
- ④ 録画開始時刻_終了時刻 (UTC)
- ⑤ UTCとの時差
- ⑥ 録画種別
 - E：イベント
 - M：手動録画
 - R：録画ストリーム
 - T：タイマー

U：アップロード

⑦ 映像フォーマット (JPEGまたはH.264)

メモ

- フォルダは1時間単位で作成されます。
- 録画開始時刻_終了時刻に時差を足すと、現地時間になります。

■ 録画映像ユーティリティでダウンロードしたファイル名フォーマット

例：2015/9/10の16:06:19から手動録画を実行した場合

20150910 070618-070619-M 00_507.mov

└──┬──┬──┬──┘
① ② ③ ④

- ① 映像の録画日
- ② ファイル作成時刻 (UTC)
- ③ 録画開始時刻 (UTC)
- ④ 録画種別

E：イベント
M：手動録画
R：録画ストリーム
T：タイマー
U：アップロード

メモ

- ファイルの作成は実際の録画時刻より先行します。
- 録画が数秒以上続いたことで複数の映像ファイルが作成されたときは、② とファイル名末尾の連番が異なるファイル名となります。上記の例で録画開始 (16:06:19) から4秒後に次のファイルに切り換わった場合は、次のファイル名になります。
20150910070623-070619-M00_508.mov
16:06:19に開始された録画の続きなので、③録画開始時刻は070619のままです。また、ファイル名末尾の連番は1つ進んでいます。

修飾子について

設定項目によっては、修飾子 ‘% 文字’ によるパラメーター記述が可能です。

修飾子	意味	記入される文字列の内容
%n	撮影理由 (番号)	0 (テスト) 1 (外部デバイス入力) 33 (タイマー 1) 34 (タイマー 2) 35 (タイマー 3) 36 (タイマー 4) 145 (音量検知) 161 (インテリジェント機能検知設定1) 162 (インテリジェント機能検知設定2) 163 (インテリジェント機能検知設定3) 164 (インテリジェント機能検知設定4) 165 (インテリジェント機能検知設定5) 166 (インテリジェント機能検知設定6) 167 (インテリジェント機能検知設定7) 168 (インテリジェント機能検知設定8) 169 (インテリジェント機能検知設定9) 170 (インテリジェント機能検知設定10) 171 (インテリジェント機能検知設定11) 172 (インテリジェント機能検知設定12) 173 (インテリジェント機能検知設定13) 174 (インテリジェント機能検知設定14) 175 (インテリジェント機能検知設定15)
%N	撮影理由 (文字列)	<外部デバイス入力名 (半角英数字)> NULL (空白文字/タイマーイベント・テストの場合)
%X	画像の幅	横方向の画素数
%Y	画像の高さ	縦方向の画素数
%C	カメラ番号	1
%D	カメラ名	[カメラ名 (半角英数字)] の設定値
%P	パン位置	S30 S31 -174.99 ~ 175.00 S80x S90x 0
%T	チルト位置	S30 S31 -90.00 ~ 0.00 S80x S90x 0
%Z	ズーム位置	S30 0.01 ~ 300.00 S31 S80x S90x 0
%V	カメラサーバー	VB-S30D/VB-S31D/VB-S800D/VB-S900F/VB-S805D/VB-S905F
%y	撮影時刻の年	2001 ~ 2031
%m	撮影時刻の月	01 ~ 12
%d	撮影時刻の日	01 ~ 31
%w	撮影時刻の曜日	0 ~ 6 (日曜～土曜に対応)
%H	撮影時刻の時	00 ~ 23
%M	撮影時刻の分	00 ~ 59
%S	撮影時刻の秒	00 ~ 59
%s	撮影時刻のミリ秒	000 ~ 999
%z	撮影時刻のタイムゾーン	-1200 ~ +1300
%a	撮影時刻の曜日名	Sun Mon Tue Wed Thu Fri Sat
%b	撮影時刻の月名	Jan Feb Mar Apr May Jun Jul Aug Sep Oct Nov Dec
%h	ホスト名	

メモ

- 不整合があれば実行時エラーとなります。
- 未定義の文字については、‘%’が削除されます。

■ 利用可能な修飾子について

各設定項目で利用可能な修飾子は、次のとおりです。

【HTTPアップロード】(P. 50)

[パラメーター (query string)]
すべての修飾子が利用可能です。

【FTPアップロード】(P. 50)

[作成サブディレクトリ名]
利用可能な修飾子は、%y、%m、%d、%w、%H、%h、%n のみです。

[作成ファイル名]
利用可能な修飾子は、%y、%m、%d、%w、%H、%M、%S、%s、%n のみです。

【メール通報】(P. 51)

[本文]
すべての修飾子が利用可能です。

トラブルシューティング

販売店やお客様相談センターに連絡する前に、次のことを確認してください。ログメッセージが表示されている場合は、ログメッセージ一覧の内容と対策を参考にしてください。

メモ

カメラマネジメントツールのトラブルシューティングについては、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

問題	対処方法
カメラが起動しない	- LANケーブルが正しく接続されているか確認してください。 - 電源を入れ直してください (『設置ガイド』の「カメラを接続する」)。
カメラのトップページが表示されない	- LAN ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 - カメラのネットワークが正しく設定されているか確認してください。特にIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレスについては利用しているネットワークで使用可能な設定か確認してください。 - IP アドレスの変更を行った場合には、カメラが再起動するまで有効になりません。 - Web ブラウザーに入力しているURI (カメラのIP アドレス) が正しいか確認してください (P. 26、P. 124)。 - 設定ページの [アクセス制御] で、アクセスが禁止されたPCから接続していないか確認してください。 - 設定ページの [802.1X] で、使用する認証方式や、[ユーザー名]、[パスワード]、証明書の組み合わせが、接続するネットワークルールに合っているか、システム管理者に確認してください。
管理ツールが起動できない 管理者ビューワーが起動できない	「ご使用のWeb ブラウザーには対応していません。」と表示される場合は、Internet Explorer 8以降をお使いください。 「アプリケーションが起動できませんでした。.NET Framework x.x (xはバージョン) をインストールしてください。」と表示される場合は、該当するバージョンの.NET Framework をインストールするか、設定を有効にしてください (P. 16)。 「JavaScriptが使用できないが無効化されています。」と表示される場合は、Internet Explorerのセキュリティで [アクティブ スクリプト] を [有効にする] に設定してください (設定方法は、次の(3)を参照してください)。 「管理者ビューワーおよび管理ツールを使用するには、以下の(1)から(3)の設定が必要です。」と表示される場合は、次の設定を行ってください。 - インストーラーで管理ツール証明書をインストールしてください (P. 23)。 - Internet Explorer 9以降を使用されている場合は、「カメラのIPアドレスを信頼済みサイトとして登録する」 (P. 17) の手順に従い、Internet Explorerの [セキュリティ] 設定で、このWebサイトを [信頼済みサイト] に追加してください。 - Internet Explorer で [ツール] > [インターネット オプション] > [セキュリティ] > [レベルのカスタマイズ] をクリックし、セキュリティ設定のリストで、[XAML ブラウザーアプリケーション]、[ファイルのダウンロード]、[IFRAME のプログラムとファイルの起動] の各項目を [有効にする] に設定します。
映像が表示されない	- 映像品質を改善したい場合、「3章 設定ページ」の「[映像] 映像のサイズや品質、フレームレートの設定」 (P. 44) を参照いただき、設定を変更して調整してください。 - カメラに同時にアクセスできるビューワーの数は最大30 です。制限を超えた場合には映像が表示されずにメッセージが表示されます。 64-bit OSでInternet Explorer 10または11を使用している場合、信頼済みサイトに登録し保護モードを有効にすると、H.264映像は受信および再生できないことがあります。その場合は、保護モードを無効にしてください。

問題	対処方法
音声を利用できない	• 音声を利用できない場合は、カメラのオーディオサーバーの設定を確認していただくとともに、PCのサウンドとオーディオデバイスの設定もご確認ください。 • 管理者ビューワーを管理者ユーザー権限で使用する場合、RMビューワーなどの管理者権限で音声を使用するビューワーがカメラに接続していないか確認してください。 • VBビューワーでは、Canon Network Camera Audio Receiverのアドオンがインストールされていない場合、音声はご利用になれません。 • 64-bit OSでInternet Explorer 10または11を使用している場合、信頼済みサイトに登録し保護モードを有効にすると、音声を受信できないことがあります。その場合は、保護モードを無効にしてください。
カメラ制御ができない	• 管理者ビューワーに管理者として接続するとカメラ制御権を占有します。管理者ビューワーに登録ユーザーとして接続すると、管理者がカメラ制御権を解放しない限り、カメラ制御ができません。管理者に相談してください (P. 122)。 • S30 S31 パン・チルト動作耐久目安を超えると、パン、チルト、フォーカス、ズームが正常に動作しなくなる場合があります (P. 128)。
ビューワーの接続が切れる	• ネットワークやPCに異常がないか確認してください。 • PCを再起動し、接続してください。
パスワードを忘れてしまった	• リセットスイッチを用いて、カメラの日付と時刻以外のすべての設定を初期化できます (P. 163)。初期化後は、カメラマネジメントツールを使って、管理者パスワードを再登録してください。ただし、IPアドレスやサブネットマスクなどのネットワーク設定も初期化されますので、再設定が必要になります。
アップロードできない	• 設定ページの[アップロード]メニューでのアップロード先の設定と、[イベント]メニューでのイベントに対するアップロード動作の両方の設定が、正しくされているか確認してください。 • 適用済みのアップロード先の設定は、[アップロード]メニューのテスト (P. 50) を実行することで、動作確認できます。 • [メンテナンス]>[ログを見る]やサーバー側のログを見て、詳細な動作環境を確認してください。[ログを見る]については、「アプリケーション (アップローダー) のメッセージ」 (P. 152) をご参照ください。また、P. 49の「重要」もご参照ください。 • サーバー側の設定については、システム管理者にお問い合わせください。
録画ストリームが利用できない	• [アップロード]>[アップロードの動作]がHTTPまたはFTPでアップロードする設定になっている場合、録画ストリームは利用できません。[アップロードの動作]を[アップロード無効]に設定してください (P. 49)。
メモリーカードに映像を記録できない	• イベント発生時にメモリーカードに記録するときは、設定ページの[イベント]で、[映像記録動作]の設定を確認してください。[映像記録動作]が[アップロード]になっているときは、[メモリーカードに記録]に変更してください。 • ネットワーク異常のために配信できなかった録画ストリームの映像、またはHTTP/FTPアップロードに失敗した映像がメモリーカードに記録されていないときは、設定ページの[メモリーカード]で、[動作設定]の設定を確認してください。[動作設定]が[ログを保存する]になっているときは、[ログと映像を保存する]に変更してください。 • 手動でメモリーカードに記録するときは、カメラ制御権を取得してください。
設定ページや管理ツールでファイルが保存できない	• OSが、一部のフォルダへの保存を禁止しているため、ファイルの保存に失敗する場合があります。[ドキュメント]や[ピクチャ]など、ほかのフォルダを指定してください。
録画映像ユーティリティを起動すると「メモリーカードにアクセスできません。設定ページで映像管理情報を再作成してください。」とメッセージが出る	• 設定ページの[メモリーカード]>[メモリーカードの情報]>[映像管理情報の状態]を確認し、[映像管理情報の再作成が必要]と表示されているときは[メモリーカードの操作]>[映像管理情報の再作成]の[実行]をクリックしてください。映像管理情報の再作成の完了後、[映像管理情報の状態]の表示が[正常]になっていることを確認してください。
一部のダイアログが英語になる	• Windows Updateで「Microsoft .NET Framework 4.5.1 言語パック (kb2858725)」をインストールしてください。

ログメッセージ一覧

カメラのログメッセージ

ログメッセージは、次のように分類されています。

分類	レベル	コード	障害の程度
crit	エラー	4xx	ソフトレベルの異常 (タスク動作停止)
err	エラー	3xx	動作に支障のある異常 (動作継続)
warning	警告	2xx	動作に支障のない異常
notice	警告	1xx	システム外部の異常
info	情報	0xx	正常動作に関する情報

メモ

約2時間ログに記録される内容がない場合は、メッセージエリアに "-- MARK --" と記録されます。

■ アプリケーション(カメラ)のメッセージ

W001 システムの起動と停止 [info]

内容	%1 webview (W001)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
意味	wvhttpサーバー (webview) の起動と停止。

W030 WebView Livescopeクライアントの開始と終了 [info]

内容	%1%2 host=<ホスト>, user=<ユーザー>, prio=<優先度> (W030)
%1	W: WebViewセッション、V: セッションレスビデオクライアント、N: セッションレスイベントクライアント
%2	+ : 接続、- : 切断
意味	カメラサーバークライアントの接続と切断。

W031 映像データ送信量 [info]

内容	%1= host=<ホスト>, user=<ユーザー>, video=<jpg h264>:<フレーム数> (W031)
%1	W: WebViewセッション、V: セッションレスビデオクライアント
意味	クライアント切断時に、クライアントに送信した総データ量をフレーム数で表示。

W040 外部メモリーへの退避 [info]

内容	%1 the image storing - %2 (W040)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
%2	開始・終了原因
意味	録画ストリームの外部メモリーへの退避が開始または終了した。

W101 不正ユーザー名 [notice]

内容	user <ユーザー名> not found (W101)
意味	登録されていないユーザーによるアクセス。

W102 不正パスワード [notice]

内容	user <ユーザー名> password mismatch (W102)
意味	パスワードが不正。

W130 バッファの回復 [notice]

内容	stream buffer recovered (W130)
意味	録画ストリームの映像バッファが回復した。

W201 不正なパノラマ画像 [warning]

内容	corrupt panorama image - ignored (W201)
意味	パノラマ画像の情報取得に失敗した。

W230 バッファオーバーフロー [warning]

内容	stream buffer overflowed (W230)
意味	録画ストリームの映像バッファがオーバーフローし、映像が破棄された。

■ アプリケーション (アップローダー) のメッセージ

A004 アップローダーの起動と停止 [info]

内容	%1 uploader (A004)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
意味	アップローダー (uploader) の起動と停止。

A040 アップロード回数 (MAIL) [notice]

内容	uploader mail: normal=%1 test=%2 (A040)
%1	通常のアップロードの回数。
%2	アップロードテストの回数。
意味	アップロードを実行した回数を表示。

A041 アップロード回数 (FTP) [notice]

内容	uploader ftp: normal=%1 test=%2 (A041)
%1	通常のアップロードの回数。
%2	アップロードテストの回数。
意味	アップロードを実行した回数を表示。

A042 アップロード回数 (HTTP) [notice]

内容	uploader http: normal=%1 test=%2 (A042)
%1	通常のアップロードの回数。
%2	アップロードテストの回数。
意味	アップロードを実行した回数を表示。

A120 アップロード送信先の名前解決失敗 [notice]

内容	uploader cannot resolve the server name (A120)
意味	アップロード送信先の名前解決に失敗。

A121 アップロード送信先の接続失敗 [notice]

内容	uploader cannot connect the server (A121)
意味	アップロード送信先への接続に失敗。

A122 アップロード送信先の接続失敗 [notice]

内容	uploader cannot connect the server (A122)
意味	A120、A121 以外の原因で、アップロード送信先への接続に失敗。

A134 アップロードの設定値不正 (FTP/HTTP モード) [notice]

内容	ftp/http mode invalid. uploader set <none> forcibly (A134)
意味	アップロード方式の設定値不正。アップロードしない、に強制的にセットした。

A135 アップロードの設定値不正 (FTP のPORT/PASV モード) [notice]

内容	ftp port/pasv mode invalid. uploader set <pasv> forcibly (A135)
意味	FTP アップロードにおけるPORT/PASV モードの設定値不正。PASV モード、に強制的にセットした。

A136 アップロードの設定値不正 (HTTP の通知のみ/ 画像付きモード) [notice]

内容	http notice/image mode invalid. uploader set <image> forcibly (A136)
意味	HTTP アップロードにおける通知のみ/ 画像付きモードの設定値不正。画像付きモード、に強制的にセットした。

A137 アップロードの設定値不正 (メール通知) [notice]

内容	mode invalid. uploader set <none> forcibly (A137)
意味	メール通知の設定値不正。メール通知しない、に強制的にセットした。

A138 アップロードの設定値不正 (メール通知の認証方式) [notice]

内容	authentication mode invalid. uploader set <smtp auth> forcibly (A138)
意味	メール通知の認証方式の設定値不正。SMTP_AUTH、に強制的にセットした。

A274 アップロード用イベントバッファあふれ [warning]

内容	event queue is full (A274)
意味	アップロード用イベントバッファがあふれた。
対策	イベント発生数を低減するように調整する。

A275 アップロード用映像バッファあふれ [warning]

内容	buffer queue is full (A275)
意味	アップロード用映像バッファがあふれた。
対策	イベント発生数を低減するように調整する。また、アップロード用の画質、映像サイズ、フレームレートを調整する。

A470 アップローダー初期化失敗 [crit]

内容	uploader initialization failure - %1 (A470)
%1	エラー番号
意味	アップローダーの初期化が失敗した。
対策	再起動しても解消しない場合は故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ アプリケーション（オーディオサーバー）のメッセージ

B001 オーディオサーバーの起動と停止 [info]

内容	%1 audio. (B001)
%1	starting stopping
意味	オーディオサーバーが起動/ 停止した。

B011 オーディオクライアントの開始 [info]

内容	[%1] %2 connected n=%3 (B011)
%1	クライアント種別 (send recv)
%2	クライアントホストのIP アドレス
%3	総クライアント数
意味	オーディオクライアントが接続した。

B012 オーディオクライアントの終了 [info]

内容	[%1] %2 closed n= %3 (B012)
%1	クライアント種別 (send recv)
%2	クライアントホストのIP アドレス
%3	総クライアント数
意味	オーディオクライアントとの接続が切れた。

B102 クライアントの接続拒否 [notice]

内容	%1 request denied [%2] (B102)
%1	クライアントホストのIP アドレス
%2	拒否種別 (41 43 ...)
意味	認証エラー (41)、時間指定エラー (42)、リソース不足 (43)、非対応コーデック指定 (45)、非許容ユーザーレベル指定 (47)、クライアント数制限 (49)、動作モード (4a) により、クライアントの接続を拒否した。
対策	41:接続時のユーザー名、パスワード、もしくはユーザーリストを確認する。42:接続時のplaytime、もしくは最大接続時間設定を確認する。43:再接続または再起動する。45:対応しているクライアントソフトを用いる。47:接続時のuserlevelを確認する。49:クライアント数設定を確認する。4a:オーディオサーバーを使用する設定になっているか確認する。

B103 クライアントの強制切断 [notice]

内容	%1 access denied [%2] (B103)
%1	クライアントホストのIP アドレス
%2	拒否種別 (41 42 4a)
意味	開始時は接続が許可されていたが、設定変更によってアクセス禁止となったため、強制的に切断された (拒否種別はB102 と同じ)。

B402 オーディオサーバー初期化失敗 [err]

内容	wvaudio initialization error [%1] (B402)
%1	エラー番号
意味	オーディオサーバーの初期化に失敗した。オーディオサーバーは停止する。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

B403 設定変更失敗 [err]

内容	cannot set config [%1:%2] (B403)
%1	エラー通番
%2	エラー番号
意味	設定値の更新に失敗した。オーディオサーバーは停止する。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ アプリケーション（ビデオ関連）のメッセージ

V001 ビデオサーバーの起動と停止 [info]

内容	%1 video (V001)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
意味	ビデオサーバーの起動と停止。

V020 インテリジェントサービスの起動 [info]

内容	starting intelligent. (V020)
意味	インテリジェントサービスの起動。

V021 インテリジェントサービスの停止 [info]

内容	shutdown intelligent. (V021)
意味	インテリジェントサービスの停止。

V200 ビデオ入力の警告 [warning]

内容	video %1 warning - %2 (V200)
%1	ビデオ番号
%2	エラー番号
意味	ビデオ入力が復旧可能な異常を検出した。
対策	画像サイズ、映像品質を変更し、JPEG画像1枚あたりのデータを小さくする。

V300 ビデオ入力のエラー [err]

内容	video %1 warning - %2 (V300)
%1	ビデオ番号
%2	エラー番号
意味	ビデオ入力がか메라の動作に支障のある異常を検出した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V320 インテリジェントサービスの内部エラー [err]

内容	cannot work intelligent [%1] [%2] [%3] . (V320)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	インテリジェントサービスの内部エラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V321 インテリジェントサービス仮設定モードエラー [err]

内容	pseudo mode setting fail. (V321)
意味	インテリジェントサービスの仮設定モードの設定変更に失敗した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V400 ビデオ入力の初期化エラー [crit]

内容	video %1 initialization failure - %2 (%3) (V400)
%1	ビデオ番号
%2	処理内容
%3	エラー詳細
意味	ビデオ入力の初期化に失敗したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V401 ビデオ入力のコマンドエラー [crit]

内容	video %1 command error - %2 (%3) (V401)
%1	ビデオ番号
%2	処理内容
%3	エラー詳細
意味	ビデオ入力のコマンド処理に失敗したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V402 ビデオ入力停止 [crit]

内容	video %1 stalled (V402)
%1	ビデオ番号
意味	ビデオ入力からの映像が停止したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V403 ビデオ入力のエラー [crit]

内容	video %1 fatal error - %2 (V403)
%1	ビデオ番号
%2	エラー番号
意味	ビデオ入力に復旧不可能なエラーを検出したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V420 インテリジェントサービスの起動失敗 [crit]

内容	intelligent initialization error [%1] [%2] . (V420)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	インテリジェントサービスの初期化に失敗した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V421 インテリジェントサービスのエラー [crit]

内容	intelligent working error [%1] [%2] . (V421)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	インテリジェントサービスの動作中に復旧不可能なエラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ アプリケーション（メモリーカード）のメッセージ

M001 メモリーカード制御モジュールの起動と停止 [info]

内容	%1 sdctrl (M001)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
意味	メモリーカード制御モジュール (sdctrl) の起動と停止。

M203 メモリーカード容量不足 [warning]

内容	There is not available space (M203)
意味	メモリーカードの使用可能容量が不足している。

M204 不正ファイルの削除 [warning]

内容	Invalid file %1 was removed. (M204)
%1	削除ファイル名
意味	不正なファイルの削除を行った。

M207 アンマウント操作なしでのメモリーカード抜け [warning]

内容	Memory card was pulled before unmount. (M207)
意味	メモリーカードがマウント状態のときにカード抜けが発生した。

M208 映像ファイル数上限到達 [warning]

内容	Video file count of %1 reached upper limit. (M208)
%1	録画種別 ([Upload], [Recording-Mode Stream], [Manual], [Timer], [Event])
意味	録画種別の映像ファイル数が保存可能上限に達した。 [Timer] と [Event] は [映像の上書き] が [無効] になっている場合にのみログ出力される。

M301 メモリーカード制御モジュールのエラー [err]

内容	%1 process failure (M301)
%1	マウント (mount) またはアンマウント (unmount)
意味	マウント、アンマウント処理に失敗した。

■ アプリケーション（カメラ）のメッセージ

C001 カメラ制御モジュールの起動と停止 [info]

内容	%1 camerad (C001)
%1	starting stopping
意味	カメラ制御モジュールが起動/停止した。

C002 カメラアプリケーションの起動 [info]

内容	starting cameraappl (C002)
意味	カメラアプリケーションが起動した。

C201 デイナイト切り換えの警告 [warning]

内容	Can't switch Day/Night mode, because current mode is Auto. (C201)
意味	デイナイト切り換えができなかった。
対策	デイナイトモードをマニュアルにする。

C211 カメラ制御コマンドのオーバーフロー [warning]

内容	command queue overflowed (C211)
意味	カメラ制御コマンドのキューがオーバーフローし、コマンドの一部が破棄された。
対策	カメラ制御コマンドを送信する間隔を長めに (200msec) とってください。

■ HTTP サーバーのメッセージ

H143 ユーザー名の指定異常 [notice]

内容	(http_auth.c.XXX) get_password failed, IP:%1 (H143)
%1	IPアドレス
意味	ユーザー認証で未知のユーザーが指定された。

H144 パスワードの指定異常 [notice]

内容	(http_auth.c.XXX) password doesn't match for %1 username%2, IP:%3 (H144)
%1	URL XSS 脆弱性対策実施 (ftpd 同等の処理)
%2	ユーザー名
%3	IP アドレス
意味	ユーザー認証で誤ったパスワードが指定された。

H201 タイムアウトによる切断 [warning]

内容	a request for %1 timed out after writing %d seconds (H201)
%1	リクエストURI
%d	360 (タイムアウト時間)
意味	HTTPサーバーのタイムアウト (360秒) により切断された。

■ システムのメッセージ

S001 システムの起動 [info]

内容	starting paramd (S001)
意味	パラメーター管理モジュールの起動。

S002 システムの設定変更 [info]

内容	Updated system settings. (S002)
意味	再起動なしの設定変更があった。

S010 イベントサービスの起動 [info]

内容	starting event (S010)
意味	イベントサービスの起動。

S011 イベントサービスの停止 [info]

内容	shutdown event (S011)
意味	イベントサービスの停止。

S012 外部デバイスサービスの起動 [info]

内容	starting extio (S012)
意味	外部デバイス入出力サービスの起動。

S013 外部デバイスサービスの停止 [info]

内容	shutdown extio (S013)
意味	外部デバイス入出力サービスの停止。

S014 タイマーサービスの起動 [info]

内容	starting timer (S014)
意味	タイマーサービスの起動。

S015 タイマーサービスの停止 [info]

内容	shutdown timer (S015)
意味	タイマーサービスの停止。

S070 SSL証明書の変更 [info]

内容	ssl: succeeded to %1 certificate (S070)
%1	作成 (generate) インストール (load) 削除 (delete) リストア (restore)
意味	証明書の作成/インストール/削除/リストアを行った。
対策	なし

S302 設定値の保存エラー [err]

内容	Can't update system settings (S302)
意味	システムで設定値を保存する際にエラーがあった。設定値が保存できていない。
対策	ユーザー領域の不要なファイルを削除するなどして領域の確保が必要。

S303 設定値の保存エラー [err]

内容	Can't update files of system settings (S303)
意味	システムで設定値を保存する際にエラーがあった。設定値が保存できていない。
対策	ユーザー領域の不要なファイルを削除するなどして領域の確保が必要。

S307 設定値の保存エラー [err]

内容	(vbadm.c XXX) Can't update system settings (S307)
意味	設定プロトコルで設定値を保存する際にエラーがあった。設定値が保存できていない。
対策	ユーザー領域の不要なファイルを削除するなどして領域の確保が必要。

S310 イベントサービスの動作エラー [err]

内容	cannot work event [%1] [%2] [%3] (S310)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	イベントサービス動作中のエラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S311 外部入出力サービスの動作エラー [err]

内容	cannot work extio [%1] [%2] [%3] (S311)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	外部入出力デバイスサービス動作中のエラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S312 タイマーサービスの動作エラー [err]

内容	cannot work timer [%1] [%2] [%3] (S312)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	タイマーサービスの内部エラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S410 イベントサービスの初期化エラー [crit]

内容	event initialization error [%1] [%2] (S410)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	イベントサービスの初期化エラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S411 外部入出力サービスの初期化エラー [crit]

内容	extio initialization error [%1] [%2] (S411)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	外部入出力デバイスサービスの初期化エラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S412 タイマーサービスの初期化エラー [crit]

内容	timer initialization error [%1] [%2] (S412)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	タイマーサービスの初期化エラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S413 タイマーサービスのランタイムエラー [crit]

内容	timer working error [%1] (S413)
%1	エラー番号
意味	タイマーサービス動作中にエラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ RTP関連のメッセージ

R001 RTP配信モジュールの起動 [info]

内容	starting media_plane (R001)
意味	RTP配信モジュールの起動。

R002 RTP配信モジュールの停止 [info]

内容	stopping media_plane (R002)
意味	RTP配信モジュールの停止。

R003 RTSPのPLAY受信 [info]

内容	PLAY received: client_IP=%1, profile=%2, num_of_sessions=%3(V=%4, A=%5, M=%6, BC=%7) (R003)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	PLAYを要求されたProfile名
%3	クライアントの総セッション数
%4	Videoストリームの総配信数
%5	Audioストリームの総配信数
%6	Metadataストリームの総配信数
%7	AudioBackChannelの総配信数
意味	RTSPのPLAY受信。

R004 RTSPのTEARDOWN受信 [info]

内容	TEARDOWN received: client_IP=%1, profile=%2, num_of_sessions=%3(V=%4, A=%5, M=%6, BC=%7) (R004)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	TEARDOWNを要求されたProfile名
%3	クライアントの総セッション数
%4	Videoストリームの総配信数
%5	Audioストリームの総配信数
%6	Metadataストリームの総配信数
%7	AudioBackChannelの総配信数
意味	RTSPのTEARDOWN受信。

R005 マルチキャスト開始 [info]

内容	start multicast: profile=%1, num_of_sessions=%2(V=%3, A=%4, M=%5, BC=%6) (R005)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	MulticastStreamingのSTARTを要求されたProfile名
%3	Videoストリームの総配信数
%4	Audioストリームの総配信数
%5	Metadataストリームの総配信数
%6	AudioBackChannelの総配信数
意味	マルチキャスト開始。

R006 マルチキャスト停止 [info]

内容	stop multicast: profile=%1, num_of_sessions=%2(V=%3, A=%4, M=%5, BC=%6) (R006)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	MulticastStreamingのSTOPを要求されたProfile名
%3	Videoストリームの総配信数
%4	Audioストリームの総配信数
%5	Metadataストリームの総配信数
%6	AudioBackChannelの総配信数
意味	マルチキャスト停止。

R101 RTPセッションタイムアウト [notice]

内容	session timeout: session ID=%1 (R101)
%1	セッションID
意味	RTPセッションタイムアウトが発生。

R102 情報取得失敗(RTPペイロードサイズ) [notice]

内容	cannot get parameter: RTP_payload_size (R102)
意味	情報取得失敗(RTPペイロードサイズ)

R102 情報取得失敗(IPアドレス) [notice]

内容	cannot get parameter: IP_address (R102)
意味	情報取得失敗(IPアドレス)。

R103 RTSP認証失敗 [notice]

内容	RTSP authorization error (R103)
意味	RTSP認証失敗。

R107 RTSP認証失敗または認証情報の不備 [notice]

内容	RTSP Error: error_code=401: Unauthorized (R107)
意味	RTSP認証失敗または認証情報の不備。

R107 リソースの不足 [notice]

内容	RTSP Error: error_code=503: Service Unavailable (R107)
意味	リソースの不足でサービスの提供に失敗。 RTPの最大接続数を越えた場合など。

R301 配信間通信エラー [err]

内容	message queue open error: %1 (R301)
%1	エラー発生モジュール RTP_CTRL_QUEUE RTP_DATA_QUEUE VIDEO_CTRL_QUEUE VIDEO_DATA_QUEUE AUDIO_CTRL_QUEUE AUDIO_DATA_QUEUE EVENT_CTRL_QUEUE RECVQ_META SENDQ_MEDIA
意味	モジュール間通信のエラー。
対策	複数回連続で出力され、かつ再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

R302 設定値取得失敗 [err]

内容	cannot get parameter: %1 (R302)
%1	user_account : ユーザーアカウント IP_address : 本機のIPアドレス profile_media_configuration : MediaConfigurationの 情報 RTSP_port_number : RTSPのポート番号
意味	設定値取得失敗。

R303 メタデータ配信初期化失敗 [err]

内容	metadata initialization error (R303)
意味	メタデータ配信初期化失敗。

R304 クライアント異常終了 [err]

内容	delete session from some kind of error: client_IP=%1 (R304)
%1	クライアントのIPアドレス
意味	クライアント異常終了。

R304 クライアントからの切断 [err]

内容	connection reset by peer: client_IP=%1 (R304)
%1	クライアントのIPアドレス
意味	クライアントから切断された。

R304 クライアントからの切断 [err]

内容	RTP/HTTP connection closed by client (R304)
意味	クライアントから切断された。

R305 RTSP処理内で異常発生 [err]

内容	RTSP Error: error_code=500: Internal Server Error (R305)
意味	RTSP処理内で異常発生。

ビューワメッセージ一覧

インフォメーション領域に表示されるメッセージ

ビューワのインフォメーション領域に表示されるメッセージには、次の3つの分類があります。

アイコン	分類	説明
	情報メッセージ	各種ボタン、プルダウンなどのヘルプ用メッセージ、フレームレート情報などを表示します。
	警告メッセージ	カメラの制御権が取得できない場合や音声セッションが切断された場合など、ユーザーへの注意を促すメッセージを表示します。
	エラーメッセージ	ビューワ上でシステムエラーが発生した場合に表示されます。

■ 情報メッセージ

メッセージ	説明
カメラとの接続が切れました。	カメラとの接続が切れた
音声接続が切れました。	音声セッションが切断されても、映像セッションが継続している場合
制御権を取得しました。	制御権取得時に表示。カメラの操作が可能
制御権を失いました。	制御権解放時に表示。次に制御権を取得するまでカメラの操作不可
全画面表示は、右クリックで表示されるメニューから終了します。	全画面表示状態へ移行したとき
メモリーカードへの録画が停止されました。	メモリーカード録画が正常に終了したとき
パスワードが変更されたため、接続を終了しました。	カメラ接続中に接続に使用したアカウントのパスワードが変更され、その後何らかのWV-HTTPコマンドを発行した場合

S30 S31

メッセージ	説明
{n}fps パン : {p} チルト : {t} ズーム : {z}	カメラと正常に通信中の表示
映像が反転されたため、接続を終了しました。	カメラ接続中に映像反転が行われた場合 (映像反転が行われると同時にカメラ接続を切断する)

S80x S90x

メッセージ	説明
{n}fps パン : {p} チルト : {t} ズーム : {z}	カメラと正常に通信中の表示 (デジタルPTZ有効時)
{n}fps	カメラと正常に通信中の表示 (デジタルPTZ無効時)

■ 警告メッセージ

メッセージ	説明
カメラに接続できませんでした。	IP アドレスが正しくないなどで接続に失敗した
ただいま混雑しています。	接続制限数を超えている
カメラ制御権を取得できません。	管理者ビューワが占有しているなどの理由で制御権要求が拒否された

メッセージ	説明
音声接続できませんでした。	音声受信のための接続に失敗した
カメラに接続していません。	カメラに接続していないのにカメラ操作しようとした
カメラ制御権を取得してください。	カメラ制御権がないのにカメラ操作しようとした
既に他のユーザーが管理者接続しています。	管理者ビューワーが既に接続している
カメラは接続制限されています。	アドレス制限およびサービス時間外でカメラに接続できない
使用できません。	使用許諾画面で使用許諾に同意しなかった
メモリーカードの容量が不足しています。	メモリーカードの容量が不足した状態で録画した
メモリーカードへの録画が許可されていません。	[メモリーカードの操作] の [動作設定] が [ログと映像を保存する] に設定されていないことが原因で、メモリーカードへの録画に失敗した
映像管理情報を再作成中です。	メモリーカードの映像管理情報が再作成中
映像管理情報の再作成が必要です。	メモリーカードの映像管理情報の再作成が必要
音声受信が制限されています。	音声受信が制限されている
指定されたカメラはネットワークカメラではないか、または、動作対象外の機種です。	プロキシ認証対応版で、接続対象以外のカメラに接続した場合に表示される
ユーザー認証に失敗しました。	カメラ認証に失敗した
別ウィンドウのビューワーが既に接続しています。	別ウィンドウのビューワーが既に接続している
オーディオデバイスがありません。	PCのオーディオデバイスがない場合や無効化されていた場合に [音声] ボタンがクリックされた
Canon Network Camera Audio Receiver の初期化に失敗しました。	[音声] ボタンをクリックしたときに、ActiveX プラグインがインストールされるのを10秒間待ってもプラグインがインストールされない

S30 S31

メッセージ	説明
ビューワー PTZを終了しないとカメラを操作できません。	制御権保持中にビューワー PTZがONの状態では画像をクリックした

S80x S90x

メッセージ	説明
デジタルPTZまたはビューワー PTZを開始してください。	デジタルPTZおよびビューワー PTZがOFFの状態では、PTZスライダーまたは映像表示部を操作しようとした

工場出荷設定に戻す

設定値を忘れてしまったなどで、カメラを一から設定し直したい場合は、いったん工場出荷設定に戻してください。
工場出荷設定に戻す前に、カメラマネジメントツールの [設定値のバックアップ] を使用して、バックアップファイルを作成しておくことをお勧めします。

メモ

- カメラマネジメントツールの詳しい使いかたは、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。
- 工場出荷の設定値についてはP. 165を参照してください。

Web ブラウザーから初期設定に戻す

1 Web ブラウザーを起動し、設定メニューを表示する

設定メニューを表示させるには、カメラのIPアドレス、ユーザー名、管理用パスワードが必要です (P. 26)



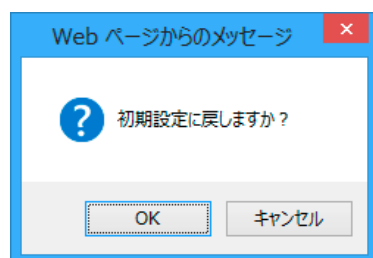
2 各種設定のメニューページ上で [メンテナンス] をクリックする

メンテナンスのページが表示されます。

機器情報	
機種名	VB-S30D
ファームウェアバージョン	Ver. 1.1.3.0
シリアル番号	XXXXXXXXXXXX
ビルド番号	XXXXXXXXXX
MACアドレス	XXXXXXXXXX
表示と実行	
① ログを見る	表示
② 現在の設定を見る	表示
③ 再起動	実行
④ 初期設定に戻す	実行
⑤ 設定値のバックアップ	実行
⑥ 設定値のリストア	実行
ログ通知	
⑦ ログ通知の使用	使用しない

3 [初期設定に戻す] の [実行] をクリックする

初期設定に戻してもよいかどうかの確認を求めるメッセージが表示されます。初期設定に戻してもよい場合は [OK] をクリックします。



再起動後、次の設定項目を除くすべてのユーザー設定値が破棄され、工場出荷設定に戻ります。

- 管理者パスワード
- ネットワークのLAN、IPv4、IPv6
- 日付と時刻
- アクセス制御のホストアクセス制限
- SSL / TLS
- 802.1X

注意



禁止

- [初期設定に戻す] の実行中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源を切ると、正常に起動しなくなる場合があります。
- 一度 [OK] をクリックすると、初期設定に戻す処理は中断できません。

本体リセットスイッチから工場出荷設定に戻す

カメラのIPアドレスや管理用パスワードが不明であったり忘れてしまった場合は、ネットワーク経由での操作ができません。この場合は、カメラのリセットスイッチを押します。

1 VB-S30D/VB-S31D/VB-S800D/VB-S805Dの場合はトップカバーを外す

トップカバーの外しかたについては、カメラに同梱の『設置ガイド』を参照してください。

2 カメラの電源を切る

カメラには電源スイッチがありません。LAN ケーブル (PoE 給電) を抜き差しすることで、電源の入/切をします。

3 リセットスイッチを押したまま電源を入れ、5秒以上押し続ける

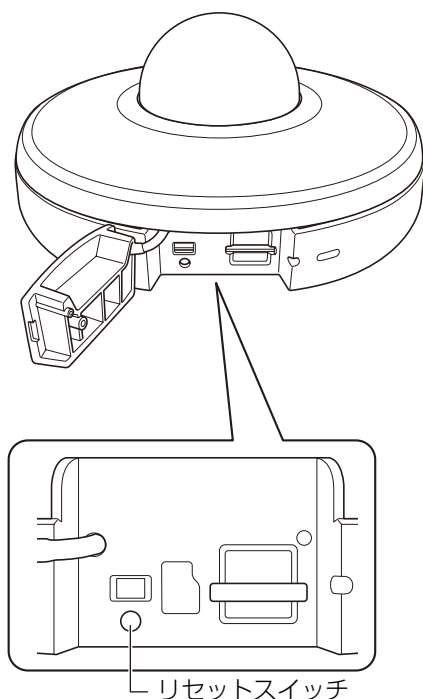
リセットスイッチは穴の奥にあります。クリップの先端など、細いもので押してください。

カメラの日付と時刻以外の全設定が工場出荷設定に戻ります。

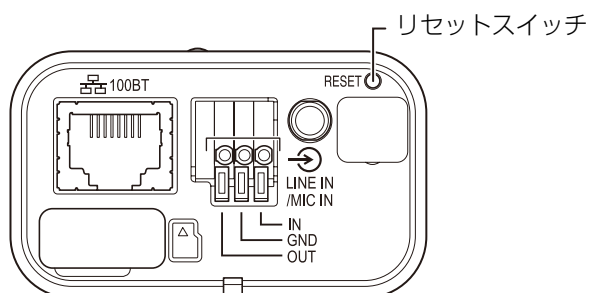
重要

リセットスイッチを押して初期化すると、カメラのIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレスなどネットワークに関連した設定値も工場出荷設定に戻るため、接続していたPCから操作ができなくなります。カメラの初期設定時、PCにインストールされた「カメラマネジメントツール」で、ご使用の環境に適合したIPアドレスを設定してください。

S30 S31 S80x



S90x



4 VB-S30D/VB-S31D/VB-S800D/VB-S805D の場合はトップカバーを取り付ける

トップカバーの取り付けかたについては、カメラに同梱の『設置ガイド』を参照してください。

工場出荷設定一覧

項目	設定値
- ユーザー名 (管理者ID) - 管理用パスワード	root
LAN	
LANインターフェース	オート
最大パケットサイズ	1500
IPv4	
IPv4アドレス設定方式	マニュアル設定
IPv4アドレス	192.168.100.1
サブネットマスク	255.255.255.0
IPv4デフォルトゲートウェイアドレス	
AutoIPの使用	使用する
IPv4アドレス (AutoIP)	
IPv6	
IPv6 の使用	使用する
自動設定 (RA)	有効
自動設定 (DHCPv6)	有効
IPv6アドレス (手動設定)	
プレフィックス長	64
IPv6デフォルトゲートウェイアドレス	
IPv6アドレス (自動設定)	
DNS	
ネームサーバーアドレス 1	
ネームサーバーアドレス 2	
ネームサーバーアドレスの自動設定	使用しない
ホスト名	
ホスト名のDDNS登録	登録しない
サーチドメイン	
サーチドメインリスト	
mDNS	
mDNSの使用	使用する
SNMP	
SNMPv1, v2cの使用	使用しない
SNMPv3の使用	使用しない
管理者連絡先	

項目	設定値
管理用の機器名称	S30 VB-S30D S31 VB-S31D S80x VB-S800DまたはVB-S805D S90x VB-S900FまたはVB-S905F
設置場所	
SNMPv1, v2cサーバー	
コミュニティ名	
SNMPv3サーバー	
ユーザー名	
セキュリティレベル	認証なし、暗号化なし
認証アルゴリズム	MD5
暗号化アルゴリズム	DES
- 現在の日付と時刻 - 設定	
設定方法	手動で設定する
NTPサーバーの自動設定	使用しない
NTPサーバー	
タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京
サマータイム	自動調整しない
カメラ名	
カメラ名 (半角英数字)	Camera
カメラ名 (日本語)	
起動時設定	
AEモード	オート
スローシャッター	使用しない
シャッタースピード	1/100
露出補正	0
測光方式	中央部重点
フォーカスモード S30	オート
スマートシェード補正	使用しない
スマートシェード補正レベル	1 (弱)
ホワイトバランス	オート
Rゲイン	255
Bゲイン	255
ノイズリダクション	標準
シャープネス	3

項目	設定値
色の濃さ	4
かすみ補正	使用しない
かすみ補正レベル	4
デイナイト	デイモード
• カメラ制御	
デジタルズーム S30	使用しない
AGCリミット	5
スマートシェード補正強度 (オート)	中
かすみ補正強度 (オート)	中
パン・チルト速度制御 S30 S31	ズーム位置に応じて制御
• デイナイト (オート設定時)	
切り換える明るさ	標準
応答性 (秒)	20
• 設置条件	
LEDの点灯	点灯する
映像反転	反転しない
• カメラ位置制御	
プリセットに限定 S30 S31	限定しない
制御権を持たない時の動作	ホームポジションへ移動しない
• 外部入力デバイス	
デバイス名 (半角英数字)	
デバイス名 (日本語)	
• 外部出力デバイス	
デバイス名 (半角英数字)	
デバイス名 (日本語)	
■VB-S30D/VB-S31D/VB-S800D/VB-S900F	
• 映像全般	
映像サイズセット	1920x1080 / 960x540 / 480x270
• JPEG	
映像品質:480x270	3
映像品質:960x540	3
映像品質:1920x1080	3
映像品質:デジタルPTZ (VB-S800D/VB-S900F)	3
映像サイズ:映像送信	480x270
最大フレームレート:映像送信	30.0
映像サイズ:アップロード/メモリーカード	480x270

項目	設定値
• H.264(1)	
映像サイズ	480x270
ビットレート制御	ビットレート制御する
映像品質	3
目標ビットレート (kbps)	2048
フレームレート (fps)	30
Iフレーム間隔 (秒)	1
• H.264(2)	
H.264(2)の使用	使用しない
映像サイズ	480x270
ビットレート制御	ビットレート制御する
映像品質	3
目標ビットレート (kbps)	2048
フレームレート (fps)	30
Iフレーム間隔 (秒)	1
■VB-S805D/VB-S905F	
• 映像全般	
映像サイズセット	1280x720/640x360/320x180
• JPEG	
映像品質:320x180	3
映像品質:640x360	3
映像品質:1280x720	3
映像品質:デジタルPTZ	3
映像サイズ:映像送信	320x180
最大フレームレート:映像送信	30.0
映像サイズ:アップロード/メモリーカード	320x180
• H.264(1)	
映像サイズ	320x180
ビットレート制御	ビットレート制御する
映像品質	3
目標ビットレート (kbps)	2048
フレームレート (fps)	30
Iフレーム間隔 (秒)	1
• H.264(2)	
H.264(2)の使用	使用しない
映像サイズ	320x180
ビットレート制御	ビットレート制御する
映像品質	3
目標ビットレート (kbps)	2048

項目	設定値
フレームレート (fps)	30
1フレーム間隔 (秒)	1
■全機種共通	
• オンスクリーン表示	
日付表示	表示しない
日付表示位置	左上
日付表示フォーマット	YYYY/MM/DD
時刻表示	表示しない
時刻表示位置	左上
テキスト表示	表示しない
テキスト表示位置	左上
テキスト文字列	
文字の色	白
背景の色	黒
文字と背景の濃さ	文字と背景を塗りつぶす
• RTPサーバー	
RTPの使用	使用する
RTSP認証方式	Digest認証
RTSPポート番号	554
• 音声マルチキャスト	
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
• RTPストリーム1	
映像サイズ	480x270 JPEG*
フレームレート	5
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
音声送信	使用しない
• RTPストリーム2	
映像サイズ	480x270 JPEG*
フレームレート	10
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
音声送信	使用しない
• RTPストリーム3	
映像サイズ	480x270 JPEG*
フレームレート	15

* VB-S805D/VB-S905Fは 320x180 JPEG

項目	設定値
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
音声送信	使用しない
• RTPストリーム4	
映像サイズ	480x270 JPEG*
フレームレート	30
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
音声送信	使用しない
• RTPストリーム5	
映像サイズ	H.264(1)
フレームレート	5
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
音声送信	使用しない
• アップロード全般	
アップロードの動作	アップロード無効
映像フォーマット	JPEG
フレームレート	1
イベント前バッファ (枚数)	0
イベント後バッファ (枚数)	0
イベント前バッファ (秒)	0
イベント後バッファ (秒)	0
• HTTPアップロード	
通報内容	HTTPで通知のみ行う
URI	
ユーザー名	
プロキシサーバー	
プロキシポート番号	80
プロキシユーザー名	
パラメーター (query string)	
• FTPアップロード	
通報内容	映像をFTPする
FTPサーバー	
ユーザー名	
PASVモード	使用する
ファイルアップロードパス	
ファイル名記録方式	年月日時分秒ms

項目	設定値
作成サブディレクトリ名	
作成ファイル名	image.jpg
作成ファイル名	video.mov
最大ループ数	0
• メール通報	
通報内容	テキストのみ
メールサーバー	
メールポート番号	25
差出人メールアドレス (From)	
宛先メールアドレス (To)	
メール認証方式	なし
ユーザー名	
POPサーバー	
表題	
本文	
• 映像サーバー	
最大クライアント数	30
最大制御権待ち数	30
最大接続時間 (秒)	0
カメラ制御時間 (秒)	20
• オーディオサーバー	
カメラからの音声送信	送信しない
入力音量	50
無音検出	検出しない
音声入力モード	ライン・イン
• HTTPサーバー	
認証方式	Digest認証
HTTPポート番号	80
HTTPSポート番号	443
• FTPサーバー	
FTPサーバーの使用	使用しない
• WS-Security	
認証時の時刻チェック	チェックする
• 映像記録設定	
映像記録動作	アップロード
• 音量検知	
音量検知イベント	使用しない
検知条件	基準音量レベル以上
基準音量レベル	50
検知条件の継続時間 (秒)	0
ONイベント時の動作	無効

項目	設定値
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット S30 S31	プリセットを指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
• 外部デバイス出力	
動作モード	ノーマルオープン
アクティブ出力の形式	連続
パルスの出力時間 (秒)	1
• 外部デバイス入力	
外部デバイス入力イベント	使用する
動作モード	ノーマルオープン
アクティブイベント時の動作	無効
インアクティブイベント時の動作	無効
アクティブイベント中の動作	無効
プリセット S30 S31	プリセットを指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
アクティブイベント時の外部デバイス出力	無効
インアクティブイベント時の外部デバイス出力	無効
デナイト切り換え	無効
• タイマー 1	
タイマーイベント	使用しない
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
繰り返し間隔	なし
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
外部デバイス出力	無効
デナイト切り換え	無効
• タイマー 2	
タイマーイベント	使用しない
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
繰り返し間隔	なし

項目	設定値
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
外部デバイス出力	無効
• タイマー 3	
タイマーイベント	使用しない
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
繰り返し間隔	なし
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
外部デバイス出力	無効
• タイマー 4	
タイマーイベント	使用しない
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
繰り返し間隔	なし
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
外部デバイス出力	無効
• 管理者パスワード	
• 登録ユーザーアカウント	
ユーザーリスト	
• ユーザー権限	
登録ユーザー	
特権カメラ制御	チェックあり
一般カメラ制御	チェックあり
映像配信	チェックあり
音声配信	チェックあり
一般ユーザー	
一般カメラ制御	チェックあり
映像配信	チェックあり
音声配信	チェックあり
• IPv4ホストアクセス制限	
ホストアクセス制限の適用	適用しない
デフォルトポリシー	アクセスを許可する
ネットワークアドレス / サブネット	01: / 32 許可
	02: / 32 許可
	03: / 32 許可
	04: / 32 許可
	05: / 32 許可
	06: / 32 許可

項目	設定値
	07: / 32 許可
	08: / 32 許可
	09: / 32 許可
	10: / 32 許可
	11: / 32 許可
	12: / 32 許可
	13: / 32 許可
	14: / 32 許可
	15: / 32 許可
	16: / 32 許可
	17: / 32 許可
	18: / 32 許可
	19: / 32 許可
	20: / 32 許可
• IPv6ホストアクセス制限	
ホストアクセス制限の適用	適用しない
デフォルトポリシー	アクセスを許可する
プレフィックス / プレフィックス長	01: / 128 許可
	02: / 128 許可
	03: / 128 許可
	04: / 128 許可
	05: / 128 許可
	06: / 128 許可
	07: / 128 許可
	08: / 128 許可
	09: / 128 許可
	10: / 128 許可
	11: / 128 許可
	12: / 128 許可
	13: / 128 許可
	14: / 128 許可
	15: / 128 許可
	16: / 128 許可
	17: / 128 許可
	18: / 128 許可
	19: / 128 許可
	20: / 128 許可
• IPsec設定方法	
IPsec設定方法	自動鍵交換
• 自動鍵交換の設定	
IPsec SA 暗号化アルゴリズム	AES->3DES

項目	設定値
IPsec SA 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
IPsec SA 有効期間 (分)	480
ISAKMP SA 暗号化アルゴリズム	AES->3DES
ISAKMP SA 認証アルゴリズム	SHA1
DHグループ	グループ14->グループ5 ->グループ2
ISAKMP SA 有効期間 (分)	480
• IPsec セット1	
IPsecセットの使用	使用しない
IPsec動作モード	トンネルモード
接続先IPv4アドレス	
接続先IPv6アドレス	
送信元IPv4アドレス	
送信元IPv6アドレス	
IPsecプロトコル	ESP
セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	
セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス	
接続先のサブネットマスク長	16
接続先のプレフィックス長	16
IKE事前共有鍵	
SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES
SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号鍵 (送信)	
SA ESP 認証鍵 (送信)	
SA ESP SPI (送信)	
SA ESP 暗号鍵 (受信)	
SA ESP 認証鍵 (受信)	
SA ESP SPI (受信)	
SA AH 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA AH 認証鍵 (送信)	
SA AH SPI (送信)	
SA AH 認証鍵 (受信)	
SA AH SPI (受信)	
• IPsec セット2	
IPsecセットの使用	使用しない
IPsec動作モード	トンネルモード
接続先IPv4アドレス	
接続先IPv6アドレス	

項目	設定値
送信元IPv4アドレス	
送信元IPv6アドレス	
IPsecプロトコル	ESP
セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	
セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス	
接続先のサブネットマスク長	16
接続先のプレフィックス長	16
IKE事前共有鍵	
SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES
SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号鍵 (送信)	
SA ESP 認証鍵 (送信)	
SA ESP SPI (送信)	
SA ESP 暗号鍵 (受信)	
SA ESP 認証鍵 (受信)	
SA ESP SPI (受信)	
SA AH 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA AH 認証鍵 (送信)	
SA AH SPI (送信)	
SA AH 認証鍵 (受信)	
SA AH SPI (受信)	
• IPsec セット3	
IPsecセットの使用	使用しない
IPsec動作モード	トンネルモード
接続先IPv4アドレス	
接続先IPv6アドレス	
送信元IPv4アドレス	
送信元IPv6アドレス	
IPsecプロトコル	ESP
セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	
セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス	
接続先のサブネットマスク長	16
接続先のプレフィックス長	16
IKE事前共有鍵	
SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES
SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号鍵 (送信)	

項目	設定値
SA ESP 認証鍵 (送信) SA ESP SPI (送信) SA ESP 暗号鍵 (受信) SA ESP 認証鍵 (受信) SA ESP SPI (受信) SA AH 認証アルゴリズム SA AH 認証鍵 (送信) SA AH SPI (送信) SA AH 認証鍵 (受信) SA AH SPI (受信)	HMAC_SHA1_96
IPsec セット4 IPsecセットの使用 IPsec動作モード 接続先IPv4アドレス 接続先IPv6アドレス 送信元IPv4アドレス 送信元IPv6アドレス IPsecプロトコル セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス 接続先のサブネットマスク長 接続先のプレフィックス長 IKE事前共有鍵 SA ESP 暗号化アルゴリズム SA ESP 認証アルゴリズム SA ESP 暗号鍵 (送信) SA ESP 認証鍵 (送信) SA ESP SPI (送信) SA ESP 暗号鍵 (受信) SA ESP 認証鍵 (受信) SA ESP SPI (受信) SA AH 認証アルゴリズム SA AH 認証鍵 (送信) SA AH SPI (送信) SA AH 認証鍵 (受信) SA AH SPI (受信)	使用しない トンネルモード ESP 16 16 AES HMAC_SHA1_96 HMAC_SHA1_96
IPsec セット5 IPsecセットの使用 IPsec動作モード	使用しない トンネルモード

項目	設定値
接続先IPv4アドレス 接続先IPv6アドレス 送信元IPv4アドレス 送信元IPv6アドレス IPsecプロトコル セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス 接続先のサブネットマスク長 接続先のプレフィックス長 IKE事前共有鍵 SA ESP 暗号化アルゴリズム SA ESP 認証アルゴリズム SA ESP 暗号鍵 (送信) SA ESP 認証鍵 (送信) SA ESP SPI (送信) SA ESP 暗号鍵 (受信) SA ESP 認証鍵 (受信) SA ESP SPI (受信) SA AH 認証アルゴリズム SA AH 認証鍵 (送信) SA AH SPI (送信) SA AH 認証鍵 (受信) SA AH SPI (受信)	ESP 16 16 AES HMAC_SHA1_96 HMAC_SHA1_96
• 証明書 証明書の状態 国名 (C) 都道府県名 (ST) 市区町村名 (L) 組織名 (O) 組織単位名 (OU) 一般名 (CN) 有効期間開始日 有効期間終了日 • 暗号化通信 HTTPS接続ポリシー	インストールされていません HTTP
• 802.1X認証 802.1X認証の使用 認証の状態	 使用しない 停止

項目	設定値
認証方式	
認証方式	EAP-MD5
ユーザー名	
メモリーカードの操作	
動作設定	ログと映像を保存する
映像フォーマット	JPEG
イベント前バッファ (枚数)	0
イベント後バッファ (枚数)	0
イベント前バッファ (秒)	0
イベント後バッファ (秒)	0
映像の上書き	無効
ログ通知	
ログ通知の使用	使用しない
通知レベル	エラー
メールサーバー	
メールポート番号	25
差出人メールアドレス (From)	
宛先メールアドレス (To)	
メール認証方式	なし
ユーザー名	
POPサーバー	
表題	

仕様一覧

カメラ部		
撮像素子	S30 1/4.85 型CMOS (原色フィルター) S31 S80x S90x 1/3 型CMOS (原色フィルター)	
有効画素数	VB-S30D/VB-S31D/VB-S800D/VB-S900F : 約 210 万画素 VB-S805D/VB-S905F : 約 130 万画素	
走査方式	プログレッシブ方式	
レンズ	S30 オートフォーカス機能付光学3.5 倍ズームレンズ (デジタルズーム4 倍) S31 S80x S90x 単焦点レンズ (デジタルズーム4 倍)	
焦点距離	S30 2.25 (W 端) ~ 7.88 mm (T 端)* ¹ S31 S80x S90x 2.7 mm	
F 値	S30 F1.4 (W 端) ~ F2.6 (T 端) S31 S80x S90x F1.6	
画角	S30 アスペクト比16:9の場合 水平画角 : 77.7° (W 端) ~ 20.7° (T 端) 垂直画角 : 40.4° (W 端) ~ 11.6° (T 端) アスペクト比4:3の場合 水平画角 : 55.3° (W 端) ~ 15.5° (T 端) 垂直画角 : 40.4° (W 端) ~ 11.6° (T 端) S31 S80x アスペクト比16:9の場合 水平画角 : 95.0° 、垂直画角 : 60.0° アスペクト比4:3の場合 水平画角 : 76.0° 、垂直画角 : 60.0° S90x アスペクト比16:9の場合 水平画角 : 96.0° 、垂直画角 : 60.5° アスペクト比4:3の場合 水平画角 : 77.0° 、垂直画角 : 60.5°	
デイナイト機能	オート/デイモード/ナイトモード	
最低被写体照度	デイモード (カラー)	S30 0.95 lux (F1.4、シャッタースピード1/30秒時、スマートシェード補正off時、50IRE時) 0.07 lux (F1.4、シャッタースピード1/2秒時、スマートシェード補正off時、50IRE時) 0.025 lux (F1.4、シャッタースピード1/2秒時、スマートシェード補正on [7] 時、50IRE時) S31 S80x 0.45 lux (F1.6、シャッタースピード1/30秒時、スマートシェード補正off時、50IRE時) 0.03 lux (F1.6、シャッタースピード1/2秒時、スマートシェード補正off時、50IRE時) 0.01 lux (F1.6、シャッタースピード1/2秒時、スマートシェード補正on [7] 時、50IRE時) S90x 0.4 lux (F1.6、シャッタースピード1/30秒時、スマートシェード補正off時、50IRE時) 0.03 lux (F1.6、シャッタースピード1/2秒時、スマートシェード補正off時、50IRE時) 0.01 lux (F1.6、シャッタースピード1/2秒時、スマートシェード補正on [7] 時、50IRE時)
	ナイトモード (白黒)	S30 0.5 lux (F1.4、シャッタースピード1/30 秒時、スマートシェード補正off時、50IRE時) 0.04 lux (F1.4、シャッタースピード1/2 秒時、スマートシェード補正off時、50IRE時) 0.015 lux (F1.4、シャッタースピード1/2 秒時、スマートシェード補正on [7] 時、50IRE時) S31 S80x 0.25 lux (F1.6、シャッタースピード1/30 秒時、スマートシェード補正off時、50IRE時) 0.02 lux (F1.6、シャッタースピード1/2 秒時、スマートシェード補正off時、50IRE時) 0.007 lux (F1.6、シャッタースピード1/2 秒時、スマートシェード補正on [7] 時、50IRE時) S90x 0.2 lux (F1.6、シャッタースピード1/30 秒時、スマートシェード補正off時、50IRE時) 0.02 lux (F1.6、シャッタースピード1/2 秒時、スマートシェード補正off時、50IRE時) 0.007 lux (F1.6、シャッタースピード1/2 秒時、スマートシェード補正on [7] 時、50IRE時)

カメラ部	
フォーカス	S30 オート/ワンショットAF/マニュアル/無限遠固定
撮影距離 (レンズ先端より)	S30 0.3 m ~ ∞ S31 S80x S90x 0.5 m ~ ∞
シャッタースピード	1、1/2、1/4、1/8、1/15、1/30、1/60、1/100、1/120、1/250、1/500、1/1000、1/2000、1/4000、1/8000、1/10000、1/16000 秒
露出	オート/オート (フリッカーレス)/オート (フリッカーレス2)/オート (シャッター優先)/マニュアル (シャッター速度、ゲイン)
ホワイトバランス	オート/光源選択 (蛍光灯昼光色/蛍光灯白色/蛍光灯暖色/水銀灯/ナトリウム灯/ハロゲン灯)/マニュアル (ワンショットWB/Rゲイン/Bゲイン)
測光方式	中央部重点測光/平均測光/スポット測光
露出補正	9 段階
スマートシェード補正	オート/マニュアル/使用しない オートの場合 : 3 段階 マニュアルの場合 : 7 段階 ー 明暗の差がある映像において暗い部分を明るく補正する機能
かすみ補正	オート/マニュアル/使用しない オートの場合 : 3 段階 マニュアルの場合 : 7 段階
AGCリミット	5 段階
パン角度範囲	S30 S31 S80x 350° (±175°)
チルト角度範囲	S30 S31 S80x 90° (天吊り時 : -90°~0°) ー 水平方向を0°とする
ローテーション角度範囲	S80x 180° (±90°)
駆動速度	S30 S31 パン角速度 : 最大120°/秒、チルト角速度 : 最大120°/秒

サーバー部	
映像圧縮方式	JPEG、H.264
映像サイズ	JPEG、H.264 : 1920 x 1080、960 x 540、480 x 270 (VB-S30D/VB-S31D/VB-S800D/VB-S900F) 1280 x 720、640 x 360、320 x 180 1280 x 960、640 x 480、320 x 240
映像品質	JPEG、H.264 : 5 段階
フレームレート*2	JPEG : 0.1 ~ 30 fps H.264 : 1/2/3/5/6/10/15/30 fps
最大フレームレート	JPEG、H.264 (1920 x 1080) 配信時 : 30 fps ただし、次の組み合わせの場合 H.264(1) (1920 x 1080) とH.264(2) すべてのサイズの同時配信時 : 15 fps H.264(1) すべてのサイズとH.264(2) (1920 x 1080) の同時配信時 : 15 fps H.264(1) (1280 x 960) とH.264(2) (1280 x 960) を同時配信時 : 15 fps H.264(1) (1280 x 720) とH.264(2) (1280 x 720) を同時配信時 : 15 fps
I フレーム間隔	0.5/1/1.5/2/3/4/5 秒
同時接続クライアント数	最大30 クライアント+管理者1 クライアント H.264 は最大10 クライアント
カメラ制御管理	管理者、登録ユーザー、一般ユーザーごとに制御管理 登録ユーザーは最大50 ユーザーのユーザー名とパスワードを設定
接続制限	ユーザー制限 (ユーザー名とパスワード)、ホストアクセス制限 (IPv4、IPv6)

サーバー部	
暗号化通信	SSL/TLS、IPsec (自動鍵交換/手動設定)
IEEE 802.1X	EAP-MD5、EAP-TLS、EAP-TTLS、EAP-PEAP
プロトコル	IPv4 : TCP/IP、UDP、HTTP、FTP、SNMPv1/v2c/v3 (MIB2)、SMTP (クライアント)、DHCP (クライアント)、DNS (クライアント)、mDNS、ARP、ICMP、POP3、NTP、SMTP認証、RTSP、WV-HTTP (キャノン独自)、ONVIF IPv6 : TCP/IP、UDP、HTTP、FTP、SMTP (クライアント)、DHCPv6 (クライアント)、DNS (クライアント)、mDNS、ICMPv6、POP3、NTP、SMTP認証、RTSP、WV-HTTP (キャノン独自)、ONVIF
AutoIP	○
音声圧縮方式	G.711 μ -law (64 kbps)
音声通信方式	キャノン独自音声配信プロトコル
プライバシーマスク	登録数 : 最大8箇所、マスクの色数 : 1色 (9色から選択)
可視範囲制限	S30 S31 ○
プリセット	S30 S31 最大64箇所 S80x S90x 最大20箇所
インテリジェント機能	映像 : 検知種別 : 動体検知、置き去り検知、持ち去り検知、いたずら検知、通過検知 検知設定 : 最大15 音量 : 音量検知
イベントのトリガー種別	外部デバイス入力、タイマー、インテリジェント機能 (映像)、インテリジェント機能 (音量)
アップロード	FTP/HTTP/SMTP (メール) 本体一時保存メモリー : 最大約 5 MB フレームレート : JPEG 最大10 fps H.264 最大30 fps
イベント通知	HTTP/SMTP (メール)
カメラアングル設定	S80x S90x ○
画像切り出し機能	S80x S90x デジタルPTZ 切り出しサイズ : 640 x 360/512 x 288/384 x 216/256 x 144/128 x 72 640 x 480/512 x 384/384 x 288/256 x 192/128 x 96
オンスクリーン表示	○
サマータイム設定	○
カスタム設定	登録数 : 4 S30 登録項目 : パン/チルト/ズーム、露出、スマートシェード補正、かすみ補正、フォーカス、ホワイトバランス、画質調整、デイナイト S31 登録項目 : パン/チルト/ズーム、露出、スマートシェード補正、かすみ補正、ホワイトバランス、画質調整、デイナイト S80x S90x 登録項目 : 露出、スマートシェード補正、かすみ補正、ホワイトバランス、画質調整、デイナイト
表示言語	ドイツ語/英語/スペイン語/フランス語/イタリア語/ロシア語/トルコ語/日本語

インターフェース	
ネットワーク端子*3	LAN x 1 (RJ45、100Base-TX (オート/全二重/半二重))
音声入力端子 (LINE IN/MIC IN兼用)	φ3.5 mmミニジャックコネクタ (モノラル) LINE INとMIC INは設定ページで切り換え LINE IN x 1 (アンプ付きマイクと接続) またはMIC IN x 1 (アンプなしマイクと接続)
外部デバイス入出力端子	入力 x 1、出力 x 1

インターフェース	
メモリーカード	microSDメモリーカード、microSDHCメモリーカード、microSDXCメモリーカード対応 フレームレート：JPEG 最大1 fps H.264 最大30 fps

その他	
動作環境	温度：-10℃ ～ +50℃ 湿度：5% ～ 85% (結露不可)
電源	PoE機能：LANケーブルを利用したPoE給電に対応 (IEEE802.3af 規格準拠)
消費電力	給電装置に対しては、クラス0 (15.4 W を要求) S30 最大 7.8 W S31 最大 7.6 W 給電装置に対しては、クラス2 (7.0 W を要求) S80x 最大 4.1 W S90x 最大 4.3 W
寸法	S30 S31 S80x (φ x H) φ120 x 54 mm – 突起部含まず S90x (H x W x D) 54 x 32 x 114 mm – 突起部含まず
質量	S30 約 270 g S31 約 270 g S80x 約 240 g S90x 約 180 g

*1 (W 端)：ワイド端、(T 端)：テレ端

*2 カメラの配信性能の数値である。ビューワー用のPCの性能や同時接続クライアント数、ネットワークの負荷状況、映像品質設定および被写体などによってはフレームレートが低下する場合がある

*3 LAN ケーブルは、カテゴリ 5 以上で長さ100 m 以下

索引

数字

802.1X認証 66

A

AEモード 39

AGCリミット 42

AutoIP 34

B

Basic認証 54

D

DHCP 33

Digest認証 54

DNS 34

F

FTP 146

FTPアップロード 50

FTPサーバー 54

H

H.264(1) 44

H.264(2) 45

HTTPS接続ポリシー 65

HTTPSポート番号 54

HTTPアップロード 50

HTTPサーバー 54

HTTPポート番号 54

I

IPsec 61

IPsecセット 61, 62

IPv4 33

IPv4ホストアクセス制限 59

IPv6 34

IPv6ホストアクセス制限 60

IPアドレス 33

Iフレーム間隔 45

J

JPEG 44

L

LAN 33

LED 42

M

mDNS 35

N

NTPサーバー 37

P

PoE給電 164

R

RM-Lite 15

RTP 47

RTPストリーム 47

RTSP 47

S

SNMPサーバー 35

SSL/TLS証明書 64

V

VBビューワー 121, 126

W

WS-Security 54

ア

アクセス制御 59

アップロード 49

暗号化通信 65

アンマウント 68

イ

いたずら検知 107

一般カメラ制御 59, 122

一般ユーザー 123

イベント 55, 105

イベント後バッファ 49, 68

イベント表示	109, 143
イベント前バッファ	49, 68
イベントログ	72
色の濃さ	41, 142
インストール	23
インテリジェント機能設定ツール	98
インフォメーション領域	136

エ

映像管理情報	69
映像記録	56, 58, 105
映像記録設定	55
映像記録動作	55
映像サーバー	53
映像サイズ	44, 133
映像サイズセット	44
映像再生	116
映像受信	142
映像の上書き	68
映像の削除	69
映像配信	59, 122
映像反転	42, 74
映像品質	44, 45
映像フォーマット	49, 68, 115
映像保存	69
エラーメッセージ	161
選んでインストール	23
エリアズーム	129
エリアズーム/ドラッグムーブ	126

オ

オーディオサーバー	53
置き去り検知	106
おまかせインストール	23
オンスクリーン表示	45
音声受信	135
音声送信	53
音声入力モード	53
音声配信	59, 122
音声マルチキャスト	47
音量検知	55, 143

カ

外部デバイス出力	56, 141
外部デバイス入力	56, 143
外部デバイス名	43
画質調整	142
可視範囲設定ツール	86
カスタム設定	141
かすみ補正	41, 138
かすみ補正強度	42
カメラアングル	74

カメラ位置制御	42
カメラ位置を固定する	102
カメラ制御権	122, 127
カメラ制御権表示領域	127
カメラマネジメントツール	13, 23
カメラ名	39
管理者	122
管理者コントロール	119, 137
管理者パスワード	33
管理者ビューワー	125, 137
管理ツール	76
管理ツール証明書	13, 23

キ

機器情報	72
基準音量レベル	55
起動時設定	39
逆光補正	130

ク

クライアント	53, 66
--------------	--------

ケ

警告メッセージ	161
ゲイン	40, 139
言語切り換えボタン	26
検知オプションの設定	108
検知種別	98, 103, 106
検知条件	55, 104, 106
検知ライン	106
検知領域	105

コ

工場出荷設定	163, 165
--------------	----------

サ

サーチドメイン	35
サーバー	53
再起動項目	71
再接続	135
最大パケットサイズ	33
最大フレームレート	44, 142
サブネットマスク	33
サマータイム	38

シ

時刻	37
自己証明書	64

自動鍵交換	61
自動制御設定	141
シャープネス	41, 142
シャッタースピード	40, 139
修飾子	148
手動録画	143
仕様一覧	173
情報メッセージ	161
証明書情報	66
証明書の管理	64, 66
初期設定	25, 163
初期設定に戻す	72
信頼済みサイト	17

ス

ズーム	74, 130
スナップショット	135
スマートシェード補正	40, 138
スマートシェード補正強度	42
スローシャッター	39, 139

セ

制御権	127
設置ガイド	4
設置条件	42
設定値のバックアップ	72
設定値のリストア	72
設定メニュー	30
セットアップCD-ROM	4
全画面表示	134

ソ

測光方式	40, 139
------------	---------

タ

タイマー	57, 142
タイムゾーン	38

チ

チルト	89, 128
-----------	---------

ツ

通過検知	108
------------	-----

テ

デイナイト	41, 42, 140
デイナイト切り換え	57, 58

デイモード	140
デジタルPTZ	93, 132
デジタルズーム	42, 130
デバイス名	43
デフォルトゲートウェイアドレス	34

ト

動作設定	68
動作モード	56
動体検知	106
登録ユーザー	59, 123
特権カメラ制御	59, 122
ドラッグムーブ	129
トラブルシューティング	150

ナ

ナイトモード	140
--------------	-----

ニ

入力音量	53
認証方式	54, 66

ネ

ネームサーバーアドレス	34
ネットワーク	33
ネットワークアドレス/サブネット	60

ノ

ノイズリダクション	40, 142
-----------------	---------

ハ

パスワード	26
パノラマ画面	87, 91
パノラマ作成ツール	83
パノラマ表示	126, 127
パノラマ表示領域	128, 130
パラメーター	50, 148
パルス	56
パン	89, 128
パン・チルト速度制御	42

ヒ

日付	37
ビットレート制御	45

ビューワー	
RM-Liteビューワー	15
VBビューワー	126
管理者ビューワー	125, 137
ビューワーPTZ	131
表示オプション	101
表示画面サイズ	134

フ

フィルター	112, 115
フォーカス	138
フォーカスモード	40, 92
フォーマット	69
プライバシーマスク設定ツール	79
プリセット	56, 57
使用する	130
プリセット巡回	95
プリセット設定ツール	90
フレームレート	45, 49
プレフィックス	34, 60

ホ

ホームポジション	42, 93, 130
ホストアクセス制限	59, 60
ホワイトバランス	40, 140

マ

マイク	53
マウント	69
マルチキャストDNS	35

ム

無音検出	53
------	----

メ

メール通報	51, 56, 57, 58, 105
メッセージ	
エラーメッセージ	161
警告メッセージ	161
情報メッセージ	161
ログメッセージ	152
メモリーカード	12, 68, 126, 146
メモリーカードの情報	69, 118
メモリーカードの操作	68, 69
メモリーカード容量	70
メモリーカード録画	143
メンテナンス	72

モ

目標ビットレート	45
持ち去り検知	107

ユ

ユーザーアカウント	59
ユーザー権限	59, 122
ユーザー認証	26
ユーザーページ	30
ユーザー名	26
ユーザーリスト	59

リ

リセットスイッチ	163
----------	-----

ロ

ログ	72, 110
録画映像ユーティリティ	114, 144
ログコード	111
ログ通知	73
ログビューワー	110
ログメッセージ	152
露出	139
露出補正	40, 74, 139

ワ

ワンショットAF	138
ワンショットWB	140

お問い合わせ先

製品に関するお問い合わせは、お客様相談センターをご利用ください。

キヤノンお客様相談センター

ネットワークカメラ / モニタリング機器

 **050-555-90074**

受付時間 <平日> 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日および年末年始弊社休業日は休ませていただきます)

- 上記番号をご利用いただけない場合は ☎ 043-211-9622 をご利用ください。
- IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってはつながらない場合があります。
- 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

補修用性能部品について

保守サービスのために必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打ち切り後 7 年間です。
(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です)